

基本計画書

基本計画								
事項	記入欄						備考	
計画の区分	学部設置							
フリガナ設置者	カッコーホジシ ヲハンナダイガク 学校法人 阪南大学							
フリガナ大学の名称	ハンナダイガク 阪南大学 (The Hannan University)							
大学本部の位置	大阪府松原市天美東5丁目4番33号							
大学の目的	阪南大学は、教育基本法に則り学校教育法の定めるところに従い、広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させ、意欲と自主性に満ち、総合的な分析・判断能力をもって、国際化・情報化時代に活躍できる人間性豊かな人材を育成することを目的とする。							
新設学部等の目的	幅広い教養と経営学に関する専門知識を身につけ、事業運営能力、情報分析力、コミュニケーション能力、新分野への関心とチャレンジ精神、社会適応力を身につけ、現代社会で活躍できる人間性豊かな人材を養成することを目的とする。							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	年	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地
	経営学部 (Faculty of Management) 経営学科 (Department of Management) 計	4	290	—	1,160	学士 (経営学) (Bachelor of Management)	令和6年4月 第1年次	大阪府松原市天美東 5丁目4番33号
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	<p>流通学部（廃止） 流通学科 (△230) ※令和6年4月学生募集停止</p> <p>総合情報学部総合情報学科 (176) (令和5年6月届出)</p> <p>経営情報学部（廃止） 経営情報学科 (△220) ※令和6年4月学生募集停止</p> <p>国際学部 (令和5年6月届出) 国際コミュニケーション学科 (155) (3年次編入学定員) (2)</p> <p>国際観光学科 (144) (3年次編入学定員) (2)</p> <p>国際コミュニケーション学部（廃止） 国際コミュニケーション学科 (△170) (3年次編入学定員) (△2) ※令和6年4月学生募集停止 (3年次編入学定員は令和8年4月学生募集停止)</p> <p>国際観光学部（廃止） 国際観光学科 (△155) (3年次編入学定員) (△2) ※令和6年4月学生募集停止 (3年次編入学定員は令和8年4月学生募集停止)</p> <p>経済学部 経済学科 [定員増] (10) (令和6年4月)</p>							

教育課程	新設学部等の名称		開設する授業科目の総数				卒業要件単位数					
			講義	演習	実験・実習	計						
	経営学部経営学科		292科目	12科目	0科目	304科目	124単位					
教員組織の概要	学部等の名称			専任教員等					兼任教員等	令和5年6月届出 令和5年6月届出 令和5年6月届出		
				教授	准教授	講師	助教	計			助手	
	新設	経営学部経営学科			16人 (19)	12人 (10)	0人 (2)	0人 (0)	28人 (31)		0人 (0)	123人 (121)
		総合情報学部総合情報学科			13 (14)	7 (5)	0 (2)	0 (0)	20 (21)		0 (0)	128 (127)
		国際学部国際コミュニケーション学科			14 (14)	3 (3)	0 (0)	0 (1)	17 (18)		0 (0)	123 (123)
		国際観光学科			10 (11)	6 (5)	0 (0)	0 (0)	16 (16)		0 (0)	124 (123)
		計			53 (58)	28 (23)	0 (4)	0 (1)	81 (86)		0 (0)	— (—)
	既設	経済学部経済学科			17 (17)	13 (12)	0 (1)	0 (0)	30 (30)		0 (0)	124 (124)
		計			17 (17)	13 (12)	0 (1)	0 (0)	30 (30)		0 (0)	— (—)
	合計			70 (75)	41 (35)	0 (5)	0 (1)	111 (116)	0 (0)		— (—)	
教員以外の職員の概要	職種			専任		兼任		計				
	事務職員			71人 (67)		43人 (39)		114人 (106)				
	技術職員			2 (2)		0 (0)		2 (2)				
	図書館専門職員			3 (3)		3 (3)		6 (6)				
	その他の職員			0 (0)		0 (0)		0 (0)				
計			76 (72)		46 (42)		122 (114)					
校地等	区分		専用	共用	共用する他の学校等の専用		計					
	校舎敷地		32,589.16㎡	0㎡	0㎡		32,589.16㎡					
	運動場用地		19,086.00㎡	49,535.00㎡	0㎡		68,621.00㎡					
	小計		51,675.16㎡	49,535.00㎡	0㎡		101,210.16㎡					
	その他		25,111.44㎡	0㎡	0㎡		25,111.44㎡					
	合計		76,786.60㎡	49,535.00㎡	0㎡		126,321.60㎡					
校舎	専用		共用	共用する他の学校等の専用		計						
	41,961.17㎡ (41,961.17㎡)		0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)		41,961.17㎡ (41,961.17㎡)						
教室等	講義室		演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設						
	37室		10室	0室	16室 (補助職員0人)	42室 (補助職員0人)						
専任教員研究室			新設学部等の名称		室数							
			経営学部		31室							
図書・設備	新設学部等の名称		図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点				
	経営学部		580,000 [91,000] (570,000[90,000])	26,200 [23,600] (26,000[23,500])	24,000 [23,000] (23,800[23,000])	9,500 (9,000)	22,000 (21,000)	0 (0)				
	計		580,000 [91,000] (570,000[90,000])	26,200 [23,600] (26,000[23,500])	24,000 [23,000] (23,800[23,000])	9,500 (9,000)	22,000 (21,000)	0 (0)				
図書館		面積		閲覧座席数		収納可能冊数						
		5,042㎡		744		550,000						
体育館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要								
		6,754㎡		人工芝グラウンド ² 面		野球グラウンド ¹ 面						

経費の見積り 及び維持方法の概要	区分	開設前年度		第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	図書費には電子ジャーナル・データベースの整備費(運用コスト含む)を含む。	
		教員1人当り研究費等			630千円	630千円	630千円	630千円	—千円		—千円
		共同研究費等			1,500千円	1,500千円	1,500千円	1,500千円	—千円		—千円
		図書購入費	8,000千円		2,500千円	5,000千円	7,500千円	10,000千円	—千円		—千円
		設備購入費	50,000千円		2,000千円	4,000千円	6,000千円	8,000千円	—千円		—千円
学生1人当り納付金		第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次				
		1,290千円	1,080千円	1,080千円	1,080千円	—千円	—千円				
学生納付金以外の維持方法の概要				入学検定料、私立大学等経常費補助金、資産運用収入等							
既設大学等の状況	大学の名称	阪南大学									
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地		
	経済学部 経済学科	4年	280人	—	1,120人	学士(経済学)	1.10倍	昭和47年度	大阪府松原市天美東5丁目4番33号		
	流通学部 流通学科	4	230	—	920	学士(流通学)	1.07	平成8年度	大阪府松原市天美東5丁目4番33号	※令和6年度より学生募集停止(流通学部流通学科)	
	経営情報学部 経営情報学科	4	220	—	880	学士(経営情報学)	1.08	平成8年度	大阪府松原市天美東5丁目4番33号	※令和6年度より学生募集停止(経営情報学部経営情報学科)	
	国際コミュニケーション学部 国際コミュニケーション学科	4	170	3年次2	684	学士(国際コミュニケーション学)	1.00	平成9年度	大阪府松原市天美東5丁目4番33号	※令和6年度より学生募集停止(国際コミュニケーション学部国際コミュニケーション学科)	
	国際観光学部 国際観光学科	4	155	3年次2	624	学士(国際観光学)	0.91	平成22年度	大阪府松原市天美東5丁目4番33号	※令和6年度より学生募集停止(国際観光学部国際観光学科)	
企業情報研究科	2	15	—	30	修士(企業情報学)	0.90	平成12年度	大阪府松原市天美東5丁目4番33号			
附属施設の概要	該当なし										

教育課程等の概要

(経営学部経営学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手		
一般 教育 科目	語 学 群	コリア語1			1		○								兼1
		コリア語2	1・2・3・4後			1		○							兼1
		コリア語3	1・2・3・4前			1		○							兼1
		コリア語4	1・2・3・4後			1		○							兼1
		スペイン語1	1・2・3・4前			1		○							兼1
		スペイン語2	1・2・3・4後			1		○							兼1
		スペイン語3	1・2・3・4前			1		○							兼1
		スペイン語4	1・2・3・4後			1		○							兼1
		ドイツ語1	1・2・3・4前			1		○							兼3
		ドイツ語2	1・2・3・4後			1		○							兼3
		ドイツ語3	1・2・3・4前			1		○							兼2
		ドイツ語4	1・2・3・4後			1		○							兼2
		ドイツ語5	2・3・4前			1		○							兼1
		ドイツ語6	2・3・4後			1		○							兼1
		ビジネス日本語1a	2・3・4前			1		○							兼1
		ビジネス日本語1b	2・3・4後			1		○							兼1
		ビジネス日本語2a	3・4前			1		○							兼1
		ビジネス日本語2b	3・4後			1		○							兼1
		ビジネス日本語基礎a	3・4前			1		○							兼1
		ビジネス日本語基礎b	3・4後			1		○							兼1
		フランス語1	1・2・3・4前			1		○							兼3
		フランス語2	1・2・3・4後			1		○							兼3
		フランス語3	1・2・3・4前			1		○							兼3
		フランス語4	1・2・3・4後			1		○							兼3
		フランス語5	2・3・4前			1		○							兼1
		フランス語6	2・3・4後			1		○							兼1
		英語1	1・2・3・4前・後			1		○							兼9
		英語2	1・2・3・4前・後			1		○							兼9
		英語3	1・2・3・4前・後			1		○			1				兼3
		英語4	1・2・3・4前・後			1		○			1				兼3
		総合日本語a	2・3・4前			1		○							兼1
		総合日本語b	2・3・4後			1		○							兼1
		中国語1	1・2・3・4前			1		○							兼5
		中国語2	1・2・3・4後			1		○							兼5
		中国語3	1・2・3・4前			1		○							兼4
		中国語4	1・2・3・4後			1		○							兼4
		日本語レポート1a	1・2・3・4前			1		○							兼1
		日本語レポート1b	1・2・3・4後			1		○							兼1
		日本語レポート2a	1・2・3・4前			1		○							兼1
		日本語レポート2b	1・2・3・4後			1		○							兼1
		日本語レポート3a	2・3・4前			1		○							兼1
		日本語レポート3b	2・3・4後			1		○							兼1
		日本語演習a	1・2・3・4前			2		○							兼1
日本語演習b	1・2・3・4後			2		○							兼1		
日本語聴解発話1a	1・2・3・4前			1		○							兼1		
日本語聴解発話1b	1・2・3・4後			1		○							兼1		
日本語聴解発話2a	1・2・3・4前			1		○							兼1		
日本語聴解発話2b	1・2・3・4後			1		○							兼1		
日本語読解1a	1・2・3・4前			1		○							兼1		
日本語読解1b	1・2・3・4後			1		○							兼1		
日本語読解2a	1・2・3・4前			1		○							兼1		

教育課程等の概要

(経営学部経営学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
語学群	日本語読解 2b	1・2・3・4後		1		○				1				兼1	
	小計 (52 科目)	-	0	54	0	-			0	1	0	0	0	兼31	-
言語圏研究群	韓国語圏研究a	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	韓国語圏研究b	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	スペイン語圏研究a	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	スペイン語圏研究b	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	ドイツ語圏研究a	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	ドイツ語圏研究b	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	フランス語圏研究a	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	フランス語圏研究b	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	英語圏研究a	1・2・3・4前		2		○								兼5	
	英語圏研究b	1・2・3・4後		2		○								兼5	
	現代日本事情a	1・2・3・4前		2		○								兼9	オムニバス
	現代日本事情b	1・2・3・4後		2		○			1	1				兼8	オムニバス
	中国語圏研究a	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	中国語圏研究b	1・2・3・4後		2		○								兼1	
小計 (14 科目)	-		0	28	0	-			1	1	0	0	0	兼22	-
人間・文化研究群	外国文学a	1・2・3・4前		2		○								兼2	
	外国文学b	1・2・3・4後		2		○								兼2	
	教育学a	1・2・3・4前		2		○								兼2	
	教育学b	1・2・3・4後		2		○								兼2	
	心理学a	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	心理学b	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	地理学a	1・2・3・4前		2		○								兼2	
	地理学b	1・2・3・4後		2		○								兼2	
	哲学a	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	哲学b	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	日本文学a	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	日本文学b	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	文化人類学a	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	文化人類学b	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	倫理学a	1・2・3・4前		2		○					1			兼1	
	倫理学b	1・2・3・4後		2		○					1			兼1	
	論理学a	1・2・3・4前		2		○					1			兼1	
	論理学b	1・2・3・4後		2		○					1			兼1	
小計 (18 科目)	-		0	36	0	-			0	1	0	0	0	兼12	-
歴史・社会研究群	経済学a	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	経済学b	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	現代史a	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	現代史b	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	社会学a	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	社会学b	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	人権問題論a	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	人権問題論b	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	政治学a	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	政治学b	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	西洋史a	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	西洋史b	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	東洋史a	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	東洋史b	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	日本国憲法	1・2・3・4前		2		○								兼1	
日本史a	1・2・3・4前		2		○								兼2		

教育課程等の概要

(経営学部経営学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
一般教育科目	会歴 研史 究・ 群社	日本史b		2		○								兼2		
		法学a	1・2・3・4前	2		○								兼1		
		法学b	1・2・3・4後	2		○								兼1		
		小計 (19科目)	-	0	38	0	-	-	0	0	0	0	0	0	兼11	-
	自然・ 環境 研究 群	化学a	1・2・3・4前		2		○								兼1	
		化学b	1・2・3・4後		2		○								兼1	
		自然科学史a	1・2・3・4前		2		○								兼1	
		自然科学史b	1・2・3・4後		2		○								兼1	
		数学a	1・2・3・4前		2		○								兼1	
		数学b	1・2・3・4後		2		○								兼1	
		生命科学a	1・2・3・4前		2		○								兼1	
		生命科学b	1・2・3・4後		2		○								兼1	
		地球環境科学a	1・2・3・4前		2		○								兼1	
地球環境科学b		1・2・3・4後		2		○								兼1		
統計学a		1・2・3・4前		2		○								兼1		
統計学b		1・2・3・4後		2		○								兼1		
物理学a	1・2・3・4前		2		○								兼1			
物理学b	1・2・3・4後		2		○								兼1			
	小計 (14科目)	-	0	28	0	-	-	0	0	0	0	0	0	兼6	-	
健康・ スポ ーツ 研 究 群	スポーツ・トレーニングa	1・2・3・4前		2		○								兼5		
	スポーツ・トレーニングb	1・2・3・4後		2		○								兼5		
	スポーツ科学論a	1・2・3・4前		2		○								兼1		
	スポーツ科学論b	1・2・3・4後		2		○								兼1		
	スポーツ技術a	1・2・3・4前		2		○								兼7		
	スポーツ技術b	1・2・3・4後		2		○								兼7		
	スポーツ文化論a	1・2・3・4前		2		○								兼1		
	スポーツ文化論b	1・2・3・4後		2		○								兼1		
	健康科学論a	1・2・3・4前		2		○								兼1		
	健康科学論b	1・2・3・4後		2		○								兼1		
	人間科学a	1・2・3・4前		2		○								兼1		
	人間科学b	1・2・3・4後		2		○								兼1		
	小計 (12科目)	-	0	24	0	-	-	0	0	0	0	0	0	兼14	-	
情 報 と A I ・ デ ー タ サイ エン ス 研 究 群	AI・データサイエンス入門1	1・2・3・4前		2		○								兼1		
	AI・データサイエンス入門2	1・2・3・4後		2		○								兼1		
	AIデータサイエンス総論	1・2・3・4前	2			○								兼1		
	コンピュータと法	1・2・3・4後		2		○								兼1		
	マスメディア論a	1・2・3・4前		2		○								兼2		
	マスメディア論b	1・2・3・4後		2		○								兼2		
	情報科学a	1・2・3・4前		2		○								兼1		
	情報科学b	1・2・3・4後		2		○								兼1		
	情報処理応用	1・2・3・4後		2		○								兼1		
	情報処理入門	1・2・3・4前		2		○								兼1		
	小計 (10科目)	-	2	18	0	-	-	0	0	0	0	0	0	兼6	-	
基盤 教 育 科 目 群	スタディスキルズa	1前		2		○								兼1		
	スタディスキルズb	1後		2		○								兼1		
	小計 (2科目)	-	0	4	0	-	-	0	0	0	0	0	0	兼1	-	
後 期 教 養 教 育 科 目 群	教養数学	3・4前		2		○								兼1		
	教養政治学	3・4後		2		○								兼1		
	教養西洋史	3・4前		2		○										
	教養哲学	3・4後		2		○				1						
	教養東洋史	3・4前		2		○								兼1		
	教養統計学	3・4後		2		○								兼1		

教育課程等の概要

(経営学部経営学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
一般教育科目	後期教養教育科目群	教養日本史	3・4前		2		○				1						
		教養倫理学	3・4後		2		○				1						
		社会人としての教養講座a	2・3・4前		2		○								兼5	オムニバス	
		社会人としての教養講座b	2・3・4後		2		○				1				兼3	オムニバス	
		正解のない問いの答えを考える	3・4前		2		○								兼1		
	小計 (11 科目)		-	0	22	0	-	-	-	1	1	0	0	0	兼11	-	
	自由選択科目群	ボランティア実践 a	1・2・3・4前		2		○								兼1		
		ボランティア実践 b	1・2・3・4後		2		○								兼1		
		教育社会学	2・3・4前		2		○								兼1		
		教職入門	1・2・3・4後		2		○								兼1		
		教養演習1a	1・2・3・4前		2			○							兼2		
		教養演習1b	1・2・3・4後		2			○							兼2		
		教養演習2a	1・2・3・4前		2			○							兼1		
		教養演習2b	1・2・3・4後		2			○							兼1		
	生涯学習概論	2・3・4後		2		○								兼1			
未来と社会を学ぶ1	1・2・3・4前		2		○								兼1				
未来と社会を学ぶ2	1・2・3・4後		2		○								兼1				
小計 (11 科目)		-	0	22	0	-	-	-	0	0	0	0	0	兼8	-		
キャリア教育科目	インターンシップ講座	2・3・4前・後		2		○								兼3	※演習		
	キャビンアテンダントプログラム1	1・2・3・4前		2		○								兼1	※演習		
	キャビンアテンダントプログラム2	1・2・3・4後		2		○								兼1	※演習		
	キャビンアテンダントプログラム3	1・2・3・4前		2		○								兼1	※演習		
	キャビンアテンダントプログラム4	1・2・3・4後		2		○								兼1	※演習		
	キャビンアテンダントプログラム5	1・2・3・4前		2		○								兼1	※演習		
	ビジネス文書マナーa	2・3・4前		2		○								兼1	※演習		
	ビジネス文書マナーb	2・3・4後		2		○								兼1	※演習		
	営業活動実務	2・3・4後		2		○								兼1	※演習		
	応用キャリアデザイン	3後		2		○								兼3	※演習		
	基礎キャリアデザインa	1前		2		○								兼3	※演習		
	基礎キャリアデザインb	1後		2		○								兼3	※演習		
	発展キャリアデザイン	2前		2		○								兼3	※演習		
	貿易実務実践	2・3・4後		2		○								兼1	※演習		
	貿易実務入門	2・3・4前		2		○								兼1	※演習		
小計 (15 科目)		-	0	30	0	-	-	-	0	0	0	0	0	兼10	-		
学科科目	全員履修科目	ビジネスデータ分析1	1・2・3・4後		2		○			3	4				兼1	※演習	
		ビジネスデータ分析2	2・3・4前		2		○			2	4				兼2	※演習	
		プレゼミ1	1前		2			○		14	5	1					
		プレゼミ2	1後		2			○		14	5	1					
		演習入門	1後		2		○			1	1						
	小計 (5 科目)		-	0	10	0	-	-	-	15	9	1	0	0	兼2	-	
	必修科目	基礎演習1	2前		2			○		15	9	1					
		基礎演習2	2後		2			○		15	9	1					
		経営学入門	1・2・3・4前		2		○			2	1	1					
		専門演習1	3前		2			○		15	10	2					
		専門演習2	3後		2			○		15	10	2					
		専門演習3	4前		2			○		14	7	5					
	専門演習4	4後		2			○		14	7	5						
	小計 (7 科目)		-	14	0	0	-	-	-	15	10	2	0	0	兼0	-	
	選択科目必修	ICTビジネス基礎	1・2・3・4前		2		○			1	1				兼1		
スポーツマネジメント入門		1・2・3・4前		2		○			1								
ファッションマーケティング		2・3・4前		2		○				1							
マーケティング入門		1・2・3・4後		2		○			2								

教育課程等の概要

(経営学部経営学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
選択 目必 修科	会計学入門	1・2・3・4後		2		○			1	1					※演習
	経営戦略論	2・3・4前		2		○			1						
	国際ビジネス入門	1・2・3・4前		2		○			3	1				兼1	オムニバス
	流通システム論	2・3・4前		2		○				1					
	小計 (8科目)	-		0	16	0	-		7	4	0	0	0	兼1	-
学 科 目 自 由 選 択 科 目	eコマース	3・4前		2		○				1					
	ICTビジネス論	2・3・4前		2		○				1					
	ICT英語	3・4前		2		○				1					※演習
	アスリートキャリア1	2・3・4前		2		○			1						
	アスリートキャリア2	2・3・4後		2		○				1					
	アパレル産業論	3・4前		2		○			1						
	アメリカビジネス論	3・4前		2		○			1						
	アンケート調査と分析	2・3・4後		2		○								兼1	
	インターネットマーケティング	3・4前		2		○			1						
	インテリアデザイン	2・3・4後		2		○			1						
	インテリアデザイン実践	3・4前		2		○								兼1	
	インテリアビジネス	3・4前		2		○			1						
	エンターテインメントビジネス	3・4後		2		○			1						
	コーチング論1	2・3・4前		2		○			1						
	コーチング論2	2・3・4後		2		○			1						
	コンテンツビジネス	2・3・4後		2		○				1					
	サービスビジネス	2・3・4後		2		○				1					
	サービスマーケティング論	2・3・4後		2		○			1						
	ストアオペレーション	3・4前		2		○				1					
	スポーツと社会	2・3・4後		2		○				1					
	スポーツビジネス	2・3・4前		2		○				1					
	スポーツビジネスキャリア	2・3・4後		2		○					1				
	スポーツ組織論	2・3・4前		2		○					1				
	テキストマイニング	3・4後		2		○				1					※演習
	デジタルコミュニケーション	2・3・4後		2		○					1				
	ファッションとIT	3・4後		2		○								兼1	
	ファッションビジネス	1・2・3・4後		2		○				1					
	ファッションビジネス実践	3・4後		2		○			1						
	ファッションマネジメント戦略	3・4前		2		○				1					
	フードビジネス	3・4前		2		○				1					
	ブライダルビジネス	3・4前		2		○								兼1	
	ブライダルマネジメント	3・4前		2		○								兼1	
	ブライダル実務	3・4後		2		○								兼1	
	ブランドビジネス	2・3・4後		2		○			1						
ブランドマーケティング	2・3・4前		2		○			1							
プロスポーツビジネス	2・3・4後		2		○					1					
ベンチャービジネス論	2・3・4前		2		○			1							
ホスピタリティマネジメント	2・3・4後		2		○					1					
ホテルビジネス	3・4後		2		○					1					
マーケティングリサーチ	2・3・4後		2		○			1							
マーケティング実践	3・4後		2		○			1							
マーケティング論	2・3・4前		2		○			1							
マーチャンダイジング論	2・3・4後		2		○				1						
マネジメントゲーム	2・3・4前		2		○			1						※演習	
ライフスタイルビジネス	3・4前		2		○			1							
リテールマーケティング1	2・3・4前		2		○				1					※演習	
リテールマーケティング2	2・3・4後		2		○				1					※演習	

教育課程等の概要

(経営学部経営学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
学 科 目	自 由 選 択 科 目	ロジスティクス論		2		○			1								
		異文化経営論	3・4前		2		○			1							
		営業論	3・4後		2		○			1							
		英語で学ぶ国際ビジネス	2・3・4後		2		○								兼1		
		会社法	3・4前		2		○								兼1		
		管理会計論	3・4後		2		○			1						※演習	
		企業社会論	2・3・4後		2		○								兼1		
		企業分析論	2・3・4前		2		○				1						
		企業論	2・3・4前		2		○				1						
		基礎数学1	1・2・3・4前		2		○								兼5	※演習	
		基本簿記1	2・3・4前		2		○								兼1		
		基本簿記2	2・3・4後		2		○								兼1		
		金融テクノロジー	3・4後		2		○				1						
		金融概論	2・3・4前		2		○				1						
		経営学特別講義1	2・3・4後		2		○				1						
		経営学特別講義2	2・3・4前		2		○								兼1		
		経営学特別講義3	2・3・4前		2		○								兼1	※演習	
		経営学特別講義4	2・3・4後		2		○								兼1	※演習	
		経営学特別講義5	2・3・4前		2		○								兼1		
		経営管理論	2・3・4前		2		○				1						
		経営財務論	3・4前		2		○								兼1		
		経営実践講座a	2・3・4前		2		○					1					
		経営実践講座b	2・3・4後		2		○					1					
		経営情報論	2・3・4前		2		○						1				
		経営組織論	2・3・4後		2		○				1						
		経営統計学1	3・4前		2		○								兼1		
		経営統計学2	3・4後		2		○								兼1		
		交通サービス論	3・4前		2		○				1						
		工業簿記	3・4後		2		○								兼1		
		広告論	3・4後		2		○				1						
		国際ビジネス論	2・3・4前		2		○								兼1		
		国際マーケティング	2・3・4前		2		○								兼1		
		国際金融論	3・4前		2		○				1						
		国際産業論	2・3・4後		2		○								兼1		
		国際投資論	3・4後		2		○				1						
		国際貿易論	3・4前		2		○				1						
		財務会計論	3・4前		2		○								兼1		
		産学連携プロジェクトa	3・4前		2		○				1					※演習	
		産学連携プロジェクトb	3・4後		2		○				1					※演習	
		事業承継論	3・4後		2		○				1						
商業簿記	3・4前		2		○								兼1				
商空間計画論	3・4後		2		○				1								
商品開発論	3・4前		2		○					1							
情報産業論	1・2・3・4後		2		○								兼1				
職業指導1	2・3・4前		2		○								兼1	※演習			
職業指導2	2・3・4後		2		○								兼1	※演習			
新興国ビジネス論	3・4後		2		○				1								
人的資源管理論	3・4前		2		○								兼1				
税法	3・4前		2		○								兼1				
総合講座(デジタル・エコノミー)	1・2・3・4前		2		○					1							
多国籍企業論	3・4後		2		○					1							
多変量解析	3・4後		2		○								兼1	※演習			

教育課程等の概要

(経営学部経営学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
学科科目 自由選択科目	地域スポーツクラブ論	2・3・4前		2		○				1						
	中国・アジアビジネス論	3・4前		2		○			1							
	中小企業家同友会寄付講座	2・3・4後		2		○				1						
	中小企業論	2・3・4後		2		○				1						
	貿易英語	1・2・3・4後		2		○								兼1		
	貿易実務	2・3・4後		2		○								兼1	※演習	
	流通政策	3・4後		2		○			1							
	小計 (106科目)		-	0	212	0	-	-	14	10	2	0	0	兼21		-
合計 (304科目)		-	16	542	0	-	-	16	10	2	0	0	兼126		-	
学位又は称号		学士 (経営学)		学位又は学科の分野			経済学関係									
卒業要件及び履修方法							授業期間等									
<p>一般教育科目30単位以上、学科科目72単位以上、加えてキャリア教育科目・他学部受講科目を合わせて合計124単位以上修得すること。 一般教育科目のうち、「語学」群から4単位以上、「言語圏研究」群から4単位以上、「人間・文化研究」群から4単位以上、「歴史・社会研究」群から4単位以上、「自然・環境研究」群から4単位以上、「健康・スポーツ研究」群から4単位以上、「情報とAI・データサイエンス」群から6単位以上を修得し、「基盤教育科目」群、「後期教養教育科目」群、「自由選択科目」群と合わせて合計30単位以上を修得すること。 学科科目のうち、学科必修科目から14単位、学科選択必修科目から12単位以上を修得し、全員が履修しなければならない全員履修科目と自由選択科目を合わせて合計72単位以上を修得すること。 なお、履修制限単位数は以下のとおりである。 1年次48単位、2年次48単位、3年次48単位、4年次48単位</p>							1学年の学期区分		2期							
							1学期の授業期間		15週							
							1時限の授業時間		90分							

教育課程等の概要

(流通学部流通学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
情報とメディア群	情報処理入門	1前		2		○									兼1	
	情報処理応用	1後		2		○									兼1	
	情報科学 a	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	情報科学 b	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	情報化社会論	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	マスメディア論 a	1・2・3・4前		2		○									兼2	
	マスメディア論 b	1・2・3・4後		2		○									兼2	
	コンピュータと法	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	AIデータサイエンス総論	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	AI・データサイエンス入門1	2・3・4前		2		○									兼1	
	AI・データサイエンス入門2	2・3・4後		2		○									兼1	
小計(11科目)	—		0	22	0	—			0	0	0	0	0	0	兼6	—
一般教育科目 言語と文化群	英語1	1・2・3・4通		2		○									兼5	
	英語2	1・2・3・4通		2		○			1						兼2	
	中国語1	1・2・3・4通		2		○									兼4	
	中国語2	1・2・3・4通		2		○									兼4	
	フランス語1	1・2・3・4前		2		○			1						兼2	
	フランス語2	1・2・3・4後		2		○			1						兼2	
	ドイツ語1	1・2・3・4通		2		○									兼3	
	ドイツ語2	1・2・3・4通		2		○									兼2	
	英語3	2・3・4通		2		○									兼1	
	英語4	2・3・4通		2		○									兼1	
	中国語3	2・3・4通		2		○									兼1	
	中国語4	2・3・4通		2		○									兼1	
	フランス語3	2・3・4通		2		○				1						
	フランス語4	2・3・4通		2		○				1						
	ドイツ語3	2・3・4通		2		○									兼1	
	ドイツ語4	2・3・4通		2		○									兼1	
	スペイン語1	2・3・4前		2		○									兼1	
	スペイン語2	2・3・4後		2		○									兼1	
	韓国語1	2・3・4前		2		○									兼1	
	韓国語2	2・3・4後		2		○									兼1	
	英語圏文化a	1・2・3・4前		2		○									兼3	
	英語圏文化b	1・2・3・4後		2		○									兼3	
	中国語圏文化a	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	中国語圏文化b	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	フランス語圏文化a	1・2・3・4前		2		○				1						
	フランス語圏文化b	1・2・3・4後		2		○				1						
	ドイツ語圏文化a	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	ドイツ語圏文化b	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	韓国語圏文化a	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	韓国語圏文化b	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	スペイン語圏文化a	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	スペイン語圏文化b	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	基礎日本語読解	1・2・3・4通		2		○									兼1	
	基礎日本語聴解発話	1・2・3・4通		2		○									兼1	
	基礎日本語レポート	1・2・3・4通		2		○									兼1	
	実力日本語読解	1・2・3・4通		2		○									兼1	
	実力日本語聴解発話	1・2・3・4通		2		○									兼1	
	実力日本語レポート	1・2・3・4通		2		○									兼1	
	大学日本語読解	1・2・3・4通		2		○									兼1	
	大学日本語聴解発話	1・2・3・4通		2		○									兼1	
大学日本語レポート	1・2・3・4通		2		○									兼1		
総合日本語	2・3・4通		2		○									兼1		
実用日本語	3・4通		2		○									兼1		
ビジネス日本語1	2・3・4通		2		○									兼1		
ビジネス日本語2	3通		2		○									兼1		
小計(45科目)	—		0	90	0	—			2	0	0	0	0	0	兼32	—

教育課程等の概要

(流通学部流通学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
人間と文化群	哲学 a	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	哲学 b	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	倫理学 a	1・2・3・4前		2		○									兼2	
	倫理学 b	1・2・3・4後		2		○									兼2	
	論理学 a	1・2・3・4前		2		○									兼2	
	論理学 b	1・2・3・4後		2		○									兼2	
	心理学 a	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	心理学 b	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	教育学 a	1・2・3・4前		2		○				1					兼1	
	教育学 b	1・2・3・4後		2		○				1					兼1	
	日本文学 a	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	日本文学 b	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	外国文学 a	1・2・3・4前		2		○									兼2	
	外国文学 b	1・2・3・4後		2		○									兼2	
	地理学 a	1・2・3・4前		2		○									兼2	
	地理学 b	1・2・3・4後		2		○									兼2	
	文化人類学 a	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	文化人類学 b	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	観光文化論	1・2・3・4前後		2		○									兼1	
	現代日本事情 a	1・2・3・4前		2		○									兼9	オムニバス
	現代日本事情 b	1・2・3・4後		2		○									兼8	オムニバス
小計 (21科目)	—		0	42	0	—			1	1	0	0	0	兼25	—	
一般教育科目 歴史と社会群	日本史 a	1・2・3・4前		2		○									兼2	
	日本史 b	1・2・3・4後		2		○									兼2	
	東洋史 a	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	東洋史 b	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	西洋史 a	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	西洋史 b	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	現代史 a	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	現代史 b	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	法学 a	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	法学 b	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	政治学 a	1・2・3・4前		2		○									兼2	
	政治学 b	1・2・3・4後		2		○									兼2	
	社会学 a	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	社会学 b	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	経済学 a	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	経済学 b	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	経営学 a	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	経営学 b	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	日本国憲法	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	人権問題論 a	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	人権問題論 b	1・2・3・4後		2		○									兼1	
小計 (21科目)	—		0	42	0	—			0	0	0	0	0	兼13	—	
自然と環境群	数学 a	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	数学 b	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	統計学 a	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	統計学 b	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	物理学 a	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	物理学 b	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	化学 a	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	化学 b	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	生命科学 a	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	生命科学 b	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	自然科学史 a	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	自然科学史 b	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	地球環境科学 a	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	地球環境科学 b	1・2・3・4後		2		○									兼1	
小計 (14科目)	—		0	28	0	—			0	0	0	0	0	兼6	—	

教育課程等の概要

(流通学部流通学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
一般教育科目	健康とスポーツ群	人間科学 a	1・2・3・4前		2		○									兼1	
		人間科学 b	1・2・3・4後		2		○									兼1	
		健康科学論 a	1・2・3・4前		2		○									兼1	
		健康科学論 b	1・2・3・4後		2		○									兼1	
		生涯スポーツ論 a	1・2・3・4前		2		○									兼1	
		生涯スポーツ論 b	1・2・3・4後		2		○									兼1	
		スポーツ科学論 a	1・2・3・4前		2		○									兼1	
		スポーツ科学論 b	1・2・3・4後		2		○									兼1	
		スポーツ文化論 a	1・2・3・4前		2		○									兼1	
		スポーツ文化論 b	1・2・3・4後		2		○									兼1	
		スポーツ技術 a	1・2・3・4前		2		○									兼7	
		スポーツ技術 b	1・2・3・4後		2		○									兼8	
	スポーツ・トレーニング a	1・2・3・4前		2		○									兼5		
	スポーツ・トレーニング b	1・2・3・4後		2		○									兼5		
		小計 (14科目)	—	0	28	0		—		0	0	0	0	0	0	兼14	—
育基盤科目	スタディスキルズ 1	1前		2		○			1						兼1		
	スタディスキルズ 2	1後		2		○			1						兼1		
	小計 (2科目)	—	0	4	0		—		1	0	0	0	0	0	兼1	—	
自由選択科目	ボランティア実践	1・2・3・4通		4		○									兼1		
	教養総合講座 a	1・2・3・4前		2		○									兼9	オムニバス	
	教養総合講座 b	1・2・3・4後		2		○									兼6	オムニバス	
	教養演習 1 a	1・2・3・4前		2				○	1						兼2		
	教養演習 1 b	1・2・3・4後		2				○	1						兼1		
	教養演習 2 a	1・2・3・4前		2				○							兼2		
	教養演習 2 b	1・2・3・4後		2				○							兼1		
	教職入門	1・2・3・4後		2				○	1						兼1		
	短期留学 1	1・2・3・4通		4				○							兼1		
	短期留学 2	1・2・3・4通		4				○							兼1		
	短期留学 3	1・2・3・4通		4				○							兼1		
	短期留学 4	1・2・3・4通		4				○							兼1		
	教育社会学	2・3・4前		2				○							兼1		
博物館概論	1・2・3・4前		2				○							兼1			
生涯学習概論	2・3・4前		2				○							兼1			
	小計 (15科目)	—	0	40	0		—		2	0	0	0	0	0	兼21	—	
キャリア教育科目	キャリアデザイン a	1前		2		○									兼3		
	キャリアデザイン b	1後		2		○									兼3		
	キャリア演習 1 a	1前		2				○							兼1		
	キャリア演習 1 b	1後		2				○							兼1		
	インターンシップ準備講座	2・3・4通		4				○							兼2		
	国際インターンシップ準備講座	2・3・4通		4				○							兼1		
	起業塾 1	2・3・4通		4				○							兼1		
	起業塾 2	2・3・4通		4				○							兼1		
	キャリア演習 2 a	2・3・4前		2				○							兼1		
	キャリア演習 2 b	2・3・4後		2				○							兼1		
	小計 (10科目)	—	0	28	0		—		0	0	0	0	0	0	兼9	—	
学科科目	全員履修科目	プレゼミ 1	1前		2				○		8	7	1				
		プレゼミ 2	1後		2				○		8	7	1				
		ビジネス入門 1	1前		2				○		2	1					
		流通学入門	1後		2				○		2	2					
		基礎演習	2通		4				○		10	6	2	0	0	0	
		小計 (5科目)	—	0	12	0		—		10	6	2	0	0	0		—
	学科必修	ビジネス入門 2	1後		2				○		3	1					
		専門演習	3通		4				○		10	5	2				
		卒業研究	4通		4				○		8	4	2				
		小計 (3科目)	—	10	0	0		—		12	5	2	0	0	0		—
	コース必修	基礎マーケティング	2・3・4前		2				○		1	2					
		基礎マネジメント	2・3・4前		2				○		1						
		基礎スポーツマネジメント	2・3・4前		2				○				1				
		小計 (3科目)	—	0	6	0		—		2	2	1	0	0	0		—
	コース選択必修	ファッションビジネス	1・2・3・4前		2				○			1					
ファッションビジネス実践		1・2・3・4後		2				○							兼1		
アパレル産業論		2・3・4前		2				○		1							
ファッションマーケティング		2・3・4後		2				○			1						
ブランドマーケティング		2・3・4前		2				○		1							
	ブランドビジネス	2・3・4後		2				○		1							

教育課程等の概要

(流通学部流通学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
学 科 科 目	コース選択必修科目	インテリアビジネス インテリアデザイン ファッションマネジメント戦略 マーケティング 商空間計画論 ライフスタイルビジネス1 ライフスタイルビジネス2 マーケティング戦略 グローバルマーケティング マーケティングリサーチ	2・3・4前 2・3・4後 2・3・4前 2・3・4後 3・4後 3・4前 3・4後 3・4前後 3・4前 3・4後	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2		0 0 0 0 0 0 0 0 0 0				1 1 1 1 1 1 1 1 1 1						兼1	
		小計(16科目)	—	0	32	0	—	—	—	4	2	0	0	0	0	兼1	—
	コース選択必修科目	ホスピタリティマネジメント サービスビジネス エンターテインメントビジネス 経営戦略論 ソーシャルビジネス フードビジネス コンテンツビジネス ホテルビジネス リーダーシップ論 人的資源管理論 ビジネス実務 ブライダル実務 ブライダルマネジメント 企業分析 管理会計 ブライダルビジネス	1・2・3・4前 1・2・3・4後 2・3・4後 2・3・4後 2・3・4後 2・3・4後 2・3・4後 2・3・4前 2・3・4後 2・3・4後 2・3・4前 2・3・4後 2・3・4後 2・3・4前 2・3・4前 2・3・4前	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2		0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0				1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1						兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1	
		小計(16科目)	—	0	32	0	—	—	—	1	3	0	0	0	0	兼5	—
	コース選択必修科目	スポーツ技術論 スポーツ競技力入門 スポーツマネジメント入門 スポーツと社会1 運動生理学 スポーツと社会2 発育発達論 アスリートキャリア1 アスリートキャリア2 応用スポーツマネジメント スポーツ業界研究 コーチング論1 コーチング論2 スポーツ産業論 スポーツトレーニング論 スポーツマネジメントリサーチ	1・2・3・4後 1・2・3・4前 1・2・3・4前 1・2・3・4前 2・3・4前 2・3・4後 2・3・4後 2・3・4前 2・3・4後 2・3・4後 2・3・4後 3・4前 3・4後 3・4前 3・4前 3・4前	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2		0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0				1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1			1 1				
		小計(16科目)	—	0	32	0	—	—	—	4	1	1	0	0	0	0	—
	自由選択科目	流通学特別講義1 流通学特別講義2 流通学特別講義3 流通学特別講義4 流通学特別講義5 流通学特別講義6 ロジスティクス 経済活動と法 広告ビジネス 商品開発論 企業社会論	1・2・3・4前 1・2・3・4後 1・2・3・4前 1・2・3・4前 1・2・3・4前 1・2・3・4前 2・3・4後 2・3・4後 2・3・4前 2・3・4後 2・3・4前	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2		0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0				1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1		1 1				兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1	

教育課程等の概要

(流通学部流通学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験 ・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
学 科 目 自 由 選 択 科 目	交通ビジネス	2・3・4前		2		○			1						
	工業簿記	2・3・4前		2		○				1					
	商業簿記1	2・3・4前		2		○				1					
	商業簿記2	2・3・4後		2		○				1					
	ヘルスプロモーション	2・3・4後		2		○				1					
	スポーツゲーム分析	2・3・4後		2		○									兼1
	地域スポーツクラブ論	2・3・4前		2		○				1					
	野球ビジネス論	2・3・4前		2		○				1					
	水泳・水中運動	2・3・4後		2		○									兼1
	ジョギング・ウォーキング	2・3・4後		2		○									兼1
	スポーツ医学1	2・3・4後		2		○									兼1
	スポーツ医学2	2・3・4前		2		○									兼1
	スポーツ栄養・食事学	2・3・4前		2		○									兼1
	スポーツ心理学	2・3・4前		2		○									兼1
	スポーツ特講1	2・3・4前		2		○				1					兼1
	スポーツ特講2	2・3・4後		2		○				1					
	スポーツ特殊講義1	2・3・4後		2		○									兼1
	スポーツ特殊講義2	2・3・4前		2		○				1					
	スポーツ特殊講義3	2・3・4後		2		○				1					兼1
	スポーツ特殊講義4	2・3・4前		2		○									兼1
	アジア市場論	2・3・4前		2		○				1					
	アメリカ市場論	2・3・4後		2		○				1					
	ビジネスアプリケーション1	2・3・4前		2		○				1					
	ビジネスアプリケーション2	2・3・4後		2		○				1					
	会社法1	2・3・4前		2		○									兼1
	会社法2	2・3・4後		2		○									兼1
	資格取得講座1	2・3・4後		2		○				1					
	資格取得講座2	2・3・4前		2		○				1					
	資格取得講座3	2・3・4後		2		○				1					
	資格取得講座4	2・3・4前		2		○				1					
	職業指導	2・3・4通		4		○				1					
	税法1	2・3・4前		2		○				1					
	税法2	2・3・4後		2		○				1					
	専門書講読1	2・3・4前		2		○				2					
	専門書講読2	2・3・4後		2		○				2					
	特殊講義1	2・3・4前		2		○									兼1
	特殊講義2	2・3・4前		2		○									兼1
	民法1	2・3・4前		2		○									兼1
	民法2	2・3・4後		2		○									兼1
	流通学特別講義7	2・3・4前		2		○									兼1
流通学特別講義8	2・3・4前		2		○				1						
流通学特別講義9	2・3・4前		2		○									兼1	
流通学特別講義10	2・3・4後		2		○									兼1	
流通学特別講義11	2・3・4前		2		○									兼1	
流通学特別講義12	2・3・4後		2		○				1						
労働法1	2・3・4前		2		○				1						
労働法2	2・3・4後		2		○				1						
eコマース	3・4前		2		○				1						
インテリアデザイン実践	3・4前		2		○				1						
ストアオペレーション	3・4前		2		○					1					
マーケティング実践1	3・4前		2		○				1						
マーケティング実践2	3・4後		2		○				1						
マーチャндаイジング	3・4前		2		○					1					
消費者政策	3・4後		2		○									兼1	
消費生活論	3・4前		2		○				1						
流通システム論	3・4後		2		○					1					
流通ビジネス	3・4前		2		○					1					
流通政策	3・4前		2		○									兼1	
グローバルビジネス	3・4後		2		○				1						
サービスビジネス特講	3・4前		2		○				1						

教育課程等の概要

(流通学部流通学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
学科科目 自由選択科目	スモールビジネス	3・4前		2		○									兼1
	ベンチャービジネス	3・4後		2		○									兼1
	マネジメントゲーム	3・4前		2		○									兼1
	マネジメント特講	3・4後		2		○			1						
	銀行ビジネス	3・4前		2		○			1						
	経営財務論	3・4後		2		○			1						
	財務会計	3・4前		2		○									兼1
	商業簿記3	3・4前		2		○									兼1
	商業簿記4	3・4後		2		○									兼1
	証券ビジネス	3・4後		2		○			1						
	スポーツツーリズム	3・4後		2		○					1				
	スポーツ動作解析	3・4後		2		○			1						
	バイオメカニクス	3・4後		2		○									兼1
	健康体力評価	3・4前		2		○			1						
	健康体力評価演習	3・4前		2		○			1						
	プロジェクト演習1	3・4前		2			○								兼1
	プロジェクト演習2	3・4後		2			○								兼1
	プロジェクト演習3	3・4前		2			○				1				
	プロジェクト演習4	3・4後		2			○			1					
国際貿易論	3・4前		2		○				1						
小計(91科目)		—	0	184	0			—	11	4	2	0	0	兼19	—
合計(303科目)		—	10	622	0			—	14	6	2	0	0	兼115	—
学位又は称号		学士(流通学)		学位又は学科の分野			経済学関係								
卒業要件及び履修方法						授業期間等									
<p>一般教育科目30単位以上、学科科目72単位以上、加えてキャリア教育科目・他学部受講科目を合わせて合計124単位以上修得すること。</p> <p>一般教育科目のうち、「情報とメディア」群から2単位以上、「言語と文化」群から8単位以上、「人間と文化」群から4単位以上、「歴史と社会」群から4単位以上、「自然と環境」群から4単位以上、「健康とスポーツ」群から4単位以上を修得し、基盤教育科目と自由選択科目と合わせて合計30単位以上を修得すること。</p> <p>学科科目のうち、学科必修科目から10単位、コース必修科目から2単位、コース選択必修科目から10単位以上を修得し、全員が履修しなければならない全員履修科目と自由選択科目を合わせて合計72単位以上を修得すること。</p> <p>なお、履修制限単位数は以下のとおりとする。</p> <p>1年次48単位、2年次48単位、3年次48単位、4年次48単位</p>						1学年の学期区分		2期							
						1学期の授業期間		15週							
						1時限の授業時間		90分							

授 業 科 目 の 概 要			
(経営学部経営学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
一般教育科目	語学群 コリア語1	本科目は、講義科目である。 本科目では、入門レベルの韓国語を講義する。韓国語の文字(ハングル)の仕組みを理解し、読み書きができるようになるために、初級文法を習得し、簡単な会話によって韓国人とのコミュニケーション力を修得する。具体的には、ハングルの仕組み、単母音、重母音、平音、平音の有声音化、激音、濃音、パッチム(終声)、発音規則等のコリア語特有の発音を学ぶ。併せて、ハングル能力検定試験5級程度の文法と単語を習得する。	
一般教育科目	語学群 コリア語2	本科目は、講義科目である。 本科目では、「コリア語1」での成果をふまえ、日常的なコミュニケーション力を修得するための講義を行う。具体的には、公共空間に提示されるハングル表記やKPOPの歌詞でハングルの読み書きと発音を練習すると共に、韓国ドラマや映画等をテキストとして簡単な会話ができるようになるためのヒヤリング力を修得する。さらに、修得した初級文法を応用して場面別の会話の構文を講義する。それを使ったシチュエーションを設定を行い会話力を向上させる。	
一般教育科目	語学群 コリア語3	本科目は、講義科目である。 本科目では、「コリア語1」「コリア語2」での成果をふまえ、以下の3点を修得するための講義を行う。 ①韓国語の文字(ハングル)の仕組みについて理解を深め、読み書きを学ぶ。 ②初級文法を習得し、簡単な会話によって韓国人とのコミュニケーションができるようにする。 ③韓国語能力試験初級、ハングル能力検定試験5級程度の文法と単語を覚える。 具体的には、韓国語の文字と発音を学修し、公共空間で使われるハングル表記やKPOPの歌詞について、ハングルの読み書きと発音を修得する。併せて、時間表現、理由表現、計画/意志表現、道具・手段を表す助詞、丁寧なお願い表現、勧誘表現を修得する。	
一般教育科目	語学群 コリア語4	本科目は、講義科目である。 本科目では、「コリア語1」「コリア語2」「コリア語3」での成果をふまえ、以下の2点を修得するための講義を行う。 ①韓国ドラマや映画を見ながら簡単な会話を学ぶ。 ②習得した初級文法を応用して場面別の会話を学ぶ。 具体的には、韓国語の文字と発音を学修する共に、逆接表現、尊敬表現、推量・推測表現、比較・感嘆表現、病気の際の会話表現、提案表現、禁止表現、計画/予定表現許可/承諾表現を修得する。	
一般教育科目	語学群 スペイン語1	本科目は、講義科目である。 本科目では、通用範囲の広い言語であることをふまえ、「旅行のためのスペイン語」をテーマとして講義を行う。「スペイン語1」ではスペインを取り上げ、現地の人々と関わり、安全かつ自由に旅ができる語学力を修得する。まず、文字と音の関係を知り、正しく発音できるようになり、基本的な日常会話としての挨拶やお礼、お願い等の表現を学ぶ。さらに、様々なシチュエーションを設定することによって、個々の場面で行われる会話と表現の仕組み(文法)を知ることで、スペイン語の本質を理解する。具体的には、挨拶、数詞、名詞の性と数、名詞句の作り方、数量表現、数量表現を伴った名詞句の作り方を学ぶ。	
一般教育科目	語学群 スペイン語2	本科目は、講義科目である。 本科目では、「スペイン語1」での成果をふまえ、「旅行のためのスペイン語」をテーマとして物事を簡単にスペイン語で説明できることや、スペインの地理や見どころをスペイン語で理解する語学力修得のための講義を行う。具体的には、動詞serを用いて持ち物の所有者を伝えるスペイン語作文、動詞ser・estar・hayと疑問詞、行為を表す動詞とスペイン語作文、「助動詞+原形」で希望や予定を伝える、希望・依頼・予定についてのやりとり等について修得する。	
一般教育科目	語学群 スペイン語3	本科目は、講義科目である。 本科目では、「スペイン語1」「スペイン語2」での成果をふまえ、中南米(特にペルー)を取り上げ、安全で充実した旅行をクリエイトするための基本的な会話力を修得するための講義を行う。特に、人称代名詞を駆使してよりの確なスペイン語表現を作り、辞書を用いて簡単な文章の読解力を体得する。具体的には、単人称文、気象表現、比較構文、目的格人称代名詞、目的格人称代名詞の併用、再帰表現、人称代名詞と動詞の関係、スペインのスペイン語とアメリカ地域のスペイン語の違いを講義する。	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部経営学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
一般教育科目	語学群	スペイン語4	本科目は、講義科目である。 本科目では、「スペイン語1」「スペイン語2」「スペイン語3」での成果をふまえ、日本国内を取り上げ、スペイン語圏から日本を訪れている旅行者への旅のサポートができるスペイン語力を修得するための講義を行う。特に、日本とスペイン・中南米の歴史に共通する「道(熊野古道・サンティアゴ巡礼路・インカ道)」について学ぶことで、その本質を理解しスペイン語での説明できるスキルを修得する。講義では、旅の場面を想定した会話構文について学ぶと共に、命令形、進行形と完了形、点過去、線過去、未来形、過去未来形、接続法現在について解説する。	
一般教育科目	語学群	ドイツ語1	本科目は、講義科目である。 本科目では、ドイツ語の言語的な背景をはじめとして、初修ドイツ語としてドイツ語の基礎となる動詞および冠詞の変化をマスターすることを目標とする。具体的にはドイツ語検定4級レベルで問われる程度の文法知識と、簡単な挨拶や買い物が行える会話力を身につけることを目標とする。そのために、基礎的な文法知識および(受講生にとって身近な物事を表す)基礎単語を修得する。具体的には、アルファベットと発音、sein、決まった変化をする動詞、変わった変化をする動詞、haben・werden・wissen、定冠詞、不定冠詞について学ぶ。	
一般教育科目	語学群	ドイツ語2	本科目は、講義科目である。 本科目では、「ドイツ語1」での成果をふまえ、初修ドイツ語として前置詞や助動詞などを学び、より複雑な表現を理解できるようになることを目標とする。具体的にはドイツ語検定4級レベルで問われる程度の文法知識と、簡単な挨拶や買い物が行える会話力を身につけることを目標とする。具体的には、不定冠詞、不定冠詞類、人称代名詞、前置詞、助動詞を学ぶ。最後にここまでの学びを通して習得したドイツ語を使って会話練習を実施する。	
一般教育科目	語学群	ドイツ語3	本科目は、講義科目である。 本科目では、「ドイツ語1」「ドイツ語2」での成果をふまえ、ドイツ語話者とコミュニケーションをとれる会話力の向上に重点をおいて講義を行う。ただし、正しいドイツ語の活用には文法的な知識が不可欠であるため、毎回の授業において基礎的な文法も含め学ぶ。本授業では、受講生がドイツを旅行する設定で使用するであろう様々な状況を想定し会話を行う。会話でよく使われるフレーズのうち、とくに旅行中に使用する頻度が高いと思われるものを紹介し、それらのフレーズを文法的に解説する。受講生は、これらのフレーズを含む会話文をくりかえし声に出して読むことで、発音をマスターすると共にフレーズを暗記していく。	
一般教育科目	語学群	ドイツ語4	本科目は、講義科目である。 本科目では、「ドイツ語1」「ドイツ語2」「ドイツ語3」での成果をふまえ、ドイツ語話者とコミュニケーションをとれる会話力の向上に重点をおいて講義を行う。ただし、正しいドイツ語の活用には文法的な知識が不可欠であるため、毎回の授業において基礎的な文法も含め学ぶ。本授業では、様々なシチュエーションを設定することで、会話文を修得する。具体的には、買い物、切符の購入、服の購入、ホテルでの宿泊、別れのあいさつ等の場面における会話をマスターする。	
一般教育科目	語学群	ドイツ語5	本科目は、講義科目である。 本科目では、「ドイツ語1」「ドイツ語2」「ドイツ語3」「ドイツ語4」での成果をふまえ、ドイツ語技能検定試験4級程度のドイツ語力の修得に重点をおいて講義する。これまで学んだドイツ語の初級文法の知識について復習しながらドイツ語力を高めていく。具体的には、発音・アクセント、動詞の人称変化、名詞・代名詞の変化、語順、前置詞と疑問詞、応答、図表の読解、会話文の読解、会話文の聞き取り、文章の聞き取り等を講義する。	
一般教育科目	語学群	ドイツ語6	本科目は、講義科目である。 本科目では、「ドイツ語1」「ドイツ語2」「ドイツ語3」「ドイツ語4」「ドイツ語5」での成果をふまえ、ドイツ語技能検定試験3級を目指せる程度のドイツ語力の修得に重点をおいて講義する。具体的には、語彙、動詞・冠詞についての文法の基礎についての復習を行い、動詞の3基本形、分離動詞と再帰動詞、受動態、接続法、zu不定詞句、形容詞、関係詞代名詞と接続詞、手紙および会話文の読解、長文読解等を講義する。	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部経営学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
一般教育科目	語学群	ビジネス日本語 1 a	本科目は、講義科目である。 本科目では、日本語能力試験N1を取得した学生が、敬語の仕組みや使い方、敬語表現などを身につける。将来日本語を使って仕事をする留学生にとって敬語学習は必須である。敬語の基本を学習することからはじめ、敬語を通して日本人の考え方を理解しながら、ビジネス場面に応じた練習を行う。敬語は間違えて使うくらいなら使わないほうが良いと言われるほど、正しさが求められるものである。敬語の形を覚えるのに自学自修が必要となる。	
一般教育科目	語学群	ビジネス日本語 1 b	本科目は、講義科目である。 本科目では、「ビジネス日本語 1 a」を学んだ学生が、ビジネス場面に応じた敬語の練習を行う。また、ビジネスマナーについても、日本人の考え方を理解しながら学ぶ。さらに、新聞記事を通して日本人や日本社会を理解し、自分の意見をまとめて記事とともに紹介し、ディスカッションする。応用力をつけるためには、敬語の基礎が身に付いていて、状況を判断して言葉を選び使うことができなければならない。授業の練習だけでは足りないため、日常生活のさまざまな場においても学ぶ姿勢を養う。	
一般教育科目	語学群	ビジネス日本語 2 a	本科目は、講義科目である。 本科目では「ビジネス日本語 1 ab」を修得した、またはそれと同等のレベルを有する学生が、ビジネス場面におけるコミュニケーション能力の向上を目指す。ビジネス場面のコミュニケーションは、いかに速く人間関係を理解し、自分の立場に見合った適切な敬語を使うかにかかっている。前期は、敬語の復習のほかに場面練習も取り入れながら、理解力・運用能力を高めていく。また、ビジネス場面に不可欠な常識的な用語も学ぶ。	
一般教育科目	語学群	ビジネス日本語 2 b	本科目は、講義科目である。 本科目は、「ビジネス日本語 2 a」を学んだ学生が、前期に引き続き、ビジネス場面におけるコミュニケーション能力の向上を目指す。後期は、就職に役立つ検定試験BJT（ビジネス日本語能力テスト）のJ1以上の取得を目指した勉強を通して、ビジネスコミュニケーション能力を高めていく。人間関係の理解・適切な敬語の運用につなげるため、なぜその解答を導いたのかを客観的に説明する能力も養う。また、ビジネス場面に不可欠な常識的な語彙も拡充していく。	
一般教育科目	語学群	ビジネス日本語基礎a	本科目は、講義科目である。 本科目では、日本語能力試験N1を取得していない学生が、卒業前に敬語全般について理解し、簡単な敬語が使えるようにすることを目指す。日本でも海外でも日本語を使って仕事をしていく上で、敬語は外せない。しかし、敬語を体系的に学んでいる学生はほとんどいないため、本科目ではまずは敬語の基本を学び、敬語の語形や表現を理解し、聞いてわかるようにする。また、簡単な敬語を使って会話できるようにする。	
一般教育科目	語学群	ビジネス日本語基礎b	本科目は、講義科目である。 本科目は、「ビジネス日本語基礎a」を学んだ学生が、簡単な敬語の会話や簡単なビジネスマナーを身につけることを目指す。就職して日本語を使って仕事をする際に、限られた場面ではあっても、どのような場面で敬語を使用するか理解し、適切に使用できるようにする。また、日本社会への理解を深めるために、新聞記事等から日本人や日本社会を読み解き、自分の意見をまとめて、発表することも適宜実施していく。	
一般教育科目	語学群	フランス語 1	本科目は、講義科目である。 本科目では、フランス語の言語的な背景をはじめとして、初修フランス語として基礎的な発音や文法構造の修得を目標に簡単な短文の読解も含め講義する。アルファベから始めてフランス語の文法の基本的な事項についてまんべんなく、複合過去までを講義する。具体的には、様々なシチュエーションを設定することによって、フランス語のつづり字と発音、名詞の性と数、数詞、不定冠詞、定冠詞、形容詞の性・数の一致、第一群規則動詞、所有形容詞、疑問文、形容詞の位置、形容詞の女性形と名詞の複数形、否定文、指示形容詞、定冠詞の縮約、近い過去・近い未来、疑問代名詞、疑問副詞、中性代名詞について学ぶ。加えて、本科目での特別トピックとして、「フランスの文化」を講義する。	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部経営学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
一般教育科目	語学群	フランス語 2	本科目は、講義科目である。 本科目では、「フランス語 1」での成果をふまえて、初修フランスとして必須となる発音発音や文法構造の修得へ向けた講義を行う。具体的には、様々なシチュエーションを設定することによって、部分冠詞、数量表現、中性代名詞en、非人称構文、命令形、疑問形容詞、比較級、最上級、指示代名詞、数詞2、補語人称代名詞、代名動詞、複合過去形について学ぶ。加えて、本科目での特別トピックとして、「フランスの文化」を講義する。	
一般教育科目	語学群	フランス語 3	本科目は、講義科目である。 本科目では、「フランス語 1」「フランス語 2」で修得した内容をふまえ、初級文法として難易度を上げた項目について学ぶ。また短文読解や会話などを随時取り入れ、発音も含め実践力、運用力を高める。具体的には、様々なシチュエーションでの表現を学ぶとともに、主語人称代名詞、etreの直説法現在、国籍・身分・職業、不定冠詞、名詞の性と数、形容詞の性と数、avoirの直説法現在、定冠詞、-er 型動詞の直説法現在、否定文、指示形容詞、faire/descendreの直説法現在、疑問文、aller/venirの直説法現在、前置詞と定冠詞の縮約、命令形、所有形容詞、強勢形人称代名詞、疑問形容詞について講義する。	
一般教育科目	語学群	フランス語 4	本科目は、講義科目である。 本科目では、「フランス語 1」「フランス語 2」「フランス語 3」で修得した内容をふまえ、初級文法として難易度を上げた項目について学ぶ。また短文読解や会話などを随時取り入れ、発音も含め実践力、運用力を高める。具体的には、様々なシチュエーションでの表現を学ぶとともに、部分冠詞、-ir型動詞の直説法現在、vouloirの直説法現在、非人称構文、直接目的語の人称代名詞、pouvoirの直説法現在、prendreの直説法現在、間接目的語の人称代名詞、近接未来、近接過去、中性代名詞、比較級、最上級過去分詞、直説法複合過去(1)(2)について講義する。	
一般教育科目	語学群	フランス語 5	本科目は、講義科目である。 本科目では、「フランス語 1」「フランス語 2」「フランス語 3」「フランス語 4」で講義した内容をふまえ、フランス語の文法事項の確実な定着と発展的な内容を学ぶ。さらに中級程度の会話文の総合的、実践的な運用力の獲得をめざし、まとまった文章に慣れ親しみ、その読解と表現を学ぶことによって、フランス語の言語学的な構造や特徴を理解する。併せて、言語のみならずフランスやフランス語圏の風土、生活習慣、発想、社会や地域の特徴や最新事情への等についての知識の体得と共に理解を深める。	
一般教育科目	語学群	フランス語 6	本科目は、講義科目である。 本科目では、「フランス語 1」「フランス語 2」「フランス語 3」「フランス語 4」「フランス語 5」で講義した内容をふまえ、実践的なフランス語の知識と運用能力を高めるために、新聞記事、シャンソン、シナリオ、民話など幅広いジャンルについて、修得したフランス語を使って学ぶ。加えて、手紙や日記など簡単なフランス語で表現することも学ぶ。具体的には、新聞記事のコラムを読む、シャンソンのフランス語、映画シナリオのフランス語、民話を読む、フランス語で手紙や日記を書く、長文読解について講義する。	
一般教育科目	語学群	英語 1	本科目は、講義科目である。 本科目では、音韻と文法の基礎についての講義をふまえ、「話せる英語の基礎」を学ぶ。特に、発話を聴き取り、文法に即して作文し、適切な音韻で意思を伝え、正確な綴りで書けるスキルを修得する。先ず、講義では、習熟度テストを実施することで受講生の能力判断を行う。その上で、国際発音記号の解説を通して適切な発音方法を学ぶ。さらに順次、綴りと音韻、音節と第一強勢、時・場所の副詞句、疑問文・助動詞、子音と母音の連結、所有形容詞+形容詞+名詞、冠詞、可算・不可算名詞、名詞句等を講義する。	
一般教育科目	語学群	英語 2	本科目は、講義科目である。 本科目では、「英語 1」での学修成果をふまえ、「話せる英語の発展」を学ぶ。「英語 1」に引き続き、発話を聴き取り、英文法に即して作文し、適切な音韻で自己の意思を伝え、正確な綴りで書けるようになるためのスキルを修得する。具体的な講義内容としては、抑揚(昇調・降調)、現在進行形、自動詞・他動詞、弱音節の音、単純現在時制、補助動詞、音韻と英文法、所有形容詞、命令形と条件節を学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部経営学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
一般教育科目	語学群	英語 3	本科目は、講義科目である。 本科目では、中・高等学校で習得した英語力をさらに高めることを目的としている。主な目的は、学生がリスニングとスピーキングのスキルを向上させることにある。 学生は、さまざまな活動を通じて、コミュニケーション手段として英語を使用できることを学修する。これには、学生の英語でのコミュニケーション能力を向上させることを目的として、英語の言語的側面の説明、リスニング、プロジェクトなどが含まれる。	
一般教育科目	語学群	英語 4	本科目は、講義科目である。 本科目では、「英語 3」で修得した英語スキルをふまえ、英語の言語的側面について説明すると共に、リスニング活動、プロジェクト等、英語でのコミュニケーション能力の向上を目指した様々な活動と場面を通して、英語を「使えるコミュニケーションツール」として修得する。学生は、さまざまな状況でコミュニケーションの手段として英語を使用する能力を開発する。併せて、学生が英語の独立した学習者になる能力を養成する。	
一般教育科目	語学群	総合日本語a	本科目は、講義科目である。 本科目では、日本語能力試験N1合格を目的の一つとする学生が、上級レベルの読解力、また聴解力と発話力、さらに語彙力、文法力を身につけることを目指す。読解力・文法力に関しては、基礎力を確認した上で、様々な文体に触れ、文章の構造を読み取る、より高い読解力を身に付けることを目指す。聴解力においても、話の流れ（構成）を聴き取れるようになることを目指す。語彙を増やすためのテストは毎回行う。聴解のための耳をつくるためにも発音・発話練習を行う。	
一般教育科目	語学群	総合日本語b	本科目は、講義科目である。 本科目では、「総合日本語a」を学んだ学生が、日本語能力試験N1合格を目的の一つとして「総合日本語a」の内容を引き続き学ぶ。日本語能力試験N1の教材を用いて、読解、文法・語彙、聴解の力をつけることを目指す。また、聴解のための耳をつくるために、発音・発話練習も継続する。内容が多岐にわたるため、一つ一つにかかる時間は少なくなるが、丁寧に学び、力を伸ばす。N1受検後は、丁寧に話す練習を行う。	
一般教育科目	語学群	中国語 1	本科目は、講義科目である。 本科目では、入門レベルの中国語を学び、450語の単語と20～30の基本文型を修得する。受講者はピンインを介して簡単な中国語の単語と文章が発音できるようになる。HSK 3級または中国語検定準4級レベルの中国語力を身につけることを最終的な到達目標とする。生活の中で頻出する会話文を使い、基本的な文法を解説し、その中の最も重要な文型を繰り返して練習し、特に「発音」と「ヒヤリング」を重点に置き、これらの内容を習得する。 発音部分の到達目標：①子音・母音の習得②有気音と無気音の習得③捲舌音の習得 文法訓練の到達目標：①中国語と日本語文法構造の差異についての修得②主語・述語・目的語・定語・状語の基本の理解 会話練習の到達目標：①基本文型の習得②初対面や挨拶・基本生活用の中国語の習得	
一般教育科目	語学群	中国語 2	本科目は、講義科目である。 本科目では、ピンインなしで初級テキストが発音でき、学習した文型を用い、誤用しやすい簡体字に注意して、文章読解・作成が可能な能力を身につける。最終的な到達目標は、日常的な会話のやり取りだけではなく、状況に応じて質問ができること。読解・作文の勉強では、与えられた日本語を中国語訳するだけではなく、状況に応じて簡単な文章を作成できること、メールなどで簡単な文章のやり取りができることである。その結果として、中国語1で勉強した単語を含め、全部で800～1000の単語を修得し、中国語検定4級レベルの語学力の修得を目指す。	
一般教育科目	語学群	中国語 3	本科目は、講義科目である。 本科目では、中級レベルの「会話」「読解」「作文」を中心に学習する。初級中国語科目で習得した単語の上、さらに400～600語前後習得し、それと対応する文法を身につけることを目標とする。「中国語4」と同じレベルの内容の授業であるが、より会話とリスニングを重視する。 最終的な到達目標は、ネイティブとの中級レベルの日常的会話、複文などを用いた作文、一般的な新聞・雑誌記事の読解、辞書なしでのメールなどのやり取りが可能になることである。その結果として、中国語検定3級レベル・HSK4級の語学力の修得を目指す。	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部経営学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
一般教育科目	語学群	中国語 4	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、中級レベルの「会話」「読解」「作文」を中心に学習する。初級中国語科目で習得した単語の上、さらに400～600語前後習得し、それと相応する文法を身につけることを目標とする。「中国語3」と同じレベルの内容の授業であるが、より文法と読み書きを重視する。</p> <p>最終的な到達目標は、一般的な日常会話、連動文・複文を用いた作文、専門に特化しない新聞・雑誌記事の読解、辞書なしでのメールなどのやり取りが可能になることである。その結果として、中国語検定3級レベル・HSK4級の語学力の修得を目指す。</p>	
一般教育科目	語学群	日本語レポート 1 a	<p>本科目は講義科目である。</p> <p>「日本語レポート 1 a」を学んだ学生が、引き続きレポート作成の基礎を学ぶための科目である。日本語でレポートを書くために必要となる、基礎的な知識(規則)を学び、正しい文法と語彙選択に基づきながら、読み手に伝わる、きちんとした文が書けるようにすることが目標である。文を正確に書くためには、文法力や語彙力が欠かせないため、文法や語彙を覚え、自分で文を書くときに覚えたものを使えるようにしていく。単文レベルから複数の文へと少しずつ書く量を増やすことを目指す。</p>	
一般教育科目	語学群	日本語レポート 1 b	<p>本科目は講義科目である。</p> <p>「日本語読解 1 ab」を修得済み、またはそれと同等のレベルがあるとみなせる学生が、N1取得を一つの目標と定め、読解力と語彙力、文法力を身に付けるための科目である。ある程度の長さのある、論理的な文章を全体の構成を理解しながら的確に読みとる力を培う。また、短い文章を読んで討論をしたり、グラフ等を読み取ったりする練習も適宜行っていく。さらに、N1レベルの語彙の拡充、文法力の修得も目指す。</p>	
一般教育科目	語学群	日本語レポート 2 a	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、「日本語レポート 1 ab」を取得済み、またはそれと同等のレベルがあるとみなせる学生が、日本語の文章を書く場合の基礎的な知識(規則)を学んだ(「1 ab」を修得した学生は復習した)上で、その規則に則って文章、段落へと範囲を広げていくことを目指す。読み手に伝わる文章を書くためには、表現力が必要となるが、それは文法力や語彙の選択能力、文章の構成力からなるものである。これらの表現力をつけていくことを目指す。</p>	
一般教育科目	語学群	日本語レポート 2 b	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、「日本語レポート 2 a」を学んだ学生が、読み手に伝わる文章を書けるようにすることを目指す。そのためには、文法力や語彙の選択能力、文章の構成力を身につけ、最終的には、一つのテーマについて、複数の段落からなるまとまりのある文章を書けるようにする。また、引用の方法やグラフの書き方、参考文献なども書けるようにする。さらに、わかりやすい文章かどうか、正しく書けているかどうかについて、自分自身でもある程度チェックする力も養いたい。</p>	
一般教育科目	語学群	日本語レポート 3 a	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、「日本語レポート 2 ab」を修得済み、またはそれと同等のレベルがあるとみなせる学生が、大学の講義で求められるレポートを書けるようにする。まずは、これまでに学んだレポートの書き方を復習しつつ、全員が一つのテーマで、大学で求められるレベルのレポートの書き方を学ぶ。同じテーマで書いていくので、他の学生の書いたレポートからも相互に学びあいながら、よりよいレポートを書き上げていく。</p>	
一般教育科目	語学群	日本語レポート 3 b	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、「日本語レポート 3 a」を学んだ学生が、大学の講義で求められるレポートを書けるようにする。後期は、前期の経験をもとに、自分でテーマを決めて自分の力でレポートを書けるようにする。教師は指南役に徹するため、後期は自主的な取り組みが不可欠となり、かなりの時間の自習が必要となる。1年の学びを通して自力でレポートを書ける程度の力をつけ、「卒業論文」「卒業研究」の基本的な骨組みが理解できるようになることを目指す。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部経営学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
一般教育科目	語学群	日本語演習a	本科目は、講義科目である。 本科目では、日本語能力試験N1を取得している学生が、日本語を用いたプロジェクトワークを行うための準備をする。前期はプロジェクトワークをするために必要となる、資料の読解やインタビュー、アンケート調査、分析、まとめ、発表、ディスカッションなどの練習を行う。また、後期に行うプロジェクトワークのテーマや視点などの例を示していく。様々な活動を日本語で行うことを通して、日本語の運用能力を総合的に向上させることを目指す。	
一般教育科目	語学群	日本語演習b	本科目は、講義科目である。 本科目では、「日本語演習a」を学んだ学生が、日本語を用いてプロジェクトワークを行う。後期はテーマを決めて、文献調査や実地調査を行い、何らかの形にまとめて発表をする。どのようなテーマでどのような成果物にするかという点から、その年の履修者と話し合った上で決定するが、できる限り実際の課題解決につながるようなテーマを設定する。様々な活動を日本語で行うことを通して、日本語の運用能力を総合的に向上させつつ、日本語で目標を遂行することを目指す。	
一般教育科目	語学群	日本語聴解発話 1 a	本科目は、講義科目である。 本科目は、日本語能力試験N2レベルの学生が聴解力、発話力、語彙力、文法力を中級後半から上級にかけて向上させることを目的とする。在日期間が1年以上経過している学生であっても、聴解力の伸びない学生が目立つ。その原因は「耳慣れ」の不足にあると考えるため、発音も含め日本語の音体系を身体の中に作ることから始める。また、聴き取れないのは、語彙力不足も大きな要因となっているため、習得語彙数の増加にも努める。	
一般教育科目	語学群	日本語聴解発話 1 b	本科目は講義科目である。 本科目は、「日本語聴解発話 1 a」を学んだ学生が、聴解力、発話力、語彙力、文法力を中級後半から上級にかけて向上させることを目的とする。聴解力が不足している受講生が多い場合は、前期に引き続き、発音練習を続け、日本語の音体系を体の中に作っていく。また、まとまった内容のものを聞いて理解した上で、自分の意見を表明する発話能力も伸ばすことを目指す。さらに、修得語彙数の増加も継続して努める。	
一般教育科目	語学群	日本語聴解発話 2 a	本科目は、講義科目である。 本科目では、「日本語聴解発話 1 ab」を修得済み、またはそれと同等のレベルがあるとみなせる学生が、N1取得を一つの目標と定め、聴解力、文法力、語彙力、発話力を養うことを目的とする。N1レベルの聴解問題を「正確に」聴き取り、質問に対して根拠や状況を説明した上で、解答を導く、という練習を行う。内容がおおよそ聴き取れればよしとするものではないので、文法力や語彙力が問われる。語彙力をつけるために、漢字や語彙の小テスト、カタカナのディクテーションなどを毎回実施する。授業外でも「注意深く聴く」時間を設けて、自身で聴解力を伸ばす自学自修が必要となる。	
一般教育科目	語学群	日本語聴解発話 2 b	本科目は、講義科目である。 「日本語聴解発話 2 a」を学んだ学生が、N1レベルの聴解力、文法力、語彙力、発話力を養うことを目的とする。N1レベルの聴解問題を用いて、話の構成を正確に聴き取り、それを説明する力をつけていく。漢字や語彙の小テスト、カタカナのディクテーションは前期に引き続き実施する。受検前の模擬試験では、答えを導き出した過程を重視する。授業外でも「注意深く聴く」時間を設けて、自身で聴解力を伸ばす自学自修が必要となる。発話においては、丁寧な言葉で話す習慣を身に付けることを目指す。	
一般教育科目	語学群	日本語読解 1 a	本科目は、講義科目である。 本科目は、日本語能力試験N2レベルの学生が読解力、語彙力、文法力を向上させることを目的とする。授業で扱う語彙や文法は、N2レベルから始める。読解もまずはN2レベルの文章を用いて、文の構造、段落内の構造、文章全体の構成等を理解する練習を積み、確実に読解力を身につけることを目指す。また、1つのものを読み終えたときに、意見交換を行うので、意見交換の方法を身につけ、他人の意見を聞いて自分の考えの幅を広げることも目指す。	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部経営学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
一般教育科目	語学群	日本語読解 1b	本科目は、講義科目である。 本科目は、「日本語読解 1a」を学んだ学生が引き続き読解力・語彙力、文法力を向上させることを目的とする。そのための構造理解も続ける。扱う文章はN2レベルから少しずつN1レベルへと引き上げていく。また、精読とは別に、文章全体からどのような情報やメッセージを得たか等の概略をつかむ読みや、レベルに合わせた楽しみのための読みなども適宜行う。語彙や文法はN2の力を確実に付け、N1レベルのものも取り入れていくようにする。	
一般教育科目	語学群	日本語読解 2a	本科目は講義科目である。 「日本語読解 1ab」を修得済み、またはそれと同等のレベルがあるとみなせる学生が、N1取得を一つの目標と定め、読解力と語彙力、文法力を身に付けるための科目である。ある程度の長さのある、論理的な文章を全体の構成を理解しながら的確に読みとる力を培う。また、短い文章を読んで討論をしたり、グラフ等を読み取ったりする練習も適宜行っていく。さらに、N1レベルの語彙の拡充、文法力の修得も目指す。	
一般教育科目	語学群	日本語読解 2b	本科目は、講義科目である。 「日本語読解 2a」を学んだ学生が、N1レベルの読解力、文法力、語彙力を養うことを目的とする。N1レベルの文章を用いて、文章全体の構成等を理解し、確実に読解力を身に付けることを目指す。語彙力、文法力もさらに増強していく。N1受検前は模擬試験も実施する。また、N1受検後は、情報を得るための読解だけでなく、楽しむための読解など、可能な限り実社会の題材を使うことにより、読解の幅を広げ、日本語による読解の習慣を付けていく。	
一般教育科目	言語圏研究群	コリア語圏研究a	本科目は、講義科目である。 本科目では、韓国の歴史と文化の理解を図ると同時に、近年注目されている韓流について講義する。特に、韓国の概要、歴史、社会、文化を中心に日本のそれと比較しながら、韓国の「現在」を学ぶ。さらに、韓国の若者の文化や事情について学ぶことで、日本の現在の動向について理解を深める。具体的には、韓国の生活様式（食文化・住居文化・服飾文化）の観点から講義し、さらに、韓流考察としてドラマ、映画、K-POPを通して、現代韓国の世界的な戦略を学ぶ。それらを通して、文化的な交流や半島の歴史を概観し、将来的な日韓関係について理解を深める。	
一般教育科目	言語圏研究群	コリア語圏研究b	本科目は、講義科目である。 本科目では、「世界のコリアン」に注目しながら、「在日コリアン」に注目し韓国社会について講義する。併せて、断片でしか知らない「北朝鮮」の素顔について紹介すると共に韓国人による北朝鮮観について講義する。これらをふまえて、世界で活躍するコリアンの現状や課題などについても学ぶ。具体的に本授業では、在日コリアン、在外コリアン、韓国の政治・経済・若者事情について学ぶ。さらに、韓流の映画やドラマの社会的社会的背景をふまえた鑑賞方法や、作品を通して見えてくる韓国社会の縮図について講義する。加えて、日本では認知度の低い韓国の宗教や伝統芸能についても講義する。	
一般教育科目	言語圏研究群	スペイン語圏研究a	本科目は、講義科目である。 本科目では、スペイン語圏研究としてスペイン本国について講義する。スペインは、公用語であるスペイン語のほか、バスク語・カタルーニャ語・ガリシア語等の複数の言葉が話され、宗教もキリスト教に加え、ユダヤ教・イスラム教、それに連動するそれぞれの信仰を基盤とした文化形成と共に、ギリシャ・ローマ・カルタゴに代表される古代都市文化が形成された国である。多様な地域や時代の文化が流入することで、スペインは、独特の文化が形成されていることを学ぶ。具体的には、政治・経済・民族・宗教・文化（世界遺産・建築・文学）等の観点からスペインを学び、理解を深める。	
一般教育科目	言語圏研究群	スペイン語圏研究b	本科目は、講義科目である。 本科目では、かつてスペインの植民地であった中南米について講義する。カステイリャスペイン語から現在の中南米式スペイン語になった経緯を学ぶことで、スペイン語圏である中南米諸国についての理解を深めるにあたっては、政治・経済・移民・宗教・スポーツ・音楽・芸術等の観点から講義する。併せて、中南米に形成された文化と世界遺産を取り上げることで、ラテンアメリカについての文化的な理解を深め、グローバル化の中で中南米世界の人々と、どのような関係を創り上げる必要があるのかを学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部経営学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
一般教育科目	言語圏研究群	ドイツ語圏研究a	本科目は、講義科目である。 本科目では、ドイツ語圏の文化を、おもに歴史的な観点から概観し、その源流を知ることで現代ドイツ文化への理解を深める。とりわけ、日本では「ドイツ」というと、ナチスや環境問題、サッカーなど、特定のテーマでのみ取り上げられることが多く、その文化に対する偏見を助長していると思われるため、この授業では、メディアにあまり取り上げられないテーマにも力点を置く。また、各授業の軸としては歴史的な事柄を扱うが、適宜、受講生が旅行や留学を通じて実際に触れることのできる「現代ドイツ」の姿も紹介する。	
一般教育科目	言語圏研究群	ドイツ語圏研究b	本科目は、講義科目である。 本科目では、受講生にとって身近なマンガ文化を通じて、ドイツ語圏における大衆文化やドイツ人のメンタリティを理解する。日本とは対照的に、ドイツ語圏においては独自のコミック文化が発展しておらず、国外からの輸入コミックによって市場が成り立ってきた。そして、1990年代末以降におきた「マンガ・ブーム」によって、日本のマンガ文化がドイツ語圏に定着した。この授業では、日本の一文化がドイツ語圏に根付いたこの一例を考察することで、ドイツ語圏における文化形成の過程や日独の文化の相違を明らかにすることを目標とする。	
一般教育科目	言語圏研究群	フランス語圏研究a	本科目は、講義科目である。 本科目では、フランス本国をとりあげ、起伏に富む風土と多様な地域性、複雑な民族的起源から解き明かし、多面的な魅力をもつフランスについて歴史、政治、宗教、日常生活、ワインに代表される食文化や芸術文化、モードやファッション産業の隆盛、フランスでの日本のマンガ・アニメブームに代表されるクールジャパンや日仏の文化交流にいたるまで、フランスの社会と文化の諸相について概説する。その学びの中で、グローバル化によって変動する今日のフランス社会における移民・難民・外国人問題・少子化対策や家族観などについても理解を深める。	
一般教育科目	言語圏研究群	フランス語圏研究b	本科目は、講義科目である。 本科目では、フランス本国以外の世界のフランス語圏の国と地域について、近年の世界状況にも注目しながら、各々の社会や文化の特徴と諸問題について解説し理解を深める。まずカナダの仏語圏について、多民族の共存と多文化主義、先住民問題などについて詳しく学ぶ。特に、フランス系住民を擁し、独自の社会と文化を開花させたケベック州については詳しく解説する。その他、カナダのアカディアと呼ばれていた地域やルイジアナなど北米のフランス語圏、欧州における仏語圏であるスイスやベルギーの国の成り立ちと社会の特徴について概説する。さらにカリブ海地域やアフリカの仏語圏についての理解と、「クレオール」についての文化研究の導入も行う。	
一般教育科目	言語圏研究群	英語圏研究a	本科目は、講義科目である。 本科目では、講義を傾聴してグループ・ディスカッションを行い意見を提出してもらう。 自分自身の中の文化とは何かをイントロダクションとし、英語圏における様々なジャンルの文化を学んで、知識と視野を広げ、思考力を深める。具体的には、英語圏における音楽・芸術・宗教・食・文学・歴史・哲学・スポーツ・演劇・テレビ等をテーマに講義を行った上で、グループ・ディスカッションをふまえ、最後に各グループの意見を提出させることで、自主性と発信力を強化する。また、任意参加で口頭発表もしくは文書でのプレゼンテーションを行ってもらう。	
一般教育科目	言語圏研究群	英語圏研究b	本科目は、講義科目である。 本科目では、講義を傾聴してグループ・ディスカッションを行い意見を提出してもらう。 英語圏における様々なジャンルの文化を学ぶことで、知識と視野を広げ、思考力を深める。具体的には、前半は、音楽・文学・映画・ミュージカル・ダンス・旅行について学ぶ。後半は、アメリカ文化・イギリス文化・カナダ文化・オーストラリア文化・マンガとアニメ・YouTubeについて学ぶ。それぞれジャンルごとの文化を学び、テーマについてのディスカッションを重ね、意見を言語化させる。また、任意参加で口頭発表もしくは文書でのプレゼンテーションを行うことで、自主性と発信力を強化する。	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部経営学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
一般教育科目	言語圏研究群	現代日本事情a	<p>本科目は、講義科目兼実習科目（リレー形式）である。本科目では、留学生が単に日本の社会や文化等の理解を得るためだけでなく、日本滞在中の生活を充実したものにするために体験実習を取り入れている。本科目を一つの手がかりに専門的な学びや日本社会につながることを期待する。具体的には、以下の内容である。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(44 中山恵利子/6回) はじめに(ガイダンス)・春の行事/食文化/就職/夏の行事・おわりに</p> <p>(67 渡辺 和之/2回) 農業①座学/農業②田植え【フィールド体験】</p> <p>(56 村上 雅俊/1回) データから日本を見る</p> <p>(50 堀内 史郎/1回) 野生動物【フィールド体験】</p> <p>(61 大谷新太郎/1回) 冠婚葬祭</p> <p>(59 池田 雄二/1回) 日本国憲法</p> <p>(36 来村多加史/1回) 神社-お参り【フィールド体験】</p> <p>(40 清水苗穂子/1回) 世界遺産</p> <p>(33 和泉 大樹/1回) 博物館</p>	オムニバス方式
一般教育科目	言語圏研究群	現代日本事情b	<p>本科目は、講義科目（リレー）である。本科目では、留学生が日本の社会や文化等について総合的な理解を得るための講義を行う。本科目を一つの手がかりとして、専門的な学びへの視点を考察する。具体的には、以下の内容を講義する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(44 中山恵利子/6回) はじめに ガイダンス・秋の行事/着物【フィールド体験】/武道【フィールド体験】/おわりに</p> <p>(67 渡辺 和之/1回) 農業 稲刈り【フィールド体験】/農業 収穫祭【フィールド体験】</p> <p>(36 来村多加史/1回) お寺【フィールド体験】</p> <p>(40 清水苗穂子/1回) ホスピタリティ</p> <p>(14 山内 孝幸/1回) テーマパーク</p> <p>(55 三好 哲也/1回) AI (人工知能)</p> <p>(46 西 洋/1回) 経済</p> <p>(23 新谷 雅美/1回) アニメ</p> <p>(64 細川 裕史/1回) 将棋【フィールド体験】</p> <p>(42 高橋 慎二/1回) ものづくり【フィールド体験】</p>	オムニバス方式
一般教育科目	言語圏研究群	中国語圏研究a	<p>本科目は、講義科目である。本科目では、アジア世界および日本との関係を理解するために、それぞれの歴史や時事問題、文化など多方面から考察する。具体的には、歴史的視点から美的感覚や服飾文化、生活様式等の変遷をもとに、現代にまで継承される固定観念と社会背景を学ぶ。併せて中国での大きな変革となった文化大革命や天安門事件における検証や、現代中国が抱える香港・台湾問題の本質を理解する。さらに、「文化の架け橋」としての遣唐使、アニメや漫画等についてそれらがどのように中国と日本をつないだのかを講義する。</p>	
一般教育科目	言語圏研究群	中国語圏研究b	<p>本科目は、講義科目である。本科目では、中国語圏を中心として、多民族・多文化社会における共生・共創のために、様々な視点をもとに、日本との対比のみならず、世界全体から問題を俯瞰する視野を養う。それによって、「自分だけの意見」を探る。具体的には、歴史的視点から食文化、音楽、伝統楽器、漢字について学ぶと共に、チャイナタウン、華僑・華人社会、現代中国の民族問題として、チベット・新疆ウイグル自治区、内モンゴル自治区と国際社会との関係や、中国・日本・世界全体の少数民族・人口問題への理解を深める。</p>	
一般教育科目	人間・文化研究群	外国文学a	<p>本科目は、講義科目である。本科目では、ウィリアム・シェイクスピアの2つの劇作品『ロミオとジュリエット』と『夏の夜の夢』を中心に講義する。併せて、複数の映画や舞台などの映像を参考にしながら、シェイクスピア作品を詳しく読み解き、彼の詩の魅力、劇作術、時代背景を学ぶ。またシェイクスピアの作品が、世界中の映画や舞台で繰り返し演じ続けられていることをふまえ、それらを通して現代という時代をも考察する。特に、受講生はストーリーを追うだけではなく、行間を丁寧に読むことで、そこに潜む文化的背景や豊かな言葉の表現力を理解する読解力を修得する。授業を通して、シェイクスピアの魅力、イギリス文化、さらには我々自身の文化への理解を深める。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部経営学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
一般教育科目	人間・文化研究群	外国文学b	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、1564年から1616年まで生きたウィリアム・シェイクスピアが捉えた時代や文化について講義する。講義では、理解しづらくなったシェイクスピア作品の文化的背景の一端を理解することと、シェイクスピアを通して自分自身の文化的背景への再認識を行う。シェイクスピアの最大の魅力である「ことば」について、その魅力の一端を理解できるような原文も参照しながら講義する。具体的には、『ヴェニス商人』、『マクベス』及びクリストファー・マーロー著『タンバレイン大王』、『マルタ島のユダヤ人』等を通して、マーローとシェイクスピアのことばについて探求する。併せて、時の歴史的背景や文化史を学び、日本文化との関わりにも目を向け、シェイクスピア時代の劇場(グローブ座)と、日本の伝統的劇場である能舞台とを比較し、さらに日本におけるシェイクスピア劇の演出について学ぶ。</p>	
一般教育科目	人間・文化研究群	教育学a	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、教育学についての論理と思想を、「教育とは何か」「教育の理論と法則」「教育の歴史と思想」の3つの視点から教育学の論理と思想に関するこれまでの研究成果を講義する。具体的には、教育とEducation、教師という職業、教育と再生産、異文化理解教育、教育思想、教育と国家等を講義する。教育学の成果についての概観をふまえ、受講生が個々に3つの視点にもとづいた教育学の論理と思想に関わるテーマを設定し、教育学に対する考察と探究を深める。</p>	
一般教育科目	人間・文化研究群	教育学b	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、教育学についての方法と現代的課題を、「人権としての教育」「教育方法」「現代的教育問題」の3つの視点から教育学の方法と現代的課題に関するこれまでの研究成果を講義する。具体的には、人権と教育、教育とジェンダー、道徳教育、多文化教育、いじめ、教育の「機会均等」と「結果の平等」等を講義する。教育学の成果についての概観をふまえ、受講生が個々に3つの視点にもとづいた教育学の方法と現代的課題に関わるテーマを設定し、教育学に対する考察と探究を深める。</p>	
一般教育科目	人間・文化研究群	心理学a	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、以下の3点をテーマとして講義を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① データをもとに、自分自身の「心」に迫る。 ② 「書く」ことにより、自分自身の「心」の状態を表現する。 ③ 本授業で扱った用語およびその意味を理解する。 <p>講義では、(1)自分自身の「心」に迫るために必要なことごととしての代表値(統計)に関する内容(代表値:平均値・中央値・最頻値・分散・標準偏差等)と、(2)自分自身の「心」に関する内容の理解および内容に関連した課題演習(パーソナリティ・自身の対人関係のあり方)について学び、自身の「心」に係わる事項について理解する。</p>	
一般教育科目	人間・文化研究群	心理学b	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、以下の3点をテーマとして講義を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① データをもとに、青年期に位置する自分自身の「心」に迫る。 ② 「書く」ことにより、青年期に位置する自分自身の「心」の状態を表現する。 ③ 本授業で扱った用語およびその意味を理解する。 <p>講義では、(1)青年期に位置する自分自身を理解するための手がかり(代表値:平均値・中央値・最頻値・分散・標準偏差等)及び生涯発達の中における「青年期」の理解と、(2)生涯発達における「青年期」に位置する自分自身について理解(心の健康に関する内容を含む)し、アイデンティティ(自我同一性)や自己効力感、ストレス等について学び、青年期にある自分自身の「心」に係わる事項について理解する。</p>	
一般教育科目	人間・文化研究群	地理学a	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、経済地理学の観点から講義を行う。特に、以下の3点から講義内容を理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 実習を通じて統計資料を読み取る能力を養う。 ② 最新の統計データから世界・日本の経済状況を把握する。 ③ 基本的な地理学用語を学ぶ。 <p>各種の統計データを読み取ることにより、現在の世界・日本の経済状況を把握する。具体的には、以下のトピックを扱って講義を行う。人口、スポーツの地理学(プロ野球とJリーグ・WBC・FIFAワールドカップ・オリンピック)、世界の農牧業地域、日本の農牧業と林業、世界と日本の水産業、世界のエネルギー・鉱産資源、工業立地と世界の工業、日本の工業地域、日本の第三次産業、国際機構と地域の結びつき、貿易(各国の結びつき・日本と他国の結びつき)を講義する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部経営学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
一般教育科目	人間・文化研究群	地理学b	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、経済地理学に歴史地理学の観点を付け加えた講義を行う。特に、以下の3点から講義内容を理解する。</p> <p>①実習を通じて統計資料を読み取る能力を養う。</p> <p>②最新の統計データから世界・日本の経済状況を把握する。</p> <p>③基本的な地理学用語を学ぶ。</p> <p>本講義では、日本をテキストとして、地理学的考察を通して具体的に講義は、以下のトピックを扱って行う。地形図とは、地形図の読み方、自然環境を読む、古代の都(奈良)と門前町(伊勢)、港町(堺)と寺内町(富田林)、城下町(大和郡山)と宿場町(草津)、近世大坂の土地開発、田園都市(甲子園)、ニュータウン(千里)、観光・リゾート開発、地形図にみる環境問題について講義する。</p>	
一般教育科目	人間・文化研究群	哲学a	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、哲学の根本問題の一つである「自分・自己」について、哲学者や作家、詩人の考え方を参考にしながら、多面的に講義する。それによって、受講者が「哲学とはどのような学問なのか」「哲学を学ぶことによって何が得られるのか」「哲学を学ぶ意味がどこにあるのか」といったテーマを理解し、哲学を学ぶ楽しさや魅力に気づき、哲学が身近なものであることを学ぶ。本講義を通して自分について考え分析し、自分の望み等について哲学的に自己省察するための学びを修得することで、大学生として何をすべきか、どのように生きるべきかということ「自己の問題」と関連させながら自己理解を深める。</p>	
一般教育科目	人間・文化研究群	哲学b	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、受講者が、「哲学とはどのような学問なのか」「哲学を学ぶ意味とは何か」といった問題について理解を深め、哲学に興味をもって考えられるようになるための講義を行う。具体的には、人間が、生きることにおいて、生きつつ同時に生きることについて考えて生き、生の意味を問う意識的、言語的存在であるという点において、他の動物とは異なる特色を持つことを理解する。これゆえに、人間の生はしばしば容易には理解しがたい側面や、不可思議な姿を示すことになる。人間が生きていること、考えることが一体どのような意味を持つものかを原理的に考え直すことを学ぶ。特に、自己と他者、生と死といった諸問題を哲学の観点から考察することを通じて、人間が生きていること、考えることの意味を講義する。</p>	
一般教育科目	人間・文化研究群	日本文学a	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、日本文学の作品を読む楽しさを知るための講義を行う。「読む」とは作者が紡いだ「ことば」の意味を読者が理解できるようになることである。読むことで作品における無数の情報を統合し、理解を深める読書法を修得する。講義では、近代文学における子供や学生を主人公としたり、学校を舞台とした短編小説を扱う。書かれた時代の社会や文化を踏まえ、しっかりと問題点を整理する読者となることで、作者すら思いも寄らなかった魅力を引き出せるスキルを修得する。</p>	
一般教育科目	人間・文化研究群	日本文学b	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、近代文学の作品を通して、時代背景と絡ませながら、分析的に読み、その作家や作品が時代に何を訴えかけていたかについてを中心に講義する。特に日本の近代文学史の変容と文化的な背景を把握する。その上で、作品における問題点の所在を確認し、同時代状況との照合を試みる。様々な社会的文脈から解釈の可能性を探り、読んだ作品から、今日に連なる近代という時代の社会や文化を理解する。</p>	
一般教育科目	人間・文化研究群	文化人類学a	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、フィールドワークで自己を開くことをテーマに、異文化への対応のあり方としてのフィールドワークの多様性と時代的な変遷を解説し、そうしたフィールドワークの調査、記述方法を、具体例をあげながら紹介する。それと併行して、そうした調査、記述方法を用いて授業の参加者自身が課題をこなしつつ「自己(自分の身の回り)をフィールドワークする」機会を設ける。身近な生活文化を見直し、アクティブ・ラーニング的な課題のアウトプットを通して、受講者の自己を開き、共生のための実践力を涵養する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部経営学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
一般教育科目	人間・文化研究群	文化人類学b	本科目は、講義科目である。 本科目では、人類の根源を考えることをテーマとして、人類にとっての文化や意味の世界のあり方を理解し、意味と結びつく自己のあり方について講義する。文化人類学が、異文化（他者）の「訳のわからなさ」の理解と、自文化（自己）のあり方を問い直してきた学問であることをふまえ、授業では、今の私たちから見て訳のわからない伝統文化や異文化の慣習を取り上げ、それらの社会における意味や自己のあり方を考え、私たちも異なるかたちで似たようなことをしていないかについての理解を深める。	
一般教育科目	人間・文化研究群	倫理学a	本科目は、講義科目である。 本科目では、「人間の生き方」や「社会のあり方」について、幸福・義務・徳・道徳といったといった倫理学の観点から、キーワードごとに講義する。具体的には、倫理学の歴史の概観（前近代・近代以降）、幸福論、義務、徳、道徳判断、道徳等の観点から、これらの話題に対して、様々な哲学者・倫理学者の考えをもとに学ぶ。さらに彼らがどのような時代に、どのように考えたかを正しく把握し、自分なりに考えをまとめるスキルを修得する。なお、本講義を通して、多文化・異文化に関する知識及び、人類の文化、社会、自然に関する知識を関連付けて理解する。	
一般教育科目	人間・文化研究群	倫理学b	本科目は、講義科目である。 本科目では、「社会のあり方」について、市民社会、医療、環境、ビジネスなどの視点から講義する。ここでは、いわゆる生命倫理・環境倫理・ビジネス倫理といわれる分野を扱う。そして、それを「人間の尊厳」「自由」「動物の尊厳」等の倫理学の概念によって把握する。具体的には、応用倫理学の諸問題、自己と他者、個人と社会、正義・自由・平等、医療現場での生命倫理、環境倫理について講義を行う。個々のテーマにおいて、何が問題となっていて、倫理学はそれをどのように考えるのかを正しく知り、受講生は自分の考えをまとめられる思考のスキルを修得する。なお、本講義を通して、多文化・異文化に関する知識及び、人類の文化、社会、自然に関する知識を関連付けて理解する。	
一般教育科目	人間・文化研究群	論理学a	本科目は、講義科目である。 本科目では、人間の思考の原理、思考の規則をテーマとする。私たちは物事を考えるときに、ある一定の規則にしたがっている。規則や、それに従った思考の方法について学ぶのが論理学である。論理的な思考を身につけて、正しい思考と誤った思考を見分けることができるようになることで、本学ディプロマポリシーの「論理的思考力」を修得する。本講義では、伝統的論理学の基礎を扱う。具体的には、概念、定義、命題の区分、そして、推理のさまざまな形である。これらを学ぶことによって論理的思考を身につける。論理学では、当たり前のようになっている言葉や文章について、それぞれの形の違いを厳密にとらえるスキルを修得する。	
一般教育科目	人間・文化研究群	論理学b	本科目は、講義科目である。 本科目では、論理的思考力の育成をテーマとする。特に、公務員試験やSPIにも出題される論理学（判断推理の論理に関する部分）の問題を導入として、論理的思考について講義する。命題・集合など論理学についての問題を中心に扱うと共に、対応関係・順序関係・ウソつき問題・パズル問題を実践的に解いてみることで、論理的な思考力を身に付ける。なお、論理学を学ぶことで、本学ディプロマポリシーの「論理的思考力」を修得する。	
一般教育科目	歴史・社会研究群	経済学a	本科目は、講義科目である。 本科目では、経済学の基本的な考え方について、過去の経済学者たちの学説の検討を通じて学び、現代の経済において最も基本的な経済的制度である分業と市場について講義する。生産と消費を分離することで豊かさを高めている現代経済の基礎的部分を理解し、経済の成長メカニズム、経済諸主体の間での所得の分配ルールを把握する。さらには、一国の豊かさを決める要因や市場と国家との関係の問題等について修得する。	
一般教育科目	歴史・社会研究群	経済学b	本科目は、講義科目である。 本科目では、現代資本主義における制度的特徴、およびそれが生まれてきた制度変化のプロセスについて講義する。具体的には、産業構造の変化やそれにもなう経営形態の変化、そしてさらには市場の形態の変化や、利潤の源泉の変化などがその事例となる。そのような変化の中で、市場のメカニズムのあり方や会社と経営者、株主、労働者との関係なども大きく変化する。また、人々の自由な経済活動に政府が介入するべきか否か、といった問題も議論されるようになる。受講者は、過去の経済システムの変遷とそれの分析を試みた経済学の発展過程との関連を理解し、我々が生きている現代の資本主義経済がどのようなシステムであるか把握する。	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部経営学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
一般教育科目	歴史・社会研究群	現代史a	本授業は、講義科目である。 本科目では、天皇・議会政治・憲法・政党・軍部をキーワードとして、現代に直接つながる近代日本の歴史、特に、明治から昭和戦前の時代を中心に講義する。具体的には、開国から太平洋戦争の敗戦に至るまでの日本の近代史がたどった正（近代国家の早期建設と普通選挙による一定のデモクラシーの実現）と負（対外侵略や排外主義の横行、女性の政治からの排除）の両側面を示し、なぜそうなったのか写真や映像資料を交えた講義を行う。受講生は、授業で提示する情報をふまえて、自らが個々の事象についての判断ができる教養を修得する。	
一般教育科目	歴史・社会研究群	現代史b	本科目は、講義科目である。 本科目では、憲法・冷戦体制・高度経済成長・55年体制・バブル経済・グローバリゼーションをキーワードとして、戦後を中心に太平洋戦争の敗戦から現在に至るまでの日本の現代史がたどった、正（日本国憲法／日米安保体制による平和の実現、敗戦からの素早い立ち直り、高度成長に伴う国民生活の改善と国際的地位の向上）と、負（戦後処理問題の残存、急激な発展に伴う環境破壊、少子高齢化とここ30年間の経済及び社会の停滞）の両側面について講義する。講義を通して、敗戦直後から現代に至るまでの日本社会を中心とする歴史の概要を正確に理解し、その知識を用いて説明できる教養を修得する。	
一般教育科目	歴史・社会研究群	社会学a	本科目は、講義科目である。 本科目では、「社会的行為と集団」をテーマとする。社会学とは何か、社会学のはじまりと社会学的思考、社会科学としての社会学等の理解をふまえて、社会学へのアプローチを行う。具体的には、社会学の各領域と関連諸科目、社会的動物としての人間・社会化、人間と社会的行為、T. パーソンズとM. ヴェーバーの社会的行為、社会的行為と規範・文化、社会集団の要件、二人集団と三人集団、ゲマインシャフトとゼーレンシャフト、社会集団と倫理、社会のゆらぎと社会変動、社会変動の原因と結果について講義する。社会学の基本的概念を学ぶことで、社会化・社会的行為・規範・集団・社会変動などの基本的概念について修得する。	
一般教育科目	歴史・社会研究群	社会学b	本科目は、講義科目である。 本科目では、社会的制度や構造（家族・都市・職業・階層・宗教・政治・マス・コミ・福祉等）について講義する。受講生は、家族と結婚（家族とは・家族の機能・配偶者選択と家族の構造）、職業の概念と職業選択、都市と都市病理（都市の特性・都市の内部構造と都市計画）、社会階層と社会移動（階層・学歴主義・教育格差・社会的格差）、政治権力と民主主義（権威主義と民衆の行動・状況の圧力・正当性の概念・既成事実化）、宗教と社会（日本の宗教構造・若者の宗教行動と新新宗教）、マス・コミと擬似環境、高齢社会と福祉の観点から社会学という研究と学びへの理解を深める。	
一般教育科目	歴史・社会研究群	人権問題論a	本科目は、講義科目である。 本科目では、各自が当事者である<性>の問題を入口にして、相互に異なる生き方を承認しあえる関係を取り結ぶ方法と課題について、女性、男性、間性をはじめとする性的少数者の人権と共生の在り方を探りながら、多面的に講義する。社会構造および人間関係の急速な変化によって、人々の個人化、価値観の多様化が指摘される。そうした中で誰もが当事者である（独自の関わり方を日々生きている）性の問題を、他者の生き方・価値観の尊重＝共生という視点から問題とする「性と人権」について学ぶと共に、理解を深める。	
一般教育科目	歴史・社会研究群	人権問題論b	本科目は、講義科目である。 本科目では、部落問題を語るときに屢々用いられてきた「いわれなき差別」という表現で暗示されている事柄と、そこから開示展開されるべき問題、人権についての認識を豊かにすること目的として講義する。具体的には、生物学者である柴谷篤弘氏の反差別論-人権論の一端を紹介し、それとの関連で障害者問題と部落問題とを取り上げる。さらに、日本文化論としての「生産-労働の歴史」の視点をもふまえ、キョメーケガレ幻想への理解を深め、サベツにかかわる「恣意性」「根拠」「利益」などの問題や、格差社会が進行する現代日本の問題を考え直す知識を修得する。	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部経営学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
一般教育科目	歴史・社会研究群	政治学a	本講義は、講義科目である。 本講義では、メディアやネットを通じて私たちが触れるさまざまな政治現象について講義する。具体的には、政治と権力（権力の諸類型）、国家（近代国民国家の生成と構造）、政治システム、立法府、集権と分権、選挙、マス・メディアと世論、政党と政党システム、多元主義とネオ・コーポラティズム等の観点から講義を行う。政治について知り、何かを考える能力を持つことは、将来社会人として生きていく上で多くのメリットがあるため、受講生は、常識的な政治についての知識を修得する。	
一般教育科目	歴史・社会研究群	政治学b	本科目は、講義科目である。 本科目では、環太平洋パートナーシップ協定（TPP）の締結を政治学的に様々な角度から見て、それを日本政府がなぜ締結したのかについて講義する。TPPを政府が選択した政治的理由があるはずである。ただ、TPPは経済政策である以上、その背後には経済的理由もある。またTPPは国際協定であり、日本政府だけでなく他国の政府との関係にもとづく国際的な理由もある。これらを考えるために、授業では政治文化や思想、政治制度、国際政治経済の観点から講義する。受講生は、具体的な政策を見ることで、ひとつの政策を政治学においてどのように考察するのか。具体的な政治の見方と考察方法を修得する。	
一般教育科目	歴史・社会研究群	西洋史a	本科目は、講義科目である。 本科目では、「世界遺産」にまつわる歴史を中心に、西洋文明の成り立ち、影響についての基礎的な知識について講義する。古代ギリシアやローマのほか、キリスト教に関連する歴史的建造物など、西洋文明を深く理解するために有益な世界遺産を扱うほか、エジプトや、アメリカ大陸先住民の遺跡なども関連するものとして取り上げる。講義で着目する西洋の歴史的な成り立ちを把握することによって、現代世界を理解するスキルと教養として歴史的知識を修得する。	
一般教育科目	歴史・社会研究群	西洋史b	本科目は、講義科目である。 本科目では、キリスト教と西洋の歴史・文化がいかに深く関わっているかを確認しながら、ハロウィンやクリスマスなどの祭典、聖人・聖女や悪魔・魔女などのイメージ表現、「ノアの洪水」といった伝承を取り上げ、その歴史的背景、現代への影響などをたどって、西洋文明の深層について講義する。特に着目するのが、キリスト教の祭典や思想の、背景と意味そして影響についての歴史である。受講生は、西洋において長年かけて培われ、社会に根を下ろしている様々な象徴表現や慣習について歴史的に学び、異文化についての表層的ではない教養を修得する。	
一般教育科目	歴史・社会研究群	東洋史a	本科目は、講義科目である。 本科目では、東アジア世界の歴史的展開について日本との関係を政治・社会・文化の諸方面から、現代の我々と関係の深い事象を取り上げ、それがどのように成立し展開したのかについて講義する。講義を通して受講生は、日本が古来、地理的に近い中国や朝鮮などを中心に交流が進められてきたことを理解する。こうした交流は、日本文化の形成にも密接に関係しており、日本の歴史を知るうえでも東アジア世界の国際関係の歴史を理解することで、前近代における東アジア史を比較史的に理解し、日本と中国との国際交流についての知見を広げる。	
一般教育科目	歴史・社会研究群	東洋史b	本科目は、講義科目である。 本科目では、東アジア世界の歴史的展開について、テーマ別に講義する。具体的には、食文化（中華料理の原型・食文化の変遷・日本の食文化）、服飾文化（服飾文化の変遷・日本の服飾文化）、東アジアの都市プラン、日本と中国の都市プラン、国際関係史（中国からみた日本・日中間の交流史・琉球からみた東アジア）、中国の妖怪、中国におけるスポーツの歴史等の観点から、東アジア全体を概観する講義を行う。受講生は、講義を通して前近代の東アジア世界の国際関係・文化形成がどのように展開していったのかを理解する。	
一般教育科目	歴史・社会研究群	日本国憲法	本科目は、講義科目である。 本科目では、憲法とはいかなる法であるか、その役割や内容について講義する。受講生は、憲法が国家権力の暴走によって国民の権利や自由が不当に侵害されることがないように、国家権力を統制することを目的とする法であり、その点から法律よりも上位の規範として扱われる法であることを理解する。憲法には、国民の権利や自由を国家に保障させる旨が明記されるとともに、その保障を実効化するための国家組織のあり方が規定されている。授業では憲法の役割について、基本的人権や統治機構の解説を通して詳解する。憲法を題材とした授業を通じて、社会の様々な問題に対応していくために必要な論理的思考力や平衡感覚を養成する。	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部経営学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
一般教育科目	歴史・社会研究群	日本史a	本授業は、講義科目である。 本科目では、日本史の流れを習熟させることに重点を置き、歴史人物や歴史の舞台をクローズアップして講義を行う。特に、土地に密着した歴史を解説し、今日の風景の中に過去の出来事を再現できるような体感型の学習を通して学びを深める。具体的には、前期は旧石器時代から奈良時代までの歴史を解説する。主な内容としては、旧石器時代の年代決定法、打製石器の製作技法、縄文時代の生活様式、縄文土器の変遷、縄文人と弥生人の形質比較、弥生時代の拠点集落、邪馬台国の所在地、ヤマト政権と古墳群、飛鳥時代の宮殿・陵墓・寺院、藤原京の設計、平城京遷都、奈良時代の政治史、奈良の大寺などを講義する。	
一般教育科目	歴史・社会研究群	日本史b	本科目は、講義科目である。 本科目では、受講生が講義内容に興味をいだき、自ら各地の遺跡や史跡を案内し、当地の歴史を語るほどの水準となる講義を行う。具体的には「日本史a」での成果をふまえ、さらに深い知識を習得する。特に、地域に密着した歴史を学んでいただく目的をもって 弥生時代から飛鳥時代までは奈良盆地中南部、奈良時代は奈良盆地北部、平安時代から織豊時代までは京都市・鎌倉市、江戸時代は東京都・大阪市、明治時代以降は神戸市の歴史地理学的な知識と合せながら講義する。	
一般教育科目	歴史・社会研究群	法学a	本科目は、講義科目である。 本科目では、社会構造を探究することを通して、「法とは何か」について講義する。法は正義を目指すものであると答えることができるかもしれないが、現実的には正義の尺度も様々であり、法の制定、実現過程においては法以外の諸力と無関係ではありえない。講義ではそのような現状について紹介する。受講生は、実際に法に触れることで、これを身近に感じ社会現象を法的に理解でき、または法的に理解しようとするときに本講義での知識を手掛かりに、必要な法情報に自力で到達できるスキルを修得する。	
一般教育科目	歴史・社会研究群	法学b	本科目は、講義科目である。 本科目では、「なぜ人を殺してはいけないのか」という命題を出発点として、法構造の理解を中心としつつも広く社会構造を探究し、法とは何かを追究して講義を行う。なぜ人を殺してはいけないのか？それは、「正義に反するから」と答えることができるかもしれない。では何が正義か？それは法であると答えることもできる。ではなぜ、法は人を殺してはいけないと定めているのか？こうなってくるかと法だけでは説明できない。このようになぜ人を殺してはいけないのか、という命題を探究するためには法だけでなく、法制度を支える様々な正義の尺度を知る必要がある。受講生は、法と社会構造を理解し、その知識と教養によって、必要な法情報に自力で到達できるスキルを修得する。	
一般教育科目	自然・環境研究群	化学a	本科目は、講義科目である。 本科目では、エネルギー問題・人口問題・食糧問題をテーマとして講義する。今世紀半ばの人口100億を支えるには、経済発展、資源・エネルギー・食料の大量消費、環境保全の3要因を遂行しなければならない。既に差し迫っているこれらの要因は互いに矛盾し、3者が併存出来る可能性は非常に低い。受講生は、このトリレンマ状況について学び、それに関わる「化学」の役割について理解を深めることで、良識あるアプローチを語れる知識を修得する。	
一般教育科目	自然・環境研究群	化学b	本科目は、講義科目である。 本科目では、地球温暖化・オゾン層破壊・環境ホルモン問題をテーマとして講義する。今、最も重大なこの3つの環境問題のいずれにも化学が大きく関わっている。その他、従来からの酸性雨、大気汚染、有害廃棄物問題が加わる。これらの環境汚染は、自然災害でなく、人間の社会・経済活動の結果でもある。これらの諸問題について学び、これらを化学の立場から理解を深めることで、どのようにして対処しようとしているのか、良識を持って評論できる知識を習得する。	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部経営学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
一般教育科目	自然・環境研究群	自然科学史a	本科目は、講義科目である。 本科目では、自然科学に関わる諸分野である科学（理科）や数学・技術・医学の発達経過や、火山学・地震学・津波等の防災に関わる今日的課題に繋がる事柄について講義する。さらに政治・社会や哲学・宗教と自然科学の関係について歴史的観点から解説する。本科目の位置付けとしては、物理・化学・生物・地学・数学の基本的な学びを概観する科目であり、自然科学全体の入門科目でもある。授業では、文明の発祥から産業革命期までを主として扱う。併せて、西洋中心主義を排し中国・インド・アラビア・日本等アジアにおける科学の発達史についても学ぶ。受講生は、ガリレオ・ニュートン・ダーウィン等の著名な科学者の業績やエピソードを学ぶことで、自然科学の発展の歴史への理解を深める。	
一般教育科目	自然・環境研究群	自然科学史b	本科目は、講義科目である。 本科目では、自然科学に関わる諸分野である科学（理科）や数学・技術・医学の発達経過や、原子力と原発問題等、今日的な課題につながる科学・技術の歴史について講義する。さらに政治・社会や哲学・宗教と自然科学の関係について歴史的観点から解説する。授業では、産業革命期以降の科学・技術を主として扱う。受講生は、アインシュタインを始めとする著名な科学者の業績やエピソードを学ぶことで、自然科学の発展の歴史への理解を深める。	
一般教育科目	自然・環境研究群	数学a	本科目は、講義科目である。 本科目では、数学の難解な問題を解くための技法を身につけることでなく、様々な分野で活用されている数学的概念を理解するために必要となる数の扱い方や考え方や様々な数の基本的な計算技法について講義する。授業では、数の種類とそれらの四則演算の方法について理解し、その応用として文字式を用いた計算方法について修得とする。具体的には、自然数から実数・複素数、倍数や約数、素因数分解などを扱う。その上で、文字式を扱う方法や式の展開や因数分解、方程式の計算を理解する。さらに、関数とグラフ、連立方程式や不等式の計算方法、命題と集合の概念を修得する。	
一般教育科目	自然・環境研究群	数学b	本科目は、講義科目である。 本科目では、微分積分と線形代数に関連する計算技法とよく利用される記号の扱い方をテーマとして、数の扱い方や基本的な計算法則の理解とそのために数学で使用する記号の理解について講義する。授業では、微分積分・線形代数の修得を目標とするが、三角形や図形の内容、座標上で図形を扱えるようになることを目標とする。さらに、数列、指数の計算、関数を中心にグラフの概形や増減について調べる方法を理解する。その上で微分法を修得する。その過程で、極限や級数の概念について学習し、積分法の解説をふまえて、微分積分の基本的な計算技法を学び、最終的に線形代数への理解を深め、IoT分野における積分計算の利用方法を修得する。	
一般教育科目	自然・環境研究群	生命科学a	本科目は、講義科目である。 本科目では、「愛の進化」をテーマとしてさまざまな動物の行動について講義する。私たちは、ヒトの男女の出会い、異性への関心や結婚を特別なことと考えがちである。しかし、動物や昆虫にも雌雄があり、出会い繁殖する。動物界では、一般的に雄が求愛し、雌が真剣に雄を選択している。私たちの永遠のテーマである男女の愛、すなわち恋愛、性的結びつき、結婚と離婚という問題について、これらの動物行動から考察する。受講生は地球上の様々な生物がもとは古代地球に発生した生物から派生したものであることを学ぶと共に、多種多様な生物の行動からヒトの存在や行動について理解を深める。	
一般教育科目	自然・環境研究群	生命科学b	本科目は、講義科目である。 本科目では、「遺伝の仕組み」をテーマとして、遺伝についての基本的な講義をする。地球上には推定1000万種の生物が存在するといわれる。これらの生物は、全てDNAと呼ばれる遺伝子を持つ。遺伝子は生命を作り上げる設計図であり、その情報にしたがって生物は作られている。このDNAの仕組みを考えると、生物の形は不変ということになるが、突然変異が起こり生命体は進化を遂げてきた。受講生は、授業を通して、遺伝のメカニズムへの理解を深めると共に、遺伝子治療や遺伝子検査といった技術革新についての知識を修得する。	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部経営学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
一般教育科目	自然・環境研究群	地球環境科学a	本科目は、講義科目である。 本科目では、3つのテーマ(①地球の特異性 ②気候変動と気候変化 ③環境問題と自然災害)から講義する。受講生は、地球環境の生い立ちとその特徴を地球誕生に遡及して学び、次に地球の大気にフォーカスして現在の地球の大気の特徴と気候変動のシステムについて理解する。最後に、地球表面に生じる自然災害の特性とリスク、防災減災の基礎について理解を深める。人びとの暮らしを支える水と大気と大地は、生きとし生けるものにとって絶対に必要な自然環境である。人類は、地球温暖化・環境汚染・自然災害・資源の枯渇等、地球環境に負荷をかけてきた。現代社会では、持続可能な社会を構築し地球の自然を未来に引き継ぐ努力が求められている。そのために必要な基礎知識と、解決すべき事柄について学ぶと共に理解を深める。	
一般教育科目	自然・環境研究群	地球環境科学b	本科目は、講義科目である。 本科目では、3つのテーマ(①固体地球ができるまで ②火成活動による地球ダイナミクス ③地震活動と地殻変動による地球ダイナミクス)から講義する。受講生は、固体地球の形成過程とその自然環境を理解し、地震災害・火山災害・津波災害および地形災害について理解を深める。講義では、まず固体地球の生い立ちとその特徴を学び、次に火成活動をフォーカスし、プレートの動きやプレート同士が集まる日本列島やハワイ島の様に太平洋の真ん中になぜ火山が形成されるのかを理解する。併せて、火山噴火について学ぶ。最後に、地震のメカニズムとその揺れの性質や地震を起こす活断層やプレート境界について理解を深める。生活の足元に存在する活断層と対策の必要性を学ぶことで防災と危機管理のスキルを修得する。	
一般教育科目	自然・環境研究群	統計学a	本科目は、講義科目である。 本科目では、日常生活と統計の関係を理解した上で、科学的にデータを収集する方法とデータの整理の仕方、集団の特性を表す数値の計算方法について講義する。具体的には、統計と迷信、統計学と数学の違い、データの収集・整理・集計、統計表の作成と注意、統計グラフの作成と留意すべき点、集団の代表値について、代表値としての平均の求め方と意味、平均値の限界、集団のちらばりの尺度、算術平均と標準偏差、関係と関連の違い、相関関係と相関係数の求め方、相関関係と因果関係について、相関関係による予測と推定等をトピックとして講義を行う。受講生は、個々のトピックをふまえて、日常生活においてどのようなデータが必要であるかを理解する。併せて、調査、測定および観察などから得たデータの整理・集計を通して、分析が行えるスキルを修得する。	
一般教育科目	自然・環境研究群	統計学b	本科目は、講義科目である。 本科目では、標本と母集団の関係について講義する。具体的には、推定と検定の必要性、標本と母集団の関係、標本抽出、母集団および標本の数値の違い、統計数学の求め方とその意味、標本値による母集団の特性値の推定、母平均と母比率の推定、大標本と小標本の違いによる推定・推定誤差の違い、標本値による母集団の特性値の検定、母平均および母比率の検定、大標本と小標本の違いによる検定。二つの母集団の差の検定(母平均・母比率)、分散分析等の観点から講義を行う。受講生は、サンプル(標本を抽出して)から母集団の特性を推定および推測できるスキルを修得する。また、表示、主張、報告の内容などをそのまま受け入れることなく、標本から統計分析をして確かめることの重要性への理解を深める。	
一般教育科目	自然・環境研究群	物理学a	本科目は、講義科目である。 本科目では、理系の基礎としての物理ではなく、基礎教養の物理学について講義する。具体的には、運転免許の学科試験に必要な物理の知識やスポーツの物理をはじめとして、乗物・ファッション・音楽・地震・津波等の身近な事柄を題材に取り上げ講義を行う。受講生は、上記のような日常の事柄を通して、そこに物理学的な観点があることを理解する。講義を通して解き明かされる「自然の法則や仕組み」と日常生活を物理学でつなげられる思考の修得をする。	
一般教育科目	自然・環境研究群	物理学b	本科目は、講義科目である。 本科目では、理系の基礎としての物理ではなく、基礎教養の物理学について講義する。具体的には、スポーツ・ファッションをはじめとして、宇宙や放射能等の身近な事柄を題材に取り上げ講義を行う。受講生は、上記のような日常の事柄を通して、そこに物理学的な観点があることを理解する。加えて、相対性理論や宇宙物理学・量子力学との現代物理学についても詳解する。講義を通して解き明かされる「自然の法則や仕組み」と日常生活を物理学でつなげられる思考の修得をする。	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部経営学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
一般教育科目	健康・スポーツ研究群	スポーツ・トレーニングa	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、ダンスをするための身体づくりをしながら、ダンス（含フィットネスダンス）の基礎的な技術について講義する。受講生は、以下4点を学び、グループワークを通してコミュニケーション能力の向上を修得する。</p> <p>①リズム感を養い踊る喜びや楽しさを学ぶ。</p> <p>②健康の保持増進の観点からその効果や特性、目標運動強度、実施上の安全性や注意点などの理解を深める。</p> <p>③基本ステップと正しい身体の動かし方を習得し、目的にあったプログラム構成能力と実践力を養成する。</p> <p>④身体表現を中心とする創作ダンスでは、ダンスのテクニックを学ぶとともに自己表現力を身につける。</p> <p>これらを学ぶことで、実践を通してプログラムの基本構成を修得し、自分自身の身体と感性と自己表現能力の向上への理解を深める。なお、「スポーツ・トレーニングa」では、ダンスの他、フットサル・ウェイト・ゴルフ・トランポリン・スポーツトレーニング論が設置されている。</p>	
	健康・スポーツ研究群	スポーツ・トレーニングb	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、ダンスをするための身体づくりをしながら、ダンス（含フィットネスダンス）の発展的な技術について講義する。受講生は、以下4点を学び、グループワークを通してコミュニケーション能力の向上を修得する。</p> <p>①リズム感を養い踊る喜びや楽しさを学ぶ</p> <p>②健康の保持増進の観点からその効果や特性、目標運動強度、実施上の安全性や注意点などの理解を深める。</p> <p>③基本ステップと正しい身体の動かし方を習得し、目的にあったプログラム構成能力と実践力を養成する。</p> <p>④身体表現を中心とする創作ダンスでは、ダンスのテクニックを学ぶとともに自己表現力を身につける。</p> <p>これらを学ぶにあたって、基礎練習（w-up、アイソレーション、筋力トレーニング等）を行う。さらに、エアロビクスの理論と実践、創作ダンスの理論と実践を修得する。「スポーツ・トレーニングa」では、ダンスの他、フットサル・ウェイト・ゴルフ・トランポリンが設置されている。</p>	
	健康・スポーツ研究群	スポーツ科学論a	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、スポーツに関する様々な事例について、根底に根ざす問題点の重要性について講義する。受講生は、理解を促進するため学んだ知識をふまえて、＜課題設定・情報収集・独自の視点の整理＞という一連の作業を通してスポーツ科学への理解を深める。個々にスポーツに関する情報を収集し、かつ現状を理解し、自身の経験を分析することで、独自のスポーツ科学論を構築するスキルを修得する。これによって、本学のディプロマ・ポリシーにある「汎用的技能」を修得する。</p>	
	健康・スポーツ研究群	スポーツ科学論b	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、スポーツに関する様々な事例を交えて、根底に根ざす問題点の重要性について講義する。受講生は、理解を促進するため学んだ知識をふまえて、＜課題設定・情報収集・独自の視点の整理＞という一連の作業を通してスポーツ科学への理解を深める。講義では、員とリダクションとして体育授業やスポーツ活動における友達づくりとそれに対する様々な考えを学ぶ。その上で、運動用具の開発現場、スポーツ界のICT（情報通信技術）活用、スポーツ指導現場における新スポーツ論、世界から評価される日本人アスリート、女性のスポーツ界経営への進出、体力向上の取り組み、アスリートを支える人たち、アスリートのケガ（病気）と競技復帰について、理解を深める。</p>	
	健康・スポーツ研究群	スポーツ技術a	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、卓球をテーマに講義を行う。受講生は、生涯を通して卓球に親しみ、楽しむことが出来る基礎的なスキルを修得する。特にこの授業では、実技と共に卓球のルールと基礎技術を学ぶ。授業では、以下の3点を学ぶ。</p> <p>①フォアハンド打法・バックハンド打法・サービスなど基本技術の習得</p> <p>②卓球に必要な基本的用語・ルール・マナーの理解</p> <p>③セルフジャッジでの試合の実施</p> <p>これらを通して、仲間と協力して目標を達成することでコミュニケーションの重要性についても理解を深める。なお、「スポーツ技術a」では、卓球の他、バスケット・バレーボール・サッカー・バドミントン・BCエクササイズが設置されている。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部経営学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
一般教育科目	健康・スポーツ研究群	スポーツ技術b	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、卓球をテーマに講義を行う。受講生は、ラケットの握り方によってボールの回転に変化が生ずることをふまえて、コミュニケーションツールとしての卓球のスキルを修得する。授業では、以下の3点を学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①フォアハンド打法・バックハンド打法・サービスなどの発展技術の習得 ②卓球に必要な基本的用語・ルール・マナーの理解 ③セルフジャッジでの試合の実施 <p>これらを通して、具体的にはラリーのスキルとシングルス・ダブルスのルールを学び実技を通して卓球への理解を深める。なお、「スポーツ技術b」では、卓球の他、バスケット・バレーボール・サッカー・バドミントン・BCエクササイズが設置されている。</p>	
一般教育科目	健康・スポーツ研究群	スポーツ文化論a	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、現代のスポーツが、政治・経済・教育を含む社会生活の様々な側面と関連し一つの文化現象となっていることについて講義する。受講生は、スポーツを取り巻く様々な社会的課題やスポーツ科学が社会にもたらす多様な可能性について学ぶ。講義では、現代社会におけるスポーツの意義をイントロダクションとして、スポーツの現状とその課題について、文化・社会学的視点から捉えスポーツに関わる社会的問題を把握し分析し、現代社会に望ましいスポーツ文化並びにスポーツ推進施策のあり方についての理解を深める。</p>	
一般教育科目	健康・スポーツ研究群	スポーツ文化論b	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、スポーツの現状とその課題について文化・社会学的視点から捉え、スポーツに関わる社会的問題について講義する。受講生は、メディアとスポーツ、消費されるスポーツ、スポーツとパワー、スポーツとジェンダー、スポーツする身体、生活から生まれたスポーツ、スポーツと教育、スポーツと人間形成、スポーツと地域社会、職業としてのスポーツ、スポーツファンの文化、日本のスポーツ文化、スポーツと芸術、スポーツをめぐる社会問題等のトピックを学ぶことで、現代社会に望ましいスポーツ文化とスポーツ推進施策のあり方について理解を深める。</p>	
一般教育科目	健康・スポーツ研究群	健康科学論a	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、日常生活の中で健康を守るために必要な運動や、生きがいを通してバランスのとれた知識について講義する。特に、日常生活を健康的に過ごしその姿勢を生涯継続していくために必要な事項について学ぶ。具体的には、以下の3点を修得する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①健康についての基礎的知識を学ぶ。 ②生活習慣が健康に及ぼす影響などを知り、健康管理能力を向上させる能力を身につける。 ③生涯の健康を考え、心身の健康の重要性を理解し、社会において健康な生活を送る知識を養う。 <p>最終的に、現代における健康が、各自のライフスタイルの結果として作られるものであることへの理解を深める。</p>	
一般教育科目	健康・スポーツ研究群	健康科学論b	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、多様化する健康の概念と現在の健康問題、及び運動や身体活動と健康の関係性について講義する。特に、健康な生活を送るために必要となる適切な「運動・栄養・休養」を日常生活に取り入れる方法を学ぶ。具体的には、以下の3点を修得する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①健康に関する用語や身体の仕組み、健康に対する取り組みを学び、基礎的知識を理解する。 ②健康の概念を理解した上で、自身の健康観を持つ。 ③自身の生活習慣の改善すべき点を見つけ、実践する。 <p>最終的に、生涯にわたる健康づくりへの理解を深め、そこに繋がる知識を修得する。</p>	
一般教育科目	健康・スポーツ研究群	人間科学a	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、新たな時代に求められる人間の生き方、社会の在り方について、「人間と環境」を焦点にし、科学的なアプローチによって、学生諸君が幅広い知見を習得することを目標とする。</p> <p>この授業では、文科系のみならず理系も含む広い領域にまたがり、自然と人間の関わりや、歴史的な背景、現状把握、今後解決すべき問題も俯瞰して、総合的にとらえることの重要性を学ぶ。</p> <p>新たな時代を見据えて、社会の諸問題を解決する能力を養い、幅広い知識を実践につなげられる人材となることをめざす。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部経営学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
一般教育科目	健康・スポーツ研究群	人間科学b	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、新たな時代に求められる人間の生き方、社会の在り方について、「人間と環境」を焦点にし、科学的なアプローチによって、学生諸君が幅広い知見を習得することを目標とする。</p> <p>この授業で環境問題の多様な側面を知り、社会人一人ひとりの課題としてとらえ、行動することの重要性を学ぶ。さらに、そのための普及・啓発の手法や施策の意義も学び、「持続可能な社会」をめざして実践することの重要性を理解し、社会の諸問題を解決しうる人材となることをめざす。</p>	
一般教育科目	情報とAI・データサイエンス研究群	AI・データサイエンス入門1	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、現代社会において多種多様な分野で活用されているコンピュータシステムの中でも、機械学習タイプの新たなAI（人工知能）について講義する。受講生は、AIを理解し、それを活用する事で個々の専門分野において抽出される問題解決に対して、検討・企画・立案できる人材の基礎を学ぶ。具体的には、以下の3点を修得する。</p> <p>①機械学習AIサービスを使用したアクティブラーニングでAIの概要を理解する。</p> <p>②各種AIサービスへ様々なタイプのデータの入力とその結果を分析し、特性を把握する。</p> <p>③AIサービスをシステムに組み入れるプログラミングを実習し、AIサービスの活用手法を理解する。</p> <p>これに必要なPython言語の基礎的なプログラミング手法を実習する共に、自身の専門分野で役立つAIを活用したシステムを、グループワークで立案する。</p>	
一般教育科目	情報とAI・データサイエンス研究群	AI・データサイエンス入門2	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、「AI・データサイエンス入門1」での成果をふまえて、現代社会において多種多様な分野で活用されているコンピュータシステムの中でも、機械学習タイプの新たなAI（人工知能）について講義する。受講生は、以下の4項目について学ぶ。</p> <p>①プログラミング実習：基礎統計の計算・可視化（ヒストグラム）・回帰分析（散布図・回帰曲線）</p> <p>②AI音声認識：音声の文字起こしのシステムプログラミング体験・システムの企画立案（グループワーク）</p> <p>③AI手書き文字認識：手書き文字認識の体験・プログラミング体験・企画立案（グループワーク）</p> <p>④AI画像認識：画像の内容認識システムのプログラミング体験・学習データのスクレイピング体験・評価・企画立案（グループワーク）・企画のプレゼンテーション（グループワーク）</p> <p>最後に、ゲームでのAI活用例の紹介を講義する。</p>	
一般教育科目	情報とAI・データサイエンス研究群	AIデータサイエンス総論	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、AI・データサイエンスを概観し、そののち各論として具体的な適用例を通じて、データの活用などの技術的側面に加えて、社会への影響、倫理的側面について講義する。AI(Artificial Intelligence〔人工知能〕)やロボットの技術向上により、20年後には、日本では労働人口の約半数が、AIやロボットに代替できるとする研究が発表されている。このような時代に向かって、受講生は、どのような力を身につけ、キャリアを築いていけば良いのかについて理解を深める。さらに、AI、データサイエンス、ロボティクス、IoT等の新しい技術を理解すると同時に、新しい技術を使いこなし、社会や身の回りの課題の解決策へ向けて考える力を修得する。</p>	
一般教育科目	情報とAI・データサイエンス研究群	コンピュータと法	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、コンピュータやインターネット等に関連する法律について以下の5点の観点から講義する。</p> <p>①人権……………ホームページやブログ等で他者に関する記載を行った場合等に生じる法的問題</p> <p>②知的財産権……………他者の出版物やホームページ等における記載を自己のそれに転用した場合に生じる法律問題</p> <p>③電子商取引……………電子商取引の特徴や問題点及び消費者保護等</p> <p>④犯罪……………コンピュータ関連の刑法犯と不正アクセス禁止法</p> <p>⑤法的救済手段……………国外も視野に入れた紛争解決手段の概要と問題点</p> <p>受講生は、一個人及び将来の企業人として、コンピュータ社会において要求される基礎的な法的知識を学び、法的思考方法を修得する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部経営学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
一般教育科目	情報と エン ス・ A I・ 研究 群・ デー タサイ サイ	マスメディア論a	本科目は、講義科目である。 本科目では、ドキュメンタリーやNEWSの視聴と解説を通して、①メディアがどのような問題意識と覚悟で社会に向き合おうとしているのか、②改善に向けてどこまで影響力を及ぼし事ができるのか、③制作者は何に悩みもがいているのかを知りメディアの役割とは何かについて講義する。メディアは社会をつなぐのか、分断を加速させるのか。担うべき公共とは何か等について、新聞記事やテレビ番組を教材に、ディスカッションとレポート作成を通して、マスメディアとの向き合い方を考える。受講生は、これらの学びと共に、ヘイトスピーチやインターネットで自己の利益のために他者を誹謗中傷する言説について考察する力を修得する。	
一般教育科目	情報と エン ス・ A I・ 研究 群・ デー タサイ サイ	マスメディア論b	本科目は、講義科目である。 本科目では、TVやラジオ番組や映画、出版物を紹介し制作者の視点から講義する。マスメディアという公の言論空間では取材に応じてくれた人々の人生を守るために「伝えられること」は多くはない。権力監視のための取材では、訴えられるリスクと背中合わせでもある。受講生は、時代の変化に関わらず読み継がれる書物や、社会の歪と格闘し、傷つき、悩み、もがきながらも前を向こうとする人間に迫るドキュメンタリーを通して、自己への問いかけ方法を学ぶ。それをふまえて、制作者や取材を受けた人々と自分自身を重ねることで、自己と向き合い、社会との向き合い方への理解を深める。	
一般教育科目	情報と ス・ A I・ 研究 群・ デー タサイ サイ エン	情報科学a	本科目は、講義科目である。 本科目では、「社会を支える情報技術の基礎を学ぶ」ことをテーマとして、コンピュータやインターネットの仕組みである情報技術の基礎と、情報技術が社会での利活用方法について、具体的な事例をふまえて講義する。講義で学んだ知識をもとに受講生は、生活や企業の諸課題を自ら調査し、その解決する方法について考察する。これによって、情報技術の基礎知識への理解を深め、社会で必要なスキルを修得する。	
一般教育科目	情報と A I・ 研究 群・ デー タサイ サイ エン ス	情報科学b	本科目は、講義科目である。 本科目では、「近年注目されている新しい情報技術を幅広く学ぶ」ことをテーマとして、AIやIoT、5G、AR・VRといった最先端の技術の特徴と、それらの技術がどのように社会で活用されているのかについて講義する。受講生は、以下の3点を学ぶ。 ①日々進化する情報技術に興味を持ち、その動向を追うこと。 ②最先端の技術が、社会でどのように役立てられているのか説明できるようにすること。 ③興味のある業界で注目されている技術を把握し、今すべきことを考えられること。 これらの学びをふまえ、興味のある業界で注目されている技術を調査・分析し、社会で注目されている技術に関する知識とそれを応用する方法を修得する。	
一般教育科目	情報と エン ス・ A I・ 研究 群・ デー タサイ サイ	情報処理応用	本科目は、講義科目である。 本科目では、「情報処理入門」で修得した成果をふまえ、Word・PowerPoint・Excelの応用的な操作方法・活用方法、プレゼンテーションによる情報発信について講義する。Office連携、Excelでのデータ活用を含め、発表資料やレポート作成に役立つ知識と技術を活用できるスキルを修得し、より高度なパソコン機能と実践的な操作方法を学ぶ。併せて、インターネットを安全に利用するために現代社会で必須となる知識を学ぶ。	
一般教育科目	情報と エン ス・ A I・ 研究 群・ デー タサイ サイ	情報処理入門	本科目は、講義科目である。 本科目では、WordやExcel、PowerPointの一般的な利用方法を含め、大学での発表資料やレポート作成に役立つ知識と技術について講義する。受講生は、大学での学習と実社会での活動においてパソコンを活用するための基本的技能・知識を修得する。具体的には、Windows・Word・Excel・PowerPointの基本的機能とその操作方法、HInTシステムの使い方、メールの送受信、インターネットを使った情報収集、ネット利用における倫理上の常識・エチケットについて学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部経営学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
一般教育科目	基盤教育科目群	スタディスキルズa	本科目は、講義科目である。 本科目では、学生生活を充実させるために、学びの土台を構築し、授業の理解や教科書及び資料の読解力、レポート・論文作成能力の向上のための講義を行う。受講生は、上記を学ぶと共にレポート作成にあたってのスタンダードを学び、書く技術の修得をする。併せて、読解力・語彙力を修得するために、資料の読み方を学ぶ。修得した知識を使える技術にするために、実践的なテーマを設け演習を行う。講義では、個別ワークだけでなく、ペアワーク、グループディスカッション、プレゼンテーションを実施し、論理的思考や表現についてのスキルを修得する。	
一般教育科目	基盤教育科目群	スタディスキルズb	本科目は、講義科目である。 本科目では、前期で修得した学びの土台を、より堅固なものにすることを目標とし、授業の理解や教科書及び資料の読解力、レポート・論文作成能力のさらなる向上のための講義を行う。受講生は、前期に修得したレポート作成スタンダードのさらなる養成と、読解力・語彙力を修得するために、長文の資料の読み方を学ぶ。レポート作成能力の育成については、論理力と根拠資料に基づいたレポートの作成を行う。講義では、個別ワークだけでなく、ペアワーク、グループディスカッション、プレゼンテーションを実施し、論理的思考や表現についての実践を重ねることで、各学部を設置される専門演習に対応する論理的思考や表現についてのスキルを修得する。	
一般教育科目	後期教養教育科目群	教養数学	本科目は、講義科目である。 本科目では、過去から現在までの数学上の重要な発見について身近な例を用いながら紹介し、数学を構成する代数学・解析学・幾何学の3分野についてそれらがどのように発展してきたかということについて紹介する。 数学は古代から続く学問であり、現代ではAIやIoTなど様々な分野において中心的役割を担う存在であり続けている。しかしながら、社会の役に立ちそうなものとして認識されているものは数学の分野ではほんの一部である。特に、代数学・解析学・幾何学の分野を学ぶために、どのような点に着目して理解していくことが重要であるかということについて解説し、抽象的な概念を理解するために必要な視点の持ち方についても解説する。	
一般教育科目	後期教養教育科目群	教養政治学	本科目は講義科目である。 本科目では、民主制社会の市民として正しく政治的な問題を理解し、さまざまな選択肢を比較検討し、積極的に政治に参加できるような教養を身につけることを目的とする。そのため、さまざまな政治的課題が、どのように課題として政府に認識され、社会のさまざまな要求が集約され、政策として提案され、審議され、決定されるのか、その政治過程について詳しく講義する。受講生は、その過程を詳しく知り、具体的な政治課題がどのように解決されているのか分析する手法を学び、政治について自ら主体的に考えて行動する方法について理解を深める。また、自らの身近な問題がどのように政治を通じて解決されているのか知ることで、政治が自らの生活にどのように影響しているのかを知り、政治に積極的に参加する市民としての態度を身につけることができる。	
一般教育科目	後期教養教育科目群	教養西洋史	本科目は、講義科目である。 本科目では、身近な「ファッション」を入り口として、近代の西洋の歴史を学修する。 本科目では、「現在の私たちにとって既に当たり前のものとなったファッションのシステムはいつ頃どのようにして確立されたか」という問いを出発点とし、様々な事例の紹介を通じて、18世紀から20世紀初頭の西洋で起こった産業、都市、生活そして文化の変容について理解を深めていく。対象地域としては、「ファッション都市・パリの成立」を一つの軸とし、パリとの比較でフィレンツェ、ミラノ、ロンドン、ニューヨークなどを適宜取り上げることとする。なお、最終消費財である服ばかりでなく中間財である布にも注目するところは本科目の特色の一つであり、「そもそも服はどのようなプロセスで作られ、流行たりうるのか」という問いを投げかけることで、受講者のより深い理解と考察を促す。	
一般教育科目	後期教養教育科目群	教養哲学	本科目は講義科目である。 本科目では、言語論、認識論、存在論といった分野を中心に講義する。存在をあらわす言葉である「いる」と「ある」を区別しない言語もあるが、日本では「いる」と「ある」を区別する。また、「ない」についても「かばんの中に財布がない」と「丸い三角形はない」とは同じ「ない」ではない。このように普段使っている言葉を手がかりにして、私たちの認識のあり方や、ものの存在のあり方、日本の文化の構造へと考察を深める講義をおこなう。それによって、受講者は自らの使う言語を様々な角度から考察することができる。さらに、性(男性/女性など)によって異なる言葉の使い分けが示す権力関係や、言葉のもつジェンダーバイアスなど、社会的な問題についても扱う。それによって、受講生は自らの使う言語について「当たり前」とされていることを問い直し、差別や権力についての意識を高めることができる。	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部経営学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
一般教育科目	後期教養教育科目群	教養東洋史	本科目は、講義科目である。 本科目では、国際関係史・文化交流史を考える際、とかく相互の相違点に目が行きがちであるが、東アジア世界（中国・朝鮮半島・日本・台湾・ベトナム・モンゴルを中心とした）における歴史的共通性、とくに「漢字」に着目することで当該地域史の歴史的理解を深める。具体的には、漢字が中国で生まれ、東アジア世界に伝播していった過程と相互の交流の中で生み出されていった各地域独自の文化的変遷を理解する。 受講者は、日本語はもとより朝鮮語、ベトナム語にもいまなお色濃く残る「漢字」の痕跡を手がかりとして、現代東アジア世界を洞察する力を養う。	
一般教育科目	後期教養教育科目群	教養統計学	本科目は講義科目である。 本科目では、一般教養科目の統計学aや統計学bにおいて修得した知識やスキルを前提として講義・演習を行う。我々の身の回りにはたくさんのデータがあるが、統計データに関わるトピックを適宜取り上げ、実際の処理方法や処理方法に関連する理論について説明する。処理方法と処理方法に関連する理論について理解した後、受講生には実際にデータ処理を行ってもらい、その結果の読み取り方について議論する。これらを通じて、身の回りにあるデータを適切に処理し、その結果を適切に読み取ることのできる力を養っていく。	
一般教育科目	後期教養教育科目群	教養日本史	本科目は、講義科目である。 本科目では、身近な「洋服」を入り口として、近現代の日本の歴史を学修する。 「もともとは和服で生活していた日本人の大半が洋服を着るようになるまでのプロセスはどのようなものであったか」という問いを出発点とし、様々な事例の紹介を通じて、明治維新以降から戦後に至る日本で起こった産業、消費、生活そして文化の変容について理解を深めていく。最終的には、ファッションデザイナーの活躍やファッションブランドの乱立に触れるが、それ以前に、「デザイナーとは、ブランドとは、そもそもどのようなもので、それらの概念は日本においていつ頃あたり前になったか」という問いを投げかけることで、受講生のより深い理解と考察を促す。	
一般教育科目	後期教養教育科目群	教養倫理学	本科目は、講義科目である。 本科目では、生命倫理、環境倫理など応用倫理と言われる分野を中心に講義する。生命倫理に関して言えば、医療技術の進歩と社会の多様化により、生、死、性、生殖などについて既存の法律や価値観とは合わない、あるいはこれまで想定されていなかった事態が生じている。また、環境倫理に関しては、環境保護という点では考えが一致するものの、原子力発電への賛否や、温暖化対策における先進国と開発途上国の対立などがあり、簡単に解決できるものではない問題がある。本科目では、まず問題の背景と現状、論点についての講義を教員が行う。それによって受講生は問題を適切に把握できるようになる。さらに、受講生自身が問題を分析し、他の受講生の意見を聴き、自らの考えを述べるができるようになることを目標とする。	
一般教育科目	後期教養教育科目群	社会人としての教養講座a	本科目は、講義科目である。 本科目では、グローバル化、高度情報化社会の加速度的進捗によって知識や技能の優位性の不確実な社会において、学際的な「教養」の修得を目的とする。リレー型授業によって、幅広い知識と、それを相互に関連づける思考力を体得する。それによって、様々な課題に対して適切な解決を見出す能力を開発する。特に、大学後期で文理融合した「教養」を学ぶことの意義を理解するために、 ①社会人になるために知っておくべき知識と教養 ②人文科学および自然科学の境界を越えた専門知の相互連環性 ③阪南大学型「リベラルアーツ」の修得 ④各専門領域におけるAIの課題とそれに対応する教養と実社会の課題 について、毎回の授業を通して思考を深める。受講者は、多様な知見と観点からの思考法と阪南大学型リベラルアーツとしての教養を修得する。(オムニバス方式/全15回) (43 坪井兵輔/6回) 自由になるための教養 (51 前田利之/3回) 社会人の素養としてのAI (56 村上雅俊/2回) 数字から見る日本経済の現状 (48 花川典子/2回) インターネット・世界のビッグテックと日本産業 (34 大野 茂/2回) 映像を読み解く	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部経営学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
一般教育科目	後期教養教育科目群	社会人としての教養講座b	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、社会人としての基礎教養の観点から以下の講義を行う。受講生は長く役立つ教養を修得すると共に、その理解を深める。特に、自然科学と人文・社会科学の知識と理解によって、社会における事象について多様な知見と社会での課題の解決に向けた思考法を修得する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(11 森芳周/7回) 授業概要・生命の倫理学・中間テスト・振り返り (67 渡辺和之/2回) 多文化共生 (53 松村嘉久/3回) 大阪の課題と可能性 (52 松田健 /3回) 自然科学</p>	オムニバス方式
一般教育科目	後期教養教育科目群	正解のない問いの答えを考える	<p>本科目は、演習科目である。</p> <p>本科目では、「答えの出ない問題」をテーマとして、現代社会の諸相を的確にとらえ課題発見・課題解決のための思考方法について講義する。実社会において、全ての答えがインターネットの中にあるわけではない。具体的には、遺伝子操作と人間をデザインは許されるか、人工的な気象コントロールは許されるか、成人年齢は引き下げるべきか、絶対に人を殺してはいけないか、芸術作品の売買は商行為として正しいか、戦争はなくなるか、国家は本当に必要か等をトピックとして講義運用する。様々なデータをふまえ、受講生は、自分の考えをもって発表できるだけの教養とコミュニケーション技法を使って、討議力と意見集約力を修得する。</p>	
一般教育科目	自由選択科目群	ボランティア実践 a	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、教育現場でボランティア活動をすることで、その意義や役割を実感し、社会と個人の関係について講義する。受講生は、ボランティア活動の経験をふまえ、多面的なものの捉え方や考え方を修得し、多様な人と自信を持ってコミュニケーションが取れるようにする。さらに、講義と実習を通して自己理解を深め、自分で考え行動することの重要性について学ぶ。本科目の実習先は、大学が所在する松原市内の学校教育の現場とし、活動についての振り返りを講義の中で行う。</p>	
一般教育科目	自由選択科目群	ボランティア実践 b	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、ボランティア実践aでの学びを前提として教育現場でボランティア活動をすることで、その意義や役割を実感し、社会と個人の関係について講義する。受講生は、ボランティア活動の経験をふまえ、多面的なものの捉え方や考え方を修得し、多様な人と自信を持ってコミュニケーションが取れるようにする。さらに、講義と実習を通して自己理解を深め、自分で考え行動することの重要性について学ぶ。本科目の実習先は、大学が所在する松原市内の学校教育の現場とし、活動についての振り返りを講義の中で行う。</p>	
一般教育科目	自由選択科目群	教育社会学	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、現代の学校教育に関わる社会的課題に対して、近代化に伴う日常生活次元の変容について、食・家族関係・遊び・交通環境・雇用形態等の日常生活から講義する。具体的には近代以降の子どもの心身の変化とそれに規定される教育政策(中教審第1次答申「生きる力」論や「食育基本法」「がん教育」等)や問題に焦点を置き、社会学・教育論から詳解する。受講生は、以下の4点の観点から学び、理解を深める。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①現代における社会・生活状況及び子どもたちの状況と問題の抽出 ②近代以降の変化を特徴的な出来事・社会変容等の理解 ③子どもの変容に対して学校での問題の発生とそれに対する教育政策動向の把握 ④世界に目を向けることで子どもたちが置かれている状況及び環境への理解 <p>これらの教育と社会の関係について、現代的課題(地域社会との連携・学校の安全)として理解する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部経営学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
一般教育科目	自由選択科目群	教職入門	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、教職の意義や教師の使命、資質及び求められる現代の教師像について講義する。具体的には、教育の成立条件（個人と社会との相互作用）、教師の使命（歴史的視点を含む）、教師の職務（服務上・身分上の義務を中心として）、教師の資質能力と性格との関係、教師の指導性研究Ⅰ（特性論）、教師の指導性研究Ⅱ（状況論と行動論）、生徒指導の内容、教育相談の内容、事例研究Ⅰ（薬物逃避・いじめと自殺・無気力と子どもたち）、学校と他の専門家との連携及び組織対応、問題行動への対応、教育の方向性について詳解する。受講生は、以下の3点を学ぶ。</p> <p>①教職の意義および教師の使命の考察 ②教師の資質能力とは何かの考察 ③生徒の問題行動に対する対応方法と事例研究による考察</p> <p>これらを考察し、理解を深めると共に教育現場での対応力を修得する。</p>	
一般教育科目	自由選択科目群	教養演習1a	<p>本科目は、講義・演習科目である。</p> <p>本科目では、六法全書を読みながら、法的な思考と法律学に関連する作業に実際に触れる講義を実施する。まずは、いろいろな法律の条文に触れることで、法律学の初歩を学ぶ。具体的には、六法の引き方と条文の読み方、立法論と解釈論、法律学における基礎学修の3つの観点から、適切な法律と該当する条文に到達するための手法を学ぶ。その際、ブレインストーミング方式を利用した問題の法的分析の訓練を行うことで、条文の解釈方法を修得する。</p>	
一般教育科目	自由選択科目群	教養演習1b	<p>本科目は、講義・演習科目である。</p> <p>本科目では、変化の激しい経済社会を法的な観点からの分析し、具体的な事案に対して、法的な観点から問題解決するために必要なスキルを身につけるための講義を行う。本科目の受講者は、「教養演習1a」を受講した学生を対象とし、具体的な問題に対して法的な観点から分析するための訓練を行う。その際、六法、テキスト、判例集や論文を読み込む。積み上げた成果を基礎に、裁判傍聴等のフィールドスタディーを実施する。講義では、六法の引き方、条文の引用方法、立法論と解釈論、公法と私法、実体法と手続法Ⅰ（民事法分野・刑事法分野）、判例の読み方、体系書の読み方、国家試験・検定試験での法律学分野の出題例とその解答等を学ぶ。</p>	
一般教育科目	自由選択科目群	教養演習2a	<p>本科目は、講義・演習科目である。</p> <p>本科目では、変化の激しい経済社会を法的な観点から分析し、様々な具体的な事案に対して法的な観点から問題解決するために必要なスキルを身につけるための講義を行う。本科目の受講者は、「教養演習1a」「教養演習1b」を受講した学生を対象とし、具体的な問題に対して法的な観点から分析する力を修得する。講義では、六法・テキスト・判例集や論文を読み込んだ上で質疑応答を行う。積み上げた成果を基礎に、裁判傍聴等のフィールドスタディーを実施する。</p>	
一般教育科目	自由選択科目群	教養演習2b	<p>本科目は、講義・演習科目である。</p> <p>本科目では、「法的思考力」をテーマとして、六法の引き方をはじめとして、条文の引用方法、立法論と解釈論、公法と私法、実体法と手続法（民事法分野・刑事法分野）、判例の読み方、体系書の読み方等を実践的に講義を行う。本科目の受講生は、「教養演習1a」「教養演習1b」「教養演習2a」を受講した学生を対象とし、具体的な事案に対して、法的な観点から分析する力を修得する。基本的には座学の成果をフィールドスタディーで確認する。</p>	
一般教育科目	自由選択科目群	生涯学習概論	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、生涯学習及び社会教育の本質と意義の理解を図り、教育に関する法律・自治体行財政・施策、学校教育・家庭教育等との関連、併せて社会教育施設、専門的職員の役割、学習活動への支援等の基本について講義する。受講者は、本科目が図書館司書・博物館学芸員両課程の共通必修科目であることから、図書館や博物館が、生涯学習及び社会教育の本質と意義を具現化する社会教育施設であることを理解する。併せて、生涯学習振興、社会教育行政をめぐる経過を学ぶと共に、今日的課題について自発的に考える。最終的に、生涯にわたる個人の学びを支援する「権利としての社会教育」へ意義の深淵について理解する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部経営学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
一般教育科目	自由選択科目群	未来と社会を学ぶ1	本科目は、講義科目である。 本科目では、「地域活性化」をテーマとして、経済だけでは語れない独自性をもった取組が求められている。デザインや情報戦略など含めた様々なブランド化手法による地域活性化事例と、コロナ過で大きく影響を受けた地域と各事業の最新の課題と解決に向けた展開事例の紹介などをふまえ、地域活性についての理解を深める。具体的には、①「地域活性化、地方創生」時代が求めるもの、②少子高齢化グローバル化時代の食ブランド化と地域活性化、③芸術文化と地域活性をブランド化事業、④守り育てる地域文化ブランド化・温泉や観光と世界遺産地域活性化、⑤情報発信による地域活性化、⑥博覧会とこども未来ブランド化事業、⑦未来ものづくりとデザインブランド化による地域活性化、⑧これからの地域活性化の8点の観点から全体テーマを把握する。	
一般教育科目	自由選択科目群	未来と社会を学ぶ2	本科目は、講義科目である。 本科目では、地域を活性化するためのアプローチの1つとして、地域の歴史を取り上げる。大学の立地環境でもある大阪市内と南河内地域をつなぐ近鉄南大阪線沿線を動脈として、この地域史について、地域の文化財や歴史上の人物をトピックとして講義する。これによって、受講生は地域を活性化するために必要な基礎知識を修得する。特に、古代・中世初期を中心として、古代から近現代に至るこれらの地域の地域史を通史的に概観する。その際、日本国内、さらには、東アジア世界における時代背景・社会情勢を意識し、それらとの関わりの中に当該地域の地域史を位置づけて、地勢学的な理解を深める。	
キャリア教育科目		インターンシップ講座	本科目では、「基礎キャリア演習」「発展キャリア演習」「応用キャリア演習」と科目連動させながら、実際のインターンシップを実施するための座学を行う。具体的には、 ①「インターンシップ」によって、企業が将来的な人材確保に向けてどのような志向を持っているのか。 ②「インターンシップ」での有効的な学び方と働き方とは何か。 ③「インターンシップ」での到達目標の設計の方法とはどのようなものか。 この3点を修得する。	講義20時間 演習10時間
キャリア教育科目		キャビンアテンダントプログラム1	本科目では、航空業界への興味を具体化し、情報や知識を得るための基盤形成のための講義を行う。講義ではタイムリーなエアライン情報や知識と共に、講義内容に応じて研究課題を提示する。受講者は、授業を通して獲得した情報を分析し展開する力を養い、プレゼンテーションの基礎的な力を養う。グループでの取り組みの中から、協働する姿勢を身につけ、自分への関心、周囲への関心を修得する。講義と自主研究を並行させながら、航空業界・サービスについて様々な角度から知識と視野を拡充するための講義を行う。グループでのディスカッション・まとめ・発表を繰り返すことで、情報整理力や表現力を修得する。	講義20時間 演習10時間
キャリア教育科目		キャビンアテンダントプログラム2	本科目では、「キャビンアテンダントプログラム1」での修得内容を受けて、航空業界の基礎知識を実際の接客の目線や顧客の目線からスポット的に追及し、知識を修得する。特に、エアライン産業のサービスや取り組みについて理解し、そこから生み出される事柄についての理解を深める。実践的な演習から、責任感や問題意識を実感させると同時に、個々にパーソナルスキルを意識させ、将来の目標設計を行う。「キャビンアテンダントプログラム1」で学んだ基礎知識を応用させ、現場での仕事内容・おもてなしやマナーについて具体的に研究し、知識の拡充を行う。グループワークでは、協力し合う中でチームワーク力や責任感を高め、体験や実践から社会への意識や自分自身の意識が深められる学びを修得する	講義20時間 演習10時間
キャリア教育科目		キャビンアテンダントプログラム3	本科目では、航空業界についての概要及び流れを把握し、エアラインへの就職活動に向けての意識づけとプランニングに向けて講義する。受講者は、航空会社の現状から社会を知り、立体的なものを見方を修得する。特に、機内保安と機内救命救急、航空用語と基礎知識、空港の機能と設備や地域とのつながり、空港サービスとホスピタリティを学んだ上で、空港見学を行う。それらの学びを通して、「航空会社の役割と社会貢献」について、グループ発表を実施する。本科目での授業内容を通して、エアライン受験における知識を修得する。	講義20時間 演習10時間

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部経営学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
キャリア教育科目	キャビンアテンダントプログラム4	本科目では、エアラインへの就職活動に向けて、自己の内面性や印象への意識を高め、多面的思考・発想力等についての学びのための講義を行う。特に、これまでの知識をもとに、アウトプットする機会を積極的に設け、伝える力を修得する。構成力・語彙力・表現力を向上させると共に、一方的に発するだけでなく、受ける側への印象にも意識を置き、アピール性のスキルとは何かを学ぶ。具体的には、キャビンアテンダントという職業に関わらず、社会人として求められる人物像とマナー、ビジネスマナー、立居振舞と面接マナー、第一印象の必要性について、基礎と演習を通して形だけでなく本質的に修得する。	講義20時間 演習10時間
キャリア教育科目	キャビンアテンダントプログラム5	本科目では、エアラインでのインターンシップ対策に焦点を置き、就職試験対策としてエントリーシートの準備に必要な基礎知識、言語化力、グループワークで必要となるパフォーマンス方法について講義する。講義では、実践からの学びを通して、エアライン受験対策から一般企業対策まで網羅する土台形成を行う。受講者は、具体的なイメージと目標、実践に即した社会人基礎力の基盤を構築し、応用力を修得する。併せて、就職活動のスタートに備え、知識やスキルの確認を行うことで、「伝えるスキル」のアップデートを行う。授業では、実践的な面接シミュレーションを重ね、面接力や表現力を高めていく。	講義20時間 演習10時間
キャリア教育科目	ビジネス文書マナーa	本科目では、社会人の実務における基礎知識とその方法を講義する。具体的には、組織としての仕事の進め方と考え方、OODAループとPDCAサイクル、適切な敬語を用いた文章表現、電話および来客対応、ホウ・レン・ソウの重要性について講義する。これらを修得すると共に、授業内でのロールプレイによって活用できる実践力を修得する。企業等のビジネス組織において求められる資質・能力・技術を学ぶことで、社会人に必須となるビジネス・コミュニケーションを修得する。	講義20時間 演習10時間
キャリア教育科目	ビジネス文書マナーb	本科目では、社会人の実務における基礎知識とその方法について講義する。適切な敬語を用いた文章作成や、メール等を用いた取引先との連絡方法、イベント等の企画、ダイバーシティ、冠婚葬祭に関する一般常識について講義する。具体的には、ビジネス文書の基本とビジネス文書作成演習、ビジネス通信の基本、法的業務、設営の基本、慶弔と贈答、協働とコミュニケーション等を授業内での実践的ワークを通して学び、社会人としての業務マナーを修得する。	講義20時間 演習10時間
キャリア教育科目	営業活動実務	本科目では、本講義では「営業とは何か」を講義すると共に、これからの「営業に必要なチカラ」を講義する。「昭和モデル」では、正解の横展開で成長することができた。しかしながら今後の「正解のない世の中」では、発想するチカラや相手を納得させるチカラが必要になってきている。その社会状況に鑑み、基本的な営業についての知識に加え、「営業のチカラ」について講義を行う。受講者は、基本的なビジネスの基礎を理解しつつ、役立つチカラを修得する。	講義20時間 演習10時間
キャリア教育科目	応用キャリアデザイン	本科目では、「基礎キャリアデザインa」「基礎キャリアデザインb」「発展キャリアデザイン」と積み上げてきたキャリアデザイン諸科目での修得内容を受けて、以下の項目をさらに修得する。 ①ESの表現力と自分自身の言語化 ②企業研究と分析 ③グループディスカッションでの会話力 ④面接での的確な自己表現とそのスキル ⑤インターンシップと一緒に働きたいと思わせる自己存在 以上の5点を中心にスキルアップと「更新力」を修得する。就職活動へ向けて、実践的なプログラムを行うことで、近未来の自分自身を作り上げるための課題を重ねていく。授業内では、受講生に発言を求められることや、質問を共有していくことで、自己発見につなげていく。	講義20時間 演習10時間
キャリア教育科目	基礎キャリアデザインa	本科目では、経済産業省が提唱する「人生100年時代の『社会人基礎力』」の基盤を形成すると共に、ソサエティ5.0社会を生き抜くために、自分の市場価値をどのように高めていくかについての基礎を修得する。キャリア形成へ向けてのStep 1となる本科目において学ぶ具体的な項目は、以下の通りとなる。 ①なぜ1年次段階から卒業後を意識して「キャリア」を考えるのか ②本学が推進する「創造力」「適応力」「予測力」「想像力」「洞察力」の5つの能力開発の実施と更新力の体得 ③近未来の社会における対応力の基盤形成 上記と併せて、1年次段階からインターンシップを意識できる学びを行う。	講義20時間 演習10時間

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部経営学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
キャリア教育科目	基礎キャリアデザイン	本科目では、「基礎キャリアデザインa」で修得した内容を受けて、さらに自分の市場価値を高めることを目標に、キャリア形成へ向けてのStep2として、読解力・観察力・対応力・解決力といった社会で必要となるスキルを修得する。特に、ロジカルシンキングやクリティカルシンキングについて、具体的なテーマをもとに学んでいく。特に、ディスカッションを中心とし、受講者を主体とした授業を実施する。そこでは、集めた情報の共有・整理・活用力や、知識・情報のインプット・グループ内でのアウトプット等のスキルアップはかると共に、傾聴力と他者の意見の活かし方を修得する。	講義20時間 演習10時間
キャリア教育科目	発展キャリアデザイン	本科目では、「基礎キャリアデザインa」「基礎キャリアデザインb」で修得した内容を受けて、経済産業省が提唱する「人生100年時代の『社会人基礎力』」の体得と、ソサエティ5.0社会を生き抜くために必要な視点をふまえて講義を展開する。その一つとして、外資系や外国人経営者の日本企業など、採用候補者の人種・年代・言語・性格・文化的背景が多様化する中で、企業側の採用点である「内発的動機付け・問題解決能力・不確実性への耐性」の修得を行う。さらに受講後にはインターンシップへ向けての自己設計を行う。具体的には以下の項目について学ぶ。 ①自分自身を言語化するための表現力と言語化力のさらなるupdate ②言語化することで1年後に体得するスキルの目標設定とPDCAの修得 ③社会の動向を的確に把握し今後の学びへの計画設計 ④社会人スキルに加えて社会人として求められる教養の修得	講義20時間 演習10時間
キャリア教育科目	貿易実務実践	本科目では、貿易実務の入門編として「なぜ貿易が必要か」「日本のグローバル化はどうあるべきか」について講義を行う。データベースから世界における日本の位置づけを読み解き、海外を知る楽しさについて理解を深める。具体的には、データで世界を見る、日本の強みと弱み、日本と海外の違い、世界で生きるチカラとは何か、異文化におけるコミュニケーションと英語力といった視点から講義する。受講者は、貿易についての実務を修得すると共に、貿易に必要な語学スキルを修得する。	講義20時間 演習10時間
キャリア教育科目	貿易実務入門	本科目では、貿易実務の実践編として「基本的な貿易の流れ」と「貿易について最低限必要な知識」について講義を行う。特に、貿易取引のパターン、契約、モノ・カネ・情報の流れ、サプライチェーン、ロジスティクス、関税、コンプライアンスについて事前課題レポートを提出してもらい、それを授業内で分析しながら、貿易実務の基礎概要を講義する。受講者は、上記の2点を学び理解した上で、自ら説明できるスキルを修得する。	講義20時間 演習10時間
学科科目	全員履修科目	ビジネスデータ分析1	講義20時間 演習10時間
学科科目	全員履修科目	ビジネスデータ分析2	講義20時間 演習10時間
学科科目	全員履修科目	プレゼミ1	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部経営学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
学科科目	全員履修科目	プレゼミ2	<p>本科目は、演習科目である。</p> <p>本科目では、「プレゼミ1」に続き、経営学部で学ぶことの楽しさと意義を理解してもらう。担当教員は引き続き同一クラスを担当する。経営学部での学修を始めるにあたっては、企業がどのように経営されているかを知るための糸口が必要となる。この科目はその道案内として位置づけられ、課題探求型の授業を通じて、必要に応じて文献紹介や輪読の運営、分析ツールの修得を行う。これにより、社会問題の分析力、主体性をもって協働する力の基礎を身に付けることができる。</p>	
学科科目	全員履修科目	演習入門	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、経営学部で実施される学びを俯瞰する。授業の前半部分は、2年次生で受講する基礎演習1・2および3年次生から始まる専門演習1～4の活動内容を把握できるよう経営学部の各演習担当教員が講義を担当する。ゼミ活動を知ることにより、学びの拡充を図ることができる。また、今後のゼミ選択および経営学部の専門科目の学修計画の作成に寄与する。授業の後半部分では、充実した大学生活を送るために有益となる、学修支援・キャリア支援や留学制度などに関する知識・情報を提供する。</p>	
学科科目	必修科目	基礎演習1	<p>本科目は、演習科目である。</p> <p>本科目では、3～4年次で始まる「専門演習1・2」を履修する前に必要な、経営学部の全般に渡る基礎知識を増やし、学生自身が主体的に関心のあるテーマを発見し、それについて深く掘り下げて研究する。また、学生自身が発信者としてのプレゼンテーション能力やスキルを身につけ、同時にディスカッションを通じて、仲間の発言を注意深く聞き、多様な価値観を知り、それを互いに尊重し共生する能力を養成する。さらに、自分の意見を述べ、自分の考えを短い文章にまとめる力をつける。</p>	
学科科目	必修科目	基礎演習2	<p>本科目は演習科目である。</p> <p>本科目では、受講生は2年次終了時点までに、経営学部6コースの中から指導を希望する教員とテーマを選択する。「基礎演習1」に引き続き、受講生自身が主体的に関心のある専門性のあるテーマを発見し、それについて深く掘り下げて研究する。また、受講生自身が発信者としてのプレゼンテーション能力やスキルを身につけ、同時にディスカッションを通じて、思考の柔軟性を高め、仲間の発言に対する傾聴力を養い、多様な価値観を知ることによって想像力を高め、それを互いに尊重し共生する能力を養成する。さらに、自分の意見を述べ、自分の考えを論理的な文章としてまとめる創造力を高める。</p>	
学科科目	必修科目	経営学入門	<p>本科目は講義科目である。</p> <p>本科目では、経営学に初めて触れる1年次学生を対象とする。講義では、経営学とは何か、どのようなことを学ぶのか、学ぶことにどのようなメリットがあるのかなどについて解説していく。また同時に、大学での学修をスムーズに進めるために、毎回のレポートや課題の作成と提出を義務づけ、講義で学修した内容を整理し、それを文章で表現できる能力を育成する。これらのことを通じて、経営学の全体像をとらえ、特に2年次以降の経営学に関するより専門的な分野を学ぶ上での基礎を構築することがこの授業の目的である。</p>	
学科科目	必修科目	専門演習1	<p>本科目は、演習科目である。</p> <p>「基礎演習1・2」に引き続き、経営学部6コースの中から決定したクラスにおいて関心のある専門テーマを発見し、それについて深く掘り下げて研究する。併せて以下に掲げる能力を体得する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①演習内のプレゼンテーションを通してその能力やスキルを身につける。 ②演習内のディスカッションを通して思考の柔軟性を高め、仲間の発言に対する傾聴力を養う。 ③演習内で多様な価値観を知ることを通して、想像力を高めそれを互いに尊重し共生する能力を養成する。 ④演習内では自分の意見を述べ、自分の考えを論理的な文章としてまとめる創造力を高める。 	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部経営学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
学科科目	必修科目	専門演習 2	本科目は演習科目である。 本科目では、「専門演習 1」で学んだことをさらに発展させて、専門分野の研究の必要な発展・応用の知識を修得すると同時に、受講生自身が主体的に関心のある専門分野のテーマを発見し、それについて深く掘り下げて研究する。また、ディスカッションを通じて、自身の意見を理路整然と説明し、他者の意見の意図を的確につかみ、それをまとめるコミュニケーション能力を育成し、論理的な文章を組み立てられる論理的思考とその文章作成能力を身に着ける。	
学科科目	必修科目	専門演習 3	本科目は、演習科目である。 本科目では、「専門演習 1・2」に引き続き、専門演習の担当教員が同一クラスの担当となる。学生自身が主体的に関心のある専門性のあるテーマを選び、卒業論文の作成準備をする。具体的には、テーマの絞り込みを行い、着想に至った経緯を論理的に説明し、先行研究の文献調査とそのサーベイ、フィールドワークやアンケート調査を含む研究方法の提示、卒業論文の章・節の構成などを示すことで、深く掘り下げて検討していく。	
学科科目	必修科目	専門演習 4	本科目は、演習科目である。 本科目では、「専門演習 1・2・3」に引き続き、専門演習の担当教員が同一クラスの担当となる。学生は、「専門演習 3」で決定した卒業論文のテーマに沿って、データの収集・整理・分析・結果の反復、必要なネット調査や文献の読み込み等により、章構成に沿った執筆を行う。教員は、学生それぞれのテーマに応じたきめ細かな論文作成指導を行う。その際、データ出所や引用の場合の出典の明示、注の書き方、参考文献など研究倫理教育も行う。	
学科科目	選択必修科目	ICTビジネス基礎	本科目は、講義科目である。 本科目では、ICTビジネスコースの基礎科目として、本コースに設置される各科目に連動していく内容を講義する。具体的には、ICTの発展による企業効率の上昇や、新しい付加価値の生成という両側面を理解した上で、電子商取引の売り手側・買い手側、Eマーケットプレイスでの運営、クラウドコンピューティングの発展と企業間連携、SNSをはじめとする消費者行動の変化、AIやVRの持つ意味、電子マネーなどを扱う。以上を通して「Society5.0」の社会を探る。	
学科科目	選択必修科目	スポーツマネジメント入門	本科目は、講義科目である。 本科目では、スポーツマネジメント研究領域が成立した社会的背景とその概念、マネジメントの基礎理論とその対象となるスポーツ組織の特性を事例を通して講義する。具体的には、プロスポーツのチームやクラブ、リーグの仕組みやスポーツ統括団体、五輪などのメガスポーツイベントを対象とする。また、卒業後の進路のイメージを膨らませるために、スポーツ産業やスポーツに関連する職業について学ぶ過程で、今後のスポーツマネジメント専門科目履修のための基礎を修得する。	
学科科目	選択必修科目	ファッションマーケティング	本科目は、講義科目である。 本科目では、様々な事例の紹介とともに、ファッションマーケティングの基礎的な理論と知識を修得することを目的とする。初めてファッションマーケティングを学ぶ学生を対象として、ファッションビジネスの世界で「売るための仕組みづくり」がどのようにして行われているかを学んでいく。前半では、ファッションマーケティングの基礎的な理論を学び、後半では、具体的な事例の紹介を通じてさらなる理解を深める。	
学科科目	選択必修科目	マーケティング入門	本科目は、講義科目である。マーケティング入門のテーマは「市場創造」である。企業は常日頃から消費者のニーズを探し当て、それを製品化・サービス化できるように日々努力を続けている。マーケティングとは、このような企業による市場創造活動であるといえる。本講義では、マーケティングの基礎について市場調査から製品化を経て、流通・販売へと消費者に至る流れを含むあらゆる活動について学ぶ。また、専門科目の学修への興味づけを図り、専門科目への導入とすることも大きな目的である。	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部経営学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
学科科目	選択必修科目	会計学入門	本科目では、会計学の入門科目として、企業が公表する財務諸表の読み方について理解することを目的とする。企業経営を理解するためには、数値からの理解は必要不可欠である。したがって、受講生が企業経営を数値から読み解けるようになることが目的である。具体的には、貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書等の財務諸表の構造と用語、及び基本的な比率分析の説明を行う。講義で用いる財務諸表及びデータは、受講生にとって身近な企業の実際のものを用いる。また、理解を深めるために表計算ソフトを用いた実習作業も積極的に取り入れる。	講義20時間 演習10時間
学科科目	選択必修科目	経営戦略論	本科目は、講義科目である。 本科目では、様々な企業の事例を取り上げながら、多角化戦略、コストリーダーシップ戦略、差別化戦略、競争要因分析など、経営戦略に関する重要な概念や理論について講義を行う。経営戦略とは企業の中長期的な方針のことであり、人材や資金などの経営資源を展開する上での指針となるものである。現代の企業においてはこのような戦略的な経営が不可欠となっている。受講生は、経営戦略の主要な考え方の説明や、学修した概念や理論を応用し、企業経営を経営戦略の観点から分析が行えるスキルを修得する。	
学科科目	選択必修科目	国際ビジネス入門	本科目は、講義科目である。 本科目では、国際ビジネスの入門科目として、本科目に連動する諸科目へつなげるため、4名の専任教員によるオムニバス形式の講義を行う。(1) 先ず、国内ビジネスと国際ビジネスはどう違うのかを学び、国内経済が世界とリンクしていること(グローバルサプライチェーン等)を理解する。次いで(2)産業革命以降の国際ビジネスの歴史、(3)「自国中心」、「現地重視」、「グローバル統合」といった企業のモノの見方変化と組織の進化、及び戦略の変化について理解を深める。さらに(4)各国ビジネス事情や時々のトピックを扱うことで、時事問題への理解力を修得する。 (オムニバス方式/全15回) (29 伊田 昌弘/3回) 概論、歴史、グローバルの限界 (19 李 允賢/4回) 国際ビジネスの組織・戦略・人材について (9 洪 詩鴻/4回) 中国・アジアビジネスについて (2 井上 博 /4回) 北米・欧州ビジネスについて	オムニバス方式
学科科目	選択必修科目	流通システム論	本科目は、講義科目である。本講義では、流通を取り巻く経済環境とその中における流通業の役割や特徴を学んだ後、特徴的な流通企業の戦略について、複数の事例を通じて体系的に学んでいく。経済活動において、流通業の役割は決して小さいものではない。また、流通業においては多種多様なイノベーションが展開されている。本講義では、流通の全体像を把握したうえで、個別企業の戦略や諸課題について検討する。これらを通じて、学生諸君が体系的な流通理論を習得し、それらを用いて現代経済ひいては現代社会、そして現代の企業が抱える諸問題について分析できるようになることを到達目標とする。	
学科科目	自由選択科目	eコマース	本科目は、講義科目である。 本科目では、ICT(情報コミュニケーション技術)を活用した「電子商取引」や「ネットビジネス」についての事例を使って、「eコマース」に関する基礎的な知識と今後について講義する。具体的には、電子商取引の3類型(B2B・B2C・C2C)を理解すると共に、Webの仕組み、IoTとAI、ビジネスモデル、SNSの活用と課題、電子決済、ブロックチェーンと仮想通貨、デジタル配信の動向と課題等について、事例を中心に講義を行う。受講生は、取引形態として、ネットワークを介した契約や決済について学ぶと共に、理解を深める。	
学科科目	自由選択科目	ICTビジネス論	本科目は、講義科目である。 本科目では、最初に「ICTビジネス」と「eコマース」の違いについて講義した上で、「電子マネー」・「電子商取引」の現状、及びそれらが企業経営、流通、金融、生活に及ぼす衝撃と将来展望について、「シンギュラリティ」の議論をベースに展開していく。さらに、「ICTビジネス」の多彩な顔を理解するために、「IoT」や「3Dプリンター」、「シェアリングエコノミー(UberやAirbnbなど)」、「5G問題」「AIタクシー」「遠隔医療」「スマートシティ」などの具体的なケースを通して、最新の動向や、世界を制するプラットフォーム企業(GAFA VS BATH)についても考察する。最後に、「第4次産業革命」「世界の覇権交代」など歴史的な位置づけについて、理解を深める。	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部経営学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
学科科目	自由選択科目	ICT英語	本科目では、際化時代に対応するビジネスパーソン育成のため、ICTを使用した様々な方法でICTに関するビジネス英語について講義する。本科目において用いるツールとしては、音声認識機能の使用、チャットボット（ビジネスのためのAI）の作成と使用、ゲーム化した感覚反復データベースの英語で活用する。ICTに関する英語を知り、ツールを使いこなすことで、ビジネスの現場感覚を養い、国際社会で活躍できる人材の育成を目的とする。	講義20時間 演習10時間
学科科目	自由選択科目	アスリートキャリア1	本科目は、講義科目である。 本科目では、競技力の向上に努めているアスリート学生を主対象として、卒業後の理想的な進路と、それを実現するために在学中にすべきことを整理するための講義を行う。受講生は、経済産業省が提唱した「社会人基礎力」をふまえ、その内容を理解するとともに、重要性やスキルの修得方法について学ぶ。併せて、グループワークや受講生座談会などの実践的な取り組みを通して、学生の社会人基礎力の向上を図る。	
学科科目	自由選択科目	アスリートキャリア2	本科目は、講義科目である。 本科目では、「アスリートキャリア1」での成果をふまえ、アスリート学生が在学中に学業と競技を両立して、卒業後に望ましいキャリアを形成するための講義を行う。講義は、以下の4部で構成し、授業を通してロールモデルを参考にしながら、他者と協力して課題を解決する力や、卒業後の進路やセカンドキャリアにおいて必須となるスキルの修得へ向けての学びを蓄積する。 ①元アスリートの講話 ②グループワーク ③社会人基礎力の養成 ④課題発表	
学科科目	自由選択科目	アパレル産業論	本科目は、講義科目である。 本科目では、アパレル産業の全貌について、以下の3点を講義する。 ①世界アパレル産業の貿易構造および売上高や利益率等の企業別世界ランキングを概観することで生産国基準ならびにブランド・メーカー基準の国際競争力を明確にする。 ②アパレル製品がどのようにして生まれるのか、ファッショントレンドの発生からデザインを経て、製造・販売されるまでの流れに関わる各企業の働きを具体的に明らかにする。 ③主に日本国内のアパレル関連産業の歴史を意識しつつ、それぞれの時代を代表する企業とそのビジネスモデルについて解説する。	
学科科目	自由選択科目	アメリカビジネス論	本科目は、講義科目である。 本科目では、20世紀以降に登場したアメリカにおけるビッグビジネスの形成過程から21世紀の最新のビジネスまでの歴史的变化を見ることによって、絶えず世界をリードしてきたアメリカビジネスの特徴について講義する。特に高度経済成長期のフォードシステムに代表される大量生産方式、IT革命を主導したやウインテルなどのICT企業の成長、更には21世紀におけるデジタル革命とGAFに代表されるプラットフォームの台頭など、各時代の代表的なアメリカビジネスとビジネスモデルの成長と衰退要因、今後の発展方向について理解を深める。	
学科科目	自由選択科目	アンケート調査と分析	本科目は、講義科目である。 本科目では、「0,1」または「1,2」などの2値データについて講義する。これらを学ぶことで、離散系データや名義変数、季節変動や性別・年齢・地域等の特性についての分析力を修得する。得られたデータを集計し、基本統計量(サンプル数、平均、分散、最大値、最小値など)として処理するスキルを体得する。講義を通して、従来からの記述統計(簡単な表やグラフ)にとどまらず、異なったデータ群との比較や、因子の発見、項目ごとの相関など数理統計による分析方法も学ぶ。	
学科科目	自由選択科目	インターネットマーケティング	本科目は、講義科目である。 本科目のテーマは「本質を見抜く」である。インターネットによってマーケティング活動の変化を考察し、洞察力を身に着けるための講義を行う。インターネットによってマーケティング活動は大きく変わったと言われるが、そうした中で、変わったこと、変わらないことを見つけ出し、マーケティング活動の本質について講義する。受講生は、デジタル社会のマーケティング、デジタル社会の消費行動、デジタル社会のビジネスモデル、デジタル社会の基本理念、デジタル社会の製品戦略、事例研究を学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部経営学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
学科科目	自由選択科目	インテリアデザイン	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、インテリアデザインについて学ぶ。インテリアコーディネーター資格試験の1次学科試験のインテリアデザイン分野の内容を題材として講義を行う。インテリアデザインをテーマとし、インテリアに関する基礎知識を修得することを目指す。インテリアコーディネーター資格試験の1次試験のインテリアデザイン分野（構造・構法1、構造・構法2、材料1、材料2、環境工学1、環境工学2、住宅設備1、住宅設備2、照明1、照明2、表現技法、建築関連法規、消費者関連法規）の理解を深めることを授業の到達目標とする。</p>	
学科科目	自由選択科目	インテリアデザイン実践	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、サービスロジックの観点から、店舗マネジメントにおけるインテリアの重要性について講義する。受講生は、特に以下の2点を修得する。</p> <p>①インテリアコーディネーターに求められるインテリア図面を読む ②自分の提案するインテリア空間を図面やパースで表現できる基礎的能力の醸成</p> <p>これらの学びをふまえ、インテリアコーディネーター2次試験の製図試験の課題を想定し、基本コンセプトの作成、プランニング（計画立案）、プレゼンテーション（提案）に関する基礎的能力を修得する。</p>	
学科科目	自由選択科目	インテリアビジネス	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、本講義では家具を中心としたビジネスに焦点をあてることで五感を意識したマーケティングからのビジネスについて講義する。インテリアビジネス業界は海外有力企業の日本市場への進出により、また既存の家具店に加え、ホームセンター、海外並行輸入業者の台頭によりビジネスとしては非常に厳しい状況となっている。こうした時代において必要とされるビジネスについて学ぶ。特に、インテリアビジネスを行うにあたり重要なことは日本のインテリアの歴史、西洋のインテリアの歴史、インテリアオーナメント、エクステリアエレメント、テーブルウェア、ベッドウェアの本質を身に付けるとともに、人間工学的な知識も修得する。</p>	
学科科目	自由選択科目	エンターテインメントビジネス	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、エンターテインメントについて幅広く学び、日本のエンターテインメントとその消費に関する知識について講義する。特に、映画、音楽、ショービジネス、テーマパークを対象に、ビジネスモデルの違いや共通点を理解する。具体的には、エンターテインメントの歴史とその消費、映画と音楽とショービジネスの関わり、テーマパークの歴史と産業の全体像、テーマパークのビジネスモデル、映画と音楽とショーとテーマパークの関わり、エンターテインメントと統合型リゾート、エンターテインメントビジネスのまとめから構成することで受講生のより一層の理解を図る。</p>	
学科科目	自由選択科目	コーチング論 1	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、「コーチング」をスポーツ活動でコーチが担う仕事として広く捉え、スポーツの普及や強化という観点からコーチが果たす役割について講義する。受講生は、コーチのリーダーシップと組織（チームやクラブ）のマネジメントに焦点を当て、学業や就職活動といったスポーツ以外の場面でも役立ち得る考え方や理論を学ぶ。その過程で、スポーツ場面における事例を通して、指導する立場の人（コーチなど）の役割についての理解を深めると共に、スポーツ以外の場面でもリーダーシップを発揮し、組織の目標達成に貢献するための素養を修得する。</p>	
学科科目	自由選択科目	コーチング論 2	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、アスリートが成長する過程で生じる諸問題に着目し、それらを解決するために求められるコーチの役割について講義する。まず導入として競技力を向上させるためのチームマネジメントについて学び、次に、トップアスリートの育成・強化に関連する理論や考え方、現場での取組みについて学ぶ。後半は、データを活用したコーチングや北米で普及している競技者育成プログラムについて理解を深める。最終的には、受講生自身が指導者になったと想定し、実践的な育成計画を作成する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部経営学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
学科科目	自由選択科目	コンテンツビジネス	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、コンテンツビジネス(出版・音楽・映画・ゲームなどの著作物の制作および流通に関するビジネス)の概要と、ビジネスの課題等の事例について講義する。受講生は、先ずコンテンツビジネスおよび著作権の概要を学び、続いて、コンテンツビジネスの中でも、出版、音楽、映画、ゲーム、配信を中心にその概要と事例について学ぶ。それぞれのコンテンツビジネスのビジネスモデルの特徴、コンテンツビジネスの現状と課題、ビジネス環境の変化と今後の展望等について理解を深める。</p>	
学科科目	自由選択科目	サービスビジネス	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、理論と事例の両側面から、サービスビジネスに関する専門的知識を修得するための講義を行う。現代はサービス経済化した社会といわれている。日本では、GDPの約7割をサービス産業に依存し、サービス産業の就業者数が全勤労者の7割近くを占め、家計消費に占めるサービス比率が5割に達している。しかしながら、日本のサービス産業では、生産性の低さやグローバル展開の遅れが課題となっており、サービス・マネジメントやサービス・マーケティングに精通した人材が求められていることへの理解を深める。</p>	
学科科目	自由選択科目	サービスマーケティング論	<p>本科目は、講義科目である。サービスの経済化が進んだ今日、人々は日々数多くのサービスを経験している。特にIT産業の発展に伴う新たな技術やサービスが登場し、これまでにないすべての製品やサービスが携帯電話やスマートフォンから購入できるしくみが出来上がっている。まさしくサービスマーケティングの世界の登場である。本講義ではサービスの本質である無形性・不可分性・非均一性・非貯蔵性といった特長を押さえつつ、従来の4つのPに加え、Personal(人員)/Process(販売プロセス)/Physical evidence(物的証拠)からなるサービスの3つのPを学ぶことで、より深いマーケティングの世界を探究することになる。</p>	
学科科目	自由選択科目	ストアオペレーション	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、小売業態の特性の差異を通して、ストアオペレーションについて講義する。受講生は、実店舗を運営する各種小売事業者が、店舗運営サイクルを通じて実施する経営管理活動や、リテールマーケティングの分野について学ぶ。特に、店長や販売組織成員の視点から「人」「商品」「ファシリティ(施設)」の3分野の管理について学ぶことで、それぞれ要員配置・仕入販売計画、VMD・店舗レイアウト、エネルギー・クレンリネス等(ビル管理)の各論の要諦を明らかにする。また、低コスト経営やタウンマネジメント等の発展課題についても理解を深める。</p>	
学科科目	自由選択科目	スポーツと社会	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、スポーツが社会とどのような関わりを持って発展してきたのか、これからどのように発展していくと考えられるかについて講義する。</p> <p>受講生は、スポーツが社会に大きな変化をもたらすことと、社会情勢がスポーツに与える影響の相互の関係性について学ぶ。併せて、スポーツを取り巻く社会環境の複雑性と、そこでの問題点について把握する。これら、スポーツと社会の関係性について理解し、肯定的にも否定的にも「批評」できるスキルの修得をする。</p>	
学科科目	自由選択科目	スポーツビジネス	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、多岐にわたるスポーツとビジネスのかかわりについて、「スポーツビジネス」とは何か、どのような企業(組織)がどのような形でスポーツと関わっているのかについて講義する。受講生は、スポーツ用品産業やスポーツイベントに関連したビジネス、スポーツ施設の建設及び経営等について学ぶ共に、理解を深める。その上で、特に日本のサッカーと野球を題材として、スポーツビジネスに関する総合的な分析を講義する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部経営学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
学科科目	自由選択科目	スポーツビジネスキャリア	本科目は、講義科目である。 本科目では、講義前半は日本におけるプロサッカーリーグに焦点を当て、各分野の担当者を招聘し、プロスポーツクラブの組織、具体的な業務内容、現在の課題や今後の発展などについて講義を行う。講義後半はクラブやリーグを外側から支えるスポーツ業界の専門家を招聘し、実際に実施されている生のスポーツビジネスの現場についての見識を深める。講義で基本的なスポーツビジネスの基礎を学ぶことに加えて、実際に現場で業務に携わる講師から、現在のリーグやクラブ、スポーツ業界が持つ問題や課題を聞き、その改善方法について学ぶ。	
学科科目	自由選択科目	スポーツ組織論	本科目は、講義科目である。 本科目では、スポーツの現場で活躍するプロフェッショナルを招聘し、生の声を聴くことでスポーツ組織のあり方や発展の展望について見識を深めるための講義を行う。具体的には、バスケットボールやサッカーなどのプロスポーツビジネスに関わっている方や、スポーツデータ分析会社の分析担当、スポーツ会計士、トップアスリートのエージェントなど、多様なフィールドで働いている講師を招聘し、スポーツ組織の理解を深める。 学修した内容や、そこで興味を持って自ら行動した経験などを自分自身の職業選択に役立てるとともに、様々な場面で意思決定するための力を修得する。	
学科科目	自由選択科目	テキストマイニング	本科目では、テキストデータ（有価証券書、新聞、先行研究論文、WEB記事、SNS上でのつぶやき等）の分析について講義する。受講生は、市場や企業の動向を知る上で重要となってきたこれらのデータ分析の方法を修得する。PCの性能向上やソフトの画期的な発達によって、複雑なプログラミングや煩雑な手続きを経なくても、直観的・視覚的に学べるようになった現状を把握することで、SPSS等の最新ソフトを用いて、企業や業界のトレンドを知り、マッピングについて学ぶ。	講義20時間 演習10時間
学科科目	自由選択科目	デジタルコミュニケーション	本科目は、講義科目である。 本科目では、デジタルコミュニケーション技術が進展している現代において、経営もまた大きく変化していることについて講義する。情報伝達技術は「ヒトとヒト」だけでなく、「ヒトとモノ」、「モノとモノ」をも結ぶ技術になっている。受講生は、利用できる情報通信サービスを概観し、デジタルコミュニケーションの実態をケースを交えて理解する。また、情報ネットワークを活用した文字、音声、画像、映像からなる技術変化が、企業組織や個人にとってどのように今日のDX化をもたらすのか、さらにSociety5.0の時代展望を把握する。	
学科科目	自由選択科目	ファッションとIT	本科目は講義科目である。 本科目では、ITとファッションの第一線で活躍する人材から各業界の実情を聞きながら、ITとファッションが時代の変遷とともにどのように変貌してきたかについて講義する。ITとファッションには、観点を交えるだけで類似性を見出せる。それらはともに、鋭く時代のモードを反映しながら進化しつづけている。ITはビジネスに必須のツールであるが、外観を彩るファッションも同様に、社会人としての信頼性を勝ち取るための不可欠の要素となる。両者を有効に活用することで、ビジネスチャンスが生まれることを理解する。	
学科科目	自由選択科目	ファッションビジネス	本科目は、講義科目である。 本科目では、ファッションビジネスの仕組みの歴史と現在について基礎的な知識を修得できる講義を行う。同時に、本講義は、様々な事例の紹介を通じて、ファッションビジネスの世界を多角的で柔軟な視点からの学びを積み上げていく。「服」や「流行」がどのような仕組みに基づいて生み出されているのかを把握すると共に、現在のファッションビジネスが直面している問題や課題を学ぶ。併せて、現在のようなファッションビジネスの仕組みができあがるまでの歴史についても修得する。	
学科科目	自由選択科目	ファッションビジネス実践	本科目は、講義科目である。 本科目では、講義テーマを「ファッションのリアルビジネスを知る」とする。到達目標はグローバル化したファッションビジネスの世界におけるファッションマーケティングやブランディング戦略、最新情報を学び理解することである。併せて、講義ではファッションビジネスの第一線の経営者および実務執行者の話を聞くことで、ファッション業界の将来を考察する機会とする。本講義を通して、受講生のキャリアアップに結びつけるために、ファッション業界の最新状況を具体的な事例に対して、講義内では受講生との質疑応答の時間をとり、双方のディスカッションを行い、ファッション業界における将来的な課題抽出と解決方法を修得する。	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部経営学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
学 科 科 目	自由 選 択 科 目	ファッションマネジメント戦略	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、ファッション企業の多様なマネジメントの本質に焦点を当て、身近な人気ブランドの事例をとおして、その特徴的な差別化された経営戦略と、顧客志向マネジメントの重要性について講義する。ファッションは、これまでさまざまなトレンド（流行）を生み出し、消費社会において中核をなすとともに、カルチャー（文化）もリードしてきた。近年では、ファッションの定義がライフスタイルといえる、衣・食・住の領域まで拡張し、もともと生活に密着した学びを通して、ファッションマネジメント戦略を修得する。</p>	
学 科 科 目	自由 選 択 科 目	フードビジネス	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、フードビジネスに関する基礎的な専門知識を修得するとともに、課題の発見および解決能力を養成する講義を行う。日本では、女性の社会進出、単身世帯の増加、高齢化の進行、生活スタイルの多様化等を背景に、家庭内で行われていた調理や食事を家庭外に依存する状況、すなわち「食の外部化」が進展してきた。それに伴ってのフードビジネス（外食・中食）市場は成長を続け、今日では日本の一大産業となっている。フードビジネスは参入障壁が低く、市場への新規参入が容易であるが、競争が激しいという特徴がある。さらに、近年では人口減少による需要の縮小、フードビジネスの過当競争、消費者ニーズの多様化・高度化、人手不足といった課題が顕在化し、フードビジネスにおいてもマーケティングやマネジメントといった視点が不可欠なものとなっている。これらを学び、理解を深める。</p>	
学 科 科 目	自由 選 択 科 目	ブライダルビジネス	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、ブライダルビジネスの基本的な仕組みを理解することを目的とする。ビジネスとして成立するブライダルビジネスの全貌について以下の3点から講義を行う。</p> <p>①ブライダルの産業としての動向・仕組みを理解する。 ②ブライダルにおける進行、慣習、演出、スケジュールなど基本的な知識を修得し、ブライダル業界の現状を学ぶ。 ③顧客への提案方法などを実習を交えて学修し、総合的にブライダルを理解する。</p> <p>上記の3点から、ブライダルに関する基本となる知識を広く修得すると共に、その仕組みを理解し、実務能力の基礎を養成する。</p>	
学 科 科 目	自由 選 択 科 目	ブライダルマネジメント	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、ブライダル産業の環境やその変化をデータより分析し、今までの歴史、結婚式・披露宴のその変遷と特徴、顧客のニーズと動向について講義する。受講生は、ブライダルにおける価格相場を知り、産業としてのマーケットを理解する。それぞれの結婚式スタイルごとの特徴を学び、その利点と今後について理解する。ブライダルの商品やサービスを分析し、新たな顧客ニーズを踏まえて今後のブライダル産業についての考察力を修得する。</p>	
学 科 科 目	自由 選 択 科 目	ブライダル実務	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、ブライダルの現状を理解した上で、ブライダルに関わる現場の基本的な仕組みを理解し、ウェディングプランナーとしての基本的な知識と仕事内容について講義する。ブライダルにおける衣装や装花などの基礎知識をはじめ、それぞれの現場に携わるスタッフの役割を理解すると共に、ウェディングプランナーとしての役割について考える。挙式や披露宴の種類や内容について理解した上で、コーディネート、プランニングの実習を行う。また知識だけでなく、ブライダルをビジネスとして扱うことの意味を考えウェディングプランナーとしてのコミュニケーション能力やホスピタリティも修得する。</p>	
学 科 科 目	自由 選 択 科 目	ブランドビジネス	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、ブランドを有する企業の事例を学び、ブランドビジネスの本質を講義する。ブランドはそれぞれの歴史・文化や風土・創業者の大きなビジョンとパッション・消費者のロイヤリティ・独自の経営方針などが色濃く反映され、ビジネスとして成立している。その際に重要なことは、さまざまな状況の下でのブランド価値の捉え方・考え方である。日本は、世界で最も消費者の目が厳しく、そのため品質管理も厳格さが非常に高レベルで要求されている。こうした背景について理解を深める。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部経営学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
学 科 科 目	自由 選 択 科 目	ブランドマーケティング	本科目は、講義科目である。 本科目では、消費者が何かを買おうとした時、ふと頭に具体的な商品群（商品名、会社名、品質等）を思い浮かべることが多いというブランド・マーケティングの視点から、主としてラグジュアリー・ブランド企業や、ファッション・ブランドの事例を交えて講義する。優れたブランドとは、この思い浮かべられる商品群といえる。企業は、この優れた商品群に入るためにさまざまな「ブランド価値創造」へのアプローチを多くの経営資源を投入して日々行っていることについて理解を深める。	
学 科 科 目	自由 選 択 科 目	プロスポーツビジネス	本科目は、講義科目である。 本科目では、世界と日本のスポーツ組織の構造の違いや、スポーツビジネスの現場で実際に起こっている具体的な取り組みについて講義する。具体的には、アメリカの4大リーグとメジャーリーグサッカーや欧米のサッカーリーグとクラブなどで行われている実際のビジネスについて理解を深める。このような事例を使って、それぞれ決められたスポーツマネジメントの事象について分析できるスキルを修得する。この過程で、実際に現場で応用できるスポーツマネジメントの知識について学ぶ。	
学 科 科 目	自由 選 択 科 目	ベンチャービジネス論	本科目は、講義科目である。 本科目では、ベンチャー企業の革新的行動に注目することによって、知見を深めていく。特に、めまぐるしい環境変化によって、大企業や長い伝統を持つ企業が危機的状況に陥る中で、同じ環境の変化をビジネスチャンスととらえ、成長・発展を遂げているベンチャー企業の本質を探究する。授業では、ベンチャー企業に関する基礎的な知識、大学発ベンチャーの意義、産学連携のあり方などを中心として講義を進める。また、ケース・スタディを取り入れるとともに、受講生にも実際にビジネスプランの作成を課し、実践力の養成を試みる。	
学 科 科 目	自由 選 択 科 目	ホスピタリティマネジメント	本科目は、講義科目である。 本科目では、理論と事例の両側面から、ホスピタリティマネジメントに関する専門的知識を修得するための講義を行う。日本ではホスピタリティという概念に「おもてなし」「思いやり」「サービス」というイメージが定着している。しかし、日本人はきめ細かいホスピタリティ精神を持っているにもかかわらず、海外には日本初のホスピタリティが通用しないという状況に陥っている。今後、日本のホスピタリティの発展には、直感的な「おもてなし」ではなく、科学的な「ホスピタリティ」が不可欠である。これらを学び、修得する。	
学 科 科 目	自由 選 択 科 目	ホテルビジネス	本科目は、講義科目である。 本科目では、日本社会が人口減少、国内産業の空洞化、地方衰退という閉塞状況にあって、観光が地域経済の活性化や雇用の創出等に非常に大きな役割を果たす事について講義する。受講生は、ホテル・旅館の、観光地における役割について学ぶと共に、その経営的側面における様々な問題について把握する。ホテル・旅館の持続的な発展、ひいては観光産業の振興にあたって、ホテル・旅館ビジネスに関する基礎的な専門知識と、課題の発見および解決方法を学ぶ。	
学 科 科 目	自由 選 択 科 目	マーケティングリサーチ	本科目は、講義科目である。 本科目では、マーケティングリサーチの本質を学ぶことを目的として、マーケティングに必要な知識および技術を身につけるための講義を行う。最終的な到達目標は「自ら考え行動できる自律型人材」の育成にある。マーケティングリサーチを学ぶとは、不確実性を埋めるための理論を修得することでもある。それゆえ、マーケティングは市場対応に即した思考方法が求められる。したがって、マーケティングリサーチに関する知識や技術の修得のみならず、実践編としての従来型の基本的な市場調査方法、および統計処理並びに新しい消費者行動へのアプローチ手法を身に付け、自ら経験を通して、消費者行動論とは何かについての理解を深める。	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部経営学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
学科科目	自由選択科目	マーケティング実践	本科目は、講義科目である。 実社会のビジネス現場においては様々な知識・技能が要求される。産業社会の成熟化や情報化社会の進展により、その内容は益々多岐にわたる。斯かる状況を踏まえ、本講義ではビジネスの世界へ踏み出すにあたり、必要となる知識・技能について多角的に学ぶ。消費者の心理、嗜好を的確に捉え、対応していくためには、より洗練されたマーケティング理論と実践をより深く学び、同時にケーススタディを通じてビジネス実践につなげる方法論を学ぶ。その際に、関連する学問領域として行動経済学や社会学、心理学といった学問の基礎を取り入れる。到達目標としては、多面的な学びから「アナロジカル思考」を身に付け、ビジネス実務に関する幅広い知識と経験を積み、それらを「自分自身の言葉」として表現できる能力を修得するところに置く。	
学科科目	自由選択科目	マーケティング論	本科目は、講義科目である。 本科目では、マーケティングの基礎を体系立てて講義する。授業では、企業事例をビデオ教材などを用いて講義をすすめる。受講生は、マーケティングへの理解を深めながら、分析力・洞察力の向上を図る。具体的には、価値と機能、マーケティングマネジメントとは何か、STP、ポートフォリオ、製品戦略、価格戦略、販売プロモーション、流通戦略、サプライチェーンマネジメント、カスタマーリレーションシップマネジメント、マーケティングリサーチ、ブランド、社会的責任、事例研究(セブン・イレブン・コカ・コーラ・アマゾン)について講義する。	
学科科目	自由選択科目	マーチャндаイジング論	本科目は、講義科目である。 マーチャндаイジングは商品化計画(商品政策)として、適切な商品を適切な時期に適切な場所で適切な数量を適切な価格で消費者に提供するためのものである。特に、ファッションビジネスの世界では、VMD(ビジュアル・マーチャндаイジング)が消費者を惹きつける売場づくり、MDに則ったレイアウトやディスプレイ案の提示について学ぶことになる。中でもVP(ビジュアル・プレゼンテーション)はその店舗におけるブランディングにも貢献することが期待できる技法である。	
学科科目	自由選択科目	マネジメントゲーム	本科目では、財務諸表の作成方法と財務諸表の経営への利用方法を理解することを狙いとするものである。マネジメントゲームとは、受講生自身が企業の経営者になり、仮想市場において経営をゲーム形式で行うものである。ゲーム形式であるので自然と企業経営を理解することが可能となる。また、ゲーム終了後においては、自社の経営の結果を財務諸表にまとめ、自社経営の分析も行う。これらによって財務諸表の作成方法とその経営への利用方法を理解することが可能となる。	講義20時間 演習10時間
学科科目	自由選択科目	ライフスタイルビジネス	本科目は、講義科目である。 本科目では、流通と消費の関係性に関する基礎理論と、わが国の流通活動における企業の様々な経営・マーケティング活動について講義する。これらについて学ぶことによって、今後のライフスタイルビジネスに関する幅広い知識を修得する。具体的には流通と消費の関連性について、消費者行動論、消費社会論の概要を中心に学ぶ。そのうえで、企業による流通経営の基礎を学修し、実際に流通機構を構成する企業がどのような活動を行い、それが我々が実際に日常的に目にする店舗管理、商品企画、マーケティングの現場に反映されているのかを学ぶ。	
学科科目	自由選択科目	リテールマーケティング 1	本科目では、販売員として最も重要な接客マナーや販売技術といった接客業務に関する知識を学ぶ講義を行う。具体的には、企業のマーケティング戦略や店舗の運営、販売促進策などをテーマ毎に学修する。その際、意見やアイデアを順番に発言していく手法やチーム対抗型多数討論のグループワークを採用入れる。その過程では、受講生自らが消費者としての購買活動やアルバイト経験を活用しながらグループメンバーの情報を受けとめ、討議、合意形成を進める。なお、日本商工会議所が認定する「販売士3級検定(リテールマーケティング検定)」程度の知識を修得する。	講義20時間 演習10時間

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部経営学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
学 科 目	自由 選 択 科 目	リテールマーケティング2	リテールマーケティングにおいてはマーケティングの基本理論や基本的知識に加え、店舗における販売・経営管理が重要となるため、これらの知識や技術を修得するための講義を行う。具体的には小売業のマーケティングの基本、顧客満足経営の基本、商圈の設定と出店の基本、リージョナルプロモーションの基本、顧客志向型売場づくりの基本に加え、講義の後半部分では小売業の計数管理、店舗管理の基本について学修する。小売業における係数管理については、期首商品棚卸高・仕入高・期末商品棚卸高・売上高・売上原価・売上総利益から構成される売買損益計算書からビジネスの意味を知ることになる。なお、リテールマーケティング1と同様に日本商工会議所が認定する「販売士3級検定(リテールマーケティング検定)」程度の知識を修得する。	講義20時間 演習10時間
学 科 目	自由 選 択 科 目	ロジスティクス論	本科目は、講義科目である。日本の流通の特徴として、従来は小売業の零細性・過剰性・生業性、そして卸売業の多段階性が指摘されてきた。しかし、90年代の不況以降、そのあり方は消費者からの品揃えおよび低価格に対する要求の強まり、そして大手小売業者間の激しい競争へと大きく変化しようとしている。本講義では、これら大きく変化しようとしている日本の流通について、モノの流れと中間流通すなわち卸売業者の役割の変化から明らかにしていくことを目的とする。	
学 科 目	自由 選 択 科 目	異文化経営論	本科目は、講義科目である。 本科目では、人的資源管理(HRM)や組織文化論の視点からグローバル・ビジネス・コミュニケーションの特徴や諸問題について考察し、異文化経営への理解を深めるための講義を行う。具体的には、現代社会におけるダイバーシティ問題や異文化マネジメントの諸問題を取り上げ、グローバル経営における人事・組織マネジメントの意義を確認しながら、ケースを抜い一つ、それを組織や個人でコントロールするための方法論を学ぶ。	
学 科 目	自由 選 択 科 目	営業論	本科目は、講義科目である。 本科目では、欧米のマーケティング論の中にはない日本特有の営業について歴史的視点からその成り立ちについて講義する。「営業(職)」と言われると、企業においては最も重要な役割を担っているにも関わらず、ノルマや押し売り等といったイメージがあり、若者世代には人気のある職種とは言えないのが現状である。受講生は、イメージとは異なる企業と顧客・消費者を結びつける境界連結者としての役割と、営業担当者の活動から生み出される新たな価値を「価値共創」の概念について、学ぶ。	
学 科 目	自由 選 択 科 目	英語で学ぶ国際ビジネス	本科目は、講義科目である。 本科目では、現在、国際ビジネスで最も使われている言語が英語であることをふまえ、その中でビジネス特有の専門用語や業界での使用法について講義する。これらは一般的な英語学修には含まれない領域である。具体的には動画で配信されている著名な経営者による新商品発表会や、英語圏で公開されているWEBによる新聞や雑誌によるビジネス記事などを通して、国際ビジネスとそのような場面面で使われる英語への理解を深め、英語のスキルを修得する。	
学 科 目	自由 選 択 科 目	会社法	本科目は、講義科目である。 本科目では、会社法の中でも特に株式、会社機関、資金調達を中心に講義する。また、本科目では、会社法の体系的な理解を目的として、各制度の意義、趣旨等を開設するとともに、重要論点や重要判例の考察、時事問題について学ぶ。会社の設立、組織、運営、管理などについて定められた法律である会社法を理解しておくことで、経営学・会計学・マーケティングなどの授業を理解するための基礎知識を修得する。	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部経営学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
学科科目	自由選択科目	管理会計論	本科目では、管理会計の基本的な考え方、代表的な技法を講義する。管理会計とは、企業が経営管理を行う上で有用となる会計情報システムのことをいい、経営管理会計ともいわれる。企業及びその他の組織の円滑な運営に管理会計は必要不可欠である。本講義では管理会計を経営診断のための管理会計、業績管理のための管理会計、意思決定のための管理会計に分類しそれぞれ説明していく。また、理解を深めるために表計算ソフトを用いた実習も取り入れる。更に、時事的テーマについての説明も行う。	講義20時間 演習10時間
学科科目	自由選択科目	企業社会論	本科目は、講義科目である。本科目では、人材育成においては、キャリア、熟練形成のための綿密な教育訓練を十分に整備することが不可欠であることから、日本国内の「企業社会」（日本国内の労働環境、労使関係、企業組織、教育訓練）の各制度における問題点について理解することを目標とする。特に、新卒入社からの昇格・昇給に必要な仕事能力であるキャリア熟練形成と、正規雇用者中心に実施されている教育訓練が増加する非正規雇用者にも重要であることについて説明する。これらのことを通じて、日本企業の働き方、キャリア、労働に関する法律や規制、雇用慣行の問題点などについて学んでいく。	
学科科目	自由選択科目	企業分析論	本科目は、講義科目である。本科目では、企業を定量的に分析する技術を修得し、企業行動、組織、業績、株価といったさまざまな観点から、企業の実態に迫る。財務情報など現実のデータにふれながら、企業分析の基礎を学び、かつその知識を応用に結びつける能力を育成する。そのために、財務諸表の基本的な見方はもちろんのこと、財務諸表が社会に与える影響を客観的に理解するために、金融や統計の知識についても平易に解説する。与えられた数値を適切に加工することによって、企業に関する理解を飛躍的に高める。	
学科科目	自由選択科目	企業論	本科目は、講義科目である。本科目では、企業を対象として、その誕生、存在理由、発展過程などについて、以下の3点を中心に講義する。 ①企業の大規模化と、株式会社の仕組みやコーポレートガバナンスの論点について説明する。 ②日本の経営について概説し、高度経済成長を牽引してきた日本企業の特徴について理解する。 ③近年の企業の課題である企業の社会的責任(CSR)や世界的な潮流となりつつある持続可能な開発目標(SDGs)への対応について説明する。これらを通じて、多くの人の生活基盤となっている企業の特徴について多角的かつ総合的な視点で理解することがこの授業の目標である。	
学科科目	自由選択科目	基礎数学1	本科目では、AI・データサイエンスの導入のための数学、またビジネスのための入門の数学、さらに社会に出た時に役立つExcel技術の修得を目標としている。講義では、数学の基礎的な事項を説明した後に、AI・データサイエンスの要になる微積分の初歩的な事項、利率計算や成長率などビジネスに関連のある事項を、実習形式で学んでいく。この科目を履修することによって、(1)経営・会計・金融等、社会科学や生活と関連の深い事柄に関する知識と計算能力、(2)AIやデータサイエンスを学ぶための数学的準備、(3)採用試験の筆記試験を突破できる集合や論理の基礎力、(4)Excelの各種関数やグラフ描画・ピボットテーブルなど重要な機能の使い方等を修得する。	講義20時間 演習10時間
学科科目	自由選択科目	基本簿記1	本科目は、講義科目である。本科目では、「ビジネスの言語」としての会計情報がどのように作成されるかについて講義する。そのためには、まず企業の情報システムとしての複式簿記の基礎を修得しなければならない。本講義では、この複式簿記の基本的理解を深めることを目的とし、日商簿記検定3級の取得を視野に入れて学修を進め、日商簿記3級の前半部分を説明する。具体的に講義で取り扱う内容は、簿記の目的、貸借対照表の構造と考え方、損益計算書の構造と考え方、基礎的な仕訳と転記である。簿記を理解するには、地道な努力の積み重ねが何にも増して求められるが、テキストと問題集をうまく活用することで、簿記の根本を説明する。	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部経営学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
学 科 科 目	自由 選 択 科 目	基本簿記 2	本科目は、講義科目である。 本科目では、「ビジネスの言語」としての会計情報がどのように作成されるかについて講義する。受講生は、企業の情報システムとしての複式簿記の基礎を修得する。本講義では、基本簿記1に引き続き、複式簿記の基本的理解を深めることを目的とし、日商簿記検定3級の取得を視野に入れて学修を進め、日商簿記3級の後半部分を説明する。具体的に講義で取り扱う内容は、手形、債権と債務、有形固定資産、決算の手続き等である。簿記を理解するには、地道な努力の積み重ねが何にも増して求められるが、テキストと問題集をうまく活用することで、簿記の根本をわかりやすく説明する。	
学 科 科 目	自由 選 択 科 目	金融テクノロジー	本科目は、講義科目である。 本科目では、先端テクノロジーによる金融業界の変化とそれが持つ可能性を理解することを目的とする。デジタル化やデジタルトランスフォーメーション (DX) という言葉が聞かれるようになって久しい現代、DXは金融業界にも変革を迫っている。金融業界では、金融 (Finance) と技術 (Technology) を組み合わせた「Fin Tech」がDXにあたる。FinTechは、我々の生活の利便性を向上させるだけでなく、これまで解決が後回しにされてきた貧困や格差問題の改善に対しても変化を与えることが可能である。受講生は、こうした新しい技術を理解し、その活用次第で世界の抱える問題にも取り組めることを知ることで、視野の拡大へ向けての学びを修得する。	
学 科 科 目	自由 選 択 科 目	金融概論	本科目は、講義科目である。 本科目では、①実社会における銀行をはじめとする金融機関の役割を理解すること、②我々の日々の生活が金融の世界の中にあることを理解し、金融を通じて自身の長期的な将来をイメージできるようになること、③金融の知識を深めより正しい行動を意識できるようになることを目的とする。我々の生活と金融の関係を理解することで、現在世の中で起こっていることや過去に起こったことを理解しやすくなり、学生のみなさんは、より広い視野を持って生活することができるようになる。そのため、本講義では、実社会における金融の役割を総合的に学習する。	
学 科 科 目	自由 選 択 科 目	経営学特別講義 1	本科目は、講義科目である。 本科目では、お茶を通じて、中国・インドなどのアジア地域と、ポルトガル、イギリス、アメリカなどの欧米諸国が交錯するビジネスの歴史について講義する。イギリス東インド会社による中国茶の輸入独占がきっかけとなるアメリカ独立戦争、輸入独占廃止によるイギリスとの貿易不均衡が原因となるアヘン戦争など、世界のビジネス史を語るうえではお茶との関わりは欠かせないものであることへの理解を深める。	
学 科 科 目	自由 選 択 科 目	経営学特別講義 2	本科目は、講義科目である。 本科目では、前半は基礎として野菜・果物の生産から流通までを講義する。野菜の個性や良品の見分け方、調理方法などを知り、その展開として野菜・果物の健康との関わり、西洋野菜と洋食、伝統野菜と食文化、野菜と人との関わりを学び、健康的な野菜摂取のための理解を深める。後半は、食に携わる職業人について講義する。視野の拡充と構築のために、授業と関連ある飲食店や市場、施設を紹介することで、店舗への付加価値としてのブランド化について学ぶ。	
学 科 科 目	自由 選 択 科 目	経営学特別講義 3	本科目では、実践演習を交えて、ビジュアル・マーチャンダイジング (VMD) について学ぶ。VMDとは「マーチャンダイジング＝商品化計画」と「ビジュアル＝視覚化」を指す。受講生は、講義を通して店舗の前を通るお客様に“店舗のコンセプトを呼びかける声の視覚化”と、店舗とお客様とのコミュニケーション方法について学ぶ。特に本講義では、自分の考えをデザイン化し、VMDで重要とされる様々な角度からの理解、そしてそれを表現する方法を学ぶ。それによって、新しいトレンドを創っていくスキルを修得する。最終的には、追いかけるデザインではなく、時代に合った新しいデザインや世界観の提案ができる能力を修得する。	講義20時間 演習10時間
学 科 科 目	自由 選 択 科 目	経営学特別講義 4	本科目では、「ビジュアルマーチャンダイジング実践1」での成果をふまえ、実践演習やグループディスカッションを中心に、時代背景にあった生きたデザインについて講義する。受講生は、ヒアリングやコミュニケーションの実践を行い、自分で提案していく中で、自他の認識の違いも確認しながら、店舗デザイン・VMDに必要なパブリックデザインについて学ぶ。コミュニケーション能力を養い、時代と社会にあったデザインと世界観の提案が出来る能力を修得する。	講義20時間 演習10時間

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部経営学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
学 科 科 目	自由 選 択 科 目	経営学特別講義 5	本科目は、講義科目である。 本科目では、領域横断的に独自のライフスタイルを構築し、観光、地域振興、地方創生、イベント、SNSマーケティング、セルフブランディングと活動領域、パフォーマンスについて講義する。受講生は、現代はさまざまな仕事が増えることによって省力化され、近い将来にはAIに代替される仕事が増えることを把握する。人々は労働から解放され、娯楽などの余暇が増えライフスタイルの多様化する未来が描かれることをふと共に、観光ビジネスの観点から、SNS活用、マーケティングとの関連などを考え、また、世界遺産や聖地巡礼等についても理解を深める。	
学 科 科 目	自由 選 択 科 目	経営管理論	本科目は、講義科目である。 本科目では、受講生が経営管理に関する主要な概念を説明することができるようになること、それによって経営管理論の全体像を把握することを目標とする講義を行う。経営管理とは、何らかの目的を達成するために、人々に働きかけて協働を促進し、外部環境に適応しようとする活動である。このような広域な考え方を理解するためには、企業経営の様々な概念を体系的に学ぶことが重要となる。具体的には、方針や計画を決める活動、人々を組織して導く活動、さらに成果を評価して必要に応じた改善を行う活動等を学ぶ。	
学 科 科 目	自由 選 択 科 目	経営財務論	本科目は、講義科目である。 本科目では、経済や金融環境を把握する方法、そのような金融環境下において最適な資金調達方法、調達した資金の運用方法について説明する。また、プロジェクトに投資するための意思決定方法や企業の買収・合併などに伴う一連の手続きについても説明する。経営財務論は、企業が行う資金を調達活動と、調達した資金を運用するための活動についての学問である。企業は銀行借入、社債の発行、株式の発行など様々な方法で資金を調達する。また、その時の金融環境に応じて、最適な資金調達方法を模索する。	
学 科 科 目	自由 選 択 科 目	経営実践講座 a	本科目は、講義科目である。 本科目では、中小企業の経営者を招聘し、中小企業の経営者が変わりゆく経済環境の中でいかに経営活動を進め、存立・維持・発展を実現しているかを体感することが主な狙いである。本授業では、地域や社会への寄与を重視した企業群が講義を担当する。最終的には、「中小企業とはどのようなものか」、「経営者(社長など)の役割は何か」、「社会に出て働くとはどういうことなのか」などについて受講生が学んでおくべき企業や社会の基本的な事項について理解することを目標とする。	
学 科 科 目	自由 選 択 科 目	経営実践講座 b	本科目は、講義科目である。 本科目では、中小企業の経営者を招聘し、中小企業の経営者が変わりゆく経済環境の中でいかに経営活動を進め、存立・維持・発展を実現しているかを体感することが主な狙いである。本授業では、自社技術力や従業員の働き方への寄与を重視した企業群が講義を担当する。最終的には、「中小企業とはどのようなものか」、「経営者(社長など)の役割は何か」、「社会に出て働くとはどういうことなのか」などについて受講生が学んでおくべき企業や社会の基本的な事項について理解することを目標とする。	
学 科 科 目	自由 選 択 科 目	経営情報論	本科目は、講義科目である。 本科目では、製造、販売、購買、人事など多岐にわたる企業経営と情報の関係性を理解することによって、経営情報システムのあり方や展開方法についての知見を深めるための講義を行う。我々の行動は、何らかの計画にしたがって実行され、その実行に伴って結果が生じる。受講生は、行動が計画や結果といった情報と一体となって進行することを学ぶと共に、企業における経営活動においては、経営と情報が一体化するという傾向について理解を深める。さらに、ネットワークインフラの整備などを含む近年の情報処理技術の進展に伴って、企業経営においては情報管理にとどまらず、戦略的に情報活用されていることを把握する。	
学 科 科 目	自由 選 択 科 目	経営組織論	本科目は、講義科目である。 本科目では、経営学の重要な視点である組織について講義する。一般的に我々は組織の中で生まれ、組織によって教育され、たいていの人はその生涯の大部分を組織のため働くことに消費する。本授業では、企業組織の設計運用と、組織のなかで働く人の組織行動の基本を学びながら、企業経営における組織マネジメントの戦略的重要性について理解することを目標とする。特に、経営戦略論の基本的な考え方を取り入れた組織デザイン(構造設計)論と、組織行動論のコア・コンセプトを中心に解説する。また、必要に応じて事例研究を行い、理解を深める。	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部経営学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
学科科目	自由選択科目	経営統計学 1	本科目は、講義科目である。 本科目では、各種業界や経済全体に関する統計資料（マクロデータ）、個々の企業の業績評価や内部データ（マイクロデータ）を扱いながら、統計・データを把握・吟味し、また統計諸手法を講義する。具体的には、ビジネス・パーソンが知っておくべき主な統計や指標の見方などを知り、推測統計学の手法をふまえてビジネスで利用されている基本部分を理解し、受講生自身がこれらの統計データを用いて分析し、解釈する力を修得する。	
学科科目	自由選択科目	経営統計学 2	本科目は、講義科目である。 本科目では、代表値・度数分布表とヒストグラム、母集団・標本と確率、正規分布とそのビジネスへの応用の基本、標本統計量と母集団統計量、標本サイズと標本平均の分布、中心極限定理と推定の方法、母平均・比率の推定と検定などの理解と実践的手法について講義する。具体的には、「有効求人倍率」・「家計調査」・「完全失業率」・「消費者物価指数」・「日銀短観」・「企業物価指数」・「法人企業統計」・「法人企業景気予測調査」・「景気ウォッチャー調査」・「消費動向調査」・「景気動向指数」・「機械受注」・「鉱工業生産・出荷・在庫指数」・「第3次産業活動指数」・「住宅着工統計」・「マンション契約率」・「倒産集計」などのデータを通して、経営統計学への理解を深める。	
学科科目	自由選択科目	交通サービス論	本科目は、講義科目である。 本科目では、下記に掲げる将来ビジョンも盛り込んで、受講生にはこれまでに学修したマーケティング理論を活かした、具体的なサービス開発、展開について講義する。不可避の少子高齢化と共にパンデミック認定されたコロナ禍により、現状のメインの収益源（利益源）である「都市交通（電車、バス、タクシー）」並びに「不動産分譲」は、長期低落傾向に拍車がかかる。したがって、利用客、沿線住民以外の顧客開拓が必須となる。このような視点から、マーケティングを考える重要性の理解を深める。	
学科科目	自由選択科目	工業簿記	本科目は、講義科目である。 本科目では、製造業で利用されている工業簿記の基本的な仕組みについて講義する。商業簿記は卸売業や小売業を対象とした簿記であったのに対し、工業簿記は製造業を対象とした簿記である。本講義は製造業が日々用いている簿記の仕組みについて理解を深める。具体的には、日商簿記検定2級の工業簿記部分の内容を中心に説明している。材料費、労務費、経費の計算、間接費の配賦、個別原価計算、総合原価計算、標準原価計算など、工業簿記と原価計算の基本的な理解が目標となる。	
学科科目	自由選択科目	広告論	本科目は、講義科目である。 本科目では、マスコミ業界、広告会社での業務の紹介など、広告実務を踏まえた知識についての講義を踏まえ、その理解を深める。広告・マスコミ関連業界への就職を目指す学生に資することを目標とする。受講生は、マスコミ業界、広告会社の全体像について学び、次にその中の各論についての詳解から広告についての理解を深める。具体的事例や、広告会社での実例をふまえながら、実学としての広告ビジネスについて修得する。	
学科科目	自由選択科目	国際ビジネス論	本科目は、講義科目である。 本科目では、国際的な規模で事業活動を行っている企業について、どのように国際ビジネスを展開しているのかについて講義する。講義では、事例研究を中心に国際ビジネスについての理解を深めていく。最初に、地球規模で統一的に展開するグローバル型と現地に即した展開をするマルチドメスティック型の国際ビジネスにおける2つの違いを理解し、続いてトランスナショナルやメタナショナルといった応用形態を学ぶ。受講生は、21世紀の「国際化」を理解する上で必須となる基礎知識を修得する。	
学科科目	自由選択科目	国際マーケティング	本科目は、講義科目である。 本科目では、多国籍企業におけるマーケティング活動について、国内企業のそれとどう異なるのかについて講義する。講義前半では、国際マーケティングの基本理論と諸機能を学ぶと共に、グローバル時代が到来しても世界が直ちに一つになるわけではなく、経済・文化等の各国間のあつれきはむしろ大きくなるという近年の現象を把握する。講義後半では、多国籍企業における異質性（異文化）を考慮したマーケティング活動・意思決定プロセスについて理解を深める。	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部経営学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
学科科目	自由選択科目	国際金融論	本科目は、講義科目である。 本科目では、国際金融の基礎を総合的に理解するための講義を行う。私たちが日々暮らしている生活には、外国との関わりの深いものが多数あり、それらにはそれぞれの国のお金（通貨）が関わっている。グローバル化が急速に進展する現代、ヒト・モノ・カネの移動はこれまで以上にその速度を加速させている。そこで、本講義では、国際金融に関する基礎的な概念とそれを支える理論的な枠組み（カネが国際的にどのような仕組みで動いているのか）を学ぶ。国際金融を学ぶことで、世界で起こっている経済ニュースを理解し、社会人としての基礎力を向上させる。	
学科科目	自由選択科目	国際産業論	本科目は、講義科目である。 本科目では、産業の国際的変遷を「産業別」、「国別」といった異なった次元で多角的に講義する。自国の産業は他国へ影響を与え、他国の産業は自国へ影響を与える。また企業ベースでみた場合の産業と国ベースでみた場合の産業は、それぞれ異なった特性を示す。こうした複雑な現代の問題を考えるために、まず理論について学び、次に、繊維、鉄鋼、造船、自動車、家電など我が国のリード産業の変遷の様相を考察する。最後に応用として、4つのトピック（総合商社、国際ネットワーク、ポーングローバル、プラットフォーム）を扱う。	
学科科目	自由選択科目	国際投資論	本科目は、講義科目である。 本科目では、国際投資という資本の国境を越えた移動である証券投資と直接投資をふまえ、まず証券投資と直接投資の目的の違いとそれぞれの資本移動の特徴について講義する。その上で、直接投資の中心的担い手である多国籍企業の活動の歴史的变化について、企業は「なぜ、いつ、どこへ、どのように」海外展開するのかを理論的、実証的に明らかにしていく。特に近年のICTの進展とグローバルなネットワーク化のもとで急速に台頭しているデジタル多国籍企業の特徴と、その世界経済に与える影響について学ぶ。	
学科科目	自由選択科目	国際貿易論	本科目は、講義科目である。 本科目では、国際貿易の理論と国民経済活動との関わりについて学ぶ。なぜ貿易が生じるのか、貿易を行う利益は何か、その発生するメカニズムを説明するための古典派比較生産費説と要素賦存理論をはじめとして、現代の企業内貿易を解明するための収益増進の新貿易理論を学ぶ。また、経済発展と貿易の拡大に伴う理論の進化と、それぞれの特徴を理解すると共に、今日の商品貿易・サービス・資本取引のグローバル的な展開の実態を踏まえ、貿易利益を分配する上での対立、国際分業のパターンの違い、グローバルサプライチェーンの構築などの諸問題とそれにかかわるFTA（自由貿易協定）、EPAや貿易摩擦などの貿易政策について修得する。	
学科科目	自由選択科目	財務会計論	本科目は、講義科目である。 本科目では、財務会計の基本的な仕組み、そして財務諸表の作成と分析について講義する。財務会計の基本的な考え方、財務会計の基礎概念、企業内容の外部への開示、監査制度、国際会計といった会計の体系を理解し、財務諸表分析を通じて、企業の収益性、安全性、生産性の分析を行う。加えて、近年の我が国企業における粉飾などの会計不正、会計基準の国際化といった財務会計の時事的なテーマについての理解も深める。	
学科科目	自由選択科目	産学連携プロジェクトa	本科目では、企業と協力して実施する参加型の産学連携プロジェクトを通して、実社会で通用する「社会人基礎力」を早期の段階で修得する。そのために、まず社会人基礎力のテストを受講し、重要なリテラシーやコンピテンシーについて学びながら、親和力、協働力、統率力、課題発見力、計画立案力、実践力について考えていく。その後、社会人基礎力セミナーに向けたグループワークを行い、社会人基礎力セミナーの開催とその振り返りを行う。	講義20時間 演習10時間
学科科目	自由選択科目	産学連携プロジェクトb	本科目では、企業と協力して実施する参加型の産学連携プロジェクトを通して、実社会で通用する「社会人基礎力」を早期の段階で修得する。この授業では、情報収集力、情報分析力、課題発見力、構想力などに加えて、対人基礎力、対自己基礎力、対課題基礎力、さらには、感情抑制力、自信創出力、行動持続力などの発展的な能力について学ぶ。その後、社会人基礎力セミナーに向けたグループワークを行い、社会人基礎力セミナーの開催とその振り返りを行う。	講義20時間 演習10時間

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部経営学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
学科科目	自由選択科目	事業承継論	本科目は、講義科目である。 本科目では、中小規模の企業や店舗の事業を承継し、何世代にもわたって安定的な経営を続けるための実践的な知識とスキルの修得を目指す。日本には世界に例を見ないほど老舗の中小企業や店舗が数多く存在している。そういった企業や店舗の多くは同族経営である。具体的には、事業承継者およびその予定者による講義を受け、それを受けて受講生はグループで解決策を立案し、発表会を実施する。その際、事業承継の実態を把握するとともに、課題を抽出し、解決策を立案して、最終発表会を実施する。	
学科科目	自由選択科目	商業簿記	本科目は、講義科目である。 本科目では、株式会社で実践される簿記の導入部分を講義する。受講生には、会計という経済を数値面で支える重要な道具立てに関する理解を深める。株式会社の運営に課される法的な制約条件は、個人商店の場合よりも格段に高度化・複雑化する。このような問題意識をもとに、本講義では株式会社の複式簿記を扱う日商簿記検定2級の商業簿記部分の内容を中心に説明していく。これによって株式会社で利用されている複式簿記の仕組みを理解する。	
学科科目	自由選択科目	商空間計画論	本科目は、講義科目である。 本科目では、商空間デザイナーの仕事について詳細を把握した上で、商空間計画の内容を中心に、商空間計画に関係する企画、計画、設計、施工、運営の各プロセスについて講義する。店舗等の様々な商空間は我々の日常生活と密接に関わっている。それらをデザインする商空間デザイナーには、消費者が日常利用している商空間を総合的に計画するだけでなく、運営管理や周辺のまちづくりまでも視野に入れた計画が求められていることについて、具体的事例を通して学ぶ。	
学科科目	自由選択科目	商品開発論	本科目は、講義科目である。 本科目では、商品開発論は製品開発論・イノベーション論等の知見を背景としながら、企業（流通企業を含む）活動の中核を成す価値創造活動に焦点を当て、開発・管理の2つのフェーズに分けてその課題解決について講義する。実際の商品企画・開発プロセスの1つ1つの工程ごとの課題について、受講生とともに体験しながら学び、顧客価値・環境分析・競合分析を経て、具体的なマーケティングプランニングを実践的に学修する。また、近年のエフェクチュエーションの議論やビジネスモデル構築などの応用課題についても本講義で触れる。	
学科科目	自由選択科目	情報産業論	本科目は講義科目である。 本科目では、情報が産業をどのように変化させたかを概観するとともに、ICTに関する最新技術の内実を平易に解説することで、情報産業の今後を見通すためのツールについて講義する。コンピュータが出現してから現在に至るまで、時代はさまざまに変遷を遂げてきた。コンピュータ産業をはじめとする情報産業は、非常に短いサイクルで環境が激変していく。現在の社会では、ICTを駆使するだけでなく、ICTが産業をどのようなかたちに発展させていくのかについて、将来を展望するスキルを修得する。	
学科科目	自由選択科目	職業指導 1	本科目では、学生から社会人における様々なキャリア上の転機に対応できるように職業指導（進路指導）のための諸理論および方法について講義する。受講生は、職業指導（進路指導）に求められるキャリア理論・カウンセリング理論とその方法について理解し、自他の今後のキャリアに応用することと、職業指導・進路指導に必要な基礎的なキャリア支援技法を修得し、他者に対する支援的な態度と言動を取れるようにする。本授業では、職業指導（進路指導）およびキャリアカウンセリングの諸理論・技法について実践場面を想定したテーマをもとにグループワークやディスカッション、ロールプレイを行い、体験的に職業指導の実践力を修得する。	講義20時間 演習10時間

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部経営学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
学 科 目	自由 選 択 科 目	職業指導 2	本科目では、「職業指導 1」での成果をふまえ、修得した知識や生徒理解への手法を、実践的に活用するためのスキルを学ぶ講義を行う。その上で、教職関連科目であることを考慮して、進路先決定の指導と援助、中学校や高等学校学校における進路指導の実際、進路指導の運営・管理などについてプレゼンテーション毎回プレゼンテーションを実施する。プレゼンテーションの具体的なテーマとしては、「進路先決定の指導と援助」、「学校進路指導の実際 中学校における進路指導」、「高等学校における進路指導」、「進路指導の運営・管理」などとなる。	講義20時間 演習10時間
学 科 目	自由 選 択 科 目	新興国ビジネス論	本科目は、講義科目である。 本科目では、新興国ビジネスの多様な側面について、具体的な企業事例を扱いながら、現代の新しい現象について講義する。新興国ビジネスでは、 ①先進国企業からの投資 ②新興国の自生的な発展 ③新興国からの投資 など、大きく分けて3つの側面がある。特に①についてはBOPビジネスとして世界的に注目されてきた分野であり、リバース・イノベーションなども国際的に注目されている。②については、21世紀に入り成長のスピードが先進国を超える諸国もある。③については特に中国・インドの台頭がめざましい。これら3点の側面から、新興国におけるビジネスを学ぶ。	
学 科 目	自由 選 択 科 目	人的資源管理論	本科目は、講義科目である。 本科目では、人的資源管理に関わる基礎理論をベースに、実際に経営現場で活用されてきた様々な人事制度を取り上げ、その背景や運用上のポイントや、企業競争力の源泉として人的資源を活用していく方法について講義する。受講生は、製造業を中心とした日本の企業組織の特色を紹介し、その上で現代の人的資源管理について学ぶ。併せて、海外の事例を紹介し、人的資源管理とは何か、またはそれに影響を与える企業社会とは何かについて学ぶ。企業組織は人々によって構成されていることから、人的な経営資源およびその管理についての考え方を修得する。	
学 科 目	自由 選 択 科 目	税法	本科目は、講義科目である。 本科目では、税及び税法に関する基礎的な知識について講義する。税は国や地方の財政基盤として経済社会の礎であり、税の仕組みや各税法の概要について学ぶことは社会人として必要不可欠である。まず、税や税制の基礎知識と税法の基本的な考え方について学ぶ。これらを踏まえて、私たちの生活に身近な税である所得税と会社などの法人の所得に課税される法人税の概要について学ぶ。次に、私たちの誰もが知っておくべき相続税及び贈与税の概要について学ぶ。最後に、個人・法人すべての経済取引に関わる消費税の概要について修得する。	
学 科 目	自由 選 択 科 目	総合講座 (デジタル・エコノミー)	本科目は、講義科目である。 本科目では、2020年代におけるデジタルエコノミーの速い進化と広がる展開をふまえ、特にインターネットが世界の企業経営、経済、社会、文化、生活の全面に渡ってどのような影響を与えるのか、その特徴や今後の社会の予測を考える。具体的には、電子マネーの攻撃、戦略的ソーシャルメディア・マーケティング論、インターネットと人工知能、インターネットとホテル・ビジネス、インターネットとセキュリティ、インターネットと社会におけるマーケティングと消費者等の視点からデジタルエコノミーについての理解を深める。	
学 科 目	自由 選 択 科 目	多国籍企業論	本科目は、講義科目である。 本科目では、企業が国境を超えてモノやサービスを生産し、国境を超えてビジネスを展開することが当たり前の時代になっている現状をふまえ、国際的に事業を展開している多国籍企業に焦点を当て、企業の海外進出、企業活動の国際化が起こるメカニズムと、その背景について考察していく。また、多国籍企業の発展過程を、理論と現実の観点から学ぶことで、国際化及び現地化という企業行動を具体的に理解する力を養うことを目的とする。	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部経営学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
学 科 科 目	自由 選 択 科 目	多変量解析	本科目では、社会の現場で頻繁に活用される多変量解析の中でも、最も汎用性の高い重回帰分析を中心に講義する。Excel、必要に応じてRなどの統計ソフトを用い、データを使って実践的に多変量解析の概念と使用方法を理解する。始めに微分、線形代数、統計の基礎概念を復習してから、公開されているデータ等を使用して単回帰分析、重回帰分析、その発展版であるロジスティック回帰分析などを学ぶ。アンケートデータの解析で用いられる因子分析・主成分分析等も学ぶ。統計モデルを評価するための情報量基準などについても修得する。	講義20時間 演習10時間
学 科 科 目	自由 選 択 科 目	地域スポーツクラブ論	本科目は、講義科目である。 本科目では、地域スポーツクラブの設立経緯をスポーツの歴史的背景から学び、その具体的なマネジメントについて様々な事例について講義する。近年、人々の生活の変化によって国や地方自治体によるスポーツ政策が変化し、スポーツは学校や企業で実施する時代から地域で行われるようになりつつある。地域スポーツは個人や地域の活力を生み出し、その受け皿となる地域スポーツクラブは人々が健康で、豊かな地域社会を作ることを目指している。このような社会の中で、授業を通して、学生が地域スポーツのマネジメントに関わる際に求められる知識やスキルを修得する。	
学 科 科 目	自由 選 択 科 目	中国・アジアビジネス論	本科目は、講義科目である。 本科目では、下記に掲げる当該地域の近代国民国家の成立過程と現代の経済発展やビジネス環境の特質との関係を紹介し、成長変化のメカニズムについて講義する。併せて日系企業の当該地域への進出状況と問題点を分析し、これからの経営戦略について理解を深める。中国・アジア経済の成長にともない、日本企業をはじめ、アジアを「製造基地から市場へ」とみなして投資拡大してきた。また、2022年からアセアンと日中韓を含めた自由貿易を推進するRCEPをスタートし、経済的な結びつきがますます強くなる。この地域は政治・社会制度、文化・宗教も多様性に富んでいるため、このビジネス環境や経済社会と企業経営の特質について理解する。	
学 科 科 目	自由 選 択 科 目	中小企業家同友会寄付講座	本科目は、講義科目である。 本科目では、大阪府中小企業家同友会の会員企業の代表者を招聘し、経営の実践に関する講義を行う。受講生は、中小企業がこれまでの日本経済を支え、将来においても重要な役割を果たすであろうことを理解する。授業では、中小企業の実態を多様な側面から把握する。また、講義中に質疑応答できる時間を準備し、インタラクティブな講義によって中小企業への理解を深めていく。このような取り組みを通じて、大企業に比べて情報量の少ない中小企業の実態を詳しく知り、中小企業の役割と可能性を学ぶ。	
学 科 科 目	自由 選 択 科 目	中小企業論	本科目は、講義科目である。 本科目では、日本に存在する事業所数のうち99%を占める中小企業について学ぶ。中小企業は日本各地に存在し、雇用を創出している。また、地域経済に対する売上や納税などを通じて、地域経済循環を発生させている。この中小企業の実態を理解する過程で、日本の経済を支える主体が何なのか、その特性は何か、そうした組織で働くこととはどういうことかを理解していく。これらを通じ、中小企業とはどういう存在かについて認識を深めること、地域貢献を行う多様な方法論や企業の実態を把握すること、卒業後に活躍するための感覚と素養を身に着けることがこの授業の目的である。	
学 科 科 目	自由 選 択 科 目	貿易英語	本科目は、講義科目である。 本科目では、貿易における専門用語について講義する。貿易システムを英語で学び、貿易に関する基本的な英語コミュニケーションを学ぶ。一般特恵関税制度 (GSP, Generalized System of Preference)、商業送り状 (Commercial Invoice)、通貨変動割増料率 (CAF, Currency Adjustment Factor, YAS, en Application Surcharge) 等の意味や内容を理解することで国際ビジネスにおける現場感覚を修得する。	

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部経営学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
学科科目	自由選択科目	貿易実務	本科目では、なぜ貿易が必要なのかという基本理解から、貿易取引のパターン、契約、モノ・カネ・情報の流れ、ロジスティクス、サプライチェーン、関税、コンプライアンスの基本的知識について講義する。これらについて、課題や講義中の演習・ディスカッションを通して修得し、貿易実務の基礎概要を理解できるようにする。さらに、失敗事例や成功事例などのケース・スタディを行うことで、個人や組織の役割、国ごとの貿易政策などについても理解を深める。	講義20時間 演習10時間
学科科目	自由選択科目	流通政策	本科目は、講義科目である。 本科目では、日本の流通政策について、その歴史、施策の根拠、現状と問題点、今後の展望を包括的に学修する。とりわけ1970年代以降の大規模小売店舗法を基礎にした流通政策の功罪、およびその社会・経済的根拠と、2000年から施行されている大規模小売店舗立地法ならびにそれを核とする新しい流通政策の枠組みについて理解する。特に、「人口減少および高齢化社会の中での新しい街づくり」という新しい流通政策の内容を理解し自らを「流通を介してつながるコミュニティ・メンバー」とするために、現在大きく転換しつつある政策とその根拠法律を修得する。	

学校法人阪南大学 設置認可等に関わる組織の移行表

令和5年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和6年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
阪南大学				阪南大学				
流通学部				流通学部				
流通学科	230	—	920	0	—	0	0	令和6年4月学生募集停止
経済学部				経営学部				
経済学科	280	—	1,120	290	—	1,160	1,160	学部の設置(届出)
経営情報学部				経済学部				
経営情報学科	220	—	880	290	—	1,160	1,160	定員変更(10)
国際コミュニケーション学部				総合情報学部				
国際コミュニケーション学科	170	2	684	176	—	704	704	学部の設置(届出)
国際観光学部				国際学部				
国際観光学科	155	2	624	155	2	624	624	学部の設置(届出)
計				計				
	1,055	3年次 4	4,228	1,055	3年次 4	4,228	4,228	

阪南大学経営学部

設置の趣旨等を記載した書類

添付資料

【資料1】 養成する人材像と3つのポリシー関連図 (カリキュラムツリー)	・・・P2
【資料2】 履修モデル	・・・P6
【資料3】 就業規則	・・・P12
【資料4】 時間割配置	・・・P22

養成する人材像とカリキュラム・ポリシー・ディプロマ・ポリシー・アドミッション・ポリシーとの相関図【経営学部】

養成する人材像

幅広い教養と経営学に関する専門知識を身につけ、事業運営能力、情報分析力、コミュニケーション能力、新分野への関心とチャレンジ精神、社会適応力を身につけ、現代社会で活躍できる人間性豊かな人材を養成する。

ディプロマ・ポリシー

DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
<p>経営学に関する専門知識 経営学に関する基礎的な学修をふまえて、以下の専門分野に関する知識を修得している。 経営学部は以下の6コースからなり、学生は、いずれかのコースの専門知識を修得するとともに、各自の学修計画に合わせて他コースの専門知識も修得する。</p> <p>①経営・会計コース 経営環境に即応した事業運営を行うために必要な、経営・会計に関する専門的な知識。 ②マーケティングコース ビジネスを展開するために必要不可欠となるマーケティングに関する専門的な知識。 ③ICTビジネスコース ICT（情報コミュニケーション技術）を用いたビジネス展開に関する専門的な知識。 ④国際ビジネスコース 国家や文化を超えたビジネス、産業、企業形態に関する専門的な知識。 ⑤ブランド・ファッションコース 企業のブランドやファッションの価値創造戦略に関する専門的な知識。 ⑥スポーツマネジメントコース 生涯スポーツの普及と競技スポーツの発展に資する専門的な知識。</p>	<p>事業の運営能力 事業の運営を担う技能を修得しており、企業において与えられた役割を担える能力、もしくは自ら起業することができる。</p>	<p>情報分析力・論理的思考力 経営、経済、社会に関する情報を収集し、選択・整理・加工し、適切な情報として分析・発信することができる。また、情報や知識を利用して、筋道を立てて論理的に考え表現することができる。</p>	<p>コミュニケーション能力 専門科目のみならず一般教養を身につけ、外国の経済社会事情にも通じて、国際的な視点を持ち、他者とコミュニケーションをとることができる。</p>	<p>新分野への関心とチャレンジ精神 新しい分野に取り組み、目標を打ち立て、達成するための計画を設定・実行することができる。</p>	<p>多様性の理解と協調性 多様な社会と組織の中で自己と他者の意見の違いや立場の違いを理解し、課題解決へ向けて多くの人々と協調・協働しながら目的を達成することができる。</p>	<p>社会的責任 社会の一員であるという意識を持ち、専門知識をもとに社会に貢献し、社会に対して責任を果たすことができる。</p>

カリキュラム・ポリシー

CP1	CP2	CP3	CP4	CP5	CP6	CP7
<p>1年次から経営学部で学ぶうえでの基礎的な科目である「経営学入門」を履修した上で、各コースに設置される講義科目および演習科目を履修する。</p> <p>①経営・会計に関する知識 「経営・会計コース」に設置される「経営戦略論」、「会計学入門」などの講義科目および演習科目を履修する。 ②マーケティングに関する知識 「マーケティングコース」に設置される「マーケティング入門」、「流通システム論」などの講義科目および演習科目を履修する。 ③ICTビジネスに関する知識 「ICTビジネスコース」に設置される「ICTビジネス基礎」などの講義科目および演習科目を履修する。 ④国際ビジネスに関する知識 「国際ビジネスコース」に設置される「国際ビジネス入門」などの講義科目および演習科目を履修する。 ⑤ブランド・ファッションの価値創造に関する知識 「ブランド・ファッションコース」に設置される「ファッションマーケティング」などの講義科目および演習科目を履修する。 ⑥スポーツマネジメントに関する知識 「スポーツマネジメントコース」に設置される「スポーツマネジメント入門」などの講義科目および演習科目を履修する。</p>	<p>1年次から「経営学入門」および「ビジネスデータ分析1」を履修した上で、事業の運営能力を体得する。</p> <p>DP7を体得するにあたって履修する科目 演習科目：基礎演習1、基礎演習2、専門演習1、専門演習2、専門演習3、専門演習4 講義科目：経営戦略論、会計学入門、マーケティング入門、流通システム論、国際ビジネス入門、ICTビジネス基礎、ファッションマーケティング、スポーツマネジメント入門等</p>	<p>1年次から「経営学入門」および「ビジネスデータ分析1」を履修した上で、情報分析力・論理的思考力を体得する。</p> <p>DP8を体得するにあたって履修する科目 演習科目：基礎演習1、基礎演習2、専門演習1、専門演習2、専門演習3、専門演習4 講義科目：経営戦略論、会計学入門、マーケティング入門、流通システム論、国際ビジネス入門、ファッションマーケティング、スポーツマネジメント入門等</p>	<p>1年次から「プレゼミ1」および「プレゼミ2」を履修した上で、2年次からの講義科目および演習科目を通してコミュニケーション能力を体得する。</p> <p>DP4を体得するにあたって履修する科目 演習科目：基礎演習1、基礎演習2、専門演習1、専門演習2、専門演習3、専門演習4 講義科目：企業論、営業論、消費者行動論、ホスピタリティマネジメント、アスリートキャリア1、アスリートキャリア2等</p>	<p>1年次から「ビジネスデータ分析1」を履修した上で、新分野への関心とチャレンジ精神を体得する。</p> <p>DP5を体得するにあたって履修する科目 演習科目：基礎演習1、基礎演習2、専門演習1、専門演習2、専門演習3、専門演習4 講義科目：経営戦略論、会計学入門、マーケティング入門、流通システム論、国際ビジネス入門、ICTビジネス基礎、ファッションマーケティング、スポーツマネジメント入門等</p>	<p>1年次から「経営学入門」を履修した上で、多様性の理解と協調性を体得する。</p> <p>DP6を体得するにあたって履修する科目 演習科目：基礎演習1、基礎演習2、専門演習1、専門演習2、専門演習3、専門演習4 講義科目：経営戦略論、流通システム論、国際ビジネス入門、ICTビジネス基礎、ファッションマーケティング、スポーツマネジメント入門等</p>	<p>1年次から「経営学入門」を履修した上で、社会的責任を体得するために、以下の科目を履修する。</p> <p>DP7を体得するにあたって履修する科目 演習科目：基礎演習1、基礎演習2、専門演習1、専門演習2、専門演習3、専門演習4 講義科目：経営戦略論、流通システム論、国際ビジネス入門、ICTビジネス基礎、ファッションマーケティング、スポーツマネジメント入門等</p>

カリキュラム・ポリシー

CP1	CP2	CP3	CP4	CP5	CP6	CP7
-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----

アドミッション・ポリシー

AP1：知識・技能	AP2：思考力・判断力・表現力	AP3：関心・意欲
<p>高等学校で履修した主要教科・科目について、教科書レベルの基礎的な知識を有している</p>	<p>阪南大学アドミッション・ポリシー記載のものに加えて、明確な根拠に基づいて筋道立てて考え、それを文章やプレゼンテーションなどで他者にわかり易く伝える能力がある人。</p>	<p>AP3-1：経営学部の各分野への関心 以下のいずれかの分野における様々な問題に関心を持っており、理論を学び、フィールドリサーチやアンケート調査等を通じて新たな知見を見出したいと考えている人。 ・経営・会計 ・マーケティング ・ICTビジネス ・国際ビジネス ・ブランド・ファッション ・スポーツマネジメント</p> <p>AP3-2：将来への意欲 本学で身につけた知識と経験を活かして、将来、上記の分野で活躍しようと考えている人</p>

学年	区分	DP1		DP2		DP3		DP4		DP5		DP6		DP7	
2年次		ブランドビジネス		ブランドビジネス		ブランドビジネス		ブランドビジネス		ブランドビジネス		ブランドビジネス		ブランドビジネス	
		コーチング論1	コーチング論2	コーチング論1	コーチング論2	コーチング論1	コーチング論2	コーチング論1	コーチング論2	コーチング論1	コーチング論2	コーチング論1	コーチング論2	コーチング論1	コーチング論2
		アスリートキャリア1	アスリートキャリア2	アスリートキャリア1	アスリートキャリア2	アスリートキャリア1	アスリートキャリア2	アスリートキャリア1	アスリートキャリア2	アスリートキャリア1	アスリートキャリア2	アスリートキャリア1	アスリートキャリア2	アスリートキャリア1	アスリートキャリア2
		プロスポーツビジネス	地域スポーツクラブ論	プロスポーツビジネス	地域スポーツクラブ論	プロスポーツビジネス	地域スポーツクラブ論	プロスポーツビジネス	地域スポーツクラブ論	プロスポーツビジネス	地域スポーツクラブ論	プロスポーツビジネス	地域スポーツクラブ論	プロスポーツビジネス	地域スポーツクラブ論
		スポーツ組織論	スポーツビジネスキャリア	スポーツ組織論	スポーツビジネスキャリア	スポーツ組織論	スポーツビジネスキャリア	スポーツ組織論	スポーツビジネスキャリア	スポーツ組織論	スポーツビジネスキャリア	スポーツ組織論	スポーツビジネスキャリア	スポーツ組織論	スポーツビジネスキャリア
		経営学特別講義1		経営学特別講義1		経営学特別講義1		経営学特別講義1		経営学特別講義1		経営学特別講義1		経営学特別講義1	
		ICTビジネス論		ICTビジネス論		ICTビジネス論		ICTビジネス論		ICTビジネス論		ICTビジネス論		ICTビジネス論	
		貿易実務		貿易実務		貿易実務		貿易実務		貿易実務		貿易実務		貿易実務	
	基本簿記1	基本簿記2	基本簿記1	基本簿記2	基本簿記1	基本簿記2	基本簿記1	基本簿記2	基本簿記1	基本簿記2	基本簿記1	基本簿記2	基本簿記1	基本簿記2	
3年次	必修科目	専門演習1	専門演習2	専門演習1	専門演習2	専門演習1	専門演習2	専門演習1	専門演習2	専門演習1	専門演習2	専門演習1	専門演習2	専門演習1	専門演習2
	全員履修科目														
	選択必修科目														
	自由選択科目	経営統計学1	経営統計学2	経営統計学1	経営統計学2	経営統計学1	経営統計学2			経営統計学1	経営統計学2				
		金融テクノロジー		金融テクノロジー		金融テクノロジー				金融テクノロジー					
		中小企業家同友会寄付講座		中小企業家同友会寄付講座		中小企業家同友会寄付講座				中小企業家同友会寄付講座		中小企業家同友会寄付講座			
		経営財務論		経営財務論		経営財務論				経営財務論		経営財務論			
		人的資源管理論		人的資源管理論		人的資源管理論				人的資源管理論		人的資源管理論			
		商業簿記	工業簿記	商業簿記	工業簿記	商業簿記	工業簿記			商業簿記	工業簿記				
		財務会計論	管理会計論	財務会計論	管理会計論	財務会計論	管理会計論			財務会計論	管理会計論	財務会計論	管理会計論	財務会計論	管理会計論
		マーケティング実践		マーケティング実践		マーケティング実践				マーケティング実践		マーケティング実践			
		流通政策	ストアオペレーション	流通政策	ストアオペレーション	流通政策	ストアオペレーション			流通政策	ストアオペレーション	流通政策	ストアオペレーション	流通政策	ストアオペレーション
		eコマース		eコマース		eコマース				eコマース		eコマース			
		インターネットマーケティング		インターネットマーケティング		インターネットマーケティング				インターネットマーケティング		インターネットマーケティング			
		営業論	広告論	営業論	広告論	営業論	広告論	営業論	広告論	営業論	広告論	営業論	広告論	営業論	広告論
		商品開発論		商品開発論		商品開発論				商品開発論		商品開発論			
		多国籍企業論		多国籍企業論		多国籍企業論				多国籍企業論		多国籍企業論			
		テキストマイニング	アンケート調査と分析	テキストマイニング	アンケート調査と分析	テキストマイニング	アンケート調査と分析			テキストマイニング	アンケート調査と分析	テキストマイニング	アンケート調査と分析	テキストマイニング	アンケート調査と分析
		ICT英語		ICT英語		ICT英語		ICT英語		ICT英語		ICT英語		ICT英語	
		ファッションとIT		ファッションとIT		ファッションとIT				ファッションとIT		ファッションとIT			
	国際貿易論	貿易英語	国際貿易論	貿易英語	国際貿易論	貿易英語	貿易英語		国際貿易論	貿易英語	国際貿易論		国際貿易論		
	国際金融論		国際金融論	国際投資論	国際金融論	国際投資論			国際金融論	国際投資論	国際金融論	国際投資論	国際金融論	国際投資論	
	アメリカビジネス論	中国・アジアビジネス論	アメリカビジネス論	中国・アジアビジネス論	アメリカビジネス論	中国・アジアビジネス論			アメリカビジネス論	中国・アジアビジネス論	アメリカビジネス論	中国・アジアビジネス論	アメリカビジネス論	中国・アジアビジネス論	
	新興国ビジネス論		新興国ビジネス論		新興国ビジネス論				新興国ビジネス論		新興国ビジネス論				
	消費者行動論		消費者行動論		消費者行動論			消費者行動論		消費者行動論		消費者行動論		消費者行動論	
	ファッションビジネス実践	アパレル産業論	ファッションビジネス実践	アパレル産業論	ファッションビジネス実践	アパレル産業論			ファッションビジネス実践	アパレル産業論	ファッションビジネス実践	アパレル産業論	ファッションビジネス実践	アパレル産業論	
	インテリアビジネス	インテリアデザイン実践	インテリアビジネス	インテリアデザイン実践	インテリアビジネス	インテリアデザイン実践			インテリアビジネス	インテリアデザイン実践	インテリアビジネス	インテリアデザイン実践	インテリアビジネス	インテリアデザイン実践	
	ファッションマネジメント戦略		ファッションマネジメント戦略		ファッションマネジメント戦略				ファッションマネジメント戦略		ファッションマネジメント戦略				
	商空間計画論		商空間計画論		商空間計画論				商空間計画論		商空間計画論				
	ライフスタイルビジネス		ライフスタイルビジネス		ライフスタイルビジネス				ライフスタイルビジネス		ライフスタイルビジネス				
	フードビジネス	ブライダルビジネス	フードビジネス	ブライダルビジネス	フードビジネス	ブライダルビジネス		ブライダルビジネス		フードビジネス	ブライダルビジネス		フードビジネス	ブライダルビジネス	

学年	区分	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
3年次		プライダルマネジメント ホテルビジネス エンターテインメントビジネス 交通サービス論 多変量解析 事業承継論	プライダル実務 プライダルマネジメント ホテルビジネス エンターテインメントビジネス 交通サービス論 事業承継論	プライダル実務 プライダルマネジメント ホテルビジネス エンターテインメントビジネス 交通サービス論 多変量解析 事業承継論	プライダル実務 事業承継論	プライダル実務 プライダルマネジメント ホテルビジネス エンターテインメントビジネス 事業承継論	プライダル実務 プライダルマネジメント ホテルビジネス エンターテインメントビジネス 交通サービス論 事業承継論	プライダル実務 プライダルマネジメント ホテルビジネス エンターテインメントビジネス 交通サービス論 事業承継論	
4年次	必修科目	専門演習3	専門演習4	専門演習3	専門演習4	専門演習3	専門演習4	専門演習3	専門演習4
	全員履修科目								
	選択必修科目 自由選択科目								

履修モデル 経営学部(経営・会計コース)

【資料2】

		1年				2年				3年				4年				単位数						
		前期		後期		前期		後期		前期		後期		前期		後期								
一般教育科目	情報とAI・データサイエンス研究群	6	AI・データサイエンス総論 2			AI・データサイエンス入門 2		AI・データサイエンス入門 2																
	語学群	4	英語1	1	英語2	1																		
				英語3	1	英語4	1																	
	言語圏研究群	4	英語圏研究a 2		英語圏研究b 2																			
	人間・文化研究群	4	哲学a	2	哲学b	2																		
	歴史・社会研究群	4	日本史a	2	日本史b	2																		
	自然・環境研究群	4	数学a	2	数学b	2																		
	健康・スポーツ研究群	4	人間科学a	2	人間科学b	2																		
基盤教育科目群	4	スタディスキルズa	2	スタディスキルズb	2																			
学科科目	必修科目	14	経営学入門 2 必修			基礎演習1	2	必修基礎演習2	2	必修	専門演習1	2	必修	専門演習2	2	必修	専門演習3	2	必修	専門演習4	2	必修	14	
	選択必修科目	10	国際ビジネス入門	2	選択	会計学入門	2	選択	経営戦略論	2	選択												12	
						マーケティング入門	2	選択	流通システム論	2	選択													
										ファッションマーケティング	2	選択												
	全員履修科目		プレゼミ1	2	プレゼミ2	2																	10	
	経営・会計コース科目						企業論	2	企業社会論	2	経営財務論	2	事業承継論	2									44	
							経営実践講座a	2	経営実践講座b	2	人的資源管理論	2	産学連携プロジェクトb	2										
								経営管理論	2	中小企業論	2	産学連携プロジェクト	2											
								ベンチャービジネス論	2	中小企業家同友会寄付講座	2	財務会計論	2	管理会計論	2									
								マネジメントゲーム	2	経営組織論	2	商業簿記	2	工業簿記	2									
								企業分析論	2	基本簿記2	2													
								基本簿記1	2															
	他コース科目								マーケティングリサー	2	インターネットマーケ	2	営業論	2										10
									サービスマーケティング	2			広告論	2										

科目合計

124

履修モデル 経営学部(マーケティングコース)

【資料2】

	1年				2年				3年				4年				単位数	
	前期		後期		前期		後期		前期		後期		前期		後期			
一般教育科目	情報とAI・データサイエンス研究群	6	AI・データサイエンス総論 2			AI・データサイエンス入門 2		AI・データサイエンス入門 2								34		
	語学群	4	英語1	1	英語2	1												
			英語3	1	英語4	1												
	言語圏研究群	4	英語圏研究a 2		英語圏研究b 2													
	人間・文化研究群	4	哲学a 2		哲学b 2													
	歴史・社会研究群	4	日本史a 2		日本史b 2													
	自然・環境研究群	4	数学a 2		数学b 2													
	健康・スポーツ研究群	4	人間科学a 2		人間科学b 2													
基盤教育科目群	4	スタディスキルズa 2		スタディスキルズb 2														
学科科目	必修科目	14	経営学入門 2 必修			基礎演習1	2 必修	基礎演習2	2 必修	専門演習1	2 必修	専門演習2	2 必修	専門演習3	2 必修	専門演習4	2 必修	14
	選択必修科目	10	ICTビジネス基礎 2 選択			経営戦略論 2 選択												
			国際ビジネス入門 2 選択			マーケティング入門 2 選択												
			ファッションマーケティング 2 選択															
	全員履修科目		プレゼミ1	2	プレゼミ2	2												
		ビジネスデータ分析1 2			ビジネスデータ分析2 2													
		演習入門 2																
マーケティングコース科目					マーケティング論	2	マーケティングリサーチ	2	インターネットマーケティング	2	営業論	2			30			
							サービスマーケティング	2	ストアオペレーション	2	広告論	2						
							マーチャンダイジング	2	交通サービス論	2	マーケティング実践	2						
							ロジスティクス論	2	商品開発論	2	流通政策	2						
					リテールマーケティング	2	リテールマーケティング	2										
他コース科目					企業論	2	企業社会論	2	ライフスタイルビジネス 2						24			
					経営管理論	2	中小企業論	2										
					ベンチャービジネス論	2	経営組織論	2										
					マネジメントゲーム	2	ホスピタリティマネジ.	2										
					企業分析論	2	サービスビジネス	2										
					ブランドマーケティング	2												

科目合計 124

履修モデル 経営学部 (ICTビジネスコース)

【資料2】

	1年				2年				3年				4年				単位数	
	前期		後期		前期		後期		前期		後期		前期		後期			
一般教育科目	情報とAI・データサイエンス研究群	6	AI・データサイエンス総論 2			AI・データサイエンス入門 2		AI・データサイエンス入門 2										34
	語学群	4	英語1	1	英語2	1												
				英語3	1	英語4	1											
	言語圏研究群	4	英語圏研究a 2		英語圏研究b 2													
	人間・文化研究群	4	哲学a 2		哲学b 2													
	歴史・社会研究群	4	日本史a 2		日本史b 2													
	自然・環境研究群	4	数学a 2		数学b 2													
	健康・スポーツ研究群	4	人間科学a 2		人間科学b 2													
基盤教育科目群	4	スタディスキルズa 2		スタディスキルズb 2														
学科科目	必修科目	14	経営学入門 2 必修			基礎演習1	2 必修	基礎演習2	2 必修	専門演習1	2 必修	専門演習2	2 必修	専門演習3	2 必修	専門演習4	2 必修	14
	選択必修科目	10	ICTビジネス基礎 2 選択			マーケティング入門 2 選択		経営戦略論 2 選択										12
			国際ビジネス入門 2 選択			流通システム論 2 選択												
			スポーツマネジメント入門 2 選択															
	全員履修科目		プレゼミ1	2	プレゼミ2	2	ビジネスデータ分析1 2		ビジネスデータ分析2 2									10
ICTビジネスコース科目		総合講座(デジタル) 2				ICTビジネス論	2	コンテンツビジネス	2	eコマース	2	金融テクノロジー	2					24
						経営情報論(新設)	2	アンケート調査と分析	2	経営統計学1	2	経営統計学2	2					
						金融概論	2	デジタルコミュニケー	2	ICT英語	2	テキストマイニング	2					
他コース科目						企業論	2	企業社会論	2	経営財務論	2	事業承継論	2					30
						経営管理論	2	中小企業論	2	人的資源管理論	2							
						ベンチャービジネス論	2	経営組織論	2	インターネットマーケ	2							
						マネジメントゲーム	2	基本簿記1	2	マーケティング論	2							
						企業分析論	2	基本簿記2	2									

科目合計 124

	1年				2年				3年				4年		単位数			
	前期		後期		前期		後期		前期		後期		前期	後期				
一般教育科目	情報とAI・データサイエンス研究群	6	AI・データサイエンス総論 2			AI・データサイエンス入門 2		AI・データサイエンス入門 2								34		
	語学群	4	英語1	1	英語2	1												
				英語3	1	英語4	1											
	言語圏研究群	4	英語圏研究a 2		英語圏研究b 2													
	人間・文化研究群	4	哲学a 2		哲学b 2													
	歴史・社会研究群	4	日本史a 2		日本史b 2													
	自然・環境研究群	4	数学a 2		数学b 2													
	健康・スポーツ研究群	4	人間科学a 2		人間科学b 2													
基盤教育科目群	4	スタディスキルズa 2		スタディスキルズb 2														
学科科目	必修科目	14	経営学入門 2 必修			基礎演習1	2 必修	基礎演習2	2 必修	専門演習1	2 必修	専門演習2	2 必修	専門演習3	2 必修	専門演習4	2 必修	14
	選択必修科目	10	ICTビジネス基礎	2 選択	会計学入門	2 選択	経営戦略論	2 選択										16
			国際ビジネス入門	2 選択	マーケティング入門	2 選択	流通システム論	2 選択										
			スポーツマネジメント入門	2 選択			ファッションマーケティング	2 選択										
	全員履修科目		プレゼミ1	2	プレゼミ2	2												10
国際ビジネスコース科目			貿易英語	2	国際ビジネス論	2	国際産業論	2	国際貿易論	2	多国籍企業論	2					28	
					国際マーケティング	2	英語で学ぶ国際ビジ	2	アメリカビジネス論	2	新興国ビジネス論	2						
							貿易実務	2	中国・アジアビジネス	2	国際投資論	2						
									国際金融論	2								
									異文化経営論	2								
他コース科目					企業論	2	企業社会論	2	経営財務論	2	事業承継論	2					22	
					経営管理論	2	中小企業論	2	人的資源管理論	2								
					ベンチャービジネス論	2	経営組織論	2										
					マネジメントゲーム	2												
					企業分析論	2												

履修モデル 経営学部(ブランド・ファッションコース)

【資料2】

	1年				2年				3年				4年				単位数	
	前期		後期		前期		後期		前期		後期		前期		後期			
一般教育科目	情報とAI・データサイエンス研究群	6	AI・データサイエンス総論 2			AI・データサイエンス入門 2		AI・データサイエンス入門 2										34
	語学群	4	英語1	1	英語2	1												
				英語3	1	英語4	1											
	言語圏研究群	4	英語圏研究a 2		英語圏研究b 2													
	人間・文化研究群	4	哲学a 2		哲学b 2													
	歴史・社会研究群	4	日本史a 2		日本史b 2													
	自然・環境研究群	4	数学a 2		数学b 2													
	健康・スポーツ研究群	4	人間科学a 2		人間科学b 2													
基盤教育科目群	4	スタディスキルズa 2		スタディスキルズb 2														
学科科目	必修科目	14	経営学入門 2 必修			基礎演習1 2	必修	基礎演習2 2	必修	専門演習1 2	必修	専門演習2 2	必修	専門演習3 2	必修	専門演習4 2	必修	14
	選択必修科目	10		会計学入門 2	選択	経営戦略論 2	選択											10
				マーケティング入門 2	選択	流通システム論 2	選択											
						ファッションマーケティング 2	選択											
全員履修科目		プレゼミ1 2		プレゼミ2 2													10	
ブランド・ファッションコース科目				ファッションビジネス 2		ブランドマーケティング 2		ブランドビジネス 2		ファッションマネジメント 2		ファッションとIT 2					38	
								インテリアデザイン 2		アパレル産業論 2		ファッションビジネス実 2						
								ホスピタリティマネジ 2		インテリアデザイン実 2		商空間計画論 2						
								サービスビジネス 2		ライフスタイルビジネ 2		ホテルビジネス 2						
										フードビジネス 2		エンターテインメント 2						
										インテリアビジネス 2		プライダルマネジメント 2						
												プライダル実務 2						
他コース科目						マーケティング論 2		マーケティングリサー 2		インターネットマーケ 2		営業論 2					18	
						リテールマーケティング 2		リテールマーケティング 2		ストアオペレーション 2		広告論 2						
								マーチャンダイジング 2										

科目合計

124

履修モデル 経営学部(スポーツ・マネジメントコース)

【資料2】

		1年				2年				3年				4年				単位数
		前期		後期		前期		後期		前期		後期		前期		後期		
一般教育科目	情報とAI・データサイエンス研究群	6	AI・データサイエンス総論 2			AI・データサイエンス入門1 2		AI・データサイエンス入門2 2										34
	語学群	4	英語1 1	英語2 1														
			英語3 1	英語4 1														
	言語圏研究群	4	英語圏研究a 2	英語圏研究b 2														
	人間・文化研究群	4	哲学a 2	哲学b 2														
	歴史・社会研究群	4	日本史a 2	日本史b 2														
	自然・環境研究群	4	数学a 2	数学b 2														
	健康・スポーツ研究群	4	人間科学a 2	人間科学b 2														
基盤教育科目群	4	スタディスキルズa 2	スタディスキルズb 2															
学科科目	必修科目	14	経営学入門 2	必修	基礎演習1 2	必修	基礎演習2 2	必修	専門演習1 2	必修	専門演習2 2	必修	専門演習3 2	必修	専門演習4 2	必修	14	
	選択必修科目	10	スポーツマネジメント 2	選択	会計学入門 2	選択	経営戦略論 2	選択									10	
					マーケティング入門 2	選択	ファッションマーケティング 2	選択										
	全員履修科目		プレゼミ1 2	プレゼミ2 2			ビジネスデータ分析 2	2									10	
					ビジネスデータ分析 2													
スポーツマネジメントコース科目				コーチング論1 2		コーチング論2 2										20		
				アスリートキャリア1 2		アスリートキャリア2 2												
				スポーツビジネス 2		プロスポーツビジネス 2												
				スポーツ組織論 2		スポーツビジネスキャ 2												
				地域スポーツクラブ論 2		スポーツと社会 2												
他コース科目				企業論 2		企業社会論 2		インターネットマーケ 2		営業論 2						36		
				経営管理論 2		中小企業論 2		消費者行動論 2		広告論 2								
				ベンチャービジネス論 2		経営組織論 2		ストアオペレーション 2		マーケティング実践 2								
				企業分析論 2		マーケティングリサー 2		交通サービス論 2		流通政策 2								
				マーケティング論 2		サービスマーケティング 2												

科目合計

124

【資料3】

阪南大学就業規則

この就業規則は、学校法人阪南大学(以下「法人」という。)の設置する阪南大学(以下「本学」という。)に勤務する職員の就業に関する基本的事項を定めたものであって、法人と職員とが相互信頼の上になんて、この規則を遵守し、業務能率の向上を図り、もって本学教学の振興と社会的使命の達成を期するものとする。

第1章 総則

(適用範囲)

第1条 この規則及び付属する規程は、本学職員の就業に関する事項を定める。

(法令及び協約との関係)

第2条 この規則に定めない事項については、労働基準法その他の法令又は労働協約の定めるところによる。

(改廃手続)

第3条 この規則を改廃する場合は、法人から教職員組合に事前にこれを通告する。

(職員の定義)

第4条 この規則で職員とは、本学に職を有する常勤の教育職員及び事務職員をいう。

(管理職の定義)

第5条 管理職とは、次の者をいう。

教員系 学長、副学長、学部長、大学院研究科長、部長等(部長、館長及び所長)

事務系 事務局長、事務局次長、部長、室長、事務部長、次長、課長

(教育職員)

第6条 教育職員とは、教授、准教授、専任講師、助教及び助手をいう。

(事務職員)

第7条 事務職員とは、事務職員及び常勤嘱託をいう。

2 常勤嘱託とは、特定業務について高度な専門知識、技能及び豊富な経験を有する者で、その業務に関わる従事者を教育できる中核的人材として雇用される職員をいう。

第2章 人事

(任免異動)

第8条 職員の任免異動は、理事長がこれを行う。

(提出書類)

第9条 新たに採用された職員は、次の書類を提出しなければならない。ただし、採用前に提出した書類をもって、これに替えることができる。

- (1) 履歴書 1通
- (2) 業績目録(事務職員は除く。) 1通
- (3) 保証人連署の誓約書(本学所定のもの) 1通
- (4) 身上調書(本学所定のもの) 1通

- (5) 身分証明書(本籍地の市区町村役場で発行するもの) 1通
- (6) 健康診断書(国公立病院又は保健所で発行するもの) 1通
- (7) 前歴証明書 1通
- (8) その他必要と認めた書類

2 前項各号の記載事項に異動があったときは、その都度 15 日以内に届け出なければならぬ。

(異動その他)

第 10 条 業務の都合により必要があるときは、異動、長期出張、自宅研修又は職務の変更を命ずることがある。

2 職員は、前項の規定による命令を正当な理由がなければ拒むことはできない。

(休職)

第 11 条 次の各号の一に該当するときは、休職を命ずる。

- (1) 業務外の疾病のため、長期にわたり欠勤し、なお療養を要するとき。
- (2) 公選による議会の議員その他公職に立候補したとき。
- (3) 刑事事件に関連して起訴されたとき。
- (4) その他特別の事情により、休職とすることが適当と認めたとき。

(休職期間)

第 12 条 前条の規定による休職の期間は、次のとおりとする。

(1) 前条第 1 号については、結核性疾患の場合は 3 年、それ以外の傷病は勤続 1 年以上の者に対し、その在職期間に応じ 5 年以内とする。

在職 1 年以上 5 年未満は 1 年以内

在職 5 年以上 10 年未満は 2 年以内

在職 10 年以上 15 年未満は 3 年以内

在職 15 年以上 20 年未満は 4 年以内

在職 20 年以上は 5 年以内

ただし、理事長が特に認めた場合は、上記期間を超えて休職することができる。

- (2) 前条第 2 号については、当該選挙期間中
- (3) 前条第 3 号については、判決の確定するまでの期間
- (4) 前条第 4 号については、その必要期間

2 復職後、再度休職した場合の休職期間は前の休職期間と通算するものとする。3 回目以降の休職についても同様とする。

3 前項の期間中の在職年数の通算は、次のとおりとする。

	在職年数
前条第 1 号	80%

前条第2号から第4号まで	その都度法人において定める
--------------	---------------

4 第1項の期間の給与は、阪南大学給与規則第29条による。

(復職)

第13条 第11条によって休職し、その休職事由が消滅したと認めるときは、復職させる。

ただし、同条第3号に該当し、有罪の判決を受けたときは、この限りではない。

2 休職中の職員が復職を希望する場合は、所定の様式により願出するものとする。

(退職)

第14条 職員は、次の各号の一に該当するときは、退職とする。

- (1) 死亡したとき。
- (2) 定年に達したとき。
- (3) 雇用期間に定めがあって、その期間が満了したとき。
- (4) 休職期間を経過しても、なお休職理由が消滅しないとき。
- (5) 第12条第1項第2号の休職期間が満了し、公職に就任したとき。
- (6) 退職を願出で承認されたとき。

(退職の願出)

第15条 職員が退職しようとする場合は、1か月前までに退職願を提出するものとする。

(解雇)

第16条 職員が次の各号の一に該当するときは、少なくとも30日前に予告するか、又は30日分の平均賃金を支給して解雇することがある。

- (1) 精神又は身体に故障があって、業務に堪えることができないと認められたとき。
- (2) 承認を得ずして他の業務に従事し、廃止の勧告に応じないとき。
- (3) 第50条及び第51条の規定により懲戒解雇を必要とするとき。
- (4) 刑事事件に関連して有罪の判決を受けたとき。
- (5) 前各号に準じる事由その他やむを得ない業務の都合のとき。

2 前項の予告日数は、平均賃金を支払った日数分、短縮することができる。

(定年)

第17条 教育職員は満67歳に達した年度の末日、事務職員は満63歳に達した年度の末日をそれぞれ定年とし、退職するものとする。ただし、事務職員については、本人が希望すれば、満65歳に達する年度の末日まで嘱託職員として再雇用する。なお、再雇用の労働条件については、本人と協議の上、雇用契約書を締結する。

第3章 服務規律

(専念義務)

第18条 職員は、服務に関し、この規則の定めるところに従い、職責の遂行に専念し、法人の教育事業の発展に努力しなければならない。

(服務規律)

第19条 職員としての身分を自覚し、次の各号を守らなければならない。

- (1) 職員は、本学の名誉を重んじ、互いに人格を尊重し、礼節を尚び、和をもって品性の向上に努めなければならない。
- (2) 職員は、職務上の機密又は職務上知り得た秘密を他に洩らしてはならない。
- (3) 職員は、管理職その他上司の職務上の指示に従い、大学の秩序を保たなければならない。
- (4) 職員は、職務上の義務に違反し、職務を怠ってはならない。
- (5) 職員は、職務の内外を問わず、本学の信用を傷つけるような行為をしてはならない。
- (6) 職員は、勤務時間中、承認を得ないで、担当業務以外のことをしてはならない。
- (7) 職員は、本学の財産又は物品を校務以外のために利用することなく、その愛護節約に努めなければならない。
- (8) 職員は、不正不当の金員を集め、又は受理してはならない。
- (9) 職員は、職場においてセクシュアル・ハラスメント等の行為をしてはならない。

(兼業の制限)

第20条 職員は、他の業務に従事し、又は報酬を得て他の業務に服するときは、承認を受けなければならない。

第4章 勤務

(欠勤)

第21条 職員は、傷病その他やむを得ない事情によって欠勤しようとするときは、あらかじめ所定の様式によって届け出なければならない。ただし、やむを得ずあらかじめ届け出ることができない場合は、電話、電報その他の方法により速やかにその旨連絡し、事後直ちに所定の手続きを行うものとする。

2 傷病のため、1週間以上欠勤するときは、治療に必要な期間を記載した医師の診断書を提出しなければならない。

(遅刻、早退又は私用外出)

第22条 やむを得ない理由によって遅刻、早退又は私用外出しようとする場合は、あらかじめ所定の様式により届け出なければならない。ただし、あらかじめ届け出ることができないときは、事後に遅滞なく届け出るものとする。

(休暇の請求)

第23条 第36条に定める特別休暇を受けようとするときは、あらかじめ所定の様式により届け出なければならない。

2 やむを得ない理由により前項の手続きを行うことができない場合は、事後直ちに同項の手続きを行うものとする。

3 前2項の手続きを怠った場合は、その当日の休暇を認めないことがある。

(欠勤等による業務手続)

第24条 職員が欠勤、早退、私用外出等をしようとする場合には、自己の不在により業務に支障をきたさないように申し送り、その他必要な措置を講ずるものとする。

(勤務時間)

第 25 条 職員の正規の勤務時間は、原則として次のとおりとする。

午前 9 時から午後 5 時までとし、土曜日は午後 0 時 30 分までとする。

2 土曜日以外の勤務時間の途中に 60 分の休憩時間を置く。

(拘束時間)

第 26 条 教育職員の拘束時間は、次のとおりとする。

- (1) 講義又は授業を担当する時間
- (2) 学生を指導する時間
- (3) 職務上出席を要する教授会、委員会等に出席する時間
- (4) 参加を要する法人又は本学の行事に出席する時間
- (5) 職務上分掌する学務に従事する時間
- (6) 学長から指示された職務に従事する時間

(授業担当時間)

第 27 条 教育職員の授業担当時間は、別表によるものとする。ただし、非常勤の者は除く。

(出張)

第 28 条 業務の都合により必要ある場合は、出張を命ずることがある。

2 出張中は通常の勤務時間に勤務したものとみなす。

3 出張旅費及び出張手続については、別に定める阪南大学旅費規則及び阪南大学海外出張旅費規則による。

(休日)

第 29 条 休日は、次のとおりとする。ただし、式典、行事等の都合により休日を他に振り替えることがある。

- (1) 日曜日
- (2) 国民の祝日(日曜日に当たるときは、その翌日を休日とする。)
- (3) 創立記念日(5 月 26 日)
- (4) その他必要と認めた日

(時間外勤務)

第 30 条 業務の都合により必要ある場合は、時間外勤務を命ずることがある。ただし、超過勤務手当は、所定の勤務時間外の労働時間に対し、労働基準法第 37 条の規定による割増賃金を支払う。ただし、早出又は遅出の調整の場合は、この限りではない。

(非常時の勤務)

第 31 条 災害その他本学に緊急事態が生じた場合は、時間外又は休日若しくは休暇中であっても、速やかに出勤し、指示に従い非常勤務につくものとする。

(諸届)

第 32 条 職員は、次の各号の一に該当する場合は、速やかに届け出なければならない。

- (1) 欠勤、遅刻、早退又は私用外出の場合
- (2) 年次有給休暇又は特別休暇の請求の場合

- (3) 本籍地又は現住所に変更のあった場合
- (4) 本人若しくは家族の氏名又は続柄に変更のあった場合
- (5) 免許又は資格等に得喪又は変更のあった場合
- (6) その他特に必要のあった場合

(出退勤)

第 33 条 職員は、始業の定刻までに出勤し、終業時まで勤務しなければならない。

2 教育職員は、出勤した場合直ちに所定の出勤簿に捺印するものとし、事務職員は、所定の方法により、出退勤を明示するものとする。これに違反した場合は、出勤として取り扱わないことがある。

(年次有給休暇)

第 34 条 職員は、4 月 1 日から翌年 3 月 31 日までの期間を休暇年度とし、前年度の所定勤務日数のうち 8 割以上を勤務した場合、当該年度内に 20 日以内の年次有給休暇を請求することができる。なお、前年度の勤務日数が所定の 8 割に満たない場合は、その勤務日数に応じ、有給休暇を請求できるものとする。

2 年次有給休暇は、各所属に応じて、その業務に支障のないように受けるものとする。

3 年次有給休暇を使用しようとする職員は、あらかじめ所定の方法により、3 日以前に届け出て承認を受けるものとする。

4 本学の運営上支障のあるときは、年次有給休暇を他の時期に振り替えさせることがある。

5 年次有給休暇の日数のうち 5 日分については、職員の希望を踏まえ法人が時季を指定することにより取得させるものとする。ただし、第 3 項により本人が取得した日数については 5 日分より除く。

6 年次有給休暇の残余日数は、20 日を限度として翌年度に繰り越すことができる。

(病気療養休暇)

第 35 条 前条第 5 項において、翌年度に持ち越せなかった残余の有給休暇は、過去 5 か年度分に限り、これを病気療養休暇(有給)として取得できる。

2 病気療養休暇は、当年度の年次有給休暇取得後、取得するものとする。

(特別休暇)

第 36 条 職員に対して請求により次の特別休暇を与える。

(1) 結婚休暇 以下に定める日数の範囲内において、職員の請求する日数(継続した日数をいう。)

本人の場合 6 日

子女の場合 3 日

兄弟姉妹孫の場合 1 日

(2) 出産休暇 産前産後各 8 週間(多胎妊娠の場合、産前 14 週間、産後 8 週間)

(3) 生理休暇 2 日以内

- (4) 育児時間 勤務時間中 1日について 2回、1回 30分(満1年に達しない乳幼児を持つ女子職員)
- (5) 忌引 次の表に定める日数の範囲内において、職員の請求する日数(継続した日数をいう。)

忌引日数表

	死亡した者	日数
	配偶者	10日
血族	1 親等の直系尊属(父母)	7日
	〃 卑属(子)	5日
	2 親等の直系尊属(祖父母)	3日
	〃 卑属(孫)	1日
	2 親等の傍系者(兄弟姉妹)	3日
	3 親等の傍系尊属(伯叔父母)	1日
姻族	1 親等の直系尊属	3日
	〃 卑属(継子)	1日
	2 親等の直系尊属	1日
	〃 傍系者	1日
	3 親等の傍系尊属	1日

(注)

- 1 職員と生計を同じくしている配偶者の父母、子、祖父母又は兄弟姉妹の場合は、これに相当する血族が死亡した場合と同じ日数とする。
 - 2 父母が既に死亡しているため、職員が父母に代って祖父母の葬祭を行う場合は、父母の葬祭を行う場合と同じ日数とする。
 - 3 葬祭のために遠隔の地に赴く必要があるときは、実際に必要とした往復日数を加算した日数とする。
- (6) 本人の父母、配偶者、子女、祖父母、配偶者の父母並びに兄弟姉妹の法要を営むときは当日
- (7) 年末年始 5日間(12月29日から同月31日まで並びに翌年1月2日及び同月3日)
- (8) 選挙権その他公民としての権利を行使し、又は公の義務を履行するときはその期間
- (9) 天災その他自己の責に帰することのできない事故によって就業できない時はその期間
- (10) 証人、鑑定人、参考人等として、国会、裁判所、地方公共団体等の議会その他の官公署へ出頭する場合は、その都度必要と認める期間

(11) 伝染病予防法適用区域に居住する者の隔離期間

(12) 前各号に掲げるもののほか、必要と認める場合はその期間

2 職員が前項各号の特別休暇を受けようとするときは、前日までに届け出なければならない。ただし、やむを得ない場合は、事後速やかに届け出なければならない。

(育児休業等)

第 37 条 育児休業等は、別に定める育児休業等に関する規程による。

(介護休業等)

第 38 条 介護休業等は、別に定める介護休業等に関する規程による。

第 5 章 給与

(給与)

第 39 条 職員の基本給、一時金、諸手当、昇給及び給与の支給日等については、別に定める阪南大学給与規則による。

第 6 章 慶弔見舞金、退職金

(慶弔金)

第 40 条 慶弔見舞金については、別に定める阪南大学慶弔見舞金規則による。

(退職金)

第 41 条 退職金については、別に定める阪南大学退職金規則による。

第 7 章 安全及び衛生

(遵守義務)

第 42 条 職員は、安全衛生関係の規則、心得を守るほか、安全衛生管理者、火元責任者、所属長等の指示又はその行う措置に従い、安全及び衛生に努め、その向上に努力するものとする。

(非常災害の措置)

第 43 条 職員は、災害その他危害を発見し、又は予見した場合は、臨機防止の措置を講ずるとともに、直ちに関係者に報告し、被害を最少限度に止めるよう努めるものとする。

(就業禁止)

第 44 条 職員が次の各号の一に該当すると認められたときは、業務につくことができない。

(1) 精神に障害のある者

(2) 開放性結核患者

(3) 法定伝染病患者及び疑似者並びに保菌者

(4) その他の疾病にかかっている者で、勤務のため病勢が著しく悪化する恐れのある者

2 健康診断の結果必要ある場合は、就業制限又は職務の変更等健康保持に関する措置を講ずることがある。

(伝染病届出)

第 45 条 職員は、同居又は近隣の者が伝染病にかかり、又はその疑いがある場合は、直ちに届け出るものとする。

2 前項の届出があったときは、所轄保健所の認定により出勤を停止することがある。
(健康診断)

第 46 条 職員に対し、毎年 1 回以上定期的に又は必要に応じて健康診断を行う。
(衛生に関する遵守事項)

第 47 条 職員は、定められた衛生に関する事項を守り、職場の衛生に努めるものとする。
(災害補償)

第 48 条 職員の業務上の災害補償については、労働基準法第 8 章の定めるところによる。

第 8 章 表彰及び懲戒

(表彰)

第 49 条 職員が次の各号の一に該当するときは、常任理事会に諮り理事長が表彰する。

- (1) 本学の発展に特に功績のあった者
- (2) 職務に精励して職員の模範と認められる者
- (3) 災害を未然に防止し、又は非常災害に際して特に功績のあった者
- (4) 教育、研究上特に功績のあった者
- (5) その他特に表彰の価値ありと認められた者

(懲戒)

第 50 条 理事長は、職員が第 3 章に規定する服務規則に関し、非違があると認めるときは、別に定める懲戒委員会に諮り、懲戒処分をすることができる。

(懲戒の種類)

第 51 条 懲戒の種類は、戒告、減給、停職、降格・降任及び懲戒解雇とする。

- (1) 戒告は、文書をもって将来を戒める。
- (2) 減給は、給与を減額する。
- (3) 停職は、職員としての身分を保有するが、その職務に従事させない。停職中の給与は、支給しない。
- (4) 降格・降任は、教育職員においては職位の引き下げ、役職位の解職を行い、事務職員においては職能資格の引き下げ、役職位の解職若しくは引き下げを行う。
- (5) 懲戒解雇は、予告期間を設けなくて即時解雇し、退職金は支給しない。行政官庁(労働基準監督署長)の認定を得た場合は、予告手当をも支給しない。

2 前項第 1 号から第 4 号の懲戒処分者に対しては、始末書の提出を命じる。

(賠償義務)

第 52 条 職員が故意又は重大な過失により、本学に損害を与えた場合は、懲戒処分にかかわらず、損害賠償又は不当利得の返還を行わせることがある。

(助教(任期付)に係る規程の適用)

第 53 条 阪南大学任期付教員任用規程に基づく任期付教員のうち、助教(任期付)については、第 11 条(休職)、第 12 条(休職期間)、第 13 条(復職)、第 14 条(退職)第 2

号、第4号及び第5号、第17条（定年）、第34条（年次有給休暇）第5項、第35条（病気療養休暇）の規定は適用しない。

（助教（任期付）の採用又は契約更新時の年齢制限）

第54条 助教(任期付)は、雇用期間の開始の日において満67歳未満でなければ、採用又は契約更新をすることができない。

第9章 その他

（その他）

第55条 この規則に定めるもののほか、職員の就業に関し必要な事項は、別に定める。

（規則の改廃）

第56条 この規則の改廃は、理事会の議を経て理事長が行う。

附 則(令和4年5月25日)

この規則は、令和4年5月25日から施行し、令和4年4月1日から適用する。

別表

専任教員の授業担当時間は、次のとおりとする。ただし、1コマは2時間(90分)とし、1週当たりの持コマとする。

(1) 責任持コマ数は、担当科目に関係なく一律4コマとする。ただし、役職教員の場合3コマとする。

(2) 義務コマ数は、次表のとおりとする。

職名\教科目	語学・ 体育	講義・演習(一 般・専門共)
教授	6 コマ	5 コマ
准教授・専任講師	5 コマ	4 コマ
助教	4 コマ	4 コマ

ただし、表中教授の講義・演習(一般・専門共)の5コマが4コマになる場合も許容する。

(3) 持コマ数の上限は、担当科目に関係なく次のとおりとする。

教授 8 コマ

准教授・専任講師 7 コマ

助教 6 コマ

曜日/時間	区分	火				水				木				金			
		前編名	クラス	教員	区分	前編名	クラス	教員	区分	前編名	クラス	教員	区分	前編名	クラス	教員	
1	一般教育科目	前期 ドイツ1	A	2203	一般教育科目	前期 AIデータサイエンス入門1	B	134	一般教育科目	前期 英語3	9C	2203	一般教育科目	前期 ドイツ語3	B	2208	
	一般教育科目	前期 フランス語1	A	2201	一般教育科目	前期 AIデータサイエンス入門1	A	133	一般教育科目	前期 外国文学a	B	652	一般教育科目	前期 フランス語1	B	2201	
	一般教育科目	前期 日本文化a	A	4103	一般教育科目	前期 ドイツ語1	C	2201	一般教育科目	前期 数学a	A	813	一般教育科目	前期 フランス語1	D	614	
	一般教育科目	前期 地球環境科学a	A	642	一般教育科目	前期 フランス語1	C	2201	一般教育科目	前期 数学b	A	651	一般教育科目	前期 日本語a	A	641	
	学科学目	前期 コーチング論1		634	一般教育科目	前期 英語1	4C	2207	一般教育科目	前期 スポーツ技術a	E	GYC32	一般教育科目	前期 化学a	A	621	
	学科学目	前期 ホスピタリティマネジメント		681	一般教育科目	前期 現代史1	4E	2208	一般教育科目	前期 スポーツ技術b	E	GYC31	学科学目	前期 スポーツマネジメント入門		832	
	学科学目	前期 マーケティング/シリング論		625	一般教育科目	前期 英語1	4D	2210	キャリア教育科目	前期 基礎キャリアデザインa	A	821	学科学目	前期 税法		4301	
	学科学目	前期 ビジネスデータ分析2	A	4301	一般教育科目	前期 英語1	4B	823	キャリア教育科目	前期 基礎キャリアデザインa	B	822	学科学目	前期 専門演習3	N	131	
	学科学目	前期 ビジネスデータ分析2	B	4206	一般教育科目	前期 中国語1	E	2209	一般教育科目	前期 生涯学習概論		4201	学科学目	前期 国際マーケティング		4413	
	学科学目	前期 ビジネスデータ分析2	C	4207	一般教育科目	前期 中国語1	F	821	一般教育科目	前期 アパレル産業論		833	学科学目	前期 国際金融論		4511	
	学科学目	前期 ビジネスデータ分析2	D	4310	一般教育科目	前期 経営学a	A	652	学科学目	前期 スポーツ競技入門		123	学科学目	前期 中国語3	H	2303	
	学科学目	前期 ビジネスデータ分析2	E	4311	一般教育科目	前期 現代史a	A	651	学科学目	前期 発達心理学		831	一般教育科目	前期 中国語3	9A	2304	
	学科学目	前期 ビジネスデータ分析2	F	4413	一般教育科目	前期 スポーツ技術a	G	GYC32	学科学目	前期 専門演習3	C	612	一般教育科目	前期 自然史学a	A	641	
	学科学目	前期 ビジネスデータ分析2	G	4511	一般教育科目	前期 スポーツ技術b	G	GYC31	学科学目	前期 専門演習3			一般教育科目	前期 スポーツ技術a	C	GYC32	
	学科学目	前期 インターネットマーケティング	A	4202	一般教育科目	前期 人間科学a	A	123	一般教育科目	前期 人間科学a			一般教育科目	前期 スポーツ文化論a	E	821	
	一般教育科目	前期 ビジネス日本語基礎a	A	4302	一般教育科目	前期 日本語聴解発表1a	D	4401	一般教育科目	前期 日本語聴解発表2a	D	4402	一般教育科目	前期 基礎キャリアデザインa	F	821	
	一般教育科目	前期 日本語演習a	A	4301	一般教育科目	前期 日本語聴解発表2a	D	4402	一般教育科目	前期 日本語聴解発表2a	D	4402	一般教育科目	基礎キャリアデザインa	E	821	
	一般教育科目	前期 フランス語3	A	2201	学科学目	前期 リテラブルマーケティング1	A	4104	学科学目	前期 ICTビジネス論	F	632	学科学目	前期 教育社会学	F	811	
					学科学目	前期 ICITビジネス論	A	4103	学科学目	前期 基礎数学1	F	634	学科学目	前期 企業分析論		651	
					学科学目	前期 基礎数学1	F	632	学科学目	前期 基礎数学2	D	622	学科学目	前期 スポーツビジネス		692	
					学科学目	前期 基礎数学1	D	631	学科学目	前期 基礎数学1	D	632	学科学目	前期 国際ビジネス論	A	4104	
					学科学目	前期 基礎数学1	D	631	学科学目	前期 基礎数学1	D	631	学科学目	前期 キャリアデザインプログラム1		831	
	2	一般教育科目	前期 ドイツ語1	B	2203	一般教育科目	前期 AIデータサイエンス入門1	C	133	一般教育科目	前期 情報処理入門	4A	631	一般教育科目	前期 コリア語研究a	B	621
		一般教育科目	前期 フランス語1	B	2201	一般教育科目	前期 AIデータサイエンス入門1	D	134	一般教育科目	前期 情報処理入門	4B	632	一般教育科目	前期 ドイツ語3	A	2208
一般教育科目		前期 中国語1	9A	2202	一般教育科目	前期 ドイツ語1	D	2203	一般教育科目	前期 情報処理入門	4C	634	一般教育科目	前期 フランス語1	A	2201	
一般教育科目		前期 論理学a	B	837	一般教育科目	前期 フランス語1	D	614	一般教育科目	前期 情報処理入門	4D	635	一般教育科目	前期 経済学a	A	651	
一般教育科目		前期 日本文化a	B	652	一般教育科目	前期 英語1	4G	2207	一般教育科目	前期 情報処理入門	4E	624	一般教育科目	前期 化学a	B	1141	
一般教育科目		前期 地球環境科学a	B	642	一般教育科目	前期 AIデータサイエンス入門1	4E	134	一般教育科目	前期 情報処理入門	4F	132	一般教育科目	前期 スポーツトレーニングa	B	GYC10	
一般教育科目		前期 スポーツ技術a	A	GYC32	一般教育科目	前期 英語1	4F	823	一般教育科目	前期 東洋史a	A	841	一般教育科目	前期 スポーツ技術b	B	GYC32	
一般教育科目		前期 スポーツ技術b	A	GYC31	一般教育科目	前期 英語1	4H	2210	一般教育科目	前期 数学a	B	651	一般教育科目	前期 スポーツ技術	B	GYC31	
一般教育科目		前期 ビジネス日本語1a	A	633	一般教育科目	前期 中国語1	G	2209	一般教育科目	前期 スポーツ・トレーニングa	E	D301	一般教育科目	前期 スタディスキル1	4A	821	
一般教育科目		前期 総合日本史a	A	2304	一般教育科目	前期 中国語1	H	821	一般教育科目	前期 スポーツ・トレーニングa	E	D302	一般教育科目	前期 スタディスキル1	4B	813	
学科学目		前期 プレゼン1	B	122	一般教育科目	前期 外国文学a	A	2301	一般教育科目	前期 スポーツ科学論	A	123	一般教育科目	前期 スタディスキル1	4C	841	
学科学目		前期 プレゼン1	A	614	一般教育科目	前期 文化人類学a	A	641	一般教育科目	前期 スポーツ科学論	J	GYC1A	一般教育科目	前期 スタディスキル1	4D	622	
学科学目		前期 プレゼン1	C	615	一般教育科目	前期 経営学a	B	652	一般教育科目	前期 スポーツ技術a	F	GYC1B	一般教育科目	前期 スタディスキル1	4E	831	
学科学目		前期 プレゼン1	D	616	一般教育科目	前期 現代史a	B	651	一般教育科目	前期 スポーツ技術b	J	GYC31	一般教育科目	前期 スタディスキル1	4F	2301	
学科学目		前期 プレゼン1	E	4509	一般教育科目	前期 スポーツ・トレーニングa	C	GR203	学科学目	前期 基礎演習1	M	2204	学科学目	前期 スタディスキル1	4G	642	
学科学目		前期 マ케팅入門	B	4401	一般教育科目	前期 スポーツ・トレーニングa	D	GYC32	学科学目	前期 専門演習1	H	131	学科学目	前期 専門演習3	O	623	
					一般教育科目	前期 スポーツ・トレーニングa	D	GY32	学科学目	前期 スポーツ	J	813	学科学目	前期 基礎演習1	M	2204	
					一般教育科目	前期 人間科学a	B	123	学科学目	前期 専門演習2	J	2203	学科学目	前期 基礎演習1	Q	642	
					一般教育科目	前期 社会人としての教養講座a	A	813	学科学目	前期 専門演習3	P	612	学科学目	前期 グローバルマーケティング	B	813	
					一般教育科目	前期 ビジネス日本語2a	A	2204	学科学目	前期 専門演習3	P	612	学科学目	前期 交通サービス論		642	
					学科学目	前期 マ케팅論	B	621	学科学目	前期 基礎演習1	I	132	学科学目	前期 職業指導1		651	
					学科学目	前期 基礎演習1	I	132	学科学目	前期 マ케팅論	B	621	学科学目	前期 専門演習1	D	611	
					学科学目	前期 総合演習(デジタル・エコノミー)	A	4202	学科学目	前期 基礎数学1	A	631	学科学目	前期 専門演習3	A	612	
					学科学目	前期 基礎数学1	B	632	学科学目	前期 基礎数学1	B	632	学科学目	前期 専門演習3	Q	614	
				学科学目	前期 基礎数学1	C	634	学科学目	前期 基礎数学1	C	634	学科学目	前期 専門演習3	R	613		
												学科学目	前期 キャリアデザインプログラム3		831		
3	一般教育科目	前期 英語5	B	2205	一般教育科目	前期 AIデータサイエンス入門1	E	133	一般教育科目	前期 英語3	9C	135	一般教育科目	前期 英語3	9D	2101	
	一般教育科目	前期 英語5研究a	B	823	一般教育科目	前期 AIデータサイエンス入門1	F	134	一般教育科目	前期 AIデータサイエンス入門1	A	4102	一般教育科目	前期 英語5	9B	2104	
	一般教育科目	前期 英語5研究a	A	1141	一般教育科目	前期 スペイン語1	B	633	一般教育科目	前期 スペイン語1	A	821	一般教育科目	前期 中国語3	9B	2104	
	一般教育科目	前期 生命科学a	A	4301	一般教育科目	前期 ドイツ語研究a	A	4301	一般教育科目	前期 東洋史a	B	622	一般教育科目	前期 地理学a	B	123	
	一般教育科目	前期 教養演習1a	A	2303	一般教育科目	前期 フランス語研究a	A	831	一般教育科目	前期 日本国憲法	A	813	一般教育科目	前期 化学a	C	642	
	一般教育科目	前期 教養演習1b	C	1301	一般教育科目	前期 英語3	9A	635	一般教育科目	前期 スポーツ・トレーニングa	F	D301	一般教育科目	前期 スポーツ技術a	K	GYC31	
	一般教育科目	前期 日本語レポート1a	A	2210	一般教育科目	前期 中国語研究a	A	833	一般教育科目	前期 スポーツ・トレーニングa	A	GYC32	一般教育科目	前期 スポーツ技術b	L	GYC32	
	一般教育科目	前期 日本語レポート2a	A	2308	一般教育科目	前期 文化人類学a	B	641	一般教育科目	前期 スポーツ・トレーニングa	G	GYC1A	一般教育科目	前期 基礎演習1	B	2209	
	学科学目	前期 プレゼン1	F	616	一般教育科目	前期 日本語聴解1a	A	2308	一般教育科目	前期 スポーツ・トレーニングa	A	GYC31	一般教育科目	前期 生涯スポーツ論	A	641	
	学科学目	前期 プレゼン1	G	2204	一般教育科目	前期 日本語聴解2a	B	2304	一般教育科目	前期 スポーツ・トレーニングa	F	D302	学科学目	前期 基礎演習1	N	2205	
	学科学目	前期 プレゼン1	H	2203	学科学目	前期 基礎演習1	B	611	学科学目	前期 インテリアビジネス		642	学科学目	前期 キャリア教育科目	J	811	
	学科学目	前期 プレゼン1	I	2201	学科学目	前期 基礎演習1	Q	612	学科学目	前期 プレゼン1	K	2208	学科学目	前期 教職入門	J	622	
	学科学目	前期 プレゼン1	J	4509	学科学目	前期 工業簿記	I	622	学科学目	前期 プレゼン1	L	615	学科学目	前期 アスリートキャリア1	E	621	
	学科学目	前期 ホスピタリティ	B	641	学科学目	前期 応急処置	I	632	学科学目	前期 プレゼン1	M	2208	学科学目	前期 専門演習1	Q	623	
	学科学目	前期 ライフスタイルビジネス		621	学科学目	前期 国際貿易論		821	学科学目	前期 プレゼン1	N	2207	学科学目	前期 基礎演習1	Q	2206	
	学科学目	前期 インターネットマーケティング入門	A	832	学科学目	前期 専門演習3	H	614	学科学目	前期 プレゼン1	O	4301	学科学目	前期 基礎演習1		121	
	学科学目	前期 基礎演習1	A	2206	学科学目	前期 ICT実務		4407	学科学目	前期 マネジメントゲーム		1031	学科学目	前期 基礎演習1		611	
	学科学目	前期 基礎演習1	D	2207	学科学目	前期 経営情報論		4202	学科学目	前期 マネジメントゲーム	E	2210	学科学目	前期 基礎演習1		4201	
	学科学目	前期 専門演習1	R	612	学科学目	前期 英文化経営論		4101	学科学目	前期 基礎演習1		841	学科学目	前期 基礎演習1		4203	
	学科学目	前期 専門演習2	J	2208	学科学目	前期 スポーツ機械論		4201	学科学目	前期 基礎演習1			学科学目	前期 基礎演習1		4204	
	学科学目	前期 専門演習3	K	611	学科学目	前期 アメリカビジネス論		4102	学科学目	前期 基礎演習1			学科学目	前期 基礎演習1		4205	
	学科学目	前期 経営統計学1	A	4105									学科学目	前期 キャリアデザインプログラム5		2203	
	4	一般教育科目	前期 フランス語5	D	2303	一般教育科目	前期 AIデータサイエンス入門1	G	133	一般教育科目	前期 マスメディア論a		822	一般教育科目	前期 コリア語1		2101
		一般教育科目	前期 英語5研究a	C	823	一般教育科目	前期 AIデータサイエンス入門1	H	132	一般教育科目	前期 ドイツ語5		2204	一般教育科目	前期 法學a		832
一般教育科目		前期 英語5研究a	D	823	一般教育科目	前期 AIデータサイエンス入門1	F	134	一般教育科目	前期 コリア語1	B	821	一般教育科目	前期 フランシヨンドビジネス		641	
一般教育科目		前期 生命科学a	B	651	一般教育科目	前期 中国語研究a	B	833	一般教育科目	前期 西洋史a	C	841	一般教育科目	前期 フランシヨンドビジネス		624	
一般教育科目		前期 日本語レポート3a	B	617	一般教育科目	前期 心理学a	A	4101	一般教育科目	前期 東洋史a	B	622	一般教育科目	前期 フランシヨンドビジネス		624	
一般教育科目		前期 日本文化b	A	4301	一般教育科目	前期 経営学a	A	4101	一般教育科目	前期 東洋史a	B	622	一般教育科目	前期 基礎演習1		623	
学科学目		前期 会社法		641	一般教育科目	前期 哲学a	A	4101	一般教育科目	前期 日本国憲法	A	813	一般教育科目	前期 基礎演習1			
学科学目		前期 基礎演習1	L	624	一般教育科目	前期 物理学a	A	2201	一般教育科目	前期 基礎演習2a	A	2201	学科学目	前期 財務会計論		2207	
学科学目		前期 基礎演習1	S	2205	学科学目	前期 ストアオペレーション	A	822	学科学目	前期 基礎演習2b	A	2201	学科学目	前期 基礎演習1		611	
学科学目		前期 基礎演習1	H	122	学科学目	前期 文化人類学a	B	641	学科学目	前期 プライダルビジネス	O	4101	学科学目	前期 基礎演習1		613	
学科学目		前期 基礎演習1	J	623	学科学目	前期 経営学a	C	617	学科学目	前期 プレゼン1	P	2208	学科学目	前期 基礎演習1		615	
学科学目		前期 基礎演習1	K	611	学科学目	前期 インターネットマーケティング	F	611	学科学目	前期 プレゼン1	R	2209	学科学				

曜日/時間	月				火				水				木				金				
	区分	科目	前橋名	クラス	区分	科目	前橋名	クラス	区分	科目	前橋名	クラス	区分	科目	前橋名	クラス	区分	科目	前橋名	クラス	
1	一般教育科目	後期 ドイツ語2		A 2203	一般教育科目	後期 ドイツ語2		C 2201	一般教育科目	後期 英語4		9S 2205	一般教育科目	後期 ドイツ語4		B 2208	一般教育科目	後期 ドイツ語4		D 2210	
	一般教育科目	後期 フランス語4		A 2103	一般教育科目	後期 英語2		4C 2207	学科学目	後期 専門演習4		C 612	学科学目	後期 専門演習4		N 131	一般教育科目	後期 英語4		4H 2209	
	一般教育科目	後期 日本語1b		A 4103	一般教育科目	後期 英語2		4A 2208	一般教育科目	後期 外国文学b		B 1141	一般教育科目	後期 英語4		A 621	一般教育科目	後期 英語4		4E 2207	
	一般教育科目	後期 地球環境科学b		A 642	一般教育科目	後期 英語2		4D 2210	一般教育科目	後期 教育学b		B 2201	一般教育科目	後期 フランス語3		B 2201	一般教育科目	後期 英語4		4F 823	
	学科学目	後期 コーチング論2		634	一般教育科目	後期 英語2		4B 823	一般教育科目	後期 数学b		A 651	一般教育科目	後期 心理学b		B 4102	一般教育科目	後期 英語4		4G 2208	
	学科学目	後期 サブゼミビジネス		684	一般教育科目	後期 英語2		2208	一般教育科目	後期 スポーツ技術b		C 612	一般教育科目	後期 日本語1a		A 641	一般教育科目	後期 フランス語3		4E 2207	
	学科学目	後期 商品開発論		631	一般教育科目	後期 中国語2		F 621	一般教育科目	後期 スポーツ技術b		C 612	学科学目	後期 多国籍企業論		A 4201	一般教育科目	後期 中国語4		G 2302	
	学科学目	後期 ビジネスデータ分析1		A 4201	一般教育科目	後期 日本語理解発表1b		I 132	キャリア教育科目	後期 基礎キャリアデザインb		A 821	学科学目	後期 新国際ビジネス論		A 4202	一般教育科目	後期 中国語4		H 2303	
	学科学目	後期 ビジネスデータ分析1		A 4202	一般教育科目	後期 日本語理解発表2b		I 132	キャリア教育科目	後期 基礎キャリアデザインb		B 822	学科学目	後期 スポーツと社会		A 4203	一般教育科目	後期 中国語4		H 2303	
	学科学目	後期 ビジネスデータ分析1		B 4203	一般教育科目	後期 AI-データサイエンス入門2		A 133	学科学目	後期 国際産業論		4102						学科学目	後期 流通システム論		9A 2304
	学科学目	後期 ビジネスデータ分析1		D 4204	一般教育科目	後期 AI-データサイエンス入門2		B 134										学科学目	後期 情報科学b		A 634
	学科学目	後期 ビジネスデータ分析1		E 4205	一般教育科目	後期 フランス語3		C 2201										学科学目	後期 情報科学b		A 634
	学科学目	後期 ビジネスデータ分析1		F 4206	一般教育科目	後期 経営学b		A 652										学科学目	後期 自然科学史b		B 614
	学科学目	後期 ビジネスデータ分析1		G 4207	一般教育科目	後期 現代史b		A 651										学科学目	後期 スポーツ技術b		H 614
	一般教育科目	後期 ビジネス日本語基礎b		A 4301	一般教育科目	後期 スポーツ技術b		G 612										学科学目	後期 スポーツ技術b		H 614
	一般教育科目	後期 日本語演習b		4303	一般教育科目	後期 人間科学b		G 613										学科学目	後期 スポーツ文化論b		H 614
						一般教育科目	後期 人間科学b		A 123									キャリア教育科目	後期 基礎キャリアデザインb		E 621
						学科学目	後期 リーダーシップ2		A 4310									キャリア教育科目	後期 基礎キャリアデザインb		F 621
						学科学目	後期 eコマース		4311									学科学目	後期 コンテンツビジネス		F 651
																		学科学目	後期 デジタルコミュニケーション		A 4104
																		キャリア教育科目	後期 キャビネットプログラム2		635
2	一般教育科目	後期 ドイツ語2		B 2203	一般教育科目	後期 ドイツ語2		D 2203	学科学目	後期 基礎演習2		M 2204	一般教育科目	後期 ドイツ語4		A 2208	一般教育科目	後期 ドイツ語4		C 2210	
	一般教育科目	後期 中国語2		9A 2207	一般教育科目	後期 英語2		4D 2207	学科学目	後期 専門演習2		H 131	学科学目	後期 専門演習4		O 623	一般教育科目	後期 英語2		9A 2301	
	一般教育科目	後期 総合日本語1b		2304	一般教育科目	後期 英語2		4E 823	学科学目	後期 基礎演習2		O 617	一般教育科目	後期 コリア語文化b		A 642	一般教育科目	後期 英語2		4D 2208	
	一般教育科目	後期 フランス語3		B 2203	一般教育科目	後期 英語2		4H 2210	学科学目	後期 専門演習4		D 2203	一般教育科目	後期 フランス語3		A 2201	一般教育科目	後期 英語4		4A 2207	
	一般教育科目	後期 論理学b		B 123	一般教育科目	後期 中国語2		4G 2209	学科学目	後期 専門演習4		P 612	一般教育科目	後期 経営学b		A 651	一般教育科目	後期 英語4		4B 823	
	一般教育科目	後期 日本語1b		B 1031	一般教育科目	後期 ビジネス日本語2b		H 821	一般教育科目	後期 情報処理応用		4A 631	一般教育科目	後期 化学b		B 621	一般教育科目	後期 英語4		4C 2208	
	一般教育科目	後期 地球環境科学b		B 642	一般教育科目	後期 AI-データサイエンス入門2		I 132	一般教育科目	後期 情報処理応用		4B 632	一般教育科目	後期 スポーツトレーニングb		B 612	一般教育科目	後期 中国語4		E 2302	
	一般教育科目	後期 スポーツ技術b		A 612	学科学目	後期 基礎演習2		I 132	一般教育科目	後期 情報処理応用		4C 634	一般教育科目	後期 AI-データサイエンス入門2		B 612	一般教育科目	後期 中国語4		F 2303	
	学科学目	後期 エンターテインメントビジネス		A 613	学科学目	後期 AI-データサイエンス入門2		C 133	一般教育科目	後期 情報処理応用		4E 624	一般教育科目	後期 スタディスキルズ2		A 651	学科学目	後期 職業指導2		F 651	
	学科学目	後期 プレゼン2		A 614	一般教育科目	後期 AI-データサイエンス入門2		D 134	一般教育科目	後期 情報処理応用		4F 133	一般教育科目	後期 スタディスキルズ2		A 652	学科学目	後期 専門演習2		D 611	
	学科学目	後期 プレゼン2		B 122	一般教育科目	後期 フランス語3		D 614	一般教育科目	後期 東洋史b		A 641	一般教育科目	後期 スタディスキルズ2		4C 841	学科学目	後期 専門演習4		O 614	
	学科学目	後期 プレゼン2		C 615	一般教育科目	後期 AI-データサイエンス入門2		A 2201	一般教育科目	後期 数学b		B 651	一般教育科目	後期 スタディスキルズ2		A 642	学科学目	後期 専門演習4		R 613	
	学科学目	後期 プレゼン2		D 616	一般教育科目	後期 文化人類学b		A 621	一般教育科目	後期 スポーツトレーニングb		E 630	一般教育科目	後期 スタディスキルズ2		4E 133	一般教育科目	後期 中国語4		F 2303	
	学科学目	後期 経営学b		E 4509	一般教育科目	後期 経営学b		B 652	一般教育科目	後期 スポーツトレーニングb		E 630	一般教育科目	後期 スタディスキルズ2		4F 2301	一般教育科目	後期 スペイン語3		B 2307	
	学科学目	後期 経営戦略論		2301	一般教育科目	後期 現代史b		B 651	一般教育科目	後期 スポーツ技術b		F 612	学科学目	後期 国際投資論		A 4301	一般教育科目	後期 フランス語3		C 2201	
	学科学目	後期 経営組織論		4103	一般教育科目	後期 スポーツトレーニングb		D 613	一般教育科目	後期 スポーツ技術b		G 613	学科学目	後期 英語で学ぶ国際ビジネス		4303	一般教育科目	後期 現代日本事情b		G 2306	
	学科学目	後期 金融概論		4104	一般教育科目	後期 スポーツトレーニングb		C 613	一般教育科目	後期 スポーツ技術b		E 613	学科学目	後期 英語で学ぶ国際ビジネス		A 4301	一般教育科目	後期 スポーツ技術b		I 613	
	学科学目	後期 ブランドビジネス		4105	一般教育科目	後期 スポーツ技術b		D 614	一般教育科目	後期 スポーツ技術b		E 613	学科学目	後期 英語で学ぶ国際ビジネス		G 613	一般教育科目	後期 スポーツ技術b		J 613	
						学科学目	後期 人間科学b		B 123									学科学目	後期 ロジスティクス論		J 613
						一般教育科目	後期 社会人としての教養講座b		A 642									学科学目	後期 演習入門		4504
						学科学目	後期 プロスポーツビジネス		813									学科学目	後期 キャビネットプログラム4		635
3	一般教育科目	後期 英語6		2205	一般教育科目	後期 英語6		9A 2205	一般教育科目	後期 英語4		9C 133	一般教育科目	後期 英語4		9D 2101	一般教育科目	後期 英語2		9B 2208	
	一般教育科目	後期 日本語1a		2210	一般教育科目	後期 日本語1b		2210	学科学目	後期 基礎演習2		E 2210	一般教育科目	後期 中国語4		9B 2104	一般教育科目	後期 英語2		9B 2208	
	一般教育科目	後期 日本語1b		2306	一般教育科目	後期 日本語2b		2304	一般教育科目	後期 地理学b		A 641	学科学目	後期 基礎演習2		N 2205	一般教育科目	後期 中国語2		9B 2302	
	学科学目	後期 基礎演習2		A 2206	学科学目	後期 基礎演習2		B 614	一般教育科目	後期 西洋史b		A 821	学科学目	後期 基礎演習2		M 131	学科学目	後期 専門演習2		E 623	
	学科学目	後期 基礎演習2		D 2207	学科学目	後期 基礎演習2		O 612	一般教育科目	後期 東洋史b		B 622	学科学目	後期 基礎演習2		N 2205	学科学目	後期 専門演習2		G 121	
	学科学目	後期 専門演習2		R 612	学科学目	後期 専門演習4		H 614	学科学目	後期 スポーツトレーニングb		A 613	学科学目	後期 基礎演習2		O 2203	学科学目	後期 専門演習4		B 611	
	学科学目	後期 専門演習4		J 2208	一般教育科目	後期 AI-データサイエンス入門2		F 134	一般教育科目	後期 AI-データサイエンス入門2		F 134	一般教育科目	後期 経済学b		B 641	学科学目	後期 アスリートキャリア2		1031	
	一般教育科目	後期 英語研究2b		K 623	一般教育科目	後期 AI-データサイエンス入門2		F 134	一般教育科目	後期 スポーツトレーニングb		G 614	一般教育科目	後期 経営学b		C 642	一般教育科目	後期 地理学b		B 621	
	一般教育科目	後期 英語研究2b		A 623	一般教育科目	後期 フランス語研究b		822	一般教育科目	後期 AI-データサイエンス入門2		A 613	一般教育科目	後期 スポーツ技術b		K 613	一般教育科目	後期 人間関係論b		B 2301	
	一般教育科目	後期 生命科学b		A 122	一般教育科目	後期 中国語研究b		A 624	一般教育科目	後期 AI-データサイエンス入門2		F 134	一般教育科目	後期 スポーツ技術b		L 613	一般教育科目	後期 政治学b		G 622	
	一般教育科目	後期 教養演習1b		A 2303	一般教育科目	後期 文化人類学b		B 641	一般教育科目	後期 インテリアデザイン		2301	一般教育科目	後期 スポーツ文化論b		H 613	一般教育科目	後期 スポーツトレーニングb		H 613	
	学科学目	後期 ワールドビジネス		C 641	一般教育科目	後期 アリバイビジネス		641	学科学目	後期 フライダタルマネジメント		4101	学科学目	後期 スポーツビジネスキャリア		1141	一般教育科目	後期 スポーツトレーニングb		H 613	
	学科学目	後期 専門演習2		F 2202	学科学目	後期 会計学入門		808	学科学目	後期 プレゼン2		K 2207	学科学目	後期 プロジェクト演習2		633	一般教育科目	後期 生涯スポーツ論b		A 651	
	学科学目	後期 プレゼン2		G 616	学科学目	後期 サービスマーケティング論		4310	学科学目	後期 プレゼン2		M 2208	学科学目	後期 ファッション&IT		4511	キャリア教育科目	後期 基礎キャリアデザインb		J 811	
	学科学目	後期 プレゼン2		H 2203	学科学目	後期 多量解析		4311	学科学目	後期 プレゼン2		N 615									
	学科学目	後期 プレゼン2		I 2204	学科学目	後期 貿易英語		4510	学科学目	後期 プレゼン2		O 615									
	学科学目	後期 プレゼン2		A 623					学科学目	後期 プロジェクト演習4		831									
	学科学目	後期 マーケティング論		A 4103					学科学目	後期 基本演習2		841									
	学科学目	後期 専攻演習2		4103																	
	学科学目	後期 金融テクノロジー		4104																	
	学科学目	後期 経営統計学2		4105																	
4	一般教育科目	後期 コリア語2		2101	一般教育科目	後期 コリア語2		2101	一般教育科目	後期 ドイツ語6		2204	学科学目	後期 基礎演習2		P 2207	一般教育科目	後期 英語2		9D 811	
	一般教育科目	後期 日本語1a		617	学科学目	後期 基礎演習2		617	学科学目	後期 基礎演習2		4301	学科学目	後期 専門演習2		O 613	一般教育科目	後期 ボランティア実践b		628	
	学科学目	後期 基礎演習2		L 2204	学科学目	後期 基礎演習2		611	学科学目	後期 基礎演習2		4302	学科学目	後期 専門演習2		L 615	学科学目	後期 専門演習2		E 623	
	学科学目	後期 基礎演習2		S 2205	一般教育科目	後期 AI-データサイエンス入門2		G 122	学科学目	後期 専門演習2		I 122	一般教育科目	後期 コリア語3		O 2103	一般教育科目	後期 社会学b		E 642	
	学科学目	後期 基礎演習2		H 122	一般教育科目																

阪南大学経営学部
設置の趣旨等を記載した書類

目次

1 設置の趣旨及び必要性	・・・P. 2
2 学部・学科等の特色	・・・P. 4
3 学部・学科等の名称及び学位の名称	・・・P. 4
4 教育課程の編成の考え方及び特色	・・・P. 4
5 教育方法・履修指導方法及び卒業要件	・・・P. 9
6 取得可能な資格	・・・P. 12
7 入学者選抜の概要	・・・P. 12
8 教員組織の編制の考え方及び特色	・・・P. 16
9 研究の実施についての考え方、体制、取組	・・・P. 17
10 施設・設備等の整備計画	・・・P. 17
11 管理運営	・・・P. 19
12 自己点検・評価	・・・P. 20
13 情報の公表	・・・P. 23
14 教育内容等の改善を図るための組織的な研修等	・・・P. 24
15 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制	・・・P. 25

1. 設置の趣旨及び必要性

(1) 阪南大学の沿革

阪南大学(以下、「本学」という。)は、昭和14(1939)年に小林菊治郎・奥田政三が設立した「大鉄工学校」に起源を發し、昭和40(1965)年に創立し商学部商学科を設置した。本学は、大阪市に隣接する松原市に立地し、創立以来、「すすんで世界に雄飛していくに足る有能有為な人材、真の国際商業人の育成」を建学の精神として掲げている。

(2) 経営学部設置の趣旨及び必要性

1) 学部設置の趣旨及び必要性

本学は、平成8(1996)年に、流通学部流通学科を設置した。流通学部流通学科は、学位分野を「経済学」として、ビジネスにおける人的資源、物的資源、財政資源、知的資源の流通に関する総合的な分析や体系的な理解を目的としてきた。一方で、これまで以上にビッグデータをエビデンスとするサービスの提供が加速度的に進む我が国の現状及び文部科学省に対して中央教育審議会が提出した「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」(平成30(2018)年11月26日)に鑑み、ICTやIoT、DXなどの組織・個人への影響とノウハウ等も学べる経営学を修得し、経営及びマネジメントの側面から経済社会の課題抽出と問題解決ができる人材を養成する必要性を感じてきた。

すなわち、国内国外を問わず主流となった第3次産業、すなわちサービス産業におけるイノベーションに対応し、複雑化する国際経済、空洞化が進む地方経済を考え、高等教育機関としてこれまで以上の人材育成をおこなうことが時代の要請であると考えられる。

本学は、経営学部の設置によって、経営学における多種多様な視点から、複雑な現代社会を読み解いていく。具体的には、経営・会計、マーケティングや経営戦略に関する知識、現状を分析するための基礎的知識とその応用的展開、加えてファッションやスポーツ等に関わるビジネス及びマネジメントについての総合的な教育を行いたい。

そこで、令和6(2024)年度に、以下の通り、経営学部(以下、「本学部」という。)を開設することとする。

学部名	学科名	修業年限	入学定員	収容定員	学位分野
経営学部	経営学科	4年	290名	1,160名	経済学

(3) 経営学部の養成する人材像

本学部の養成する人材像は、幅広い教養と経営学に関する専門知識を身につけ、事業運営能力、情報分析力、コミュニケーション能力、新分野への関心とチャレンジ精神、社会適応力を身につけ、現代社会で活躍できる人間性豊かな人材である。

(4) 経営学部経営学科の3つのポリシー

本学部の3つのポリシーは以下の通りである。養成する人材像及び3つのポリシーの各項目との相関及び整合性については、【資料1】の通りである。【資料1 養成する人材像とカリキュラム・ポリシー・ディプロマ・ポリシー・アドミッション・ポリシーとの相関図】

1) -1 本学部のディプロマ・ポリシー(以下「DP」と記載)

DP 1: 経営学に関する専門知識

① 経営・会計コース

経営環境に即応した事業運営を行うために必要な、経営・会計に関する専門的な知識

② マーケティングコース

ビジネスを展開するために必要不可欠となるマーケティングに関する専門的な知識

③ ICTビジネスコース

ICT(情報コミュニケーション技術)を用いたビジネス展開に関する専門的な知識

④ 国際ビジネスコース

国家や文化を超えたビジネス、産業、企業形態に関する専門的な知識

⑤ ブランド・ファッションコース

企業のブランドやファッションの価値創造戦略に関する専門的な知識を理解している。

⑥スポーツマネジメントコース

生涯スポーツの普及と競技スポーツの発展に資する専門的な知識を理解している。

DP 2：事業の運営能力

事業の運営を担う技能を修得しており、企業において与えられた役割を担える能力、もしくは自ら起業することができる。

DP 3：情報分析力・論理的思考力

経営、経済、社会に関する情報を収集し、選択・整理・加工し、適切な情報として分析・発信することができる。また、情報や知識を利用して、筋道を立てて論理的に考え表現することができる。

DP 4：コミュニケーション能力

専門科目のみならず一般教養を身につけ、外国の経済社会事情にも通じて、国際的な視点を持ち、他者とコミュニケーションをとることができる。

DP 5：新分野への関心とチャレンジ精神

新しい分野に取り組み、目標を打ち立て、達成するための計画を設定・遂行することができる。

DP 6：多様性の理解と協調性

多様な社会と組織の中で自己と他者の意見の違いや立場の違いを理解し、課題解決へ向けて多くの人々と協調・協働しながら目的を達成することができる。

DP 7：社会的責任

社会の一員であるという意識を持ち、専門知識をもとに社会に貢献し、社会に対して責任を果たすことができる。

1) -2 本学部のカリキュラム・ポリシー(以下「CP」と記載)

以下の知識、能力が修得できる教育課程の編成等を行う。

CP1：経営学に関する専門知識の修得

- ①経営・会計に関する知識の修得
- ②マーケティングに関する知識の修得
- ③ICT ビジネスに関する知識の修得
- ④国際ビジネスに関する知識の修得
- ⑤ブランド・ファッションの価値創造に関する知識の修得
- ⑥スポーツマネジメントに関する知識の修得

CP2：事業の運営能力の修得

CP3：情報分析力・論理的思考力の修得

CP4：コミュニケーション能力の修得

CP5：新分野への関心とチャレンジ精神の修得

CP6：多様性の理解と協調性の修得

CP7：社会的責任の修得

1) -3 本学部のアドミッション・ポリシー(以下「AP」と記載)

AP1：知識・技能

高等学校で履修した主要教科・科目について、教科書レベルの基礎的な知識を有している人。

AP2：思考力・判断力・表現力

阪南大学アドミッション・ポリシー記載のものに加えて、明確な根拠に基づいて筋道立てて考え、それを文章やプレゼンテーションなどで他者にわかり易く伝える能力がある人。

AP3：関心・意欲

AP3-1：経営学部の各分野への関心

以下のいずれかの分野における様々な問題に関心を持っており、理論を学び、フィールドリサーチやアンケート調査等を通じて新たな知見を見出したいと考えている人。

- ◎経営・会計
- ◎マーケティング
- ◎ICT ビジネス
- ◎国際ビジネス

◎ブランド・ファッション

◎スポーツマネジメント

AP3-2：将来への意欲

本学で身に付けた知識と経験を活かして、将来、上記の分野で活躍しようと考えている人。

(5) 組織として研究対象とする中心的な学問分野

本学部の中心的な学問分野は経営学であり、以下の6つの分野を研究対象とする。

- ①経営環境に即応した事業運営を行うために必要な、経営・会計に関する専門的な研究分野
- ②ビジネスを展開するために必要不可欠となるマーケティングに関する専門的な研究分野
- ③ICT（情報コミュニケーション技術）を用いたビジネス展開に関する専門的な研究分野
- ④国家や文化を超えた国際的なビジネス、産業、企業形態に関する専門的な研究分野
- ⑤企業のブランドやファッションの価値創造戦略に関する専門的な研究分野
- ⑥生涯スポーツの普及と競技スポーツの発展に資する専門的なビジネス研究分野

2. 学部・学科等の特色

(1) 経営学部経営学科の特色

本学部では、サービス経済化が進む現代において活躍できるビジネスパーソンを養成するために、経営学の知識に加えて、企業等と連携した課題解決型のゼミを中心としたフィールドワークを通じて、実践型の教育を行うことが大きな特色である。

3. 学部・学科等の名称及び学位の名称

本学部は、「幅広い教養と経営学に関する専門知識を身につけ、事業運営能力、情報分析力、コミュニケーション能力、新分野への関心とチャレンジ精神、社会適応力を身につけ、現代社会で活躍できる人間性豊かな人材」を養成する人材像とし、「複雑化した経営環境に即応できる人材となるため、経営・会計、マーケティングや経営戦略に関する知識を中核として、経営学に関わる様々な知識・技能を体系的かつ横断的に学び、事業運営に貢献するための情報分析力、コミュニケーション能力、新分野への関心とチャレンジ精神、社会適応力を身につけさせる。」ことを教育研究上の目的としていることから、学部名称を「経営学部」とし、学科は1学科とし、「経営学科」とする。

英語名称については、経営学部は、「Faculty of Management」とし、経営学科は、「Department of Management」とする。

学位の名称は、本学部の養成する人材像と教育研究上の目的に照らして、「学士（経営学）」とする。

英語名称については、「Bachelor of Management」とする。

学部名称	経営学部	英語名	Faculty of Management
学科名称	経営学科	英語名	Department of Management
学位名称	学士(経営学)	英語名	Bachelor of Management

4. 教育課程の編成の考え方及び特色

(1) 教育課程の編成の体系性

本学部の教育課程については、中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像」(平成17年)が要請する「専攻分野についての専門性を有するだけでなく、幅広い教養を身に付け、高い公共性・倫理性を保持しつつ、時代の変化に合わせて積極的に社会を支え、あるいは社会を改善していく資質を有する」ことを踏まえて、全学カリキュラム（一般教育科目）と専門教育科目からなる教育課程を編成する。

1) 科目区分の設定及びその理由

本学部では、学部基礎科目（基本的に1年次配当科目）と専門科目（基本的に2年次以降配当科目）に2分化すると共に、設置する全科目を以下の4つのカテゴリーに分類している。なお、4つのカテゴリーに、経営会計コース・マーケティングコース・ICTビジネスコース・国際ビジネスコース・ブランド・ファッショ

ンコース・スポーツマネジメントコースの6コースに位置付けられる諸科目を配置する。

必修科目

本学部に設置する講義科目での学修をふまえ、その知識やスキルを明確に可視化できるようにする。具体的には、演習諸科目でのアクティブ・ラーニングやディスカッション及びプレゼンテーションで活用し、卒業論文での言語化において達成させる。

選択必修科目

本学部に設置する6コースの学びの基礎を選択必修諸科目で修得し、多岐にわたる経営学に関する学びへの理を深め拡充する。

自由選択科目

本学部に設置する選択必修科目や全員履修科目等の専門基礎科目及び専門科目で修得した学びを踏まえ、学生自身が選択したコースの学びを積み重ねていく。併せて、多岐にわたる経営学に関する学びの各分野の知識を修得する。

全員履修科目

本学部での学びとして基盤となる専門基礎科目の学びを修得するための諸科目である。この諸科目での学びを踏まえ、選択必修諸科目や自由選択諸科目、さらには、2年次以降の専門演習での学びにつなげていく。

2) 各科目区分の科目構成とその理由

必修科目 : 基礎演習1・基礎演習2・専門演習1・専門演習2・専門演習3・専門演習4

初年次教育での学びを活かし、2年次より専門的な演習科目を履修する。2年次の「基礎演習1」と「基礎演習2」はその基本となる事柄を学ぶ科目であり、3年次の「専門演習1」と「専門演習2」では発展した専門教育および研究を展開する。これらの成果をもとに4年次の「専門演習3」と「専門演習4」では卒業論文の作成に取り組む。これらの演習科目では、企業見学等の実習も実施する。

選択必修科目: 企業分析論・経営戦略論・流通システム論・マーケティング論・ICTビジネス基礎・国際ビジネス入門・ファッションマーケティング・ブランドマーケティング・スポーツビジネス・スポーツマネジメント入門等

学科選択必修科目は、どのコースで学修する場合であっても経営学部の学生であるならば修得しておくべき科目を各コース共通の科目として配置する。学生に学科選択必修科目から6科目(12単位)以上修得することを課す。

自由選択科目: 具体的な科目名称については「教育課程等の概要」参照

自由選択科目は、各コースを専門的に学習するために必要な科目を配置する。各学生は、必要に応じて科目を選択し、自由に履修することができる。その際、学生が選択したコースからでも、他のコースからでも構わない。

全員履修科目: プレゼミ1・プレゼミ2・経営学入門・会計学入門・マーケティング入門・ビジネスデータ分析1・ビジネスデータ分析2

全員履修科目は、本学部での学びを始めるにあたり、学部での学びにおける基盤形成を行う科目である。経営学・会計学・マーケティングの3分野の入門科目の講義内容を修得する共に、経営学に不可欠なビジネスデータ分析を学ぶ。

3) 設置の趣旨等を実現するための科目の対応関係

本学部で養成する、「幅広い教養と経営学に関する専門知識を身につけ、事業運営能力、情報分析力、コミュニケーション能力、新分野への関心とチャレンジ精神、社会適応力を身につけ、現代社会で活躍できる人間性豊かな人材」は、社会が求める人材である。設置の趣旨を実現するための科目との対応関係は以下の通りである。

i) カリキュラム・ポリシーと科目との対応

CP1: 経営学に関する専門知識の修得を実現するための科目

①経営・会計に関する知識の修得を実現するための科目

経営学部での学びの基礎となる「経営学入門」及び各コースに設置される講義科目及び演習科目

②マーケティングに関する知識の修得を実現するための科目

「マーケティングコース」に設置される「マーケティング入門」や「流通システム論」等の講義科目及び演習科目

- ③ICT ビジネスに関する知識の修得を実現するための科目
「ICT ビジネスコース」に設置される「ICT ビジネス基礎」等の講義科目及び演習科目
- ④国際ビジネスに関する知識の修得を実現するための科目
「国際ビジネスコース」に設置される「国際ビジネス入門」等の講義科目及び演習科目
- ⑤ブランド・ファッションの価値創造に関する知識の修得を実現するための科目
「ブランド・ファッションコース」に設置される「ファッションマーケティング」等の講義科目及び演習科目
- ⑥スポーツマネジメントに関する知識の修得を実現するための科目
「スポーツマネジメントコース」に設置される「スポーツマネジメント入門」等の講義科目及び演習科目

CP2：事業の運営能力の修得を実現するための科目

1年次から、「経営学入門」及び「ビジネスデータ分析1」を学び、事業の運営能力を修得。

演習科目：基礎演習1・基礎演習2・専門演習1・専門演習2・専門演習3・専門演習4

講義科目：経営戦略論、会計学入門、マーケティング入門、流通システム論、国際ビジネス入門、ICTビジネス基礎、ファッションマーケティング、スポーツマネジメント入門等

CP3：情報分析力・論理的思考力の修得を実現するための科目

1年次から、「経営学入門」及び「ビジネスデータ分析1」を学び、情報分析力・論理的思考力を修得。

演習科目：基礎演習1・基礎演習2・専門演習1・専門演習2・専門演習3・専門演習4

講義科目：経営戦略論・会計学入門・マーケティング入門・流通システム論・国際ビジネス入門・ファッションマーケティング、スポーツマネジメント入門等

CP4：コミュニケーション能力の修得を実現するための科目

1年次配当科目「プレゼミ1」及び「プレゼミ2」を学び、2年次からの講義科目及び演習科目を通してコミュニケーション能力を修得。

演習科目：基礎演習1・基礎演習2・専門演習1・専門演習2・専門演習3・専門演習4

講義科目：企業論・営業論・消費者行動論・ホスピタリティマネジメント・アスリートキャリア1・アスリートキャリア2等

CP5：新分野への関心とチャレンジ精神の修得を実現するための科目

1年次から、「ビジネスデータ分析1」を学び、新分野への関心とチャレンジ精神を修得。

演習科目：基礎演習1・基礎演習2・専門演習1・専門演習2・専門演習3・専門演習4

講義科目：経営戦略論・会計学入門・マーケティング入門・流通システム論・国際ビジネス入門・ICTビジネス基礎・ファッションマーケティング・スポーツマネジメント入門等

CP6：多様性の理解と協調性の修得を実現するための科目

1年次から、「経営学入門」を学び、多様性の理解と協調性を修得。

演習科目：基礎演習1・基礎演習2・専門演習1・専門演習2・専門演習3・専門演習4

講義科目：経営戦略論・マーケティング入門・流通システム論・国際ビジネス入門・ICTビジネス基礎・ファッションマーケティング・スポーツマネジメント入門等

CP7：社会的責任の修得を実現するための科目

1年次から、「経営学入門」を学び、社会的責任を体得するために以下の科目を修得。

演習科目：基礎演習1・基礎演習2・専門演習1・専門演習2・専門演習3・専門演習4

講義科目：経営戦略論・流通システム論・国際ビジネス入門・ICTビジネス基礎・ファッションマーケティング・スポーツマネジメント入門等

ii) 学部・学科の特色と科目との対応

本学部の特色は、「サービス経済化が進む現代において活躍できるビジネスパーソンを養成するために、経営学の知識に加えて、企業等と連携した課題解決型のゼミを中心としたフィールドワークを通じて、実践型の教育を行うこと」である。

そのため、「経営学入門」「会計学入門」及び「マーケティング入門」等、本学部で学ぶ基礎的な学修をふまえ、6コースの学び(1.経営・会計コース・2.マーケティングコース・3. ICT ビジネスコース・4. 国際ビジネスコース・5. ブランド・ファッションコース・6. スポーツマネジメントコース)とそれぞれのコースに設置される必修科目と選択必修科目及び自由選択科目・全員履修科目を修得する点にある。各コース

は、履修すべき諸科目を指定しているが、他のコースを選択した学生が、自らの学びに連動して他コースの科目も履修可能である。自由選択科目数が多い理由もこの点にある。

さらに、複雑に高度化した経営環境に即応した人材育成に必要な、経営学・会計学・マーケティングの知識を本学部全体の中核に据え、体系的かつ横断的に学ぶ。その際、本学の「実学の精神」を具現化するためにフィールドワーク、企業や地域との社会連携活動等の産官学の連携を教育研究において推進する。なお、上記の3分野は、本学部の基礎・発展・応用へと学びを進める上でのプラットフォームの位置づけとなる。

また、進化し続ける情報化社会に対応するため、ICT(情報コミュニケーション技術)を応用したeビジネス・AI・データサイエンス等の知識を修得する。これらは、経営学の先端的学びでもある。併せて、グローバル化の現代において、国際ビジネス(国際的な企業経営及び世界と日本の経営比較)について学修する。そのために必要となる国家や文化を超えたビジネス・産業・企業形態に関する知識を修得する。

併せて、本学部における学修の重要観点である企業のブランド戦略について体系的に学び、知識を修得する。特に、理論と実践の両方の側面から、サービス・ホスピタリティ・エンターテインメント・ライフスタイル・ファッション・インテリアなどに関する学びや、生涯スポーツの普及と競技スポーツの発展に資する知識を修得する。特に、理論と実践の両面から、マネジメント、プロスポーツビジネス、レクリエーション、コーチングなどに関する学びと共に、スポーツマネジメントに関する基礎及び発展的知識も修得する。

4) 必修科目・選択科目・自由科目等の構成とその理由

本学部のそれぞれの科目構成とその理由は、以下の通りである。

必修科目 : 基礎演習1・基礎演習2・専門演習1・専門演習2・専門演習3・専門演習4

講義諸科目での学びをふまえ、アクティブ・ラーニングやデータ分析・ディスカッション・プレゼンテーション等の経験値を重ねこれらのスキルを修得する。専門演習3・専門演習4を通して、データ分析やフィールドワーク(フィールドリサーチ)、産官学連携プログラムでの成果を的確に言語化して「卒業論文」とする。

選択必修科目: 企業分析論・経営戦略論・流通システム論・マーケティング論・ICTビジネス基礎・国際ビジネス入門・ファッションマーケティング・ブランドマーケティング・スポーツビジネス・スポーツマネジメント入門

経営学入門・会計学入門・マーケティング入門・ビジネスデータ分析1・ビジネスデータ分析2を修得し、併せて経営学への専門基礎科目を学び、知識の拡充と理解を深めるために、上記の諸科目を修得する。

自由選択科目: 経営会計・マーケティング・ICTビジネス・国際ビジネス・ブランド・ファッション・スポーツマネジメント・経営学入門・会計学入門・マーケティング入門・ビジネスデータ分析1・ビジネスデータ分析2・企業分析論・経営戦略論・流通システム論・マーケティング論・ICTビジネス基礎・国際ビジネス入門・ファッションマーケティング・ブランドマーケティング・スポーツビジネス・スポーツマネジメント入門等

学生自身が選択したコースと他コースの学びを連動させながら、さらなる経営学への知識の拡充と理解を深める。

全員履修科目: プレゼミ1・プレゼミ2・経営学入門・会計学入門・マーケティング入門・ビジネスデータ分析1・ビジネスデータ分析2

本学部での学びとして、専門基礎科目に位置付けられているのが上記の諸科目である。本学部では特に、経営学入門・会計学入門・マーケティング入門の3分野を学部のプラットフォーム科目として位置付ける。

5) 履修順序(配当年次)の考え方

本学部における各科目の履修順序(配当年次)については、以下に掲げる通りである。

- 1年次配当科目: 学部基礎科目……………選択必修科目・全員履修科目
- 2年次配当科目: 学部基礎科目・専門科目……………選択必修科目・自由選択科目・全員履修科目
- 3年次配当科目: 専門科目……………必修科目・選択必修科目・自由選択科目
- 4年次配当科目: 専門科目……………必修科目・選択必修科目・自由選択科目

6) 科目の設定単位数の考え方

講義と実習もしくは演習の科目については、講義(60分)＋演習・実習(30分)と設定し、講義15.0時間・演習7.5時間の換算とした。情報処理等の実習性の高い科目については、講義12.5時間・演習10.0時間の換算とした。本学部では、完全 Semester 制とし全科目を上記の換算方法によって以下の通りの科目の設定単位数としている。

演習科目：半期2単位

講義科目：半期2単位

7) 教養教育

i) 教養教育に関する教育課程の編成方針

本学の教養教育は全学カリキュラム(一般教育科目・キャリア教育科目)である。編成方針の基盤は、以下に掲げる文書に明示される内容をふまえている。

◎中央教育審議会答申「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン(平成30(2018)年11月26日)」

◎中央教育審議会大学分科会「教学マネジメント指針(令和2(2020)年1月22日)」

ここには高等教育改革を通して実現すべき方向性が記されている。中でも特に、本学の全学カリキュラム(一般教育科目)では、次の2点を主眼に置き編成している。

1. 科目担当者は学修者が「何を学び、身に付けることができるのか」を明確にし、学修の成果を学修者がルーブリック等で確認できる教育を行う。
2. 多様で柔軟な教育研究体制が各高等教育機関に準備され、このような教育が行われていることを確認できる質保証へ転換する。

これらは、「学修者本位の教育の実現」として集約できるものである。これによって、高次の教育の質保証を希求する本学では、一般教育科目及び学部・学科科目の全科目において、ルーブリック評価を導入することとなった。さらに、2040年に求められる人材像の定義として、

1. 総合的で普遍的な知識・理解と汎用的な技能を持つこと。
2. その知識や技能を活用できること。
3. ジレンマの克服を含めたコミュニケーション能力を持つこと。
4. 自律的に責任ある行動をとれる人材であること。

以上の4点が掲げられている。そうした人材を育成するために求められる高等教育では、「何を教えたか」から、「何を学び、何を身に付けることができたのか」への転換がはかられていることが重要となる。それが、最終的には、「何が出来るようになったのか」に連動させていくことが肝要である。これをふまえ本学の全学カリキュラム(一般教育科目)では、「教育課程の編成」として、以下のような観点からカリキュラム編成を行っている。

1. 学位を与える課程全体としてのカリキュラムの構成を行うこと。
2. 学修者の知的習熟過程等を考慮し、単に個々の教員が教えたい内容ではなく、学修者自らが学んで身に付けたことを社会に対し説明し理解が得られる体系的な内容となるよう構成すること。

この2点をふまえ、全学カリキュラム(一般教育科目)の編成を審議・検討する「全学カリキュラム委員会」において、「個々人の可能性を最大限に伸長する教育への転換」として合意し編成をしている。

ii) 全学カリキュラム

①一般教育科目のカテゴリー

本学の一般教育科目は、「次世代型実学教育」の一環として以下のように科目カテゴリー設計されている。

1. 語学群
2. 言語圏研究群
3. 人間・文化研究群
4. 歴史・社会研究群
5. 自然・環境研究群
6. 健康・スポーツ研究群
7. 情報とAIデータサイエンス研究群

- 8. 基盤教育科目群
- 9. 後期教養教育科目群
- 10. 自由選択科目群

②一般教育科目の概要

本学の一般教育科目は、教育理念にある「総合的な分析・判断能力」の養成や、「人間性豊かな人材」の育成を目的とする科目である。これらの科目は、各分野を研究する意義と意味、受講生の興味を喚起する内容となっている。特に、高大接続を意識しながら大学での学び方の重要な一点となる、受講内容を通して自発的に課題抽出し、考え、解を導き出せる講義設計を実施している。各授業内容は、科目担当者の研究成果をふまえた内容である。加えて2024年度から一般教育全科目は、本学が目的とする「次世代型実学教育」を実現する一貫として、学びの可視化をより明確にするために、各科目の講義内容のテーマを明示する。

③キャリア教育科目

本学のキャリア教育科目とは、人生100年時代の「社会人基礎力」及びSociety5.0社会を生き抜くための基盤形成を行う科目である。本科目は、スキルの体得にとどまらず、卒業後を意識して上記を育成するために設置されている。AIをはじめとして加速度的な進化を遂げる現代社会とその現実を見据えた時、自らを更新させる能力が求められている中で、本学がキャリア教育科目を通して養成する能力は、以下の3点となる。

- ・文章や情報を正確に読み解き対話する力
- ・科学的に思考・吟味し活用する力
- ・価値を見つけ生み出す感性と洞察力・好奇心および探求力

これらは、文部科学省が2018年に提示した「Society5.0に向けた人材育成」において明示された内容である。とりわけ、基礎学力のみならず文章・情報・データを的確に理解し、論理的思考が出来る人材となる必要がある。そのためには、読解力と共に他者との協働力が能力として求められる。その実施においては、社会的なスキルとして、思考・判断・表現を深めるコミュニケーション力が重要となる。卒業後に求められるリテラシー能力やロジカルシンキング力、クリティカルティンキング力は、進化し続けるAIを使いこなすための基盤である。それらの修得にあたっての根幹には、自分を常にアップデートする力を持つことで、恒常的な即戦力となれる基盤形成を行うことを目的としている。以上を体現するために、基礎から応用に至るまで段階的に履修できる環境を整備している。キャリアに関する諸科目を受講することで、本学部の全学生が、大学での学びを「人生100年時代」の第一歩とすると共に、自己の目標実現と実り豊かな人生を構築するための礎となる科目設定と教育の実現を行う。なお、本科目と連動して「インターンシップ準備講座」へと連動させていく。

④キャリア教育科目の特色

本科目群は、以下のように段階的履修が出来るようになっている。

- ◎基礎キャリアデザイン1 (1年次前期)
- ◎基礎キャリアデザイン2 (1年次後期)
- ◎発展キャリアデザイン (2年次前期)
- ◎応用キャリアデザイン (3年次前期)

本学は開学以来の一つの特色として、就職支援を行うことと共に就職率の高さがある。その証左として、ミッション・ステートメント(大学の使命)において「自由と清新の気風のもと、チャレンジ精神旺盛な意欲ある学生を育て、幅広い教養を持つ国際的なビジネスパーソンとして成長させる」ことが明示されている。その実現のために、1年次前期より就職活動が開始される直前の3年次前期まで、学年進行に合わせてスキルのアップグレードをはかれる授業プログラムを組んでいる。

5. 教育方法・履修指導方法及び卒業要件

(1)教育方法

1) 授業の内容に応じた授業の方法

本学部学科科目及び一般教育諸科目共に、授業はその教育効果が最も発揮されるように講義形式または演習形式で行う。一般教育科目は、主として講義形式で、学生が前掲の10群の各研究分野における基礎的な知識を修得すると共に、幅広い視野から物事をとらえる能力を培う。また、既修外国語や初修外国語は

講義形式ではあるが、受講者数を20名から25名に制限することで、教員が個々の学生の語学力や意欲を十分に把握できるように配慮する。本学部の専門科目については、1年次配当科目の「プレゼミ」、2年次から4年次配当科目の「基礎演習1・基礎演習2・専門演習1・専門演習2・専門演習3・専門演習4」「卒業論文」は、演習形式で行う。これらの授業では、教員と学生、学生同士が相互にコミュニケーションをとりながら、インタラクティブなプロセスの中で、学生が自分に必要な知識を認識し、学修を促進させることを可能にする。さらに、本学部の学びの特徴として、演習科目の中には、産官学連携による課題解決型の「キャリアゼミ」を設け、フィールドワーク（フィールドリサーチ）を行う。

2) 授業の方法に適した学生数の設定

本学部学科科目及び一般教育諸科目共に、講義科目では、学生の授業理解度を把握し、適切な学修指導及びアドバイスを行うために、基本的に最大200名の履修を目標としている。ただし、近年の授業方法としてリモート型授業を積極的に導入することで、授業環境と教室環境のバランスをはかっている。本学部の専門科目においては、演習科目では20人未満、講義科目では100人程度を想定している。専門科目の授業でも、リモートシステムに付随する様々な機能を使うことで、講義への積極的な学生参加型授業を運用する。

3) 配当年次の設定

本学部学科科目では、1年次配当科目に経営学に関する基礎科目を、2年次以降に専門科目の発展科目を、さらに、3・4年次に専門科目の発展及び応用科目を配置する。全学カリキュラム科目では、基本的に1年次から4年次まで各分野の基礎的な内容を講義する。併せて、本学の一般教育科目の特徴である「後期教養科目」を3・4年次配当科目として設置している。専門科目及び一般教育科目共に、学生が履修した科目への理解を深められることと、学修効果が高められるよう配慮した学年配当としている。そこでは、学生自身が、学び得て、獲得できた知識を他の科目と連動させ学修と成長を確認できるようにしている。配当年次の設定を考えるにあたっては、学生本位の学びの実現をはかり、学生が個々に学びの設計を行い、独自の履修体系を構築できることを第一とするものである。

(2) 履修指導方法及び卒業要件

1) 履修支援の体制

履修指導は、入学段階で全学及び学部独自にオリエンテーション時間を1週間確保している。その期間に本学部のカリキュラムの説明や授業履修の仕組み、Web上での履修登録の方法等を組織的に実施する。在学生への履修指導は、毎年度末の3月にリモート・オンデマンド・対面等多様な方法で実施する。全ての学生個々に一人の専任教員が指導教員となり、学業や学生生活全般について助言や指導を行う。全専任教員が毎週2コマ分のオフィスアワーズを設け、学生は指導教員のみならず全専任教員から必要に応じて指導を受けることができる。なお、全学生に大学からメールアドレスが付与されており、大学や専任教員から学生への連絡はWebシステムを通じて行われる。同システムは、全学生に対して掲示やメールによる連絡が可能であり、学籍番号指定によって特定の学生のみに掲示やメールによる連絡も行える。2020年以降は、リモートシステムに付随する機能を使用する場合もある。

2) 卒業要件

卒業要件は、一般教育科目30単位以上、学科科目72単位以上、加えてキャリア教育科目・他学部受講科目を合わせて合計124単位以上修得することとする。

① 学科科目

< 必修科目 >

必修科目は、7科目14単位で、すべて修得することを卒業要件としている。必修科目は、「経営学入門」、「基礎演習1」、「基礎演習2」、「専門演習1」、「専門演習2」、「専門演習3」、「専門演習4」である。「経営学入門」で経営学の基礎を修得する。2年次配当の「基礎演習1」、「基礎演習2」では、経営学部の全般に渡る基礎知識を修得する。3年次配当の「専門演習1」、「専門演習2」では、学生自身が関心のあるテーマを発見し、深く掘り下げて研究を行う。4年次配当の「専門演習3」、「専門演習4」では、卒業論文を通して、大学での学びや研究の総括を行う。

< 選択必修科目 >

選択必修科目は、8科目16単位で、そのうち12単位以上を修得することを卒業要件とする。選択必修科

目は、「マーケティング入門」、「会計学入門」、「国際ビジネス入門」、「流通システム論」、「ICT ビジネス基礎」、「経営戦略論」、「スポーツマネジメント入門」、「ファッションマーケティング」で、コースごとに修得が必要と定めた科目を12単位以上修得させる。

<全員履修科目>

全員履修科目は、本学部において学修を始めるにあたり必要な科目として、5科目10単位設定している。「ビジネスデータ分析1」、「ビジネスデータ分析2」、「プレゼミ1」、「プレゼミ2」、「演習入門」である。「プレゼミ」は、本学部の教育に順応することに主眼を置き、課題探求型の授業を行う。「演習入門」は、本学部の教員が持ち回りで担当し、学生が関心のあるテーマを設定するために有益な機会を提供する。

<自由選択科目>

自由選択科目は、106科目212単位で、本学部は学生の学びの機会を多く与えるために、多くの選択科目を用意している。

全員履修科目と自由選択科目を合わせて合計72単位以上を修得することを卒業要件とする。

②一般教育科目

一般教育科目のうち、現代社会で活躍できる人材養成を目的として、外国語の能力を修得させるため、「語学」群から4単位以上、「言語圏研究」群から4単位以上修得することを卒業要件とする。

また、現代社会において必要な幅広い教養を修得させるために、「人間・文化研究」群から4単位以上、「歴史・社会研究」群から4単位以上、「自然・環境研究」群から4単位以上、「健康・スポーツ研究」群から4単位以上、「情報とAI・データサイエンス」群から6単位以上の修得を卒業要件とし、一般教育科目全体では、「基盤教育科目」群、「後期教養科目」群、「自由選択科目」群と合わせて合計30単位以上を修得することを卒業要件とする。

3) 履修モデル

本学部が目指す、養成する人材像を輩出するために、6つのコースを設けている。コースごとに履修モデルを設定する。【資料2 履修モデル】

①経営・会計コースに重点を置く履修モデル

1年次から、「経営・会計コース」に設置される「経営戦略論」・「会計学入門」等の講義科目及び演習科目を通して基礎的な学びを修得する。

②マーケティングコースに重点を置く履修モデル

1年次から、「マーケティングコース」に設置される「マーケティング入門」・「流通システム論」等の講義科目及び演習科目を通して基礎的な学びを修得する。

③ICT ビジネスコース重点を置く履修モデル

1年次から、「ICT ビジネスコース」に設置される「ICT ビジネス基礎」等の講義科目及び演習科目を通して基礎的な学びを修得する。

④国際ビジネスコース重点を置く履修モデル

1年次から、「国際ビジネスコース」に設置される「国際ビジネス入門」等の講義科目および演習科目を通して基礎的な学びを修得する。

⑤ブランド・ファッションコース重点を置く履修モデル

1年次から、「ブランド・ファッションコース」に設置される「ファッションマーケティング」等の講義科目及び演習科目を通して基礎的な学びを修得する。

⑥スポーツマネジメントコース重点を置く履修モデル

1年次から、「スポーツマネジメントコース」に設置される「スポーツマネジメント入門」等の講義科目及び演習科目を通して基礎的な学びを修得する。

4) 履修上限単位

学生の自学自習時間を適正に確保するために、1年間に履修登録できる単位の上限を設ける。履修上限は、1年次48単位、2年次48単位、3年次48単位、4年次48単位とし、計画的に学修が進むようにする。

5) 他大学における授業科目の履修

他大学における授業科目の履修については、さらに科目選択の自由度を持たせ、学びに対する意欲を高める

ことを目的として、以下の大学と単位互換制度を締結している。修得した単位は、最大 60 単位まで、卒業要件に算入することを認める。

①大学コンソーシアム大阪

大阪大学、大阪教育大学、大阪公立大学、藍野大学、追手門学院大学、大阪青山大学、大阪医科薬科大学、大阪音楽大学、大阪学院大学、大阪観光大学、大阪経済大学、大阪経済法科大学、大阪工業大学、大阪国際大学、大阪産業大学、大阪樟蔭女子大学、大阪商業大学、大阪女学院大学、大阪信愛学院大学、大阪成蹊大学、大阪総合保育大学、大阪体育大学、大阪電気通信大学、大阪人間科学大学、大阪保健医療大学、大手前大学、関西大学、関西福祉科学大学、近畿大学、四條畷学園大学、四天王寺大学、摂南大学、千里金蘭大学、相愛大学、宝塚大学、梅花女子大学、阪南大学、東大阪大学、桃山学院大学、森ノ宮医療大学の 40 大学が単位互換包括協定を締結している。

6) 留学生の在籍管理の方法や履修指導、生活指導

①留学生の在籍管理の方法

本学部にて在籍する留学生については、原則、日本人学生と同様に在籍管理を行う。但し、日本在留に係る留学生固有の手続きについて遺漏のないように支援を行う。

②履修指導

留学生が日本で生活し、日本文化を理解するうえで不可欠な日本語の修得のため、日本語科目を用意している。入学後に実施するテストの結果により、必要な履修指導を行う。

③生活指導

留学生が入学後の生活に困らないように、担当の部署が、授業料の納付や奨学金の受給、在留手続き、住居や資格外活動許可の要件（週 28 時間等）、日本人学生や地域との交流等について、適切にサポートを行う。

6. 取得可能な資格

本学部では、学部設置する学科科目の修得や資格課程（卒業要件に含まない）を修得することにより、高等学校教諭一種免許状「商業」・図書館司書・学校図書館司書教諭・博物館学芸員の資格を取得することができる。特に、高等学校教諭一種免許状「商業」は、卒業要件等単位に含まれる科目の他、教職関連科目の修得が必要となる。但し、資格取得が卒業の必須条件ではない。教職課程の他、図書館司書・学校図書館司書教諭・博物館学芸員は、何れもそれぞれの課程に関する科目の修得が必要となるが、資格取得が卒業の必須条件ではない。これらの国家資格の取得においては、本学部の卒業単位数を超えて関連科目を修得するため、卒業までの綿密な履修計画を適切に指導する。

免 許	種 類	条 件
高等学校教諭一種免許状「商業」	国家資格	卒業要件等単位に含まれる科目の他、教職関連科目の修得が必要となる。但し、資格取得が卒業の必須条件ではない。
図 書 館 司 書	国家資格	図書館司書関連科目の修得が必要となる。但し、資格取得が卒業の必須条件ではない。
学 校 図 書 館 司 書 教 諭	国家資格	学校図書館司書教諭関連科目の修得が必要となる。但し、資格取得が卒業の必須条件ではない。
博 物 館 学 芸 員	国家資格	博物館学芸員関連科目の修得が必要となる。但し、資格取得が卒業の必須条件ではない。

7. 入学者選抜の概要

(1) 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

本学部は、建学の精神及びミッションステートメント（大学の使命）に則り、阪南大学アドミッション・ポリシーを前提として、次に掲げる人材を受け入れる。

API：知識・技能

高等学校で履修した主要教科・科目について、教科書レベルの基礎的な知識を有している人。

AP2：思考力・判断力・表現力

阪南大学アドミッション・ポリシー記載のもの（【思考力・判断力】ある事象に対して多面的に考察し、自分の考えをまとめることができる。【表現力】自分の考えを日本語で他者に分かりやすく文章表現できる。）に加えて、明確な根拠に基づいて筋道立てて考え、それを文章やプレゼンテーションなどで他者にわかり易く伝える能力がある人。

AP3：関心・意欲

AP3-1：本学部の各分野への関心

以下のいずれかの分野における様々な問題に関心を持っており、理論を学び、フィールドリサーチやアンケート調査等を通じて新たな知見を見出したいと考えている人。

- ◎経営・会計
- ◎マーケティング
- ◎ICT ビジネス
- ◎国際ビジネス
- ◎ブランド・ファッション
- ◎スポーツマネジメント

AP3-2：将来への意欲

本学で身に付けた知識と経験を活かして、将来、上記の分野で活躍しようと考えている人。

(2) 選抜の方法

1) 総合型選抜

i) 総合型選抜入試

総合型選抜入試は、学力試験だけでは見出すことのできない能力・個性・適性・意欲・目的意識・将来性等を調査書等の提出書類と面接・プレゼンテーション等によって多面的・総合的に評価・選抜する。

総合型選抜入試は、志望する学部・学科の求める人物像との適合性、自らを成長させ続ける意欲、高校生活で得た経験や経験に基づいた将来の夢やビジョン等について大学が一人一人の学生と十分な時間をかけて対話し、評価・選抜する。

ii) 資格活用型選抜入試

資格活用型選抜入試は、社会で活躍するために自身のキャリアアップを積極的にはかることができる人材を育成することが目的であるため、主体的に計画し試行錯誤を繰り返しながら自らを成長させ続ける意欲、高校生活で得た経験やその経験に基づいた将来やビジョンを持った学生を評価・選抜する。

iii) スポーツ・文化特別推薦入試

スポーツ・文化推薦入試は、書類審査と口頭試問等によって総合的に評価・選抜する。特に、高等学校において課外活動として本学が指定する種目のクラブに所属し、本学が認める実績を持ち、人物的にも優秀であると出身学校長の推薦があるとともに、なおかつ本学が指定するクラブ活動に意欲があり、本学当該クラブ顧問からの推薦があることを出願資格としている。

iv) スポーツ特別推薦入試

スポーツ特別推薦入試は、書類審査と口頭試問等によって総合的に評価・選抜する。特に、高等学校において課外活動として本学が指定する種目のクラブに所属し、学校長が参加を認めているスポーツ競技大会で本学が認める成績をおさめ、人物的にも優秀であると出身学校長の推薦があるとともに、なおかつ本学が指定するクラブ活動に意欲があり、本学当該クラブ顧問からの推薦があることを出願資格としている。

2) 学校推薦型選抜

i) 指定校推薦入試

指定校推薦入試は、高等学校からの推薦を得るに至った努力・活動・実績等をもとに大学入学後も継続して学習する意欲の高い者を評価・選抜する。

ii) 公募制推薦入試

公募制推薦入試は、本学独自の基礎能力検査と調査書等の提出書類および高等学校在学中に取得した資格によって総合的に評価・選抜する。高等学校等在学中に取得した資格に関しては、本学が指定する資格の取得を学習に対する意欲と評価し、出願時に申請された場合は、その資格を得点化することによって評価・選抜する。

3) 一般選抜

i) 一般入試

一般入試では、本学の教育目的を理解し、志望する学部で学びたいと強く希望する者で、主に学力試験によって評価・選抜する。一般入試は、本学独自の学力試験によって選抜する。有能有為な人物の育成を重視する本学では、2教科または3教科の入学試験を実施することによって、特定の科目に秀でた者を評価・選抜する。

ii) 大学入学共通テスト利用入試

大学入学共通テスト利用入試は、本学では入試は実施せず、「大学入学共通テスト」の受験生の中から、本学への入学を強く希望する者を選抜する。有能有為な人物の育成を重視する本学では、大学入学共通テスト利用入試（前期）において2教科または3教科の入学試験を実施することによって、特定の科目に秀でた者を評価・選抜する。

4) その他

i) 帰国生徒入試

帰国生徒入試は、外国で学校教育を受け、本学の教育目的を理解し、本学部で学びたいと強く希望する者で本学が定める出願資格を満たしていることを条件に、入学後の学修計画書等の提出書類と口頭試問等によって総合的に評価し選抜する。

ii) 社会人入試

社会人入試は、社会経験をもち本学の教育目的を理解し、本学部で学びたいと強く希望する者で本学が定める出願資格を満たしていることを条件に、入学後の学修計画書等の提出書類と口頭試問等によって総合的に評価し選抜する。

iii) 外国人留学生入試

外国人留学生入試は、本学の教育目的を理解し、本学部で学びたいと強く希望する者で、本学が定める出願資格を満たしていることを条件に、入学後の学修計画書等の提出書類を基に日本語による口頭試問等によって総合的に評価し選抜する。

iv) 3年次編入学試験

すでに大学や短期大学等で学んだ学生で、本学部での学修に強い目的意識をもつ者を面接等により評価し選抜する。

4) 科目等履修生等(該当する場合)

基本的に、科目等履修生として本学部で学びたい者は、書類提出後、学部長及び学部選出の教務委員による面談をふまえて判断する。

5) 入試方法の区分ごとの募集人員

<総合選抜型>

総合型選抜入試 30名

資格活用型選抜入試 20名

スポーツ・文化、スポーツ特別推薦入試 若干名

<学校推薦型選抜>

指定校、公募制推薦入試	90名
<一般入試>	
一般入試	135名
大学入学共通テスト利用入試	15名
<その他>	
<u>帰国生徒、外国人留学生</u>	<u>若干名</u>
合計	290名

(3) 選抜の体制

本学部はアドミッション・ポリシーに基づき、学生募集及び入学選抜の制度や運営体制を適切に整備し、公正な入学者選抜を実施している。学生受け入れの適切性について本学部執行部が随時検証を行うと共にその結果を教授会で定期的に報告を行う。本学部の入学者選抜の方法は、個別学力検査・大学入学共通テスト・調査書・面接・課題文・志望理由書・推薦書等を組み合わせて、志願者の能力や資質を総合的に評価するものである。適切な入学者選抜のために、全学的委員会として入試委員会及び入試実行委員会を置く。それぞれの委員会において選抜体制を整備し公正な入学者選抜を実施している。

(4) 選抜の基準

本学部の選抜基準は、それぞれの学科として以下の選考方法を実施する。

【総合型選抜】

総合型選抜入試：

個人面接・課題レポート(小論文)及び提出書類(指定課題等)によって能力をのばしたいという意欲・計画性・表現力等を総合的に評価し選考する。

総合型選抜入試(資格活用型)：

個人面接(含口頭試問)及び提出書類(入学後の学修計画書等)によって総合的に選考スポーツ特別推薦入試・スポーツ文化推薦入試：個人面接(含口頭試問)及び提出書類(入学後の学修計画書・クラブに関するレポート等)によって総合的に選考する。

【学校推薦型選抜】

指定校推薦入試：

個人面接(含口頭試問)及び提出書類(入学後の学修計画書等)によって総合的に選考する。

公募制推薦入試：

基礎能力検査と調査書及び資格の点数化(申請者のみ)によって選考する。

【一般選抜】

一般入試：

独自試験(国語、英語、選択科目<数学①、数学②、日本史、世界史>から2教科又は3教科)によって選考する。

大学入学共通テスト利用入試

大学入学共通テスト(国語、外国語、数学、地理歴史、公民から2教科又は3教科以上)によって選考する。

【その他】

外国人留学生入試：

個人面接(口頭試問含む)及び提出書類(入学後の学修計画書等)によって選考する。

帰国生徒入試・社会人入試：

個人面接(口頭試問含む)及び提出書類(入学後の学修計画書等)によって総合的に選考する。

3年次編入学試験：

個人面接(口頭試問含む)および提出書類(入学後の学修計画書等)によって総合的に選考する。

(5) 留学生の受入れ

留学生の受入れについては、学習意欲が高く、4年間大学生活を継続できる留学生の受け入れを目指している。そのため、出願条件である日本語能力（日本留学試験の成績）の基準を明確化し、経費支弁状況の確認を行う。

日本語能力の基準は以下のいずれかに該当する者である。

- ・日本留学試験 240 点以上
- ・日本語能力試験 N2 以上合格
- ・ビジネス日本語能力テスト J2 以上合格

経費支弁状況の把握については、

在籍管理については、年度当初に個別面接を実施し、修学状況、生活状況等について把握確認の上、必要に応じ指導助言を行うことにより、資格外活動許可の要件（週 28 時間等）についても周知に努め、留学生をサポートする。日本での就職を希望する留学生に対しては、キャリアセンターと連携し、独自の留学生対象キャリアガイダンス、外国人雇用サービスセンター登録会の開催、インターンシッププログラム等の紹介を行う等の就職支援を行う。

(6) 社会人の受入れ

本学部が受入れを行う社会人は、社会経験（職業または家事に従事）を有する入学時満 23 歳以上を社会人とし、若干名受け入れる。

(7) 科目等履修生等

生涯学習に対するニーズの増大と多様化という時代の要請に応えるため、科目等履修生および聴講生の受け入れを行う。ただし、教員免許状・司書・司書教諭・博物館学芸員資格の取得を目的とする場合は、本学卒業生のみ受け入れる。また、大学では 2019 年度より、社会人が学び続ける機会を提供し、新たに必要とされる知識や技術を身につけていくことを支援する「リカレント教育」制度を採用しており、所定の科目を学ぶことにより履修証明書を交付することとなっている。

8. 教員組織の編制の考え方及び特色

(1) 教員配置の考え方

本学部では、幅広い教養と経営学に関する専門知識を身につけ、事業運営能力、情報分析力、コミュニケーション能力、新分野への関心とチャレンジ精神、社会適応力を身につけ、現代社会で活躍できる人間性豊かな人材を養成するために相応しい教員組織を編成した。

本学部の専任教員は開設時には 31 名からなり、教員の職位の内訳は、教授 19 名、准教授 10 名、講師 2 名である。教員組織については、教育水準の維持向上及び教育研究の活性化に支障がない構成となっている。就任予定者は全て担当科目に関する研究業績及び実務経験を有した人材を配置し、教育上主要と認める科目は専任の教授または准教授を配置している。

(2) 研究分野及び研究体制

本学部に所属する専任教員の研究分野は、経営学・商学・会計学を中心に、関連諸科学である経営戦略論・経営組織論・マーケティング論・スポーツマネジメント論等、多岐にわたる。さらに、経営倫理学やファッション史等の研究分野を有する教員を置く。

それらの研究体制については、教員個々の研究を全学的に研究部がサポートを行っている。

(3) 教員組織の年齢構成

教員組織の年齢構成は、完成年度の 3 月 31 日時点において 28 名で、年代別内訳は 30 代 2 人、40 代 5 人、50 代 13 人、60 代 8 人となる見込みである。本学の定年退職年齢は 67 歳であり、開設時(31 名)から完成年度(28 名)までに定年に達する専任教員は 3 名に留める予定である。よって、教育研究水準の維持向上には支障はなく、年齢バランスにおいても適正な水準であり、教育研究の活性化にも支障はないと考えている。

【資料 3】 阪南大学就業規則

9. 研究の実施についての考え方

本学は、多様な研究の推進・充実を掲げている。その実施体制は、研究部が中心となり、推進を行う。研究を行うための環境整備として、教員一人に一部屋の研究室を用意するとともに、教員個人に一人あたり年間63万円の研究費を割り当てている。また、一定の勤務年数を経過した専任教員には、1年間もしくは半年間、国内外の研究機関に派遣する研究・研修制度を設けている。加えて、国際学会において発表する場合の旅費支援制度を設け、研究成果公開促進を後押ししている。

専任教員は全員、大学の附属機関である産業経済研究所に所属しており、研究所独自の研究支援制度である「助成研究制度」や著作や翻訳を助成する「叢書刊行制度」、外国研究者短期招聘制度を申請することができるようにしており、本学部における研究環境は整っていると考えている。

なお、専任教員の研究記録並びに産業経済研究所事業として助成を受けた研究成果は『産業経済研究所年報』に掲載し、研究機関リポジトリへの登録を通じ公開する他、一般市民を対象にした公開講座を定期的に実施することで、知の還元を行っていきたいと考えている。

10. 施設・設備等の整備計画

(1) 校地・運動場の整備計画

本学は、学生の意欲をかきたて、質の高い学びの場としての機能を有していることが、教育にふさわしい環境であると考えている。本学部を設置する本キャンパス(大阪府松原市天美東5丁目4丁目33号)は、大阪市内(「大阪阿部野橋」駅)から電車(近鉄南大阪線)で12分、最寄り駅の「河内天美」駅から徒歩6分という交通至便な場所に立地している。

1) 校地の整備計画

本学部の教育研究活動は、本キャンパスで行う。なお、大学設置基準上、校地に算入される面積は101,210.16㎡となり、設置基準面積42,280㎡(収容定員4,228名)の約2.4倍の面積を保有するため、特に校地の整備は行わない。

2) 学生の休息等空地の整備

本キャンパスには、6号館前に芝生広場(1,951.1㎡)を設けるとともに、中庭広場(3,632.4㎡)にもベンチやテーブルを配置し、学生が自由に休息できるようにしている。さらに、新しく建設する教室棟には、屋外にテラスを設置するなど、学生が緑に囲まれた空間で休息、交流等ができるように配慮している。後述するように、建て替える新棟は、学生のキャンパス滞留時間を意識した設計となっている。

3) 運動場の整備状況

本キャンパス敷地内には第1グラウンドを設置している。その同一敷地以外に、第2グラウンド(高校と共用)、高見の里グラウンド(高校と共用)、及び羽曳野グラウンドを有している。なお、本キャンパスには5号館として体育館仕様のGYC HALL(5,057㎡)を設置している。

i) 第1グラウンド

本キャンパス敷地内にあり、人工芝のグラウンドとして、学生が休憩時間に自由に利用できるようにしている。

敷地面積：6,658㎡

施設概要：多目的グラウンド・陸上トラックレーン

利用計画：正課授業・課外活動・学生の自由利用

ii) 第2グラウンド

本キャンパス敷地内から徒歩5分で移動可能なため、学生の移動等に特段の支障はない。

敷地面積：17,413㎡

施設概要：アーチェリー場・ゴルフ練習場・阪南大学高等学校用硬式野球グラウンド

利用計画：課外活動

iii) 高見の里グラウンド

本キャンパス敷地内からの距離は約2.5kmであるが、近鉄南大阪線沿線にあり、学生の移動等に特段の支障はない。

敷地面積：32,122 m²

施設概要：サッカー用人工芝グラウンド(阪南大学・阪南大学高等学校個別に設置)・テニスコート他

利用計画：課外活動

iv) 羽曳野グラウンド

本キャンパスからの距離は約9kmであるが、本学所有のバスが本キャンパスと羽曳野グラウンドを往復(無料)しており、学生の利便性を図っている。

敷地面積：12,636 m²

施設概要：硬式野球グラウンド

利用計画：課外活動

v) GYC HALL

敷地面積：5,057 m²

施設概要：体育関連授業使用及びクラブ等活動用

利用計画：正課活動・課外活動

(2) 校舎等施設の整備計画

本学における教育施設と今後の整備計画については、以下の通りである。

1) 校舎の整備計画

本学は、校舎等施設は全学共通で使用する。同一法人内の高等学校との共用利用は行わない。今般の新学部設置に併せて、既存の4号館(4階建て4,492.27 m²)及び7号館(2階建て1022.20 m²)を解体撤去し、跡地に教室棟(5階建て9,889.5 m²)を建設する。新教室棟は、全学部使用の教室棟として、令和6年4月からの供用開始を予定している。大学設置基準上、校舎に算入される面積は41,961.17 m²となり、設置基準上の校舎面積20,340 m²の約2.1倍の面積を保有する。

【新教室等の特徴】

1. 大小48教室・総座席数約4,100席を備えた学びのシンボルとBYODやアクティブ・ラーニングを実践する充実した学修環境。
 2. 開放感のある屋外緑化テラスと緑を望むコモンスペースの設置による学生たちの憩いと交流の実現。
 3. 自然エネルギーを活用しSDGsを意識した快適かつ省資源・省エネルギーに貢献するデザインの採用。
- ここに記すように、自然環境を意識しながら、学生の自主的・能動的な学修を促進することを明確に意識した設計と造形となっている。

本学部の教育課程、授業形態、学生人数等を実施するために、新教室棟と既存校舎を既存学部と共用し使用する。教室等以外の施設として、スチューデント・コモنز、保健室、学生相談室、図書館内にAVホール等を整備している。スチューデント・コモنزは、レポートや論文の作成、グループでの課題や資料作成が自由にできる場所として、机を自由に動かしてアクティブに学習することを可能にしています。スチューデント・コモنزには、語学学習ができるグローバルスペースや学習支援室も設置しています。

本学部の授業形態、履修人数を踏まえ、施設・設備の利用については特に支障がないものと考えている。【資料4 経営学部時間割配置】

2) 教員研究室の整備計画

本学部の専任教員が使用する教員研究室は、本キャンパスの中心に位置する8号館に配置している。専任教員1名につき個室1室(約20~22 m²)を配置し、オフィスアワーズ等における学生のプライバシー確保にも配慮している。研究室については、空調設備の更新工事・電源容量の増強工事を施しさらなる環境整備を行った。

3) 図書等の資料及び図書館の整備計画

本学は図書館を本キャンパス1号館の2階、3階、4階に設置している。図書館は、延べ床面積5,042 m²で、蔵書冊数は、約55万冊を所蔵している。

2階は、メディアフロアで、インターネットラウンジ、AVホール、和雑誌・洋雑誌のコーナー、新書・文庫コーナー、資格・就職関連コーナー、コミュニティルーム、カウンター、閲覧席等を備えている。

また、学部教育に合わせた資料を展示する特設コーナーを配置している。

3階は、一般図書(社会科学、人文・自然科学)、参考図書、大阪関係図書、テーマ図書、新着図書の各コ

ーナー、共同研究室、カウンター、閲覧席等を備えている。

4階は、事務室、書庫、貴重書室、マイクロ資料室、個人研究室を備えている。

全フロアを通して多目的な学修研究活動を支援できる環境を提供するという考え方で整備を行っている。

図書館の開館時間は、授業期間中の平日 9:00 から 20:00 まで、土曜日は 9:00 から 17:00、授業期間以外の平日は 9:00 から 17:00 である。

図書資料は、本学部開設時に大学全体として、図書約 571,766 冊、雑誌 2,252 種、視聴覚資料 9,188 点を配置する見込みである。

また、図書館に来館しない場合でも、資料の提供が出来るように、電子書籍など電子情報リソースの割合を増やし、デジタル資料に対応した新しいシステムの構築を進めている。

デジタルデータベース、電子ジャーナルについては、EBSCO Discovery Service、日経テレコン、毎日・読売・朝日新聞、日経 BP 記事検索サービス、ジャパンナレッジ Lib、magazine plus、東洋経済 DCL、eol、eol 企業ナビなどを利用している。

図書資料の閲覧に際しては、744 席の閲覧席を配置している。レファレンスサービスは、図書館カウンターで行い、調査・研究などを行う上で必要とする文献や情報に、効率的にたどり着けるように以下のサポートを行っている。

- ・図書館の利用や資料に関する質問への回答
- ・図書館の蔵書検索(OPAC)のサポート
- ・必要とする情報を探し出すための方法や手段についてのアドバイス
- ・知りたい情報についての資料や情報を提供する事項調査
- ・求める資料について所在を調べる所蔵調査
- ・他大学図書館への所蔵調査および訪問利用のための紹介状の発行、複写や図書を取り寄せする相互利用サービス
- ・インターネットによる文献・情報検索のサポート
- ・契約データベースの代行検索

検索手法については、EBSCO Discovery Service、日経テレコン、毎日・読売・朝日新聞、日経 BP 記事検索サービス、ジャパンナレッジ Lib、magazine plus、東洋経済 DCL、eol、eol 企業ナビなど学外・自宅からでも利用可能になっている。

以上のことから、本学部の学修及び教育研究上に必要な図書等資料を整備を適切におこなっていると考えている。

11. 管理運営

(1) 教学面における管理運営の体制

本学学則第 29 条において、「学長は、校務をつかさどり、所属職員を統督する。」と規定しており、学長は教育研究を含む校務全般をつかさどる。また、同学則第 29 条第 2 項において「副学長は、学長を助け、学長の命を受けて教育研究に関する校務をつかさどる。」と規定しており、副学長(2名)は、学長の命を受けて、教育研究に関する校務をつかさどる。同学則第 31 条において、「各学部の重要事項を審議し、教育研究に関する専門的な観点から学長に意見を述べるため、本学の各学部の教授会を置く」と規定している。また、同学則第 30 条において、「管理運営上の全学的な重要事項を審議するため、本学に評議会を置く。」と規定している。その他の主な委員会としては、学部長会、全学人事委員会、内部質保証推進委員会などを設置し、教学組織の適切な運営を図る。具体的には、下記に掲げる諸会議を通して、学長のリーダーシップの下で大学の管理運営が実施されている。

1) 教授会

教授会の構成員は、各学部に所属する専任の教授・准教授・講師及び助教としている。教授会は、定例教授会を月 1 回開催する。教授会における審議事項は教授会等規則で具体的に以下の事項を定め明記している。

1. 学生(研究生等を含む。以下同じ。)の入学、卒業及び課程の修了に関する事項
2. 学位の授与に関する事項
3. 教育課程の編成及びその実施に関する事項
4. 学生の円滑な修学等を支援するために必要な助言、指導、厚生補導及びその他の支援に関する事項
5. 学生の休学、復学、転部、転科、転学、退学、除籍、復籍及び再入学に関する事項

6. 学生の表彰及び懲戒に関する事項
7. 科目等履修生、聴講生、外国人留学生及び単位互換履修生に関する事項
8. 当該組織の教育活動等の状況について当該組織が行う評価に関する事項
9. 全学人事委員会への専任教員採用計画の発議に関する事項
10. 専任教員の採用における教育研究業績の審査及び選考に関する事項
11. 専任教員の昇任に関する事項
12. 専任教員の配置換及び兼務に関する事項
13. 非常勤教員の任免に関する事項
14. 当該組織の長及び各種委員の専攻に関する事項
15. 学長専攻規程第 15 条の規定による学長候補者の推薦に関する事項
16. 名誉教授の推薦に関する事項
17. 当該組織の入学定員及び教員数の変更に関する事項
18. 当該組織の廃止、変更及びキャンパスの移転に関する事項
19. 当該組織の予算及び決算に関する事項
20. 当該組織に関係する諸規程の制定改廃に関する事項
21. 当該組織の運営に関する事項
22. 学長から審議を求められた教育及び研究に関する事項
23. その他当該組織に係る重要事項

2) 評議会

- i) 評議会は以下の評議員で構成し原則として月 1 回定例会議を開催する。
 1. 学長
 2. 副学長
 3. 各学部長及び大学院研究科長
 4. 各学部教授会選出の専任教員各 1 名
 5. 大学事務局長
- ii) 評議会の審議事項は以下の通りである。
 1. 学則その他大学の管理運営に関する重要な学内諸規程の制定改廃に関する事項
 2. 学部、学科、大学院研究科等の新設、増設、廃止及び入学定員の変更に関する事項
 3. 大学の予算及び決算に関する事項
 4. 大学の管理運営に関する重要な施策、施設及び組織に関する事項
 5. その他学長が必要と認める事項

3) その他の主な委員会組織

- i) 学部長会
各学部及び大学院研究科の運営に関する事項を相互に連絡・調整し、全学的な問題の協議のために設置する。
- ii) 全学人事委員会
各教授会の専任教員採用計画発議を受け、全学的視点に立って公正・適正な教員人事を行うために設置する。
- iii) 内部質保証推進委員会
教育研究及び管理運営等本学の諸側面を点検・評価し、その改革・改善を図り、全学の内部質保証の推進に責任を負うために設置する。

(2) 事務組織体制

本学部の管理運営に係る事務は、教務部（教務課、教育情報課）が中心となり、学長室（総務企画課、入試広報課）、学生部（学生支援課、キャリア支援課）、研究部（学術情報課、社会連携課）と連携して対応を行う。

学生の厚生補導については、学生部学生支援課が対応し、本学部の学生の支援を行う。

12. 自己点検・評価

平成3(1991)年に大学設置基準が改正され、「自己点検・評価」が規定されたことに伴い、本学の学則を改正した。学則第2条に「本学は、教育研究の向上を図り、前条(大学の目的)の目的及び社会的使命を達成するため、教育研究、管理運営等について自己点検・評価を行う。」と規定した。この学則改正により、平成4(1992)年から、自己点検・評価を行い、平成7(1995)年には、自己点検・評価報告書として「第1回阪南大学白書」を発行した。自己点検・評価に基づき、本学は学部を設置等の改革を実施してきた。平成17(2005)年には、大学基準協会による認証評価を受審し、平成18(2006)年に大学基準に適合しているとの認定を受けた。平成24(2012)年には大学基準協会による2回目の認証評価を受審し、平成25(2013)年に大学基準に適合しているとの認定を得ている。さらに、令和元(2019)年に3回目の認証評価を受審し、令和2(2020)年に大学基準に適合しているとの認定を得ている。

(1) 基本方針

自己点検・評価の基本方針を以下の通り定めている。

1. 一定期間ごとに自己点検・評価等を実施し、結果を公表する。
2. 認証評価機関による大学評価を受審し、この結果に対して適切に対応する。
3. ホームページ等を通じて教育・研究活動および大学に関する情報を積極的に発信する。
4. 内部質保証システムを構築し、PDCAサイクルを有効に機能させる。

「1.」に定める通り、本学のホームページ上では、「阪南大学に対する大学評価(認証評価)結果」/「点検・評価報告書(申請用)」/「大学基礎データ(申請用)」を公表している。

(2) 実施体制

平成30(2018)年に自己点検・評価実施体制の大幅な刷新を行い、自己評価運営委員会は、内部質保証推進委員会と名称変更し、内部質保証推進委員会を全学の内部質保証の推進に責任を負う組織として設置している。内部質保証推進委員会のもと、以下の体制を構築している。

i) 内部質保証推進委員会

構成員

学長・副学長・各学部長・大学院研究科長・大学事務局長

委員会の役割：以下の事項を審議し、実施する。

1. 自己点検・評価の実施計画の策定及び実施に関する事項
2. 自己点検・評価の対象分野・領域、方法及び項目に関する事項
3. 自己点検・評価結果の総括、白書の作成及び公表に関する事項
4. 自己点検・評価結果に基づく改革・改善案策定及び実施に関する事項
5. 各種統計・資料等自己評価に必要な基礎データの収集・整備
6. その他本学の内部質保証の推進に関する事項

ii) 基本事項検討委員会

大学・学部・学科・大学院研究科の理念・目的・使命に関する事項を検討及び審議し、必要に応じて学内諸機関に諮問する。

構成員

学長が指名した副学長・各学部長・大学院研究科長・教務部長・学生部長・研究部長・入試担当部長・大学事務局長

委員会の役割

大学・学部・学科・大学院研究科の理念・目的・使命に関する事項を検討し、必要に応じて学内諸機関に諮問または関係者に出席を求め、その意見を聴取する。

iii) 全学自己評価実施委員会

各部局自己評価実施委員会の報告に基づき、全学の自己点検・評価を行い、内部質保証推進委員会に報告する。

構成員

学長が指名した副学長・教務部長・学生部長・研究部長・入試担当部長・学長室長・教務部事務部長・学生部事務部長・研究部事務部長・法人部長

委員会の役割

各部局の自己評価実施委員会報告を基に全学の自己点検・評価を行い、内部質保証推進委員会に報告する。

iv) 各部局自己評価実施委員会

各学部及び大学院研究科に設置する実施委員会・各部局に設置する実施委員会委員会の役割

担当分野・領域について点検・評価を行う。

(3) 評価項目

以下の10項目について、自己点検・評価を実施する。

1. 理念・目的
2. 内部質保証
3. 教育研究組織
4. 教育課程・学習成果
5. 学生の受け入れ
6. 教員・教員組織
7. 学生支援
8. 教育研究等環境
9. 社会連携・社会貢献
10. 大学運営・財務

(4) 結果の活用・公表

自己点検・評価の結果、改善が必要な事項は、学長による課題及び改善点の明確化と、改善方針についての提示を受け、内部質保証推進委員会で審議すると共に、改善へむけてのアクションプランを具体的な内容として策定する手続きとなっている。その際、明確にPDCAサイクルを回していきながら、学生満足度の向上と、高等教育機関としての機能を具現化することを第一の目標として検証し、改善案を可視化している。また、自己点検・評価の結果については、令和元（2019）年度の「点検・評価報告書」と、認証評価結果をホームページで公表している。

(5) 自己点検・評価結果に対する外部による検証

自己点検・評価活動の客観性及び妥当性について、「外部評価実施要領」に基づき、第三者評価機関へ依頼し、検証を行っている。具体的には下記に掲げる通りである。当該各機関は、本学が包括協定を結ぶ松原市に所属する機関である。

1) 実施体制・実施方法

松原市役所および松原商工会議所による外部評価を、以下の項目について受けている。

- i) 教育活動の充実に向けた取組（松原商工会議所）
 - ・学部教育の充実と質の保証
 - ・大学院の充実
 - ・地域連携の推進
 - ・生涯教育の充実
- ii) 研究活動に充実に向けた取組（松原商工会議所）
 - ・研究の推進
 - ・研究支援体制の充実
 - ・図書館機能の充実
 - ・地域連携の推進
- iii) 学生支援活動に向けた取組（松原市役所）
 - ・修学に関する支援・充実
 - ・学生生活に関する支援・充実
 - ・就職に関する支援・充実
 - ・卒業生との連携

- ・保護者との連携
- iv) 学生受入・広報活動の充実に向けた取組（松原市役所）
 - ・アドミッション・ポリシーに基づく多様な入学試験の実施
 - ・大学広報機能の充実
- v) 学園運営の充実に向けた取組（松原市役所）
 - ・自己点検・評価活動の実質化
 - ・大学運営体制の整備
 - ・社会的要請の達成
 - ・施設・環境の整備

2) 結果の活用

評価結果については、「外部評価報告書」として学長へ報告し、内部質保証推進委員会を通して各部局自己評価実施委員会へ結果報告と改善指示を行う。改善指示については、各部局における独自の課題とクロス検証することで、抽出された課題の整理を行った上で、毎年度の各部局における実施計画に反映させている。

13. 情報の公表

教育研究活動等の情報については、社会に対する説明責任を果たし、教育研究活動の質を向上させるため、本学ホームページで以下の通り公表している。

- (1) 大学の教育研究上の目的に関すること
 - 1) 建学の理念・教育目的・ミッションステートメント・めざす大学像・3 ポリシー
<https://www.hannan-u.ac.jp/gaiyou/mrrf43000000033y.html>
- (2) 教育研究上の基本組織に関すること
 - 1) 大学組織図（設置学部学科・大学院研究科等）
<http://www.hannan-u.ac.jp/gaiyou/mrrf430000001u0m.html>
 - 2) 事務組織図
<http://www.hannan-u.ac.jp/gaiyou/mrrf430000001ukd.html>
- (3) 教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること
 - 1) 専任教員と非常勤教員比率・大学専任教員数・大学院担当教員数・専任教員年齢構成
<http://www.hannan-u.ac.jp/gaiyou/mrrf430000002nhu.html>
 - 2) 業績
<https://www.hannan-u.ac.jp/doctor/index.html>
- (4) 入学者に関する受入れ方針及び入学者の数収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること
 - 1) 入学者に関する受入れ方針
<http://www.hannan-u.ac.jp/gaiyou/mrrf43000000033y.html>
 - 2) 入学者の数・収容定員及び在学する学生の数・卒業又は修了した者の数並びに進学者数
<http://www.hannan-u.ac.jp/gaiyou/mrrf430000002ose.html>
 - 3) 就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること
<http://www.hannan-u.ac.jp/career/mrrf430000000n.jn.html>
- (5) 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること
 - 1) カリキュラム・ポリシー（学部・大学院）
<http://www.hannan-u.ac.jp/gaiyou/mrrf43000000033y.html>
 - 2) 授業科目・カリキュラムマップ
<http://www.hannan-u.ac.jp/study/mrrf430000002u1f.html>
 - 3) 年間の授業の計画
<https://unipa.hannan-u.ac.jp/up/faces/up/co/Com02401A.jsp>
- (6) 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること
 - 1) ディプロマ・ポリシー（学部・大学院）

- <http://www.hannan-u.ac.jp/gaiyou/mrrf43000001rcoc.html>
- 2) 修得可能学位
<http://www.hannan-u.ac.jp/study/mrrf430000002tpg.html>
- 3) 卒業必要単位数 (大学)
<https://www.hannan-u.ac.jp/study/n5fenj000000v12e.html>
- 4) 修了要件 (大学院)
<https://www.hannan-u.ac.jp/study/n5fenj000000v12e.html>
- (7)校地・校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること
- 1) 主要校舎等建物の状況
<http://www.hannan-u.ac.jp/gaiyou/mrrf430000002o0b.html>
- 2) 施設紹介
<http://www.hannan-u.ac.jp/gaiyou/mrrf430000002nqx.html>
- (8)授業料・入学料その他の大学が徴収する費用に関すること
- 1) 学費関係
<http://www.hannan-u.ac.jp/support/mrrf430000002yee.html>
- (9)大学が行う学生の修学・進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること
- 1) 就職支援
<http://www.hannan-u.ac.jp/career/mrrf430000000gms.html>
- 2) 保健室
<http://www.hannan-u.ac.jp/support/mrrf43000000h4z4.html>
- 3) 学生相談室
<http://www.hannan-u.ac.jp/support/mrrf430000002yv1.html>
- 4) 奨学金制度
<http://www.hannan-u.ac.jp/support/mrrf430000002x6j.html>
- (10)学位論文に係る評価に当たっての基準
<https://www.hannan-u.ac.jp/faculties/guraduate/n5fenj0000002ier2.html>
- (11)その他
- 1) 学則 (大学・大学院)
<http://www.hannan-u.ac.jp/gaiyou/mrrf430000002p6g.html>
- 2) 自己点検・評価報告書・認証評価の結果
<http://www.hannan-u.ac.jp/gaiyou/mrrf430000002ozf.html>
- 3) 財務状況・事業計画書・事業報告書
<https://www.hannan-u.ac.jp/corp/st9plj0000001nv1.html>

14. 教育内容等の改善を図るための組織的な研修等

(1)授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究の実施に関する計画

本学では、教育開発及び教育支援を推進し、本学教育の充実及び発展に寄与することを目的とするため、大学教育センターを設置している。当該センターは、教職員等を対象とした講演会・シンポジウムを開催すると共に、学生の授業アンケートの集計・分析を行い、データを各学部提供し改善に繋げている。また、本学の中期ビジョンに掲げた Society5.0 に対応する AI・データサイエンス教育及び基盤となる数理教育を全学的に行うためそれを統轄する AI・データサイエンス教育研究所を令和 2(2020)年度 4 月に設置した。

1) 大学教育センター

大学教育センターは、「本学における教育開発及び教育支援を推進し、本学教育の充実及び発展に寄与すること」を目的とする。センター長は学長の指名した副学長が、副センター長には教務部長がその任にあたる。大学教育センターは、以下の事業を行うと共に、事業実施にあたり、各学部 FD 部会・研究科 FD 部会・SD 部会を置く。大学教育センターは、各部会との連携を図り全学的に運用する。

1. 導入教育の施策に関する事項
2. キャリア教育の施策に関する事項
3. 大学全体の FD・SD の基本方針等の策定と実施に関する事項

4. 学修支援の施策に関する事項
5. AI・データサイエンス教育の施策に関する事項
6. その他教育プログラムの開発及び教育支援に関する事項

2) AI・データサイエンス教育研究所

AI・データサイエンス教育研究所は、「Society5.0に対応するAI・データサイエンス教育及び基盤となる数理教育を全学的に行う」ことである。AI・データサイエンス研究所は、以下の事業を行う。

1. 全学的なAI・データサイエンスに関する教育の研究
2. 各学部の特長分野とAI・データサイエンスの連携に関する研究並びにAI・データサイエンスとのコラボレーション科目の授業設計
3. AI・データサイエンスに関する新たな知見の収集並びに各学部への情報提供・提言
4. その他前条の目的を達成するために必要と認められる事業

なお、本研究所が取り組む本学の数理・データサイエンス教育の取組の一部が、文部科学省より「数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）」に2021年度認定されている。本学では、2019年度より正課教育として学生の数理・データサイエンス・AIへの関心を高め、適切に理解し、活用できる基礎的な能力を育成するための基盤形成をしてきた。大阪の私立総合大学では唯一の認定校となっている。

3) 経営学部の取組

本学部において、授業の内容及び方法の改善を図るために、大学教育センターの下に経営学部FD部会（仮称）を置く。FD部会では、学部としての課題を抽出し、その分析を行い、全学部構成員との情報共有のもとで、授業の内容及び方法の改善を推進する。

4) SD活動の取組

本学の教育研究活動等の適切かつ効果的な運営を図るため、大学教育センターでは、SD部会において研修を企画している。研修は、毎年、事務職員を対象として、各自が求める知識とマネジメントスキルを向上させるために、外部団体が主催するセミナーへの参加を行っている。研修報告を共有し、教職員全体のスキルアップを図る。

15. 社会的・職業的自立に関する指導を行うための体制

(1) 教育課程内の取組

本学は、建学の精神として「すすんで世界に雄飛していくに足る 有能有為な人材、真の国際商業人の育成」と共に、ミッションステートメント(大学の使命)として「阪南大学は、自由と清新の気風のもと、チャレンジ精神旺盛な意欲ある学生を育て、幅広い教養を持つ国際的なビジネスパーソンとして成長させることを使命とします。」という教育理念を掲げる。その中で、学生個々の社会的・職業的な自立を目標とし、その実現に向かって必要な基盤となる人間力である「社会人基礎力」を育成するため、教育課程の内外において次の通りキャリア形成を促す教育を行っている。

1) キャリア教育

「キャリア教育科目の特色」で明記したように、本学の全学的なキャリア教育は、下記をkeywordsとして段階的履修の設計を行い、学年進行と共に積み上げ型教育を実施している。これらの座学による学修と併せて、2年次後期から3年次後期に至る課程の中で、各自が就業体験として「インターンシップ」に参加できる設計となっている。

- 1年次：自分の市場価値を高める
- 2年次：社会の仕組みを知る Step①
- 3年次：社会の仕組みを知る Step②

加えて、座学と就業体験というこの相互補完的な学びは、キャリアにのみ適応するものではない。一般教育科目・各学科科目・語学科目・副専攻科目と連動させながら、各自の学びに深さと厚みを造形できるようになっている。何よりも、「座学」とはいえ能動的な授業への参加が本科目群の特徴である。受講生同士のディスカッションやプレゼンテーション、リモートツールを使った意見の発信など、卒業後においても使いこなせるスキルの体得を目標として授業運営を行うものである。卒業所要単位取得のための学びではなく、自

発的な学修者になれるよう設計されたカリキュラムが本学のキャリア教育の特色である。

もう一点付け加えておくならば、本学には「キャリアゼミ」として、以下のような教育課程内での取り組みを行っている。具体的には、産学官連携を通じ、地域社会（企業や地域組織など）と本学とが双方向の協力関係を持ちながら地域社会の課題を発見し、解決する活動を通して、学生の社会人基礎力を育成することを目的としたゼミ活動である。このゼミ活動を通じて、前に踏み出す力（主体性・働きかけ力・実行力）、考え抜く力（課題発見力・計画力・創造力）、チームで働く力（発信力・傾聴力・柔軟性・情況把握力・規律性・ストレスコントロール力）を養成する。

2) 後期教養教育及び情報とAI データサイエンス教育

i) 後期教養教育 ……実学教育のバックボーンとなる教養をさらに学ぶ科目

一般教育・各学科科目での学びによる蓄積をふまえ、より深い教養教育を学べる環境として、後期教養教育科目が設置されている。これは、就職活動などを通して、卒業後が見えてきた大学生活の後期に、実学教育のバックボーンとなる教養をさらに学ぶことを目的としている。これらの学びは、思考力を養成することも含めた「深い教養」を体得する科目としての位置づけがなされた「阪南大学型リベラルアーツ」の学修体系である。一般教育科目と学科専門科目の学びの上に、さらに学問的興味に基づき知的経験値を積み上げる科目である。この科目がいわば目次の機能を果たし、3年次以降に社会人に必要な教養・知識および長く役立つ教養を切り口として科目設置を行う。このことにより、一般教育科目においても、1年次からの学修の積み上げを実現すると同時に、課題を様々な角度から考察する能力、成熟した市民として教養を身につける意義への気づきを与える。

ii) 情報とAI データサイエンス教育 ……Society5.0社会を生き抜くための人材の育成科目

Society5.0・AIの進化と普及・IoTやデータサイエンスなど高度情報技術の進展による社会や経済の変革により、社会は加速度的に変化している。特に2030年以降、2040年・2050年とその変化においては想像を超越した社会が到来すると予測されている。これらが作り出す未来では、あらゆる職種・業務でAIやデータサイエンス関連の知識が必要となる。各自が学ぶ学科専門科目を問わず、これらに関する基本的な知識と理解が、Society5.0社会を生き抜く上で求められることになる。そのための人材の育成科目である。

(2) 教育課程外の取組

3年次に入ると本格的な就職準備が開始される。本学では、学生一人ひとりが納得のいく進路を実現するために独自の「就職支援プログラム」が展開されている。就職市場の動向や就職活動への準備方法等の基礎知識のための「就職基礎ガイダンス」、「インターンシップ準備」・「書類作成」・「面接練習」・「筆記試験対策」等、各種テーマに応じた対策講座を随時開催することで学生の課題の抽出と対策を実施し、「キャリアカルテ」を使って学生の指導教員との情報共有を行う。将来の仕事像を具体化していくために、企業や業界の現状を学ぶ「業界研究セミナー」を実施し、採用選考本番に備える。さらに、本学と繋がりが深い企業と交流できる「学内企業説明会（合同・単独）」の実施や「個別相談」の強化を行い、早期の内定獲得をサポートする。

以上を通して、本学は経済産業省が提示する「社会人基礎力」の強化を行うと共に、学生の達成感と学びの可視化の一端として資格取得への奨励を行っている。初級・中級レベルの基礎を学ぶ学内資格講座と、上級・スペシャリストをめざす学外推薦講座を設定してレベルに応じた系統的な学修を行う。学内で実施する講座の受講料は低く設定しているため、学生にとって受講しやすくしている。以下に掲げるように、秘書検定では2021年度に、文部科学大臣賞を受賞している。

資格名	受賞年度	受賞内容	資格試験実施機関・団体
秘書検定	2015年度	団体優秀賞	公益財団法人実務技能検定協会
	2016年度	団体優秀賞	
	2017年度	団体優秀賞	
	2018年度	団体優秀賞	
	2019年度	団体優秀賞	
	2021年度	文部科学大臣賞	
色彩検定	2020年度	奨励賞	公益社団法人色彩検定協会
	2021年度	奨励賞	

ホテルビジネス実務検定	2020年度	優秀指導校賞	一般財団法人日本ホテル教育センター
サービス接客実務検定	2021年度	団体優秀賞	公益財団法人実務技能検定協会

(3) 適切な体制の整備

本学では、学生の社会的・職業的自立に関する指導を含めたキャリア支援を行う組織として、キャリアセンターを置く。キャリアセンター長には学長が指名した副学長がその任にあたる。キャリアセンターには、キャリア委員会を設置し、キャリア委員会は、各学部代表の委員と当該センターに配置されるキャリア支援課職員とが、教学に配慮しながら、本学の「キャリア支援」に関する企画・立案を全学的に行っている。キャリア支援課は、本学のキャリア支援に関わる具体的な事業を推進している。当該学部開設以降も教職員協同のもとに学生のキャリア支援を推進する。

1) キャリアセンターの学生支援ポリシー

i) キャリアセンターでは、以下のポリシーを公表し、キャリアセンターと学生がこれを共有し、社会で活躍する自律した大人として成長する施策を行い、本学の特徴である「就職に強い阪南大学」を実現する。

1. 自主性を磨く

就職活動は自分で考え、自分で行動する意志が大切である。就職支援は単にノウハウだけを伝えるのではなく、自ら進んで考え、行動する自主性の養成を行う。

2. think → action → never give up

まず考え、行動し、結果が出るまで諦めない学生の育成を目標として設定し実現する。初めて経験する就職活動への不安を払拭し、学生本位のヒヤリングと情報収集の方法をサポートする。

3. 職業観・人生観を育む

企業が実施する面接試験で問われる職業観を予め一緒に深く掘り下げる。就職相談では、その養成がなされているか否かの確認を積み重ねながら、学生が求める就職先の斡旋を納得いくまで継続する。

これらの実現にあたり対面・オンライン・オンデマンド等学生多様な対応を実施している。

2) 1年次からのキャリアサポート

i) キャリアセンターでは、下位年次から企業研究・インターシップ斡旋等のキャリアサポートを実施する。阪南大学就職支援ポリシーは、就職活動の結果、内定が取得できた点にゴールに置いていない就職支援観がある。就職できるだけでなく社会に出てから活躍できる人材の育成が本学のキャリア支援の目的である。

ii) 学修支援室との連携を行うことで、SPI試験や公務員試験対策等の誘導を行っている。加えて、1年次・2次学生が、やがて4年次になった際に理想の進路を実現するために、学生時代に取り組むべきテーマについて学ぶ「キャリアガイダンス」を実施し、早期の内から卒業後の進路を意識させるきっかけを提供している。

本学では、大学独自のキャリア形成支援体制を構築し、学生の進路実現に向けてきめ細かな支援を行っている。その取組結果として、平成30(2018)年度から令和4(2021)年度の5年間の就職率は、以下の通りの結果となっている。

就職決定実績（数字は年度）[内定率＝就職者数÷就職希望者×100]					
年度	2021(2022/3)	2020(2021/3)	2019(2020/3)	2018(2019/3)	2018(2019/3)
内定率	89.0%	88.2%	92.3%	92.6%	91.9%

キャリアセンターでは、企業等との密接なネットワーク構築と、卒業生との連携によって学生の就職内定率向上に繋げている。本学部においても、これまで実績のある就職先となる企業や事業所等に対して、就職先の確保のための関係構築の取組を早期に展開する。